西ノ辻遺跡第９次
発掘調査報告

１９９６

財団法人 東大阪市文化財協会
東大阪市教育委員会

例　言

1．本書は東大阪生駒電鉄株式会社が建設した東大阪都市高速鉄道東大阪線（現在の近畿日本鉄道東大阪線）計画事業ならびに、大阪府八尾土木事務所が計画した国道308号線及び都市計画道路築港枚岡線建設計画事業に伴う、西ノ辻遺跡第９次調査の発掘調査報告書である。

2．本調査は財団法人東大阪市文化財協会が、東大阪生駒電鉄株式会社・大阪府八尾土木事務所の委託を受けて実施した。

3．主要な現地調査は、昭和58年12月22日から翌５月23日まで福永信雄・菅原章太を担当として実施した。

4．本書の執筆はＶを津田美智子、その他の章と編集は福永が行なった。

5．遺構写真は福永・菅原が撮影し、遺物写真撮影はＧ・Ｆプロ谷川喜一氏および日本アートフレームに委託した。

6．現地調査実施にあたっては、東大阪生駒電鉄株式会社・大阪府八尾土木事務所・大成建設株式会社の方々にご協力いただいた。記して謝意を表する。

7．遺構実測図は調査に参加した全員で作成し、製図は百合藤厚子が担当した。遺物実測図は、津田美智子を中心に小西優美・山本裕子・芦田尚子・松井朋子・堀江奈津子・藤原雅子が作成し、製図は弥生土器を山本が、その他を津田が行なった。

　なお、本書掲載の遺物の挿図番号は、図版番号と一致させている。

8．木材の樹種は財団法人元興寺文化財研究所に、石材の鑑定はパリノ・サーベイ株式会社に委託し報告を受けた。

9．遺構実測図の水準高は、Ｔ.Ｐ値を用いた。

10．調査および本書作成にあたって、下記の方々から多くの教示を得た。心より謝意を表する。（敬称省略・順不同）

西谷真治・金関恕・中村友博・木下密運・秋山浩三・森島康雄・濱田延充・多賀谷昭・森田稔・潮田鉄雄・市田京子・樽野博幸・西中川駿・西口陽一・宮崎泰史

11．現地調査および整理作業において、下記の方々の参加を得た。

板倉陽二・藤田政男・佐藤修一・奥野義人・開楽悟・長崎誠司・豊田幸信・小林秀隆・森田浩史・矢野功士・佐藤裕之・藤田伸一・堀内正己・辻栄二・長崎文男・豊田将範・屋部倫弘・森本聡・越野一朗・小西優美・津田美智子・山本裕子・芦田尚子・岡本真由美・堀江奈津子・遠藤里香・松井朋子・石渡玲子・藤原雅子・天津正代・平泰子・山脇陽子・米谷佳世子・木梨昌美・堀内朋子・川越菊美・谷口純子・森田久美子・野口正美・百合藤厚子・西山由美

本文目次

Ⅰ．はじめに……1
Ⅱ．位置と環境……2
Ⅲ．調査概要……4
Ⅳ．遺跡……5
　1．層序……5
　2．遺構……8
　　弥生時代の遺構……8
　　中世の遺構……12
　　近世～近代の遺構……22
Ⅴ．出土遺物……23
　　弥生土器……23
　　中世遺構出土遺物……27
Ⅵ．まとめ……106

挿図目次

第1図　調査地点位置図……1
第2図　周辺遺跡分布図……3
第3図　西ノ辻遺跡各調査地点位置図……4
第4図　調査地土層断面図（左・東壁、右・西壁）……6
第5図　弥生時代方形周溝墓・河川平面実測図……8
第6図　検出遺構平面実測図……9～10
第7図　溝20杭列・石列検出状況実測図……13
第8図　中世遺構平面実測図……14
第9図　中世井戸断面実測図（上左・井戸5、上右・井戸1、下・井戸4）……17
第10図　中世土壙1検出状況実測図……18
第11図　中世土壙・ピット断面実測図……19
第12図　中世木棺墓実測図（上・木棺墓1、下・木棺墓2）……21
第13図　溝57・溝58出土弥生土器実測図……24
第14図　溝59・弥生時代川・弥生時代包含層出土弥生土器実測図……25
第15図　土壙41・弥生時代川・弥生時代包含層出土弥生土器実測図……26
第16図　溝25出土瓦器実測図……28
第17図　溝25出土土師器・瓦器実測図……29

第18図　溝25出土土師器・国産陶器・中国製磁器実測図……30
第19図　溝20出土土師器・瓦器実測図……32
第20図　溝20出土土師器実測図……33
第21図　溝20出土土師器・須恵器・瓦器・中国製磁器・瓦実測図……34
第22図　溝21出土瓦器・中国製磁器実測図……36
第23図　溝21出土土師器・瓦器実測図……37
第24図　各溝出土土師器・瓦器・国産陶器・瓦実測図……38
第25図　各溝出土土師器・須恵器・瓦器・国産陶器実測図……39
第26図　井戸６出土土師器・瓦器実測図……40
第27図　井戸５出土土師器・瓦器・国産陶器実測図……41
第28図　井戸１出土土師器・瓦器・国産陶器実測図……42
第29図　井戸４出土土師器・須恵器・瓦器・瓦実測図……43
第30図　井戸３・各ピット・焼土壙出土土師器・瓦器・国産陶器・中国製磁器実測図……44
第31図　土壙１出土土師器・瓦器・中国製磁器実測図……46
第32図　各土壙出土土師器・須恵器・瓦器・中国製磁器・瓦実測図……47
第33図　木棺墓１・２出土土師器・中国製磁器・鉄製品実測図……49
第34図　土錘実測図……50
第35図　鋳型、鉄製品（釘・鎌）実測図……51
第36図　木製品（下駄・漆器椀・釣瓶・箸）、用途不明品実測図……52
第37図　木製品（木簡・竹簡）実測図……53
第38図　木製品（曲物）実測図……54
第39図　木製品（杭）実測図……55
第40図　打製・磨製石器実測図……56
第41図　打製石器実測図……57
第42図　打製石器実測図……58
第43図　砥石・石鍋実測図……59

表 目 次

弥生土器観察表……60
中世土器・陶磁器観察表……65
木棺墓１・２使用鉄釘観察表……101
土錘観察表……101
鉄製品・鋳型観察表……102
木製品観察表……103
石製品観察表……104

図版目次

図版１　遺跡　検出遺構全景（上より）
図版２　遺跡　上．調査地東壁断面（西より）　中．調査地西壁中央付近断面（東より）　下．溝20・25断面（西より）
図版３　遺跡　上．溝59検出状況（北東より）　中．２号・６号方形周溝墓検出状況（南東より）　下．溝58検出状況（西より）
図版４　遺跡　上．土壙41検出状況（南より）　中．弥生時代川遺物出土状況（南より）　下．打製石剣出土状況（南より）
図版５　遺跡　上．中世遺構全景（東より）　中．調査地西端遺構検出状況（上より）　下．調査地中央中世遺構検出状況（南より）
図版６　遺跡　上．溝21・23～25検出状況（南より）　中．溝25遺物出土状況（北より）　下．溝25獣骨出土状況（西より）
図版７　遺跡　上．溝25獣骨（ウマ他）出土状況（南より）　中．溝25獣骨（ウシ他）出土状況（南より）　下．溝25獣骨（ウマ頭骨）出土状況（西より）
図版８　遺跡　上．溝21・25・53検出状況（東より）　中．溝20杭列・石列検出状況（南西より）　下．溝20曲物出土状況（西より）
図版９　遺跡　上．井戸５・ピット373検出状況（西より）　中．井戸４堆積土検出状況（南より）　下．井戸５断ち割り状況（南より）
図版10　遺跡　上．木棺墓１・２検出状況（南より）　中．木棺墓１検出状況（東より）　下．木棺墓２検出状況（東より）
図版11　遺跡　上．ピット557・558検出状況（北より）　中．ピット156・157断ち割り状況（北より）　下．ピット201根石検出状況（南より）
図版12　溝50・溝57・溝58出土弥生土器　溝50出土壺蓋（59）、溝57出土鉢（４）、溝58出土細頸壺（17）、甕（21・22・25）

図版13　溝、井戸、弥生時代川他出土弥生土器　上．弥生時代包含層出土高杯(51・52)
下．壺(27～32・42)、細頸壺(33)、鉢(34～41)、台付鉢(44)、高杯(46～50)、器台(45)
図版14　溝20・溝25、土壙41、弥生時代川他出土弥生土器　上．台付鉢(60)、甕(61～65・67・69・70)、甕蓋(57)、高杯(54～56)、器台(58)　下．溝25出土鋳型(12)
図版15　溝25出土瓦器　瓦器椀(4・6・16・19)
図版16　溝25出土土師器・瓦器・東播系須恵器　土師器大皿(42・44・47・48)、瓦器椀(1・8)、小皿(21・29・32)、東播系須恵器捏鉢(90)
図版17　溝25出土土師器・瓦器・東播系須恵器　上．土師器小皿(59・60・73・86)、瓦器小皿(25・33～35・37)　下．土師器羽釜(38～41)、東播系須恵器捏鉢(89・91)
図版18　溝20出土土師器・瓦器　土師器大皿(114)、小皿(118)、瓦器椀(95・97・100・104・105)、小皿(106)
図版19　溝20出土土師器・瓦器　上．土師器小皿(121・126・130・133)、瓦器椀(96・99・101・103・111)　下．土師器羽釜(152～156・158)
図版20　溝20出土土師器・瓦器・東播系須恵器・国産陶器・中国製磁器　上．土師器羽釜(178)瓦器擂鉢(169)、甕(177)、足釜(179～183)、東播系須恵器甕(167)、捏鉢(168)
下．緑釉椀(174)、青磁碗(173・175・176)、皿(171)、白磁碗(170)、皿(172)
図版21　溝20出土土師器・須恵器・瓦　土師器大皿(115～117)、須恵器杯蓋(159～161)、軒丸瓦(184)、軒平瓦(185～187)
図版22　溝21出土瓦器　瓦器椀(188・192・193・198・205・206・209・211)
図版23　溝21出土瓦器　瓦器椀(195～197・200～202)
図版24　溝21出土土師器　土師器大皿(214～217)、小皿(218・224・227・230・235・241・249・251・253・257・263・266・269・272)
図版25　溝21他溝出土土師器・瓦器　上．溝21出土土師器羽釜(273・274・276・277)、瓦器足釜(278)　下．溝2・8・22・30出土土師器大皿(282)、小皿(285・300)、瓦器椀(281・295)、羽釜(290)
図版26　溝3他溝出土土師器・須恵器・東播系須恵器・瓦器・瓦　上．溝3・8・27・33・48出土土師器羽釜(289・291・309・310)、須恵器甕(306)、丸瓦(292)、　下．溝18・19・22・42・48・55出土土師器大皿、須恵器壺・瓮、東播系須恵器捏鉢、瓦器椀・小皿
図版27　井戸6出土土師器・瓦器　上．瓦器椀(313・318)
下．土師器羽釜(321～323)、瓦器椀(311・312・315～317)、足釜(320)
図版28　井戸1・井戸5出土土師器・瓦器・東播系須恵器　井戸1出土土師器大皿・小皿、瓦器小椀　井戸5出土瓦器椀・鉢、東播系須恵器捏鉢
図版29　井戸1出土土師器・瓦器・東播系須恵器　上．土師器羽釜(367)、瓦器足釜(366・368～370)、鉢(373)、東播系須恵器捏鉢(371・372)
下．土師器小皿(356・357・360～362・364・365)、瓦器椀(349～352)

図版30　溝、井戸、ピット、土壙出土中国製磁器　上．溝19・21・25、井戸５出土青磁碗(93・213・287・304・340・1000)

下．溝25、井戸６、ピット103・137、土壙１・15出土白磁碗(94・319・389～391・451・502)

図版31　井戸４出土土師器・瓦器・東播系須恵器・瓦　上．土師器台付大皿(404)、大皿(405)、小皿(411)、瓦器椀(394・398・400)、小皿(403)

下．瓦器椀(395・397・399)、羽釜(427)、東播系須恵器甕(428)、平瓦(429)

図版32　ピット・土壙出土土師器・須恵器・東播系須恵器・瓦器　上．土壙18・21・24・29・30、焼土壙、ピット281出土土師器小皿、瓦器小皿　下．土壙17・18・21・24・26・29出土土師器大・小皿、須恵器甕、東播系須恵器甕、瓦器椀・羽釜・擂鉢

図版33　土壙１出土瓦器　瓦器椀(455・456・459・460・462・463)

図版34　土壙１出土土師器・瓦器　土師器大皿(466～473)、羽釜(501)、瓦器椀(457・464)

図版35　土壙１出土土師器　土師器小皿(477～479・481～484・486・488～497)

図版36　木棺墓１出土副葬品　土師器大皿(507)、小皿(503～506)、青磁碗(508)

図版37　木棺墓２出土副葬品　土師器大皿(515)、小皿(509～514)

図版38　鉄・土製品　鉄釘(４～８)、鉄鎌(９～11)、土錘(１～３・９～16・18～22)

図版39　木製品　井戸１出土下駄(１)、井戸７出土漆器椀(６)、井戸４出土箸(10・11)、井戸６出土用途不明品(８)

図版40　木製品　井戸１出土曲物(15～17)、井戸５出土曲物底板(20)

図版41　木製品　溝20、井戸５・６出土下駄(２)、釣瓶(７)、木簡(12・13)、用途不明品(３・４)

図版42　木製品　溝20・溝25出土杭(27・29・33～35・38・42)

図版43　石製品　上．石鏃(１～５)、石錐(６・７)、打製石剣(８・10～14)

下．溝２・20・21・42・59、包含層出土打製石剣(９)、削器(19～21・25・27・31～35)

図版44　石製品　上．石斧(15・16・18)、石包丁(17)、砥石(39・40)

下．溝20・30出土砥石(37・38)、溝20・包含層出土石鍋(43・1001)

Ⅰ　はじめに

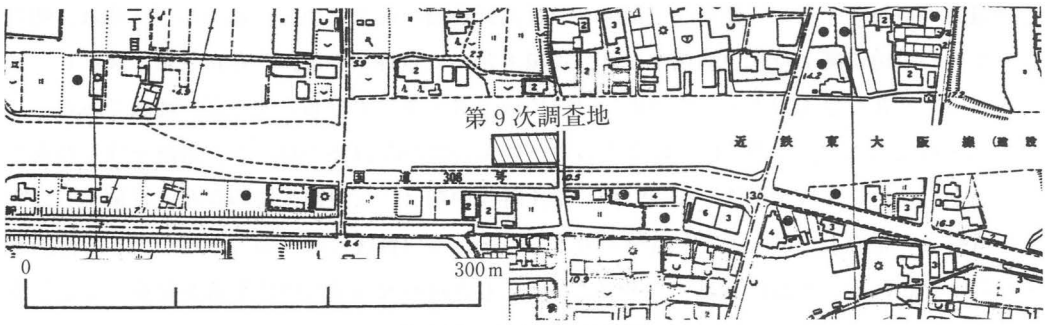
大阪のベッドタウンとして奈良県北部の開発が進んだ結果、この間を結ぶ既存の近畿日本鉄道奈良線の輸送力が限界に近づいた。これを緩和するのと、東大阪市北部の開発のために鉄道の新線が計画され、昭和46年の都市交通審議会において鉄道新路線の答申が出された。以来、国道308号線拡張工事および、東大阪市高速鉄道東大阪線の建設ならびに阪神高速道路東大阪線の延長計画を含めた、都市交通網の整備計画が進められることになった。今回の調査は、これらの開発に伴う一連の調査の一つである。

一連の開発に伴う調査は、本協会（調査地の南半を担当）と大阪府教育委員会（調査地の北半を担当）が分担して実施した。なお、調査途中において、鬼虎川・西ノ辻・植附・神並遺跡が自然地形によって明確に別れることが判明したが、調査名称に関しては当初のままである。本報告では実態に即して、調査名称は鬼虎川○次調査であっても西ノ辻遺跡として取り扱う。

本遺跡は昭和16年、現近鉄バス枚岡営業所の地点で整地が行われた際に多量の弥生土器が出土したことによって存在が知られた。同年と翌17年に、京都大学の小林行雄氏らによって調査が行なわれた。この時に出土した土器は、「西ノ辻式」と称され弥生時代中期末から後期の近畿地方における代表的な資料として広く知られている。

以来、本報告書作成時点までに36次を越える調査が実施されている。これらの調査で本遺跡は、弥生時代後期後半から古墳時代前期と奈良時代後期から平安時代前期を除き、弥生時代中期初頭から室町時代後期までの集落遺跡であることが明らかになっている。また縄文時代中期後半から弥生時代前期にも小規模な集落の存在が推定できる。

遺構は、弥生時代中期の方形周溝墓・土器棺墓・溝・柱穴・土壙・井戸、後期の溝・土壙、古墳時代中期後半の石組遺構（水利用）・水流調節用の杭列、奈良時代の祭祀跡・水流調節用の杭列、平安時代後期から室町時代に属す木棺墓・柱穴・井戸・溝・土壙などが検出されている。また、遺跡の北辺を縄文時代後期以降、時代により流れを変える埋没河川の存在も知られている。これらの遺構や河川から、動植物遺存体や木製品を含む膨大な量の遺物が出土している。特に各時代にゴミ捨て場としても利用された河川からの出土品が多い。各時代の豊富な遺構や遺物から見て、本遺跡は河内地方を代表する集落遺跡の一つと考えられる。



第Ⅰ図　調査地点位置図

II　位置と環境

西ノ辻遺跡は、現在の行政上の地名では東大阪市弥生町、西石切町三丁目、東山町に所在する。国土地理院発行の1/25000地形図「生駒山」では、左下隅付近にあたる。

調査時の現状は、遺跡のほぼ中央を南北に通る旧国道170号線沿いに伸線工場が立ち並び、北端付近を東西に通る国道308号線沿いは商店や畑地などが散在している。後述する鬼虎川遺跡と接する西側は、水田および畑地として利用され、東側は旧村部の一画にあたり民家が立ち並んでいる。今回の調査地は、国道308号線と旧国道170号線の交差点より少し西に入る国道308号線上（西石切町３丁目地先）である。

東大阪市域は地理的に見ると東より西に、最高峰の生駒山（標高643.3m）を頂点に南北に延びる標高150m以上の山岳部、標高150～10mの山麓部、標高10～５mの平野部の３つに大別される。

本遺跡は山麓部に位置する。山麓部は、生駒山西麓に広がる扇状地の性格をもつ低位段丘が発達している。山岳部から西下する中小の河川が、0.7～1kmの間をおいて段丘を開析している。これらの河川は山麓部や平野部では、時代により徐々に流れの異なることが今回の調査も含め、最近の調査で明らかになりつつある。河川は、縄文時代前から後期は全面にひろがる河内湾に注いでいた。以降、湾は旧大和川の堆積作用などにより晩期に河内潟、弥生時代以降は河内湖に変化する。本遺跡は湾・潟・湖の東辺部に位置するということができる。

本遺跡付近の弥生時代から中世の旧地形は、西側の段丘西端が縄文海進に伴う海食崖に起因する高さ約２mの急な崖である。東側は山麓部につながる。北は、現、鬼虎川の前身である縄文時代後期から中世までの河川が、本遺跡の北端を南東から北西にかけて流れていたことが西ノ辻遺跡22次調査などで判明している。南側は不明であるが現在、鬼虎川の南約1kmを額田谷から西に向かい、恩智川に合流する番匠川の前身の川が流れていたことは間違いない。

これらの崖や河川により本遺跡の範囲（東西約400m、南北約500m）が画されていた。従前の調査は、主に遺跡の北辺部分で実施されており、埋没河川や、居住区・墓域の一画が検出されている。弥生時代以降の水田などの耕作地はまだ未検出であるが、周辺の山麓部だけでなく地理的に見て平野部にも存在した可能性が高い。

本遺跡の中央やや東寄り標高20m前後を、東高野街道が南北に通る。道の旧現時期は、明らかでないが沿道に縄文時代中期後半以降、古墳も含めて各時期の遺跡が存在（第２図）し、早くから道の存在が想定できる。街道沿いは、市域で最も遺跡の分布密度が高い地域である。

原始・古代にあっては湾や潟、湖と背後の生駒山の豊かな自然の恵みが、遺跡を残した人々の生活を支えたことは論を待たない。特に弥生時代中期は、大規模遺跡の存在と質量ともに豊富な遺物から歴史上、最も栄えた時期と考えられる。この背後には、湖の水運が大きな役割を果したと思われる。本遺跡周辺は、中世においても寺跡や大規模な中世集落が存在し安定した自然条件のもと、継続して発展した地域と言える。

1．中垣内遺跡
2．足立氏館跡
3．善根寺山遺跡
4．善根寺遺跡
5．池端遺跡
6．日下遺跡
7．石凝寺跡・馬場遺跡
8．芝ヶ丘遺跡
9．正法寺山遺跡
10．芝坊主山遺跡
11．辻子谷遺跡
12．法通寺跡
13．神並遺跡
14．植附遺跡
15．西ノ辻遺跡
16．舳古墳群
17．額田寺跡
18．鬼塚遺跡
19．鬼虎川遺跡
20．水走遺跡
21．千手寺遺跡
22．辻子谷古墳群
23．墓尾古墳群
24．神並古墳群
25．正興寺山遺跡
26．若宮古墳群
27．和泉遺跡
28．北島遺跡
29．加納遺跡
30．額田山古墳群
31．みかん山古墳群
32．豊浦谷古墳群
33．神津嶽祭祀遺跡
34．出雲井遺跡
35．孤塚遺跡
36．皿池遺跡
37．河内寺跡
38．五条山古墳群
39．水走氏舘跡
40．客坊山遺跡
41．山畑遺跡
42．山畑古墳跡
43．市尻遺跡
44．花草山古墳群
45．五里山古墳群
46．鵜立遺跡
47．上六万寺遺跡
48．縄手遺跡
49．五合田遺跡
50．段上遺跡
51．下六万寺遺跡
52．北鳥池遺跡
53．往生院金堂跡
54．岩滝山遺跡
55．半堂遺跡
56．船山遺跡
57．浄土寺谷古墳群
58．大賀世遺跡
59．コモ田遺跡
60．浄土寺跡
61．貝花遺跡
62．萩山遺跡
63．北屋敷遺跡
64．馬場川遺跡
65．西代遺跡
66．池島東遺跡
67．西の口遺跡
68．楽音寺遺跡
69．池島遺跡
70．草香山遺跡
71．宮山遺跡
72．興法寺跡
73．三昧尾山遺跡

第２図　周辺遺跡分布図

III　調査概要

今回の調査地点（第１・３図）は、東を第17次調査、西は鬼虎川遺跡第25次調査、南を第７次調査、北を第13次調査地区に接する東西に長い場所である。調査区の平面形は東西約40m・南北約20m・面積約800㎡でほぼ長方形を呈する。

鬼虎川遺跡第12次調査以降使用している国家座標にもとずく地区割りも用いることとした。

この地区割りは、建設省告示による第Ⅵ座標系を利用したもので原点を東大阪市川中（X＝－146k200m、Y＝－34k600m）に設定し、100m方画を大地区とし、さらに大地区を５m方画に分割し小地区とした。地区名称は、それぞれの地区ラインに名称を与え直交する２方向のラインの名称を組み合わせて名称とした。大地区の南北ラインが原点より東にⅠ・Ⅱ・Ⅲ、東西ラインが南に向かいＡ・Ｂ・Ｃである。小地区の名称は同様に南北ラインが南に１・２・３、東西ラインが南に向かいａ・ｂ・ｃである。各地区の名称は、南東隅交点のライン名称としている。したがって原点を含む小地区は「IAla」となる。今回の調査区の北西隅はXIXF14a、南西隅がXIXF21dとなる。

調査は土留の鋼矢板を打設した後、盛土を機械を用いて掘削し、耕土以下を人力で掘り下げ行なった。調査地は従前、道路であった関係から下水・ガス・水道などの埋設管による攪乱が多くこの部分については支障のない範囲で機械を用いて掘り下げを行なった。

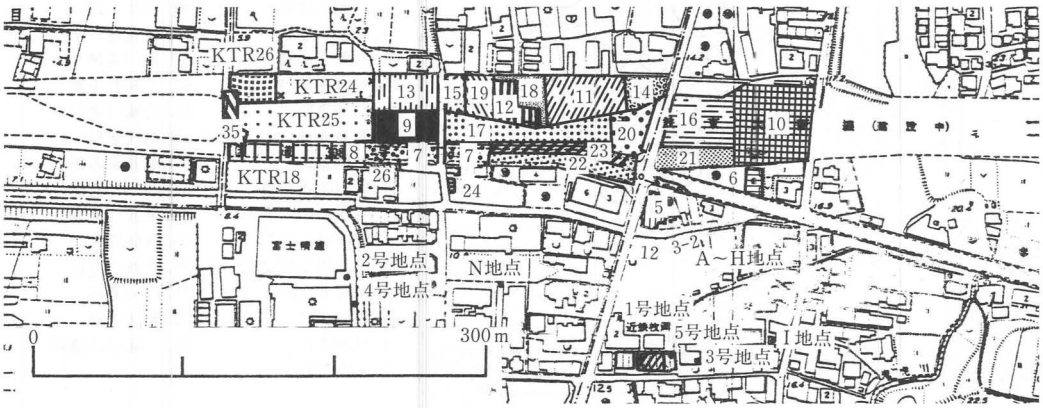
調査の目的は、従前の調査結果から下記の３点の事柄を明らかにすることを主とした。

１）調査地は従前の調査で集落部分の北辺にあたる地と想定されていたことからその実態の把握。

２）第７次調査で存在が認められた、弥生時代中期方形周溝墓広がりの把握。

３）第７次調査により検出されている、平安時代後期から室町時代の集落址の検出と広がりの把握。

現場調査は、昭和58年12月22日～昭和59年５月23日まで実施した。現場調査の後半、４月28日に市民対象の現地説明会を開催し、約400名の参加を得ることができた。



第３図　西ノ辻遺跡各調査地点位置図

Ⅳ　遺跡

１．層序

調査の北辺で後述する埋没河川が存在する。河川の部分の層序はかなり複雑であるが、他は耕作の際に包含層が削平されており耕土・床土を除くと、すぐ地山面が存在し弥生時代と中世の遺構が同一面上で検出された。また、道路開設の際にほぼ水平に削平されているため耕土・床土が存在しない場所もある。地山上面の標高は、調査地東端（T.P9.1m）と約40m離れた西端（T.P9.0m）の比高差は0.1mである。

今回、確認した層序について河川の部分を含む調査地東壁の南北断面（第４図右）と、同西壁の南北断面（第４図左）について説明する。なお、川・溝内の堆積土は、概略について説明する。個々の層序は別掲（第４図・図版２）の土層断面図・写真を参照されたい。

東壁南北断面

第１層　暗緑灰色砂質土（耕土）厚さ20cm。道路となる以前の耕土である。弥生時代以降、近代までの遺物が細片で少量含まれる。

第２層　暗赤褐色砂質土（床土）厚さ12～20cm。上面はT.P9.4m前後である。耕土と同様の遺物が含まれる。上面から鋤溝と溝２などが切り込む。

第２－Ａ層　緑灰色砂質土　厚さ24cm。近世以降の溝堆積土。

第２－Ｂ層　緑灰色砂質土　厚さ60cm。近世以降の溝２堆積土。

第２－Ｃ層　黄褐色砂質土　厚さ40cm。溝２に切られるが近世以降の溝堆積土。

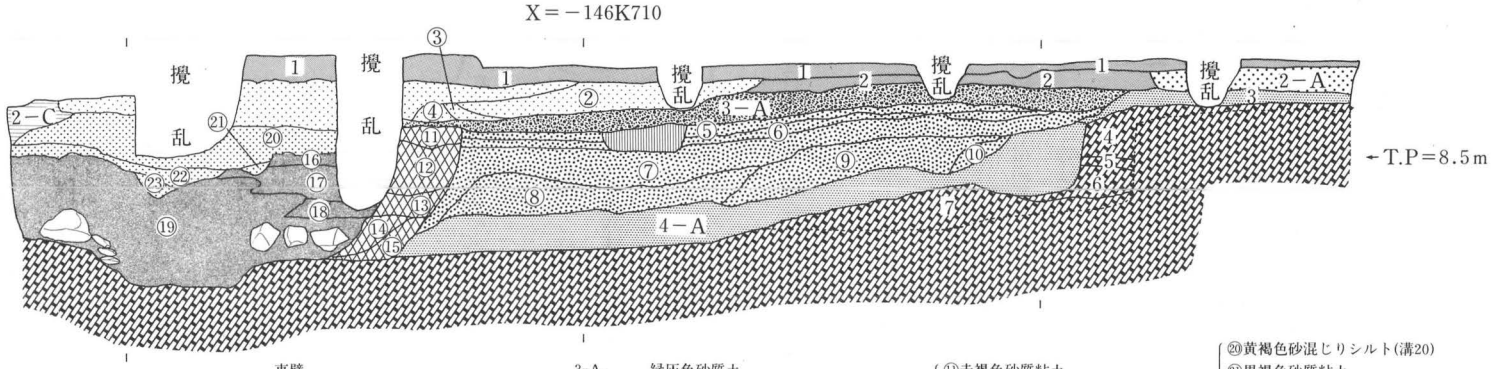
第３層　赤褐色砂質土　厚さ16cm。上面および下面は、ほぼ平坦である。畿内第Ⅲ～Ⅳ様式の土器を少量含む包含層。20ラインより以東に存在する。

第３－Ａ層　緑灰色砂質土　厚さ28cm。中世末に川の南岸の中世包含層や遺構を削平し、川が起因する窪地を埋めた整地土。

第３－Ｂ層　暗赤褐色砂～暗赤褐色砂質土　厚さ120cm。細かく見れば、６層に分層できる。後述する弥生時代中期後半の川の上部に堆積し平安時代末の溝25に切られる。この間の河川堆積土と考えられるが、出土遺物がなく細かな時期は比定できない。上面から溝48が切り込む。

第３－Ｃ層　赤褐色砂質粘土～茶褐色砂　厚さ140cm。細かく見れば、５層に分層できる。後述する鎌倉時代後期の溝20に切られる。平安時代末の溝25の堆積土。瓦器・土師器やウマをはじめとする多量の動物遺存体が出土した。

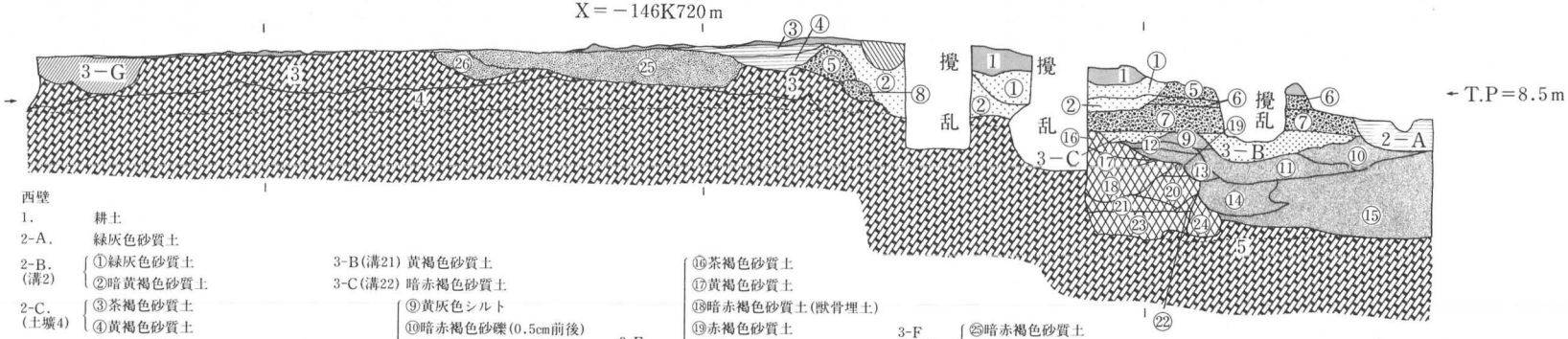
第３－Ｄ層　黄褐色砂質土～青灰色砂礫　厚さ160cm。細かく見れば、４層に分層できる。後述する鎌倉時代末から南北朝時代の溝21などに切られる。鎌倉時代後期の溝20の堆積土。溝としたが人工の河川で両肩に自然石を用いた護岸設備と、川の流れに直交して杭列を打ち込み堰を作る。瓦器・土師器や曲物などの木製品、ウマをはじめとする動物遺存体が出土した。



東壁

1. 旧耕土
2. 暗赤褐色砂質土(床土)
2-A. 緑灰色砂質土
2-B.(溝2)
①赤褐色砂礫
②緑灰色砂質土
③黒褐色砂礫
④赤褐色砂質土
2-C. 黄褐色砂質土
3. 赤褐色砂質土(弥生時代包含層)
3-A.(整地土) 緑灰色砂質土
3-B.(河)
⑤暗赤褐色砂
⑥黄褐色シルト
⑦茶褐色砂質土
⑧暗赤褐色砂質土
(5mm前後の砂中量に含む)
⑨暗赤褐色砂質土
(3mm前後の砂多量に含む)
⑩暗褐色砂質粘土
(地山のブロックが混じる)
3-C.(溝25)
⑪赤褐色砂質粘土
⑫黒褐色砂混じりシルト
⑬緑灰色砂
⑭茶褐色砂
(5cm前後の礫微量に含む)
⑮青灰色シルト質粘土
3-D.(溝20)
⑯黄褐色砂質土
⑰暗黄褐色シルト
⑱暗緑灰色シルト
⑲青灰色砂礫
3-E.(溝21)
⑳黄褐色砂混じりシルト(溝20)
㉑黒褐色砂質粘土
(1cm前後の焼土微量含む)
㉒黄褐色砂質土
㉓黄褐色砂質土
(5mm前後の焼土塊微量に含む)
4-A. 黄褐色砂質粘土(弥生時代川)
4. 黄褐色粘土(地山)
5. 黄褐色砂質粘土(地山)
6. 黄褐色粘土(地山)
7. 暗褐色砂(地山)

0 3m



西壁

1. 耕土
2-A. 緑灰色砂質土
2-B.(溝2)
①緑灰色砂質土
②暗黄褐色砂質土
2-C.(土壙4)
③茶褐色砂質土
④黄褐色砂質土
3-A(整地土)
⑤赤褐色砂質土
⑥茶褐色砂質土(焼土塊含む)
⑦赤褐色砂質土
⑧赤褐色粘土と黄褐色砂礫のブロック土
3-B(溝21) 黄褐色砂質土
3-C(溝22) 暗赤褐色砂質土
3-D(溝20)
⑨黄灰色シルト
⑩暗赤褐色砂礫(0.5cm前後)
⑪黄褐色砂礫
⑫暗黄褐色砂礫
⑬黄褐色砂質土
⑭暗青灰色シルト混じり粘土
⑮茶褐色砂礫
3-E(溝25)
⑯茶褐色砂質土
⑰黄褐色砂質土
⑱暗赤褐色砂質土(獣骨埋土)
⑲赤褐色砂質土
⑳黄褐色砂質土
㉑黒褐色砂質土
㉒黒褐色シルト
㉓黒褐色砂
㉔茶褐色砂礫
3-F(溝57)
㉕暗赤褐色砂質土
㉖茶褐色砂質粘土
3-G(溝58) 暗茶褐色砂質粘土
3. 赤褐色粘土(地山)
4. 黄褐色砂礫(地山)
5. 青灰色粘土(地山)

第4図 調査地土層断面実測図(左・東壁、右・西壁)

第３－Ｅ層　黄褐色砂混じりシルト～黄褐色砂質土　厚さ80cm。細かく見れば、４層に分層できる。近世以降の溝２などに切られる。鎌倉時代末から南北朝時代の溝21の堆積土。瓦器・土師器などが出土した。

第４層　黄褐色粘土　厚さ60cm。地山。

第４－Ａ層　黄褐色砂質粘土　厚さ50cm。上部を第３－Ｂ層や溝25などに切られる。弥生時代川の堆積土。畿内第Ⅲ様式後半から第Ⅳ様式前半に属す弥生土器が少量出土。

第５層　黄褐色砂質粘土　厚さ12cm。地山層である。

以下、第６層（黄褐色粘土・厚さ40cm）第７層（暗褐色砂・厚さ50cm以上）と続く。

西壁南北断面

第１層　耕土　最大厚さ30cm。道路となる以前の耕土である。調査地北半の河川跡では厚く、南半の岸部分では道路開設時に削平され残存しないところが多い。元々、川の名残の窪地部分に傾斜していたと考えられる。弥生時代以降、近代までの遺物が細片で少量含まれる。

第２層　床土　明瞭な形では存在しない。わずかに川の上部に認められる第３－Ａ層の整地土上部がこれにあたるかと思われる。

第２－Ａ層　緑灰色砂質土　厚さ30cm。近世以降の溝堆積土。

第２－Ｂ層　緑灰色砂質土　厚さ90cm。細かく見れば２層に分層できる。近世以降の溝２堆積土。

第２－Ｃ層　茶褐色砂質土～黄褐色砂質土　厚さ30cm。溝２に切られる。土壙４の堆積土。瓦器や焼土など少量出土。

第３層　赤褐色粘土　厚さ40cm。上面は、ほぼ平坦である。上面で弥生時代と中世の遺構を検出。地山である。

第３－Ａ層　緑灰色砂質土　厚さ28cm。４層に細分できる。中世末に南側の中世包含層や遺構を削平し、川が起因する窪地を埋めた整地層。瓦器などの土器や焼土を含む。

第３－Ｂ層　黄褐色砂質土　厚さ40cm。溝21の堆積土。瓦器・土師器など出土。

第３－Ｃ層　暗赤褐色砂質土　厚さ12cm。溝22の堆積土。瓦器・土師器など出土。

第３－Ｄ層　黄灰色シルト～茶褐色砂礫　厚さ120cm。細かく見れば、７層に分層できる。上述した溝20の堆積土。

第３－Ｅ層　茶褐色砂質土～黒褐色砂　厚さ120cm。細かく見れば、９層に分層できる。上述した溝25の堆積土。

第３－Ｆ層　暗赤褐色砂質土～茶褐色砂質粘土　厚さ40cm。方形周溝墓の溝57の堆積土。上部を土壙４に切られる。弥生土器が出土。

第３－Ｇ層　暗茶褐色砂質粘土　厚さ40cm。方形周溝墓の溝58の堆積土。上部が削平され耕土が薄く認められる。完形品を含む弥生土器が出土。

以下、第４層（黄褐色砂礫・厚さ120cm）第５層（青灰色粘土）の地山層が続く。

2．遺構

今回、検出した遺構は先に層序の項で触れたように、弥生時代中期の土壙から近代の耕作地であった際の耕作に伴う遺構まで各時期のものが見られる。古い時期の遺構から順に報告する。なお、河川は遺構ではないが、遺構に準じ取り扱う。また中世の溝とした中にも河川が存在するが、人工的に流路が固定されたと考えるため溝として報告する。

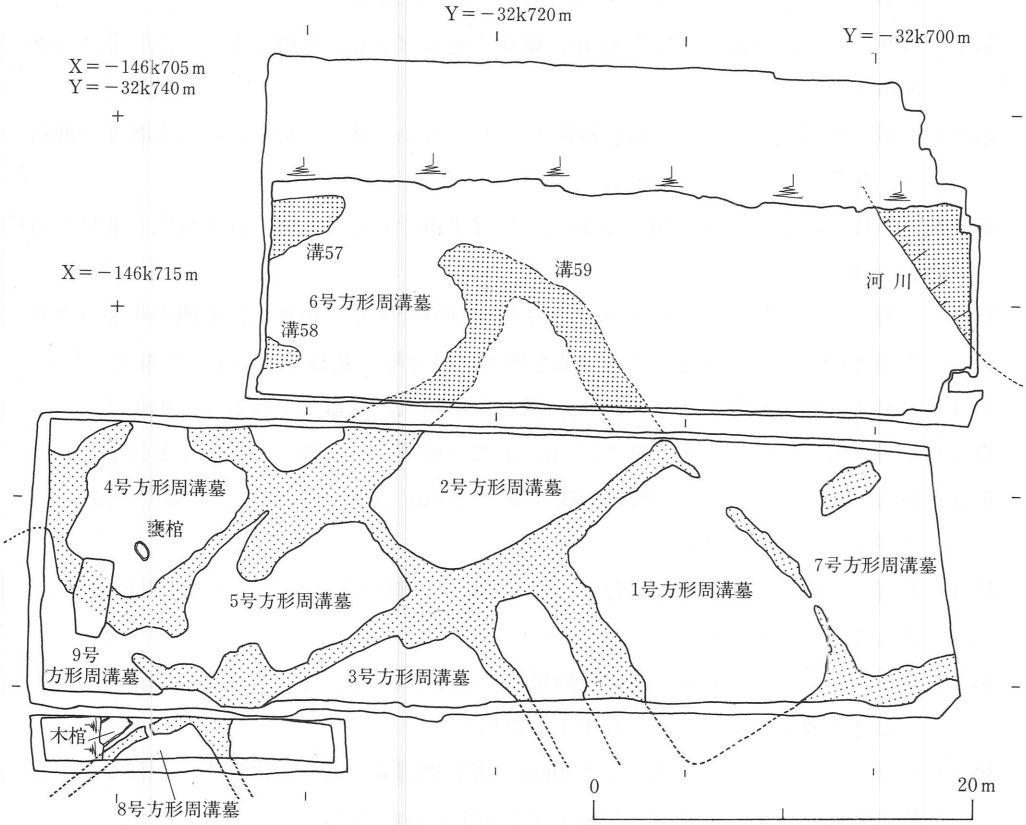
弥生時代の遺構［図版３・４］

弥生時代中期の方形周溝墓の周溝・土壙と川がある。

方形周溝墓の周溝（第５・６図）調査地の南西部で３条検出した。

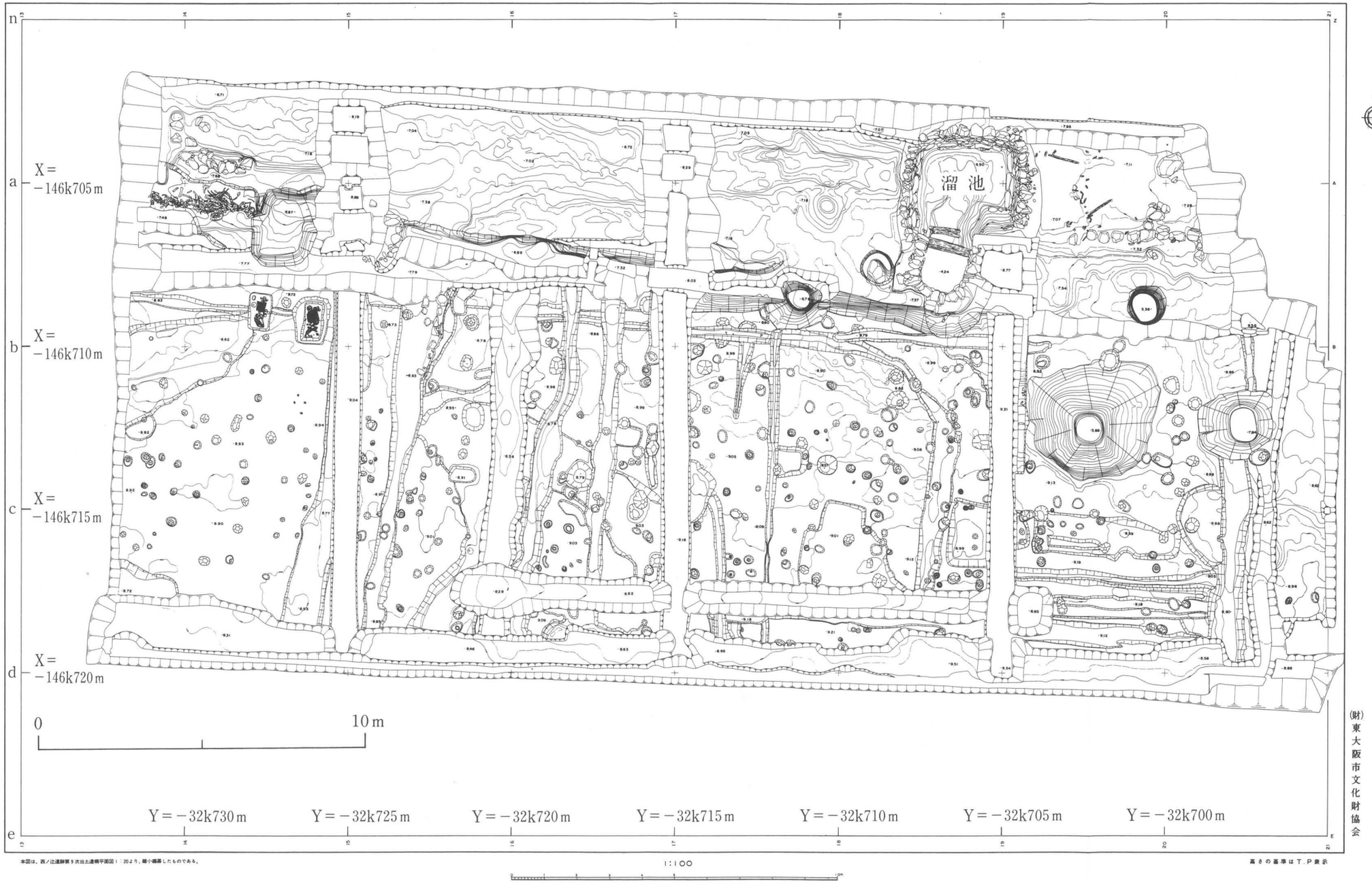
溝57　深さ0.4m（検出時、以下同じ）、幅2.7m、長さ４m以上。東からやや南に振りながら西に向かい掘られる。堆積土については層序の項で述べたので再述は控えるが、ミニチュア土器・鉢を含む弥生時代中期の土器（第13図　１～15）が底部から浮いた状況で出土した。土器は畿内第Ⅲ様式（以下、畿内を略す）に属す。

溝58　深さ0.4m、幅1.2m以上、長さ２m以上、一画を検出したのみである。堆積土については層序の項で述べたので再述は控える。ミニチュア土器・鉢を含む弥生時代中期の土器（第13図　16～26）が底部から浮いた状況で出土した。土器は第Ⅲ～第Ⅳ様式に属す。



第５図　弥生時代方形周溝墓・河川平面実測図

西ノ辻遺跡第９次出土遺構平面図



本図は、西ノ辻遺跡第９次出土遺構平面図1：20より、縮小縮写したものである。

(財)東大阪市文化財協会

第６図　検出遺構平面実測図

溝59　深さ0.3m、幅２m、長さ７m(西辺)　９m(北辺)「L」字状を呈する溝である。堆積土は暗茶褐色砂質粘土１層である。ごく少量の遺物が出土した。隣接する方形周溝墓の周溝からは、底部から浮いた状況で土器が出土している。検出した深さから見て上部が削平されていることが明らかで、本来はこの周溝にも他と同様、土器が存在した可能性が高い。

溝58以外は、第７次調査で検出された同時期の方形周溝墓の周溝（第５図）の延長にあたる。平面図を接合した結果、溝59は同調査で検出された第２号方形周溝墓の西辺と北辺の周溝であることが判明した。第２号方形周溝墓の規模は、長辺12.8m、短辺8.6mで北側の溝は次に述べる第６号方形周溝墓と共有する。

溝57は同調査で南東隅が検出されていたが、大半が当時の調査区外に延びる第６号方形周溝墓の北側周溝の一部である。甕棺墓が検出された第４号方形周溝墓と西側周溝を共有する。

第６号方形周溝墓は、今回の調査で南西隅を除き長辺13.4m、短辺10mの墳丘部のほぼ全体を検出したことになる。主体部は確認できなかった。墳丘部が削平された結果と考えられる。墳丘は周溝の深さから見て本来、１m前後の高さが想定できるのではなかろうか。

溝58は検出位置から方形周溝墓の溝とすれば対応するものが認められず（小型の方形周溝墓の可能性は残る）、土壙とも考えられる。

今回の調査も含め隣接して現在までに、８基の方形周溝墓が検出されている。主体部が確認されているのは、８号方形周溝墓の木棺１基と上述した４号方形周溝墓の甕棺が１基である。２基とも墓の中心からはずれた位置で検出されている。墳丘部の削平により中心の主体部はいずれも破壊されたと考えられる。

土壙　調査区南東隅付近で検出した１基がある。

土壙41　後述する弥生時代川の肩近くで検出した。平面形がほぼ円形を呈する。深さ0.3m、長軸0.7m・短軸0.5mの規模を持つ。内部堆積土は黄褐色砂質土である。堆積土中より弥生土器（第15図　57・63他）が少量出土した。出土土器から見て第Ⅲ様式後半～第Ⅳ様式前半に属す。

河川（第５図）　調査区東端で弥生時代川と仮称した１条を検出した。

弥生時代川　深さ（堆積土の厚さ）0.5m以上、幅４m以上、長さ９m以上、南東から北西に向かい流れる。川の肩口部分である。上部に弥生時代中期末から平安時代末までの河川堆積土が載る。堆積土は層序の項で述べたので再述は控えるが、少量の弥生土器と石包丁などの石器が出土した。

出土土器は、第Ⅲ様式後半～Ⅳ様式前半に属すもので、この時期に流れていたことが明らかである。遺物は、磨滅もなく出土状況から見て、南西側から投棄されたものと考えられる。

堆積土の厚さは0.5mであるが、上部に後代の堆積が見られ肩口と底部の比高差は1.4m以上である。時期と検出位置から、第22次調査で検出したＳＲ25の延長にあたる。調査地東端で東から西に流れて来たのが、急に角度を北に変えることが判明した。

中世の遺構［図版５～11］

溝（河川含む）・井戸・土壙・掘立柱建物の柱穴・木棺墓がある。

溝（第６～８図）　調査区全体で大小合わせて計63条を検出した。大半が両端ないし１端が調査区外に延び、全長のわかるものは少ない。すべて、ほぼ東西ないし南北方向に掘られたものである。出土遺物がほとんど無く時期比定のできないものも多いが、時期の明らかなものは12世紀中葉から16世紀前葉までのものが見られる。以下、主要な溝について古い時期から順に説明する。

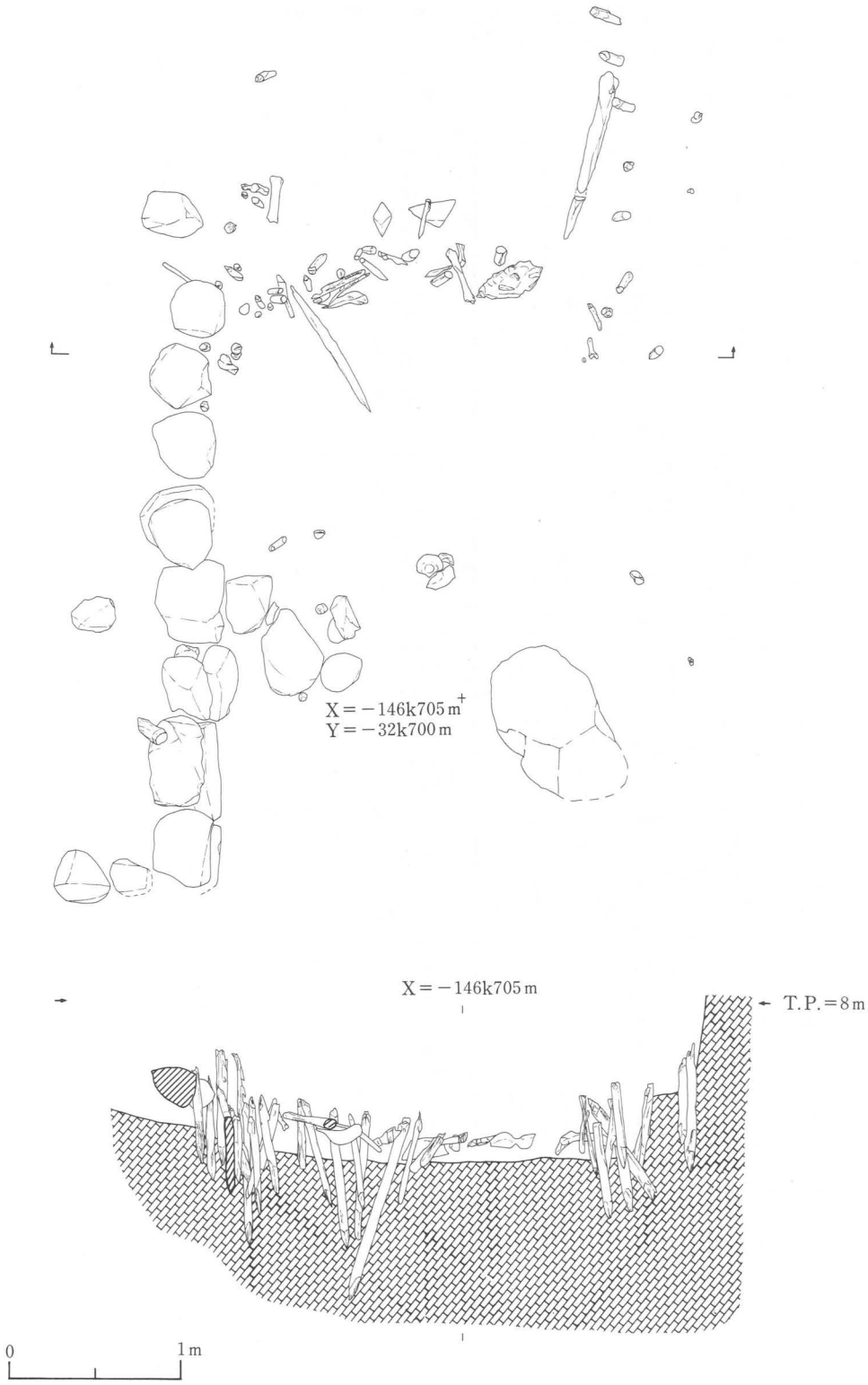
溝25　東から西に向かいわずかに北に振るように掘られる。両端は調査区外に延びる。上場幅1.5m前後・下場幅0.4～1.4m、検出長37mである。深さ（堆積土の厚さ、以下同じ）は東端で1.4m（底部標高T.P7.1m）、西端で1.2m（底部標高T.P6.8m）で東端と西端の比高差は0.3mである。断面形は、逆台形を呈し地山の第６層まで掘られる。東端付近の溝底部に杭列、肩口に護岸に用いたかと思われる人頭大の自然石が認められた。弥生時代川を切り土壙１、溝20などに切られる。

堆積土は、５～９層に分層され最上層は茶褐色砂質粘土、中層は暗赤褐色砂質土～黒褐色砂質土である。機能時の堆積土と考えられる下層は、黒褐色シルト・黒褐色砂である。下層の堆積土からみて、当初は流水が存在したものと思われる。上層および中層から、多量の土師器・瓦器と少量の国産陶器・中国製磁器、漆器椀などの木製品、鋳型などの土製品とウシ・ウマなどの動物遺存体が出土した。特に西端付近の中層からは折り重なるようにウマ３頭、ウシ１頭、イヌ１頭以上が埋められた状況で検出した。下層からも出土したが量は少ない。

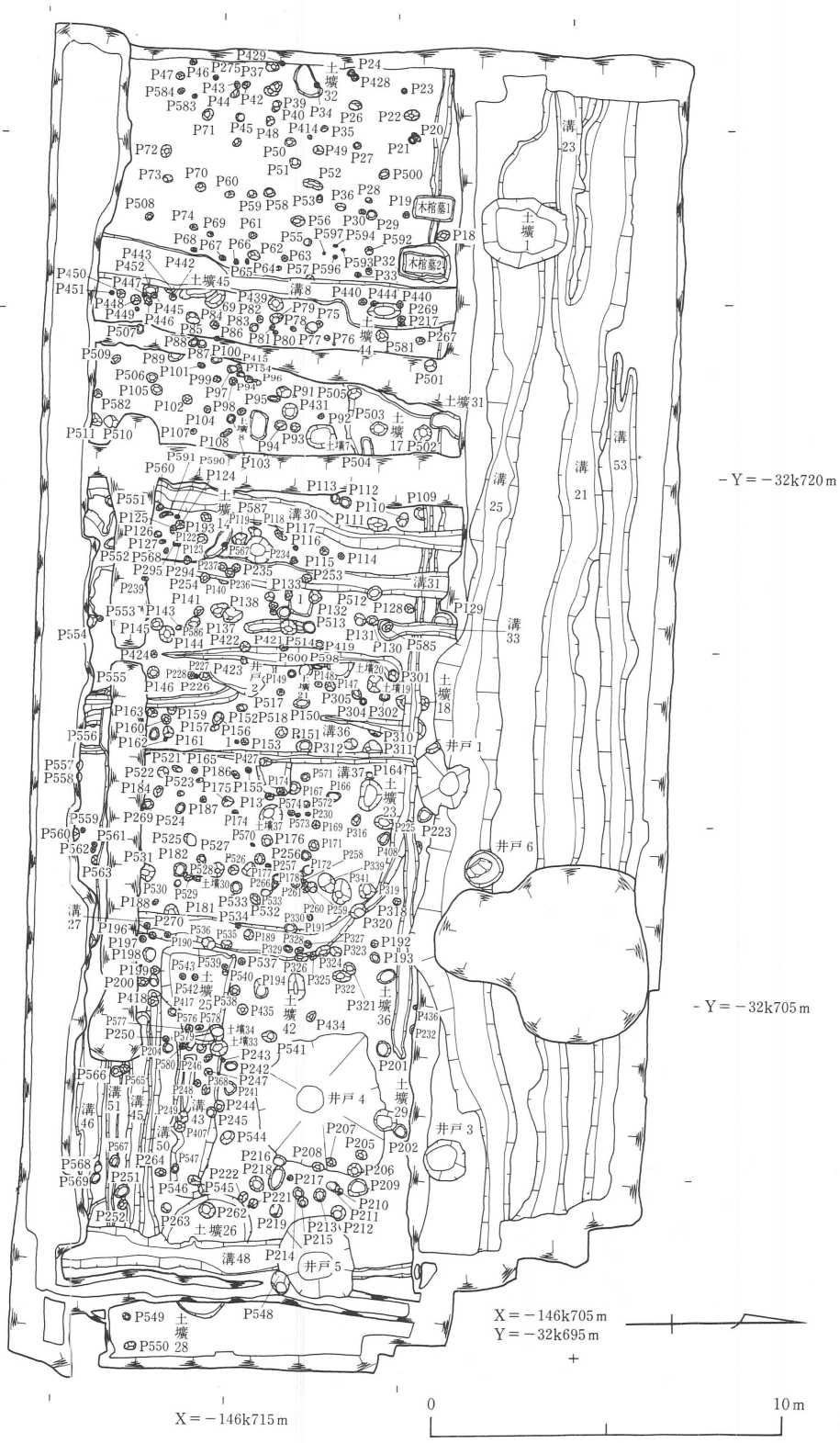
遺物から見て、12世紀後半から13世紀初頭に機能した溝である。東端で検出した杭列は水流調節用のものであろう。断面の形態から見て自然河川とは考えられず後述する溝20と同様、水路として作られたものと考えられる。出土遺物の量や、埋められた多量の動物遺存体から見て機能が停止した後、ゴミ捨て場とされたのであろう。

埋められた動物遺存体は祭祀に伴う犠牲獣とも思えるが、解体痕が認められず、また周辺で検出される中世の河川などからも多量のウマと少量のウシなどが検出されている。溝廃絶時に、死んだ家畜をまとめて埋めたと考えたい。

溝20（第７図）　東から西に向かい流れる。両端および北岸は調査区外に延びる。上場幅4.2m以上・下場幅3.4m以上、検出長37mである。深さは東端で1.6m（底部標高T.P6.9m）、西端で1.2m（底部標高T.P6.8m）で東端と西端の比高差は0.1mである。断面形は、逆台形を呈し地山の第６層まで掘られる。東端付近の溝底部から肩にかけて、護岸に用いたと思われる人頭大から牛頭大の上面が平坦な自然石を水の流れに沿い並べ（検出長４m）ていた。また、石列が途切れる付近で水流に直交あるいは並行して杭列が認められた。また北岸沿いに打たれたものも認められた。杭列を構成する杭は、径４cm前後の自然木の先端を切り欠いたものである。直交する杭列は水の流れを調整する用途、北岸沿いのものは護岸の役割を果たしていたと考えられる。溝25を切り土壙１、溝21などに切られる。



第７図　溝20杭列・石列検出状況実測図



第８図　中世遺構平面実測図

堆積土は、４～７層に分層され最上層は黄褐色砂質土、中層は暗黄褐色シルト～暗緑褐色シルト、下層は青灰色砂礫である。中・下層が機能時の堆積土と考えられる。各層から、多量の土師器・瓦器と少量の国産陶器・中国製磁器、下駄などの木製品、土製品（土錘）、金属製品（鉄釘・銅銭）、ウシ・ウマなどの動物遺存体が出土した。また、混入品として古墳時代後期から奈良時代の須恵器などと、法通寺所用の軒丸瓦や軒平瓦が少量出土した。

遺物と溝25の切り合いから、13世紀前半から14世紀初頭にかけて約100年間、機能したと考えられる。堆積土から見て当初は一定の早さで水が流れ、中層の堆積段階ではかなり緩やかな水の流れに変化したと想定される。東端で検出した杭列は、水流調節用の堰であろう。溝としたが、自然河川の可能性も考えられる。自然河川であったとしても堰や護岸用の石列の存在、堆積土から見て完全に人の手で管理された水路であると考えられる。出土遺物の量や状況から見て機能時のみならず停止した後も、ゴミ捨て場とされたものと考えられる。

動物遺存体は、溝25と異なりバラバラで出土することから、周辺で検出される中世の河川出土例と同じく川や水路に捨てられたものが流れたと考えられる。

溝21　東から西に向かいわずかに北に振るように掘られ、西端近くで溝22が分流する。両端は調査区外に延びる。上場幅3.0～4.5m・下場幅1.2m前後、検出長37mである。深さは東端で0.8m（底部標高T.P7.8m）、西端で0.4m（底部標高T.P7.7m）で東端と西端の比高差は0.1mである。断面形は、皿形を呈し溝20を切る。上部は中世末の整地土（第３－Ａ層）に覆われる。

堆積土は、厚いところで４層に分層されるが薄い部分では黄褐色砂質土ないし砂混じりシルト１層である。堆積土は砂質土ないし砂混じりシルトであることから、水が流れていたとしても緩やかなものと考えられる。多量の土師器・瓦器などが出土した。

遺物から見て、14世紀前半に機能したと考えられる。出土遺物の量から機能時のみならず停止した後も、ゴミ捨て場とされたものである。

溝27　調査地中央付近で検出した、南から北に向かい途中で西に振るＬ字状の溝である。西端は攪乱で切られ南端は調査区外に延びるため全形は不明である。上場幅0.3～0.7m・下場幅0.2m前後、検出長17mである。深さは東端で0.15m（底部標高T.P8.91m）、西端で0.09m（底部標高T.P8.75m）で東端と西端の比高差は0.16mである。断面形は、皿形を呈し土壙18を切りピット324などに切られる。

堆積土は、暗茶褐色砂質土１層である。形態から屋敷ないし建物を区画する溝の可能性が考えられる。土師器・瓦器などが出土した。遺物から見て、13世紀代に機能したものである。

溝30　調査区中央付近で検出した。南から北に向かい、やや蛇行するように掘られる。北端は攪乱に切られ、南端は調査区外に延びる。上場幅0.6～0.8m・下場幅0.3m前後、検出長９mである。深さは南端で0.17m（底部標高T.P8.92m）、北端で0.11m（底部標高T.P8.68m）で南端と北端の比高差は0.24mである。断面形は、皿形を呈し溝27を切る。

堆積土は、暗茶灰色砂質土１層である。土師器・瓦器などが出土した。遺物から見て、15世紀前半に機能したと考えられる。

溝48　調査区東端中央付近で検出した。東と西から掘られた溝が合流して北に向かう溝である。北端は攪乱に切られ南端は不明瞭である。上場幅0.4m・下場幅0.2m前後、検出長1.8mである。深さは0.2m前後である。断面形は、皿形を呈する。

堆積土は、暗茶灰色砂質土１層である。少量の土師器・瓦器などが出土した。遺物から見て、16世紀前半に機能したと考えられる。形態から耕作用の溝の可能性が高い。

井戸（第６・８・９図）調査区東半で計５基検出した。出土遺物から見た時期別の内訳は、12世紀中葉１基、12世紀後葉から13世紀初頭１基、13世紀後葉３基である。いずれの井戸も掘り方が狭いため人力では２m前後しか掘り下がることができず、底部を確認するため機械を用いて断ち割りを行なった。残念なことに井戸内の堆積土が、水分を多く含んだ砂質土から粘土であるため断面観察を行なう以前に崩落し、実測図を作成できなかった。

井戸４（第９図）調査地中央東寄り付近で検出した。上部を、中世末期に削平される。ピット205などに切られる。地山の湧水層である青灰色細砂まで掘り込む。底部の標高はT.P4.38mである。井筒は遺存していない。

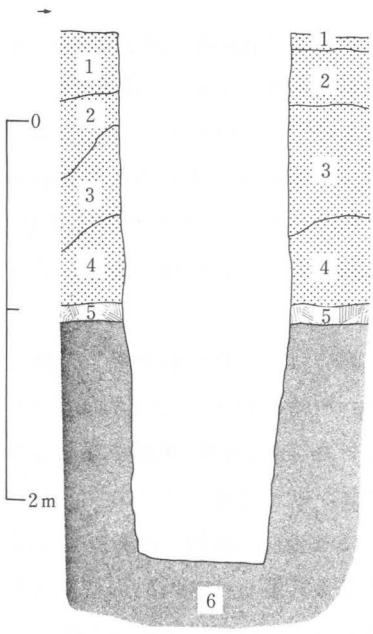
堀方上部は、長軸４m・短軸3.5mの不整円形を呈し約0.8m下がったあたりで径１mの円形になる。深さ3.8m以上である。大和型・和泉型瓦器椀や土師器と鉄鎌、箸などが出土した。鉄鎌は底部付近で出土したものである。出土遺物から、平安時代末の12世紀中葉の時期の所産と考える。井筒は遺存していないため不明であるが堀方の形状から見て上部に井筒の想定ができる。しかし、下部については他の木製品の遺存状況から見て存在しない可能性が高い。

井戸６　調査地中央やや北寄り、近世の溜池に伴う井戸９の西に隣接して検出した。上部を、溝20に切られ溝25を切る。地山で湧水層の青灰色砂層まで掘り込む。底部の標高はT.P4.57mである。井筒は遺存していない。上部で牛頭大の自然石が、投げ込まれた状態で１点認められたが、数が少なく石組井筒の一部とは考えられない。埋土の替わりとされたと思われる。

掘方は、ほぼ円形を呈し径1.0m・深さ2.68m以上である。瓦器・土師器と中国製白磁、鉄鎌・釣瓶・曲物などが出土した。出土遺物から、12世紀後半から13世紀初頭の所産と考える。井筒は遺存していない。堀方の形状や木製品の遺存状態から見て存在していない可能性が高い。

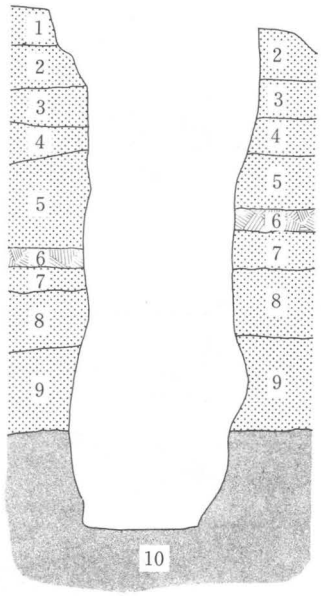
井戸５（第９図）調査地中央東端付近、井戸４の東に隣接して検出した。土壙41を切り、上部を中世末に削平される。地山の湧水層である青灰色砂から細砂層まで掘り込む。底部の標高はT.P4.83mである。井筒は遺存していない。

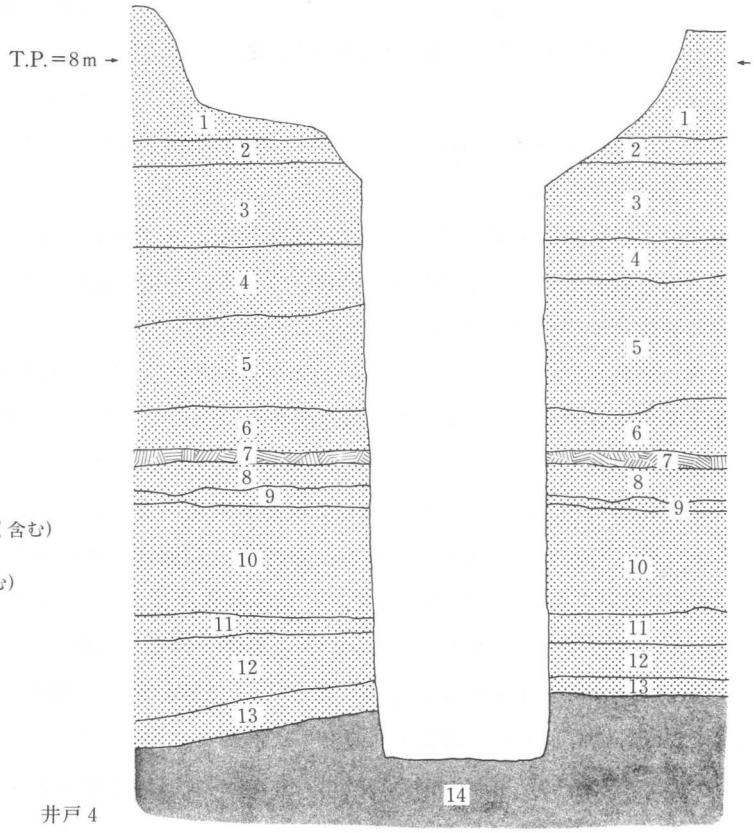
掘方は、不整円形を呈し長軸2.4m・短軸2.1m・深さ2.8m以上である。瓦器・土師器・東播系須恵器捏鉢と中国製青・白磁、木簡・曲物、土錘などが出土した。出土遺物から、13世紀後葉の所産と考える。井筒は遺存していないため不明であるが、堀方の形状と他の木製品の遺存状態から見て存在していない可能性が高い。



◀井戸５断面実測図
1.黄灰色砂礫層
2.オリーブ灰色シルト
3.黒灰色細～中粒砂
4.黄褐色中～細礫
5.黒色粘土
6.青灰色シルト～細礫と
黒色シルトとの互層

井戸１断面実測図▶
1.緑灰色粘土
2.青灰色シルト
3.黒灰色細礫
4.青灰色粘土
5.黒色粘土(下層に礫混じる)
6.黒灰色中粒砂と
青灰色シルトとの互層
7.黒灰色中粒砂～細礫と
青灰色シルトとの互層
8.青灰色シルト(木の枝・その他植物遺体を含む)
9.青灰色砂(自然木多数含む)



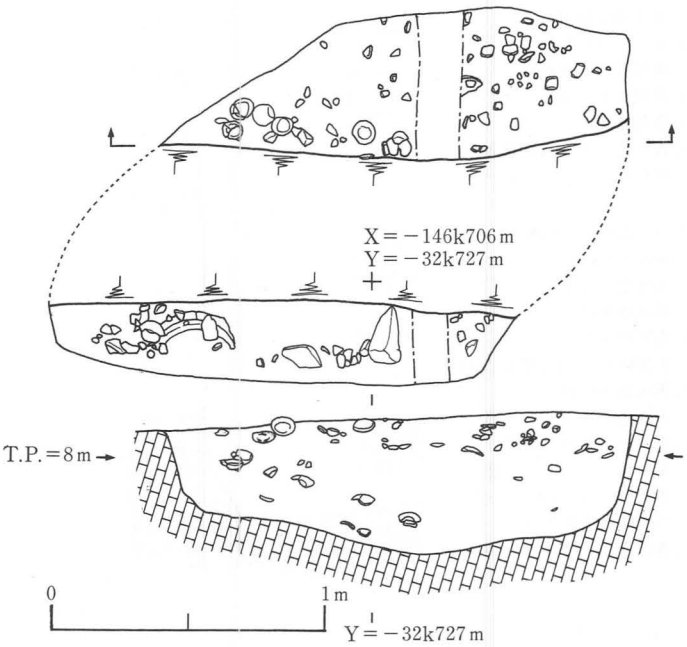


井戸４実測図▶
1.明黄褐色シルト質粘土
2.黄褐色礫
3.褐色砂
4.黄褐色砂混じり粘土
5.黒灰～黄褐色中礫
6.青灰色粘土
7.黒色粘土
8.灰色砂混じり粘土
9.青灰色細粒砂
10.青灰色中粒砂～シルトと
黒灰色中粒砂との互層
11.褐灰色粘土(植物遺体多く含む)
12.青灰色中粒砂
13.黒褐色粘土(木片多く含む)
14.青灰色粗砂

0　1m

井戸４

第９図　中世井戸断面実測図（上左・井戸５、上右・井戸１、下・井戸４）



第10図　中世土壙１検出状況実測図

井戸１（第９図）調査地中央、井戸６の南西に隣接して検出した。上部を中世末に削平され、溝25を切る。地山の湧水層である青灰色砂層まで掘り込む。底部の標高はT.P 4.98mである。井筒は遺存していない。

掘方は、不整円形を呈し長軸2.0m・短軸1.5m・深さ2.8m以上である。瓦器・土師器・東播系須恵器捏鉢と下駄・竹簡（竹に文字を線刻したもの）・曲物、砥石などと混入品の打製石剣が出土した。出土遺物から、13世紀後葉の所産と考える。井筒は遺存していないため不明であるが、堀方の形状や他の木製品の遺存状態から見て存在していない可能性が高い。

井戸３　井戸４の北に隣接し溝25を切る。地山の湧水層である青灰色砂層まで掘り込む。底部の標高はT.P4.9mである。

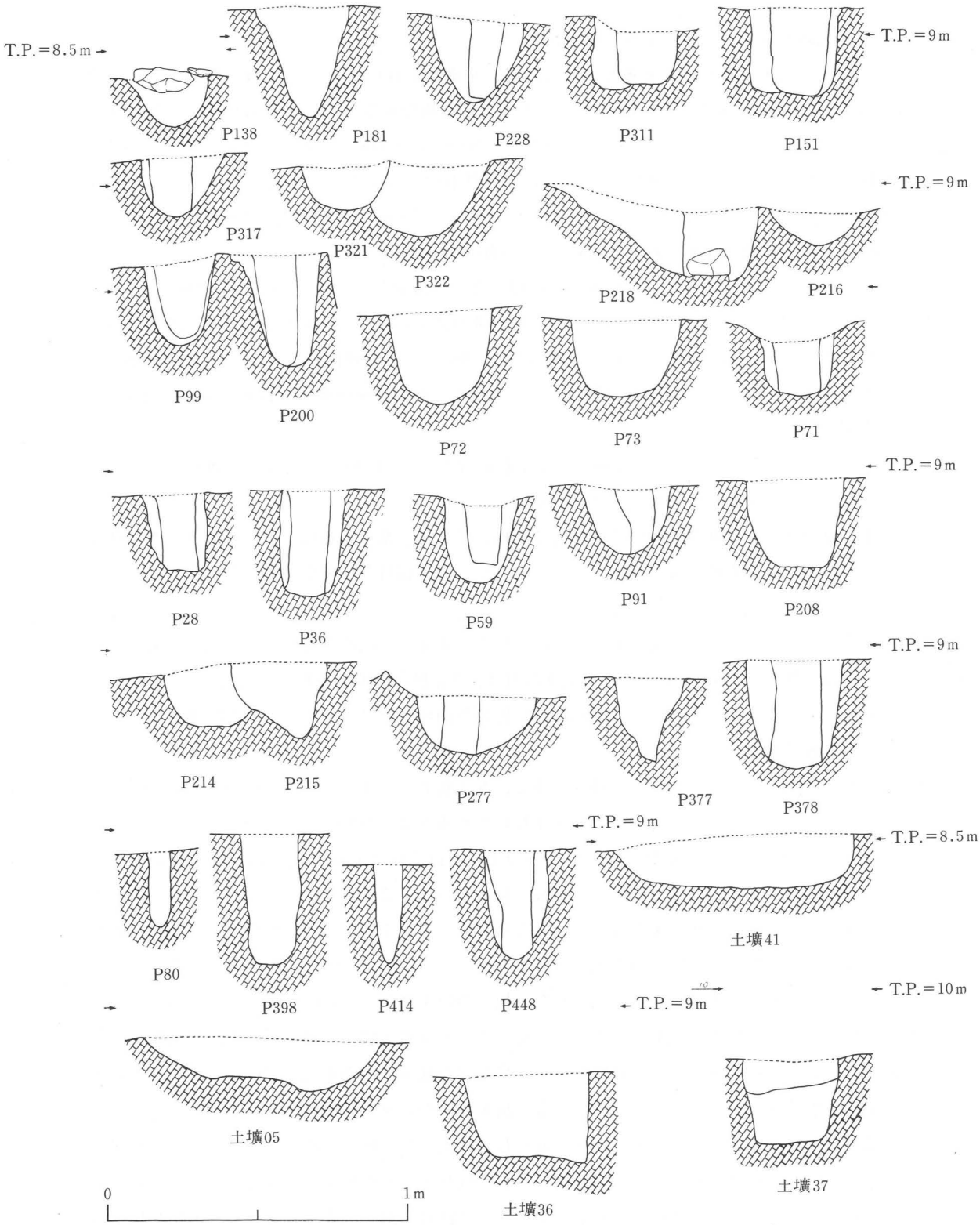
掘方は、ほぼ円形を呈し径1.1m前後・深さ2.6m以上である。少量の瓦器・土師器などが出土した。出土遺物から、上述の時期の所産と考える。井筒は遺存していないため不明であるが、堀方の形状が他の井戸とほぼ同じであることから見て存在していない可能性が高い。

土壙（第６・８・10・11図）中世末に上部を削平されているが調査地全域で検出した。ただ、調査地北辺には少ない。検出した土壙とピットは全て立ち割りを行ない底部を確認した。

出土遺物が少なく、ほとんど細片のため時期の決定できないものが多い。一部、15世紀代のものを少数含むが、12世紀中葉から14世紀前半に属するものが大半と思われる。径0.4m以上のものを土壙と判断した。大半が、深さ0.2m前後で断面形は皿形を呈するが土壙27・29のように深さ0.6mのものもある。堆積土はすべて暗茶褐色砂質土ないし砂質粘土、１層である。紙数の都合で全てを述べることができないため、時期が確実に判明した土壙１について記す。

土壙１（第10図）平面形がほぼ菱形を呈し、長軸2.4m、短軸1.4m、深さ0.5mである。中央部を攪乱により切られ、溝21・22を切る。内部より多量の瓦器・土師器と微量の中国製白磁などが出土した。他に拳大の礫も少量出土した。遺物および出土状況から見て、14世紀初頭にゴミ捨て穴として掘られたものと考えられる。

ピット（第６・８・11図）中世末の削平を受けているが、掘立柱建物の柱穴・杭と思われる



第11図　中世土壙・ピット断面実測図

ピットを調査地北辺を除く全域で検出した。

ピットは大・小有り柱穴と考えられるのは、平面形が径0.2～0.3m前後の円形である。深さは0.2～0.4m前後である。堆積土は、すべて暗茶褐色砂質土ないし砂質粘土、1層である。ピット115・138・149・156・201・216・218・262・411・418は、拳から小児の頭大の自然石を用いて根石にしていた。根石に用いられた自然石は、上面が平坦なものもあるが、亜角礫も認められる。柱根が残るものは無いが、ピット28・36・83・89・277・314・317・356・378・446・448で柱痕跡が認められた。柱痕跡は、径0.15m前後である。

柱穴同士の切り合いは、2箇が多く3個切り合うのは少ない。また、柱穴の全体からすれば切り合うものは多くない。柱穴の数が多く規則性が認められないため、建物の復元を行なうことは難しい。出土遺物が少なく細片が多いため、個々の柱穴の時期を決定することも困難であるが、土壙と同じく、一部15世紀代のものも少数含むが12世紀中葉から14世紀前半に属すものが大半と思われる。

杭と思われる小ピットは、径0.06～0.1m前後、深さ0.3～0.4m前後である。堆積土は、柱穴と同じである。建物に伴う杭と考えられる。

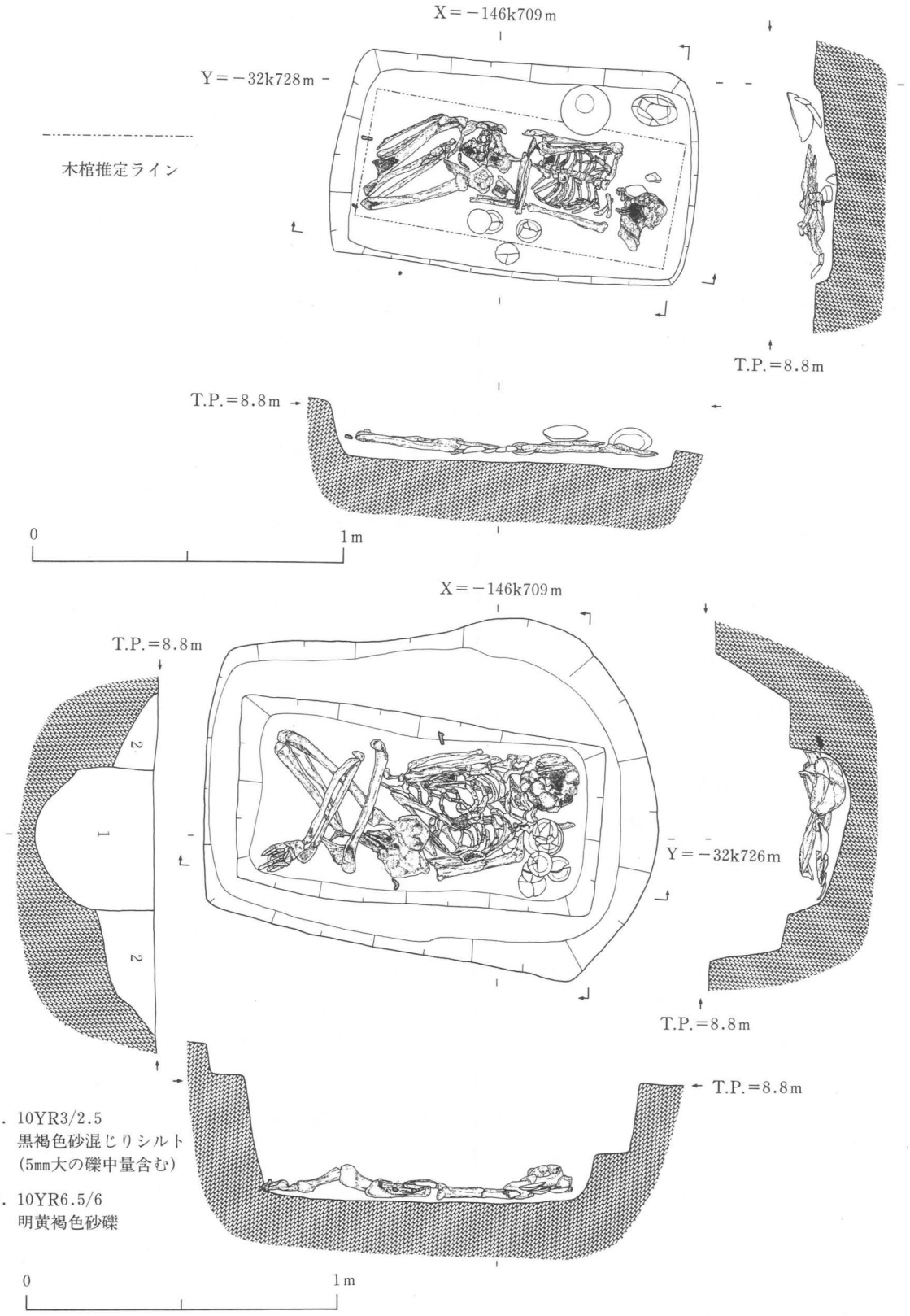
木棺墓（第12図）調査地西側中央付近で東西に並行に2基（木棺墓1・2）検出した。既に、調査者の1人が調査終了後に速報[注1)]している。しかし、所属時期に変更があるため再度、記す。なお、2基とも切り取り保存を行なった。

木棺墓1（第12図）　上部を中世末期に削平され北部分に同時期の整地土が覆う。溝27を切る。底部の標高はT.P8.6mである。墓壙掘方は、平面形が隅丸長方形を呈し長辺1.13m、短辺0.65m、深さ0.2m以上である。堆積土は、暗灰黄色細粒砂をブロック状に含む暗褐色砂混じりシルト1層である。

木棺は遺存していないが、頭蓋骨の頭頂部、左大腿骨の直下、右腓骨の直下に鉄釘が各1点出土したことと、骨が水平な状況で検出されたため木棺墓と判断した。

人骨は、頭骨が土圧で変形しているものの比較的良く残り頭部を北に向け側臥屈葬の姿勢で、右上肢をL字状に曲げ伸展した左上肢に重ねている。この姿勢では右肩が上がり、やや側臥気味になる。従って顔は東を向いていたと考えられる。下顎骨には歯が残存していた。現場における鑑定結果によれば、40才代の身長150cm以下の小柄な女性と判断されている。なお、頭骨の下に拳大の亜角礫が2点認められた。枕の役目を果たした可能性が考えられる。

副葬品は、中国製青磁碗1点・土師器大皿1点・土師器小皿4点である。土師器大皿と青磁碗は、頭蓋骨・右上腕骨の西に墓壙壁面に立てかけた状況で内面を人骨に向けていた。青磁碗はやや原位置からずれた状況を呈している。出土状況から見て、棺外埋葬の可能性が高い。土師器小皿は3点、左上肢すぐ東に人骨と並行して検出した。残り1点はそれより東にやや離れて出土した。これは小皿3点が棺内に納められ、残り1点が棺外ないしは棺内に納められたものが移動したと考えられる。この推定が正しければ鉄釘の出土位置と考え合わせ木棺の規模は長さ1m、幅0.4m程度と推定できる。



第12図　中世木棺墓実測図(上・木棺墓1、下・木棺墓2)

出土した土師器皿から見て13世紀後半の所産と考える。

木棺墓２（第12図）　木棺墓１から東へ0.7m離れた地点で検出した。溝27を切る。底部の標高はT.P8.35mである。墓壙掘方は、平面形が隅丸長方形を呈し長辺1.47m、短辺0.83～1.13m、深さ0.4m以上である。埋土は、明黄褐色砂礫混じり土１層である。

木棺は遺存していないが、墓壙と堆積土（黒褐色砂混じりシルト）の異なりから痕跡が推定でき、骨盤と右上肢近くで鉄釘が各１点出土したことおよび、骨が水平な状況で検出されたため木棺墓と判断した。木棺の規模は長さ1.17m、幅0.6m程度と推定できる。

人骨は、頭骨が反転しているのを除き、比較的良く残り頭部を北に向け側臥屈葬の姿勢で、右手を首にあて、右と左の下肢を交叉させている。下顎骨には歯が残存していた。現場における鑑定結果によれば、40才代の身長159cm前後の男性と判断されている。

副葬品は、土師器大皿１点・土師器小皿７点である。土師器大皿と土師器小皿６点は、左肩部に隣接してまとめて置かれ、内面を上に向け出土した。小皿１点は、左上腕骨の下に置かれていた。検出状況から見ていずれも原位置を保ち、棺内埋葬の可能性が高い。

墓壙および木棺の土層断面からこの墓の構築法を考えれば、まず平面形が隅丸長方形で断面形が皿形の墓壙を掘り、木棺を納める部分を１段深く掘る。次いで、木棺を安置し木棺上面まで土を入れ固定する。その後、簡単な盛土を行なったと思われるが上部が削平されているため盛土は検出できなかった。

出土した土師器皿の口径が木棺墓１に比して大きいため、若干先行する13世紀後半の所産と考える。

近世～近代の遺構

耕作に伴う井戸・溝・溜池がある。

井戸は、調査地北辺で２基検出した。中世の河川が埋没した後に造られていた。いずれも人頭大から牛頭大の自然石を用いた石組の井戸である。調査区の北東部で検出した井戸９は、北側に接して造られた溜池に水を供給していた。上部を石組、下部は丸太材を横に積み上げて井筒としていた。出土遺物から見て道路開設時まで使用されていたと考えられる。

溜池は、井戸と同様の石組で護岸していた。１辺３mの正方形を呈する。上述したように井戸９から水を汲み上げるように造られていた。廃絶時期も井戸９と同様である。

溝は、耕作に伴う畝溝（幅0.4m・深さ0.1m前後）と棚田の石垣に伴うと考えられるものがある。畝溝は、地点により異なるが東西あるいは南北方向に幅0.6m前後の間隔をあけ、並行して検出した。近世から道路開設時までの遺構と考えられる。

石垣は既に削平（おそらく道路開設時）されていたが、棚田の石垣に伴う溝が南北方向に掘られていた。周辺の検出例から見て、16世紀代に造成されたものと考えられる。

V　出土遺物

弥生時代から近代までのものがある。遺物の内訳は、弥生土器・土師器・須恵器・瓦器・国産陶器・中国製磁器と、釣瓶などの木製品、鎌などの鉄製品、打製石剣などの石製品である。出土遺物の中で最も量の多いのは中世に属するものである。個々の遺物についての詳細は、別に観察表を作成したのでそれを参照されたい。以下、古い時代から順に遺構・包含層出土遺物の概要を記す。

弥生土器〔図版12～14〕

中期（第Ⅲ～第Ⅳ様式）に属するものがほとんどである。それぞれの遺構ごとに述べる。

溝57出土土器（第13図　1～15）　出土土器の器種は壺・鉢・甕がある。これらはさらに、器形の違い・法量の大小により細分される。

壺は広口壺（1・2）、細頸壺（3）が見られる。広口壺は、口縁部端面に刻み目・簾状文が施されている。鉢（4～7）は、器形の異なる種類のものが認められ、ミニチュアタイプの小型鉢（5）も見られる。甕は、中小型（20cm未満）・大型（20cm以上）が見られる。器種毎に他地域・在地産共に存在する。底部には第Ⅱ様式に属すかと思われるいわゆる木葉底（9・13・14）も存在するが、主体は第Ⅲ様式に属す。

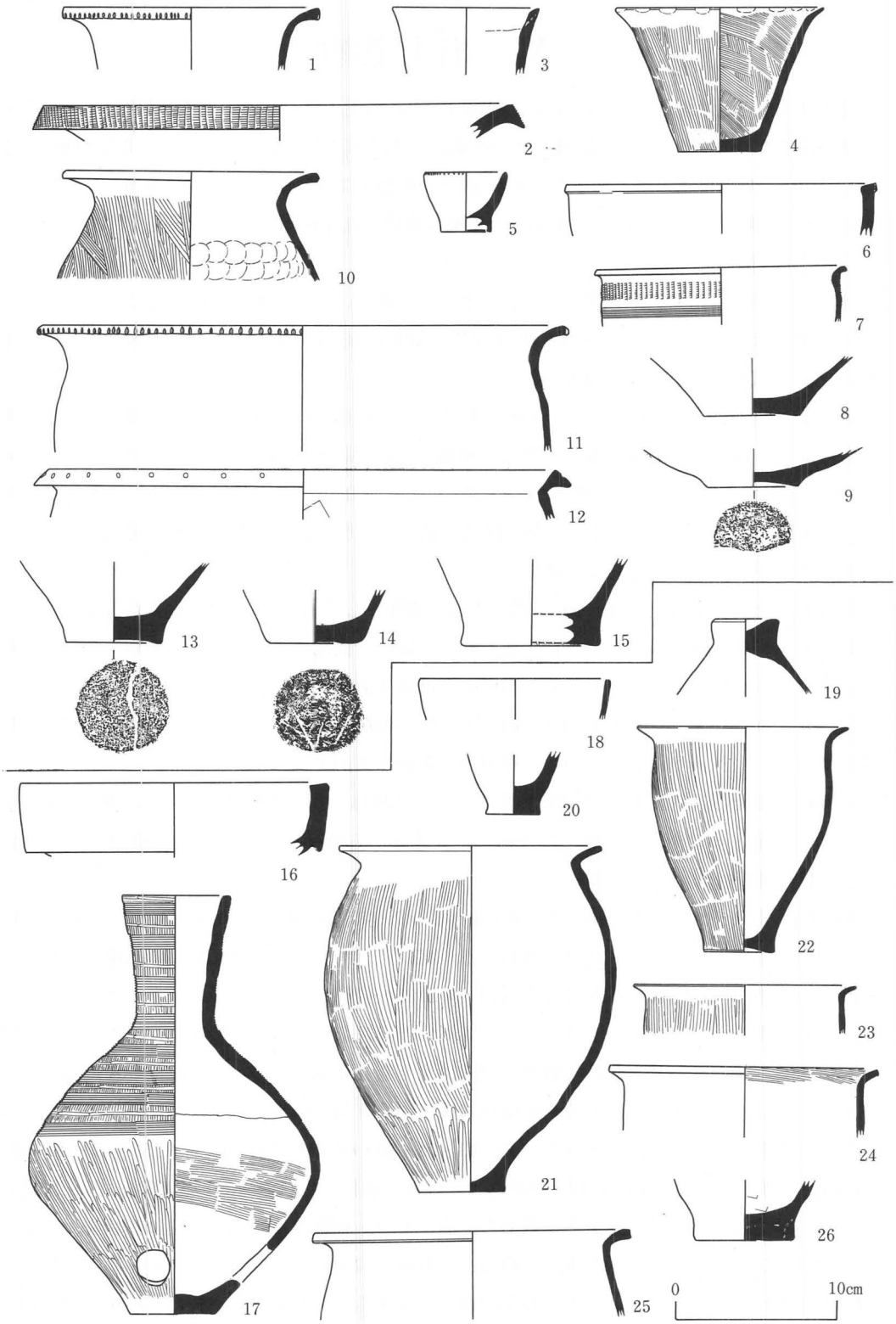
溝58出土土器（第13図　16～26）　出土土器の器種としては、壺・鉢・甕・甕蓋がある。壺は、受け口状口縁壺（16）・細頸壺（17）が見られる。鉢は、底部片ではあるが小型のものが見られる。甕は、中小型のものが見られる。第Ⅲ～第Ⅳ様式前半に属す。

溝59出土土器（第14図　27）　口縁端部を上方へ拡張する広口壺である。外面の頸部から体部にかけて、ハケメが施されている。第Ⅲから第Ⅳ様式前半に属す。

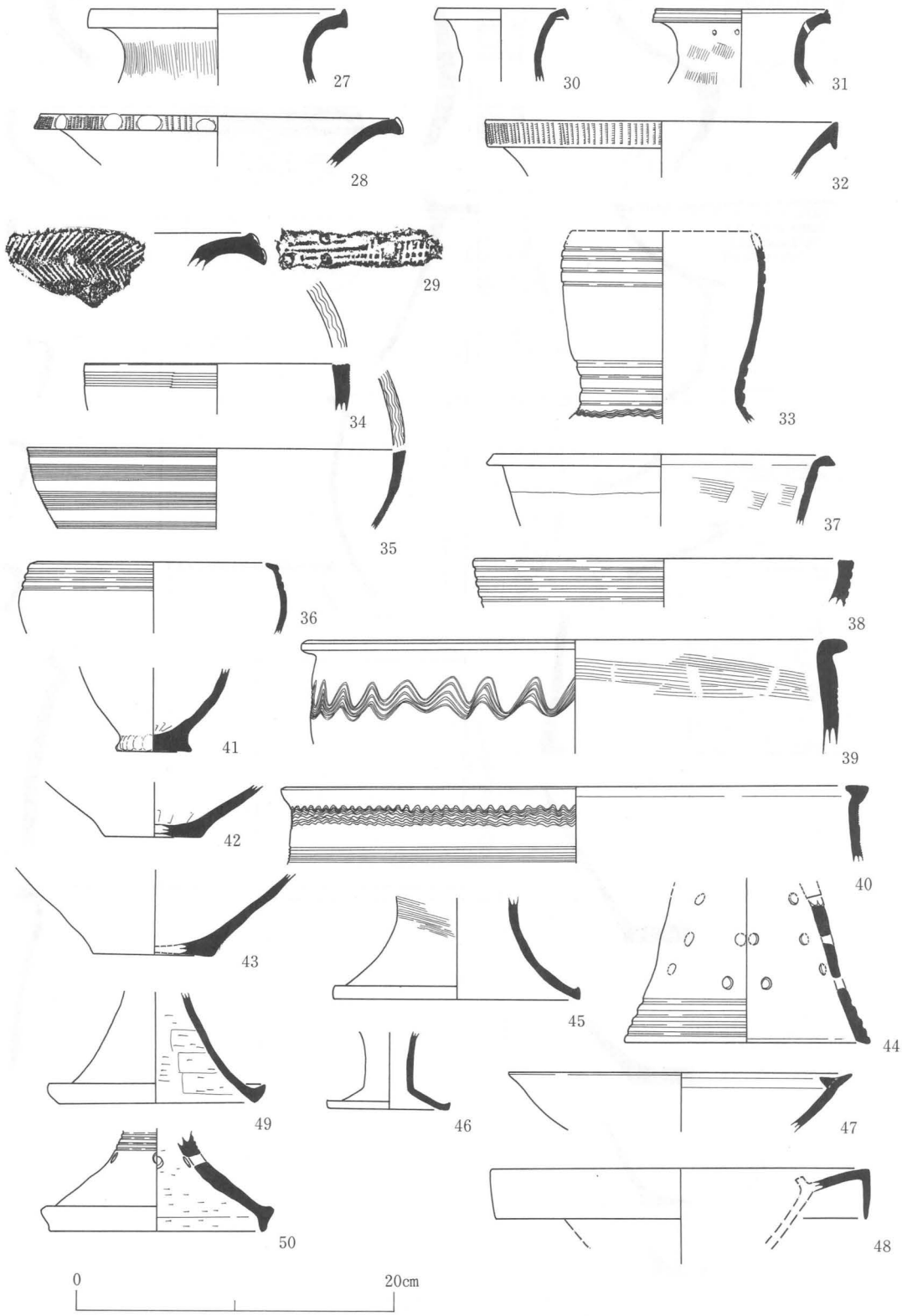
土壙41出土土器（第15図　57・63）　出土土器の器種は、甕・甕蓋が見られる。甕は、中小型のものである。蓋は、つまみ部の内外面と、天井部から体部の内面に指頭圧痕が強く施される。第Ⅲ～第Ⅳ様式前半に属す。

弥生時代川出土土器（第14図　28・35・42・43・47・49・50、第15図　53・54・60・61・64～66）出土土器の器種は、壺・鉢・高杯・甕がある。広口壺（28）は、口縁部端面に櫛描き簾状文と円形浮文が施される。鉢は細片ではあるが、口縁部・底部・台付鉢（60）が見られる。底部は壺の可能性もあり、どちらとも言えない。高杯は、口縁部に明瞭な屈曲をもつもの、口縁部内面に突帯をもつものが見られる。脚部には凹線文と穿孔、裾部には端部が拡張されたものが見られる。甕は中小型・大型がある。第Ⅲ様式後半～第Ⅳ様式前半に属す。

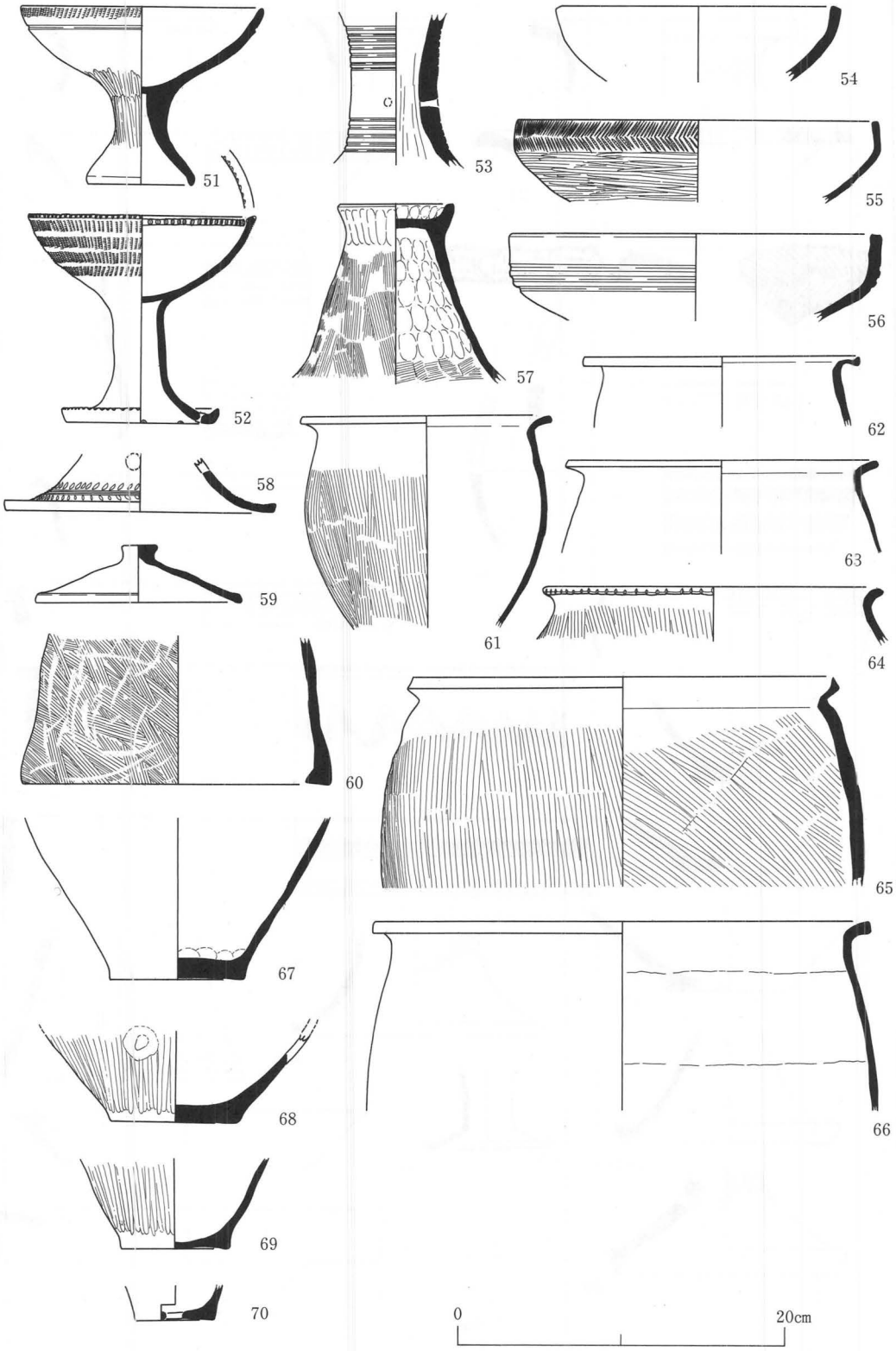
弥生時代包含層出土土器（第14図　30・33・34・36・40・44・48、第15図　51・62・67～70）出土土器の器種は、壺・鉢・高杯・甕があげられる。壺は、広口壺（30）・細頸壺（33）が見られる。広口壺は、口縁端部を下方に拡張し、面をもつ。細頸壺は、頸体部境に波状文、頸部に4条の凹線文を上下に2ヵ所に施す。鉢は、口縁部・台付鉢の脚部が見られる。高杯は、口縁端部が下方へ大きく拡張するもの、杯部が椀形を呈すものが見られる。甕は、中小型のものがある。第Ⅲ～第Ⅳ様式前半に属す。



第13図　溝57・溝58出土弥生土器実測図



第14図　溝59・弥生時代川・弥生時代包含層出土弥生土器実測図



第15図　土壙41・弥生時代川・弥生時代包含層出土弥生土器実測図

中世遺構出土遺物〔図版14～42〕

鎌倉から室町時代に至る各時期のものが出土している。それぞれの遺構ごとに述べる。

溝25出土遺物（第16図　1～20、第17図 21～41、第18図 42～94）　出土土器の器種は、土師器大・小皿・羽釜、瓦器椀・小皿、東播系須恵器捏鉢、常滑焼甕、中国製磁器がある。以下において、器種ごとに述べる。

瓦器椀（1～20）　大和型（1～15・18・19）と、和泉型（16・17・20）がある。（1・6）は、口縁部外面に4分割のミガキ調整、見込みの螺旋状暗文、口径14.2～14.8cmを測ることから、12世紀中葉頃に属す。(2～5・7～15・19）は、口縁部外面に分割のない粗いミガキ調整、見込みの螺旋状暗文、口径13.7～15.3cmを測ることから、12世紀後葉頃～13世紀前葉頃に属す。(18）は、口縁部外面の上半1/3に粗いミガキ調整、見込みの螺旋状暗文、断面三角形を呈する高台が底部下端より上位に張り付けられていることから、13世紀前葉頃に属す。(16）は、口縁部外面に4分割のミガキ調整、見込みに平行線状暗文が施されていることから、12世紀後半頃に属す。(17･20）は、外面ミガキの形骸化、見込みに平行線状暗文が施されていることから、12世紀後葉頃に属す。

瓦器小皿（21～37）　口径8.4～9.7cm、器高1.3～2.0cmを測る。(34・35）は、口縁部内面にヘラミガキ調整が見られる。見込みのジグザグ状暗文の回数が多いもの（21～33・36など）は12世紀中葉頃～後葉頃、少ないもの（32・34・35・37）は13世紀前葉頃に属す。

土師器大・小皿（42～88）　大皿（42～48）の形態の特徴として、ゆるやかに立ち上がるもの（43･44･46･48)、立ち上がり部が強く屈曲するもの（42･45･47）が見られる。口径12.3～14.7cm・器高2.3～3.1cmを測る。

小皿（49～88）は、口縁部一回ヨコナデ手法を主とし、ゆるやかに立ち上がるもの（50など)、立ち上がり部を強く屈曲するもの（49など)、上げ底気味のもの（68など）が見られる。口径7.5～9.2cm、器高1.1～2.3cm。大皿（42～44）は11世紀後葉頃～12世紀前葉頃に属す混入品で、他は12世紀中葉頃～13世紀前葉頃に属す。

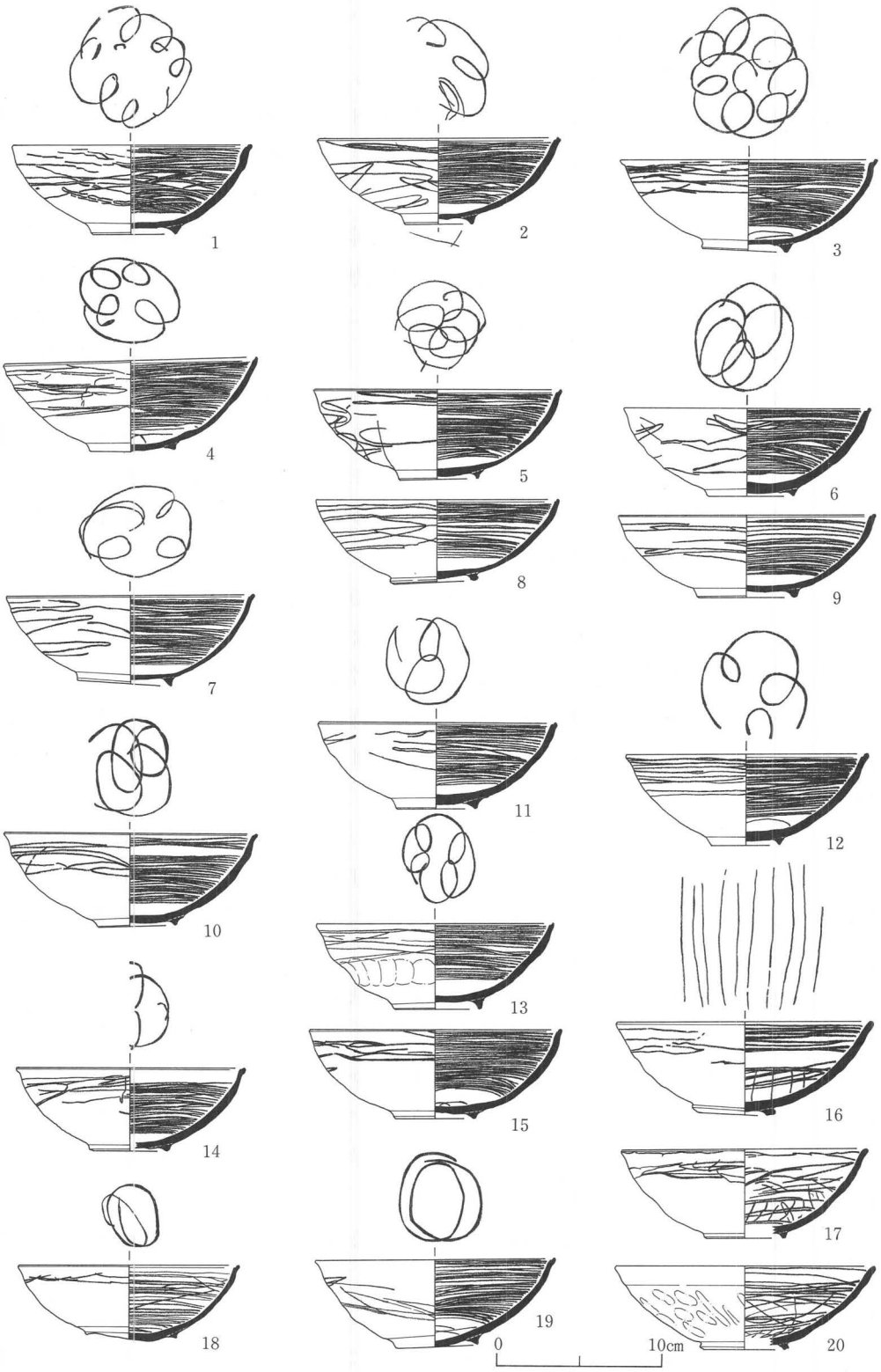
土師器羽釜（38～41）　口縁端部を内側に折り返す大和型である。口径25.4～32.8cmを測る。12世紀中葉頃に属す。

東播系須恵器捏鉢（89～91）　(89）は、外上方に向かう口縁部に片口をもつ。12世紀前半頃に属す。(90・91）は、口縁端部の断面がほぼ方形を呈する。12世紀中葉頃に属す。

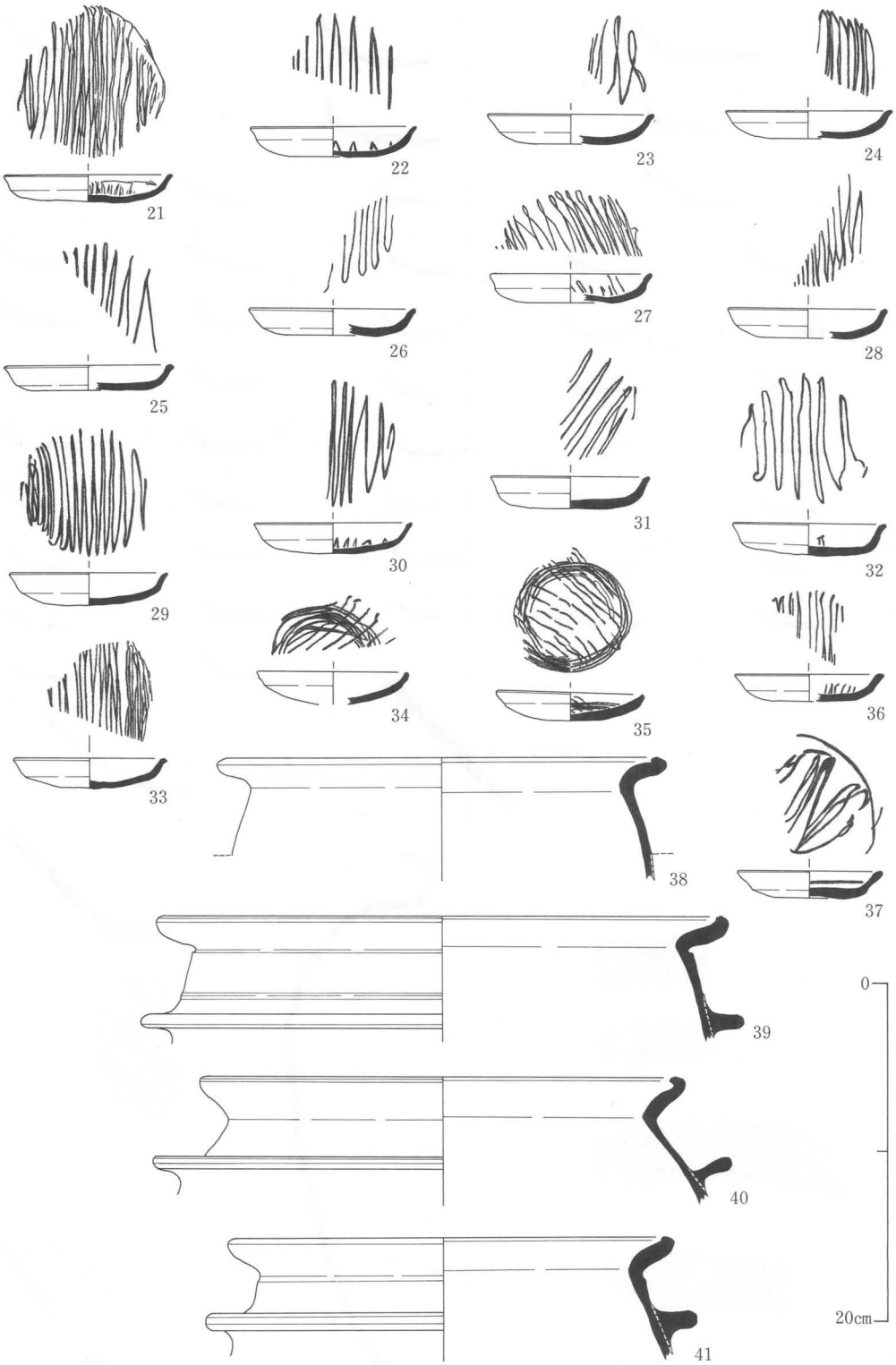
常滑焼甕（92）　輪積み成形の継ぎ目に、外面は幾何学文様のスタンプを押捺し、内面は未調整とする。12世紀前半頃に属す。

中国製磁器（93・94）　(93）は、内面に片切彫による飛雲文と思われる文様がある龍泉窯系の青磁碗である。12世紀中葉頃～13世紀初頭頃に属す。(94）は、わずかな削り出しの底部に、厚い高台をもつ白磁碗である。

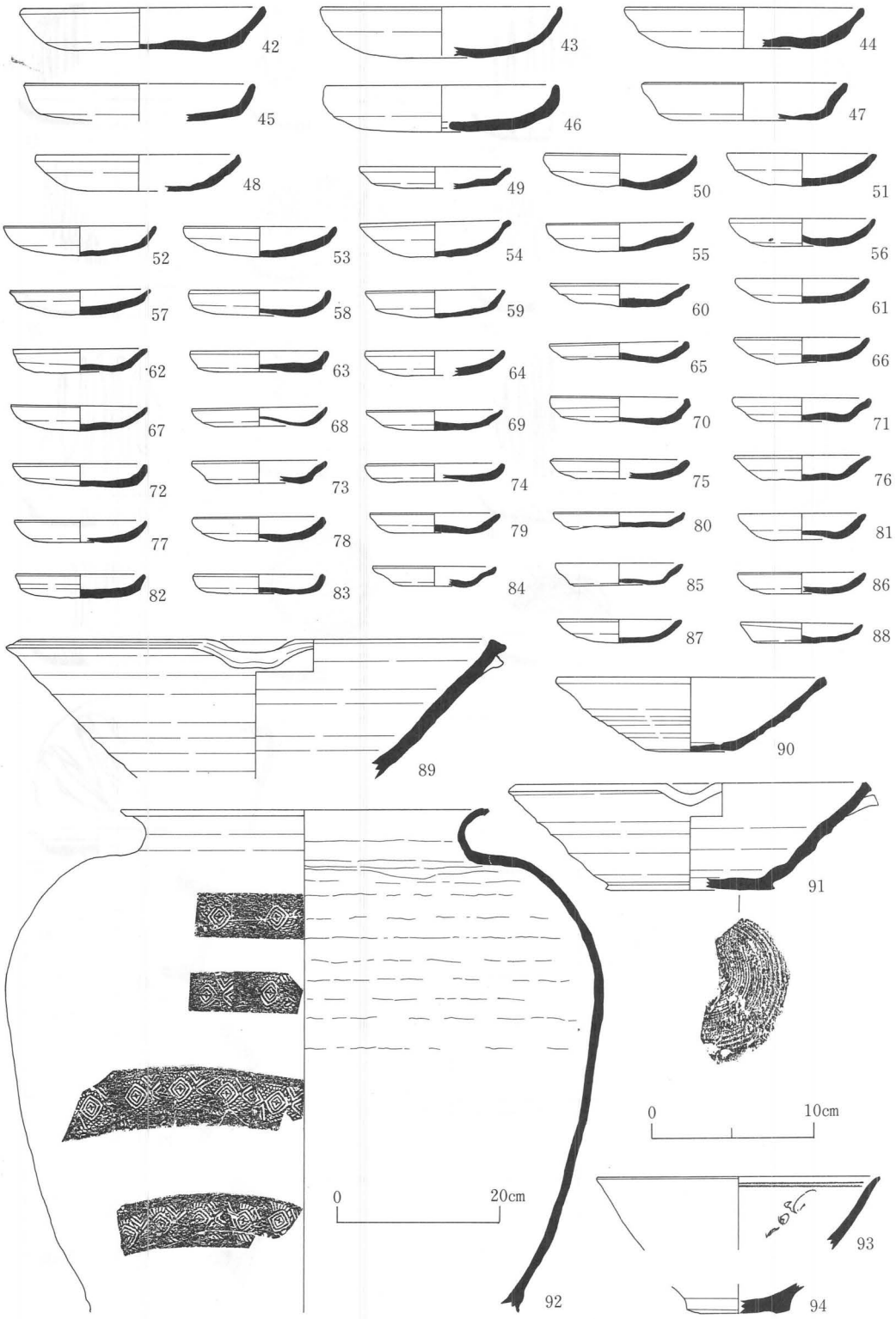
以上のことから溝25の時期は、瓦器椀の編年を中心に考えると、12世紀後半頃～13世紀前葉頃に属すと考えられる。



第16図　溝25出土瓦器実測図



第17図　溝25出土土師器・瓦器実測図



第18図　溝25出土土師器・国産陶器・中国製磁器実測図

溝20出土遺物（第19図　95～151、第20図　152～158、第21図　159～187）　出土土器の器種は、土師器大・小皿・羽釜、須恵器杯蓋・杯身、東播系須恵器甕・捏鉢、瓦器椀・小皿・擂鉢・甕・足釜、中国製磁器、緑釉椀、瓦がある。

瓦器椀（95～105）　大和型（95～99）と、和泉型（100～105）がある。(95）は、口縁部外面に３分割のミガキ調整、見込みの螺旋状暗文などから、12世紀中葉頃に属す。(96・98）は、口縁部外面に分割のない粗いミガキ調整、見込みの螺旋状暗文などから、12世紀後葉頃～13世紀前葉頃に属す。(97）は、口縁部外面の粗いミガキ調整、見込みの渦巻状暗文などから、13世紀前葉頃に属す。(103）は、口縁部外面にわずかなミガキ調整、見込みの平行線状暗文などから、12世紀後葉頃～13世紀前葉頃に属す。(100・105）は、内面の粗い渦巻状ミガキ調整、口径12.7cm前後を測ることから、13世紀中葉頃に属す。(102）は高台を伴わず、丸底の浅い椀形を呈し、口径11.4cmを測ることから13世紀後葉頃～14世紀前葉頃に属す。(101・104）は、内面の螺旋状暗文は粗くなり、数周巡るにすぎない。口径10.1～10.4cm。14世紀前葉頃に属す。

瓦器小皿（106～109）　口径8.0～10.2cm、器高1.5～1.9cmを測る。見込みに6～20回程度のジグザグ状暗文が施される。(108）は、内面にミガキ調整が施される。見込みのジグザグ状暗文の回数が多いものは12世紀中葉頃、少ないものは13世紀前葉頃に属す。

瓦器擂鉢（169）　口縁端部内面を面取りする大和型。14世紀前葉頃に属す。

瓦器甕（177）　口縁部を外方に折り曲げ、端部を上・下方に突出させている。外面には平行叩きが施される。和泉型。13世紀前葉頃に属す。

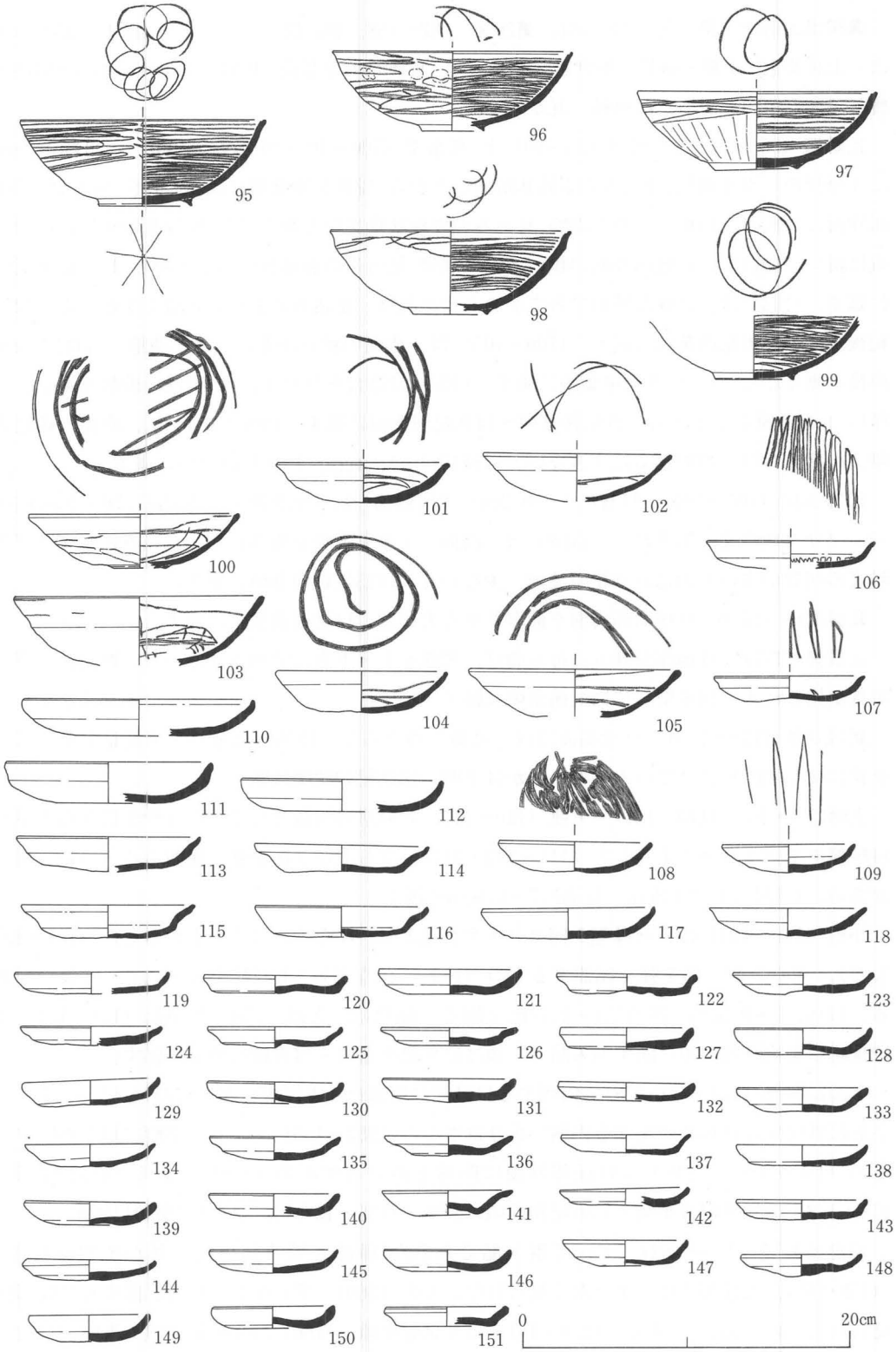
瓦器足釜（179～183）　口縁端面に浅い沈線をめぐらし、体部内面をハケメ調整する。三足を鍔に接して貼り付けているものか否かは不明。13世紀初頭頃に属す。

土師器大・小皿（110～151）　大皿（110～117）の形態の特徴として、ゆるやかに立ち上がり口縁部を１回ヨコナデするもの（111～113・117)、立ち上がり部が強く屈曲する（114～116）がある。口径10.4～13.8cm、器高1.7～2.5cmを測る。

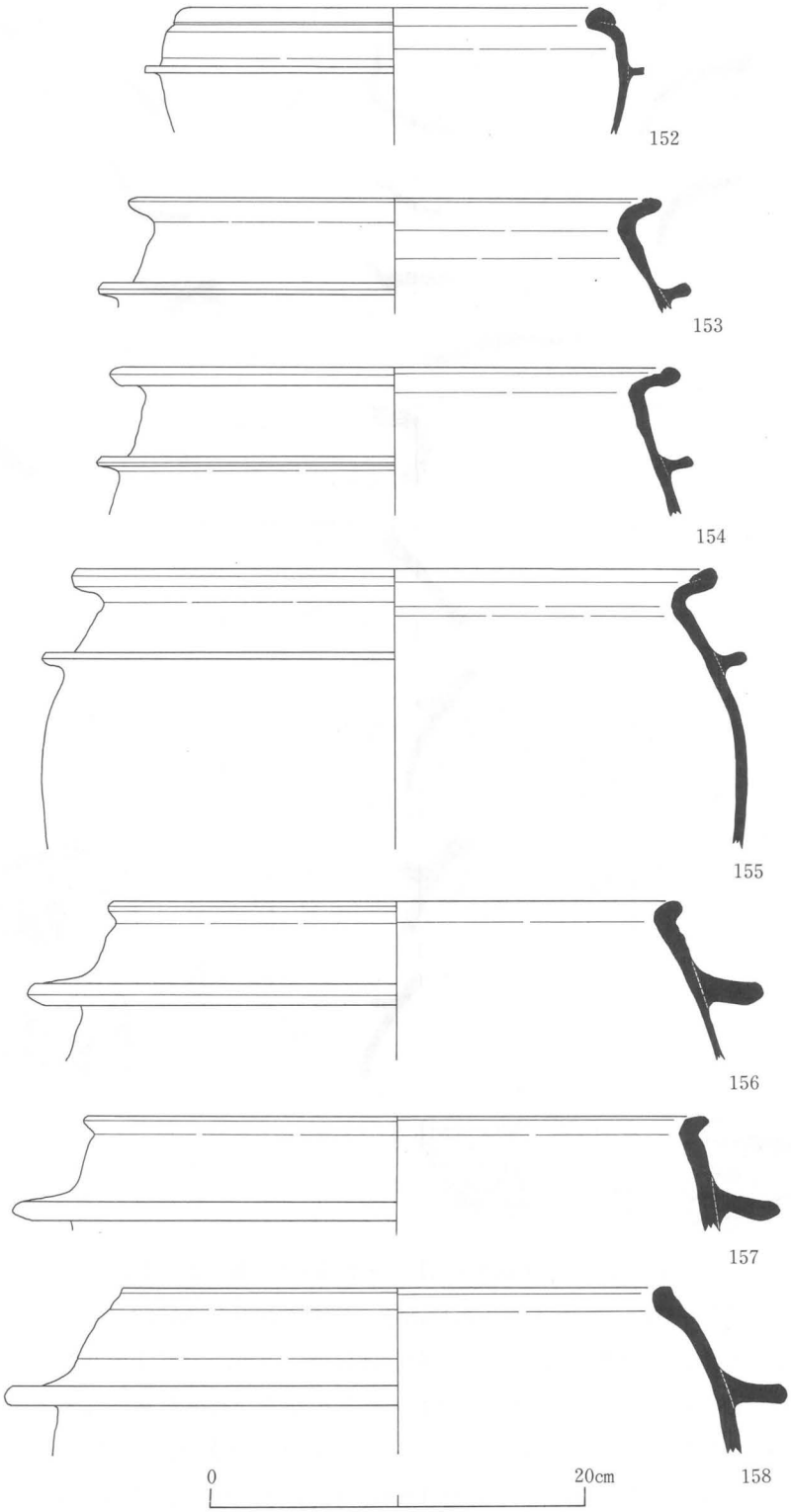
小皿（118～151）は、口縁部１回ヨコナデを主とし、ゆるやかに立ち上がるもの（134・135など)、立ち上がり部を強く屈曲するもの（119・120など)、上げ底気味のもの（141）がある。口径7.2～9.5cm、器高1.1～1.7cmを測る。時期は、大皿（110）と小皿（118～121）は12世紀中葉頃～後半頃に属す混入品で、他は13世紀中葉頃～14世紀初頭頃に属す。

土師器羽釜（152～158・178）　内弯する口縁部に端部を外方に折り返すもの（152)、「く」の字形に外反する口縁部に端部を内側に折り返すもの（153～155)、「く」の字形に短く外反するもの（156～158)、内傾する口縁部外面に凹線をめぐらすもの（178）がある。(152～155・158・178）は13世紀後葉頃～14世紀初頭頃に属す。(156・157）は13世紀中葉頃に属す。

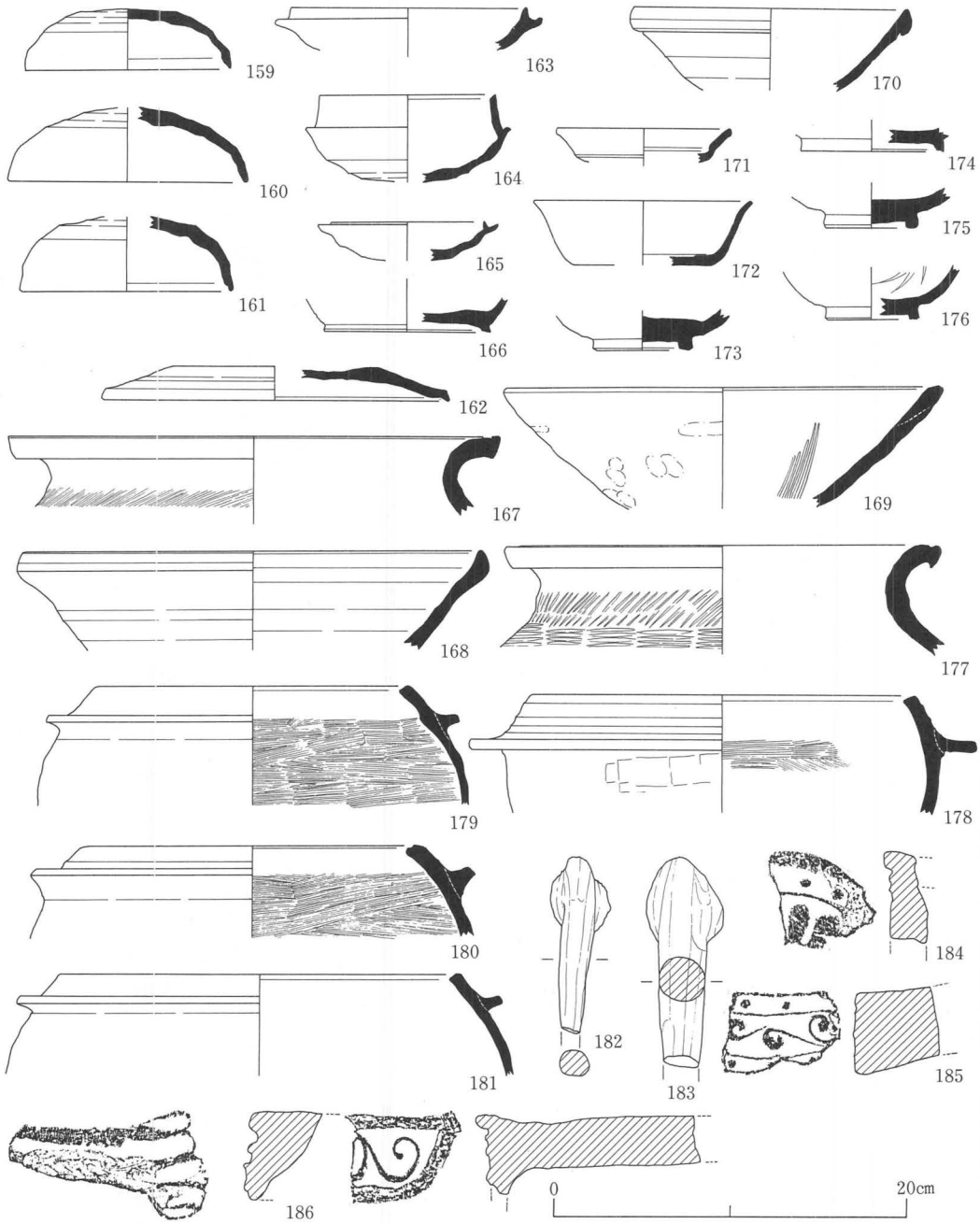
須恵器杯蓋（159～162）　すべて混入品である。口縁部と天井部の境に稜が不明瞭なもの（159・161)、天井部の稜はまったく見られないもの（160)、平らな頂部から屈曲する口縁部が見られるもの（162）がある。(159・161）は６世紀中頃、(160）は６世紀中頃～末頃、(162）は８世紀前葉頃に属す。



第19図　溝20出土土師器・瓦器実測図



第20図　溝20出土土師器実測図



第21図　溝20出土土師器・須恵器・瓦器・中国製磁器・瓦実測図

須恵器杯身（163～166）　すべて混入品である。立ち上がりは比較的高く、わずかに内傾する。口縁端部は内傾する明瞭な段をもつ（164）は口径10.0cm。立ち上がりは短く、口縁端部は丸く納める（163）は口径13.3cm、口径8.6cmと小型で立ち上がりはわずかに内傾するにとどまる（165）がある。「ハ」の字形の高台をもつ（166）は底径9.3cmである。（164）は6世紀初頭頃、（163）は6世紀末頃～7世紀前葉頃、（165）は7世紀前葉頃、（166）は8世紀中頃に属す。

東播系須恵器甕（167）　口縁部を外弯させ、端部に面をもつ。体部外面には、斜め方向の平行叩きが施される。13世紀代に属す。

東播系須恵器捏鉢（168）　口縁端部を上・下に引き出す。13世紀前半頃に属す。

瓦（184～187）　重弧文（186）・唐草文軒平瓦（185・187）、単弁蓮華文軒丸瓦（184）がある。飛鳥～平安時代に属す混入品。隣接する法通寺所用瓦である。

以上のことから、溝20の時期は、混入品も認められるが、溝25との切り合いからみて13世紀中葉頃～14世紀初頭頃に属すと考えられる。

溝21出土遺物（第22図　188～213、第23図　214～278）　出土土器の器種は、土師器大・小皿・羽釜、瓦器椀・小皿、中国製磁器がある。

瓦器椀（188～211）　大和型（188～193）と、和泉型（194～211）がある。（188・189）は、口径14.5cm前後、外面に粗いミガキ調整が施される。見込みには、螺旋状暗文が見られる。12世紀後葉頃～13世紀前葉頃に属す。（190・191）は、法量の小形化、粗いミガキ調整が施される。13世紀中葉頃に属す。（192・193）は、口径10.6～11.1cm。見込みから口縁部内面には、１連の渦巻状ミガキ暗文が施される。13世紀後葉頃～14世紀初頭頃に属す。（211）は、外面にミガキが全く認められず、見込みにもわずか４条程度の平行線状暗文が見られるにすぎない。13世紀前葉頃に属す。（208）は、形骸化した高台をもつ。13世紀中葉頃に属す。（194・196・199・200～205）は、口径11.5cm前後。高台は伴わず、丸底の浅い椀形を呈する。13世紀後葉頃～14世紀前葉頃に属す。（195・197・198・206・207・209・210）は、口径10.1～11.3cm。内面の螺旋状暗文は粗く、３～４周巡るにすぎない。14世紀前葉頃に属す。

瓦器小皿（212）　平底から立ち上がり部を強く屈曲し、口縁端部を外折する。見込みには細かいジグザグ状暗文が施される。12世紀中葉頃に属す混入品。

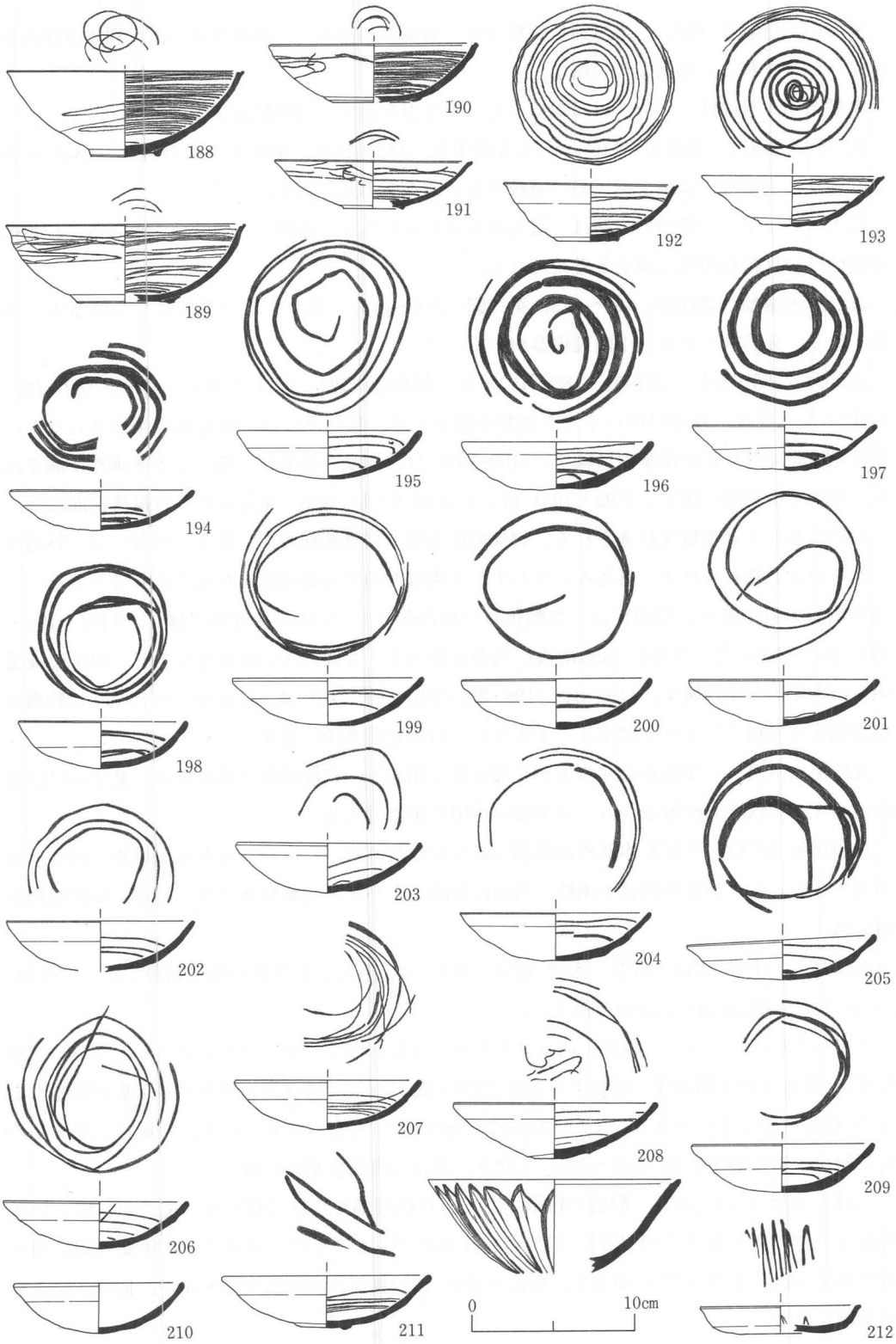
瓦器足釜（278）　三足を体部外面胴部に張り付けた痕が、わずかではあるが認められる。鍔は欠失している。体部外面は不調整、内面には細かなハケメ調整が施されている。14世紀初頭頃に属す。

土師器大・小皿（214～272）　大皿（214～217）は、立ち上がり部が強く屈曲する。口径10.7～11.7cm、器高1.9～2.3cmを測る。

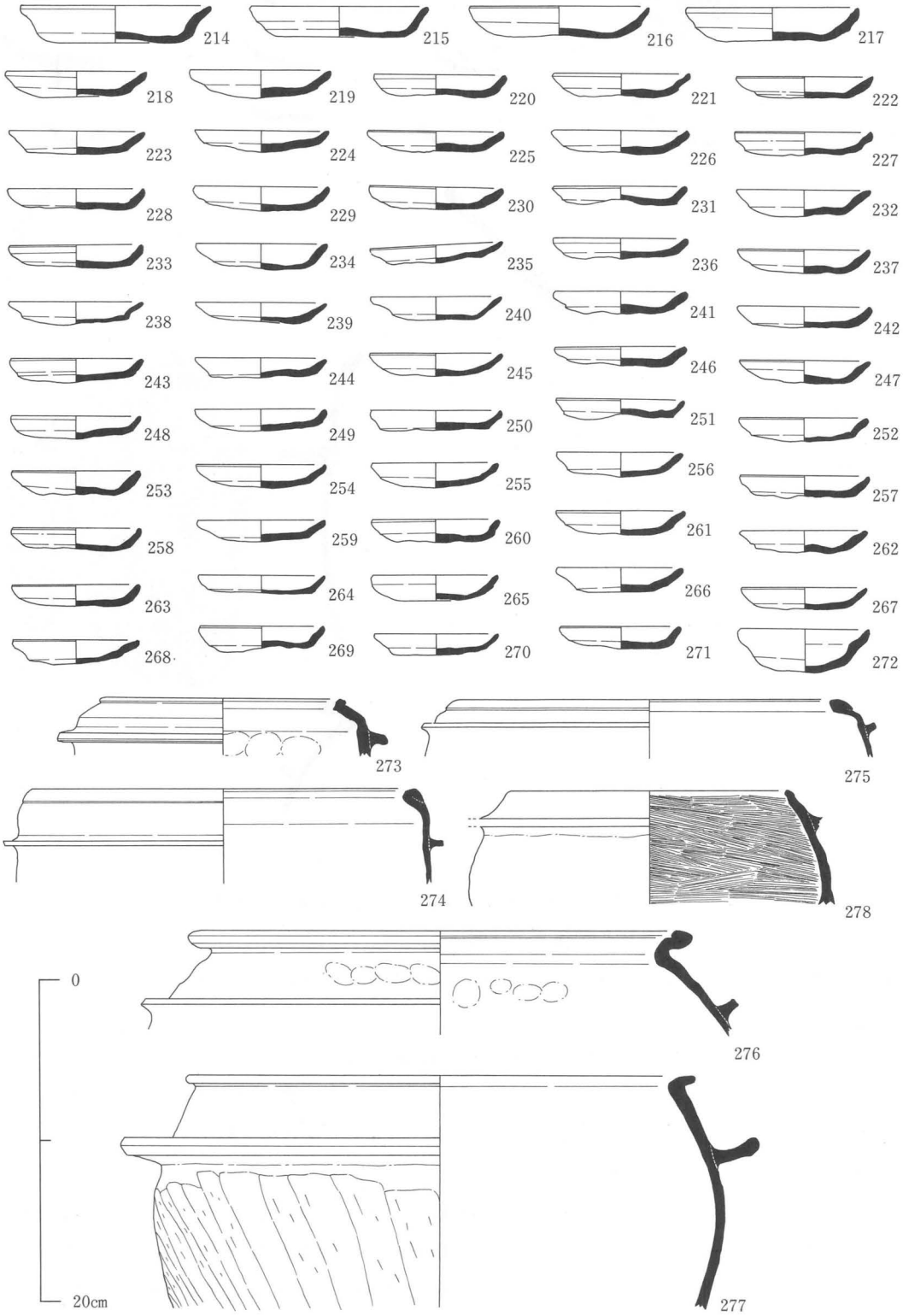
小皿（218～272）は、口縁部１回ヨコナデを主とし、ゆるやかに立ち上がるもの（226・229など）、立ち上がり部が強く屈曲するもの（222・223など）、口縁部ヨコナデの下端が肥厚するもの（227・233など）がある。また、特殊な形態をもつ（272）が見られる。時期は、混入品の12世紀後半頃に属す小皿（218～220）を除き、他は14世紀前葉頃に属す。

土師器羽釜（273～277）　形態の特徴として、口縁端部を内側に折り返すもの（276）、口縁端部を外側に折り返すもの（273～275）、口縁部を「く」の字形に外反させ、体部外面に削り調整が施されるもの（277）がある。（274～276）は13世紀代頃に属す混入品で、他は、14世紀前葉頃に属す。

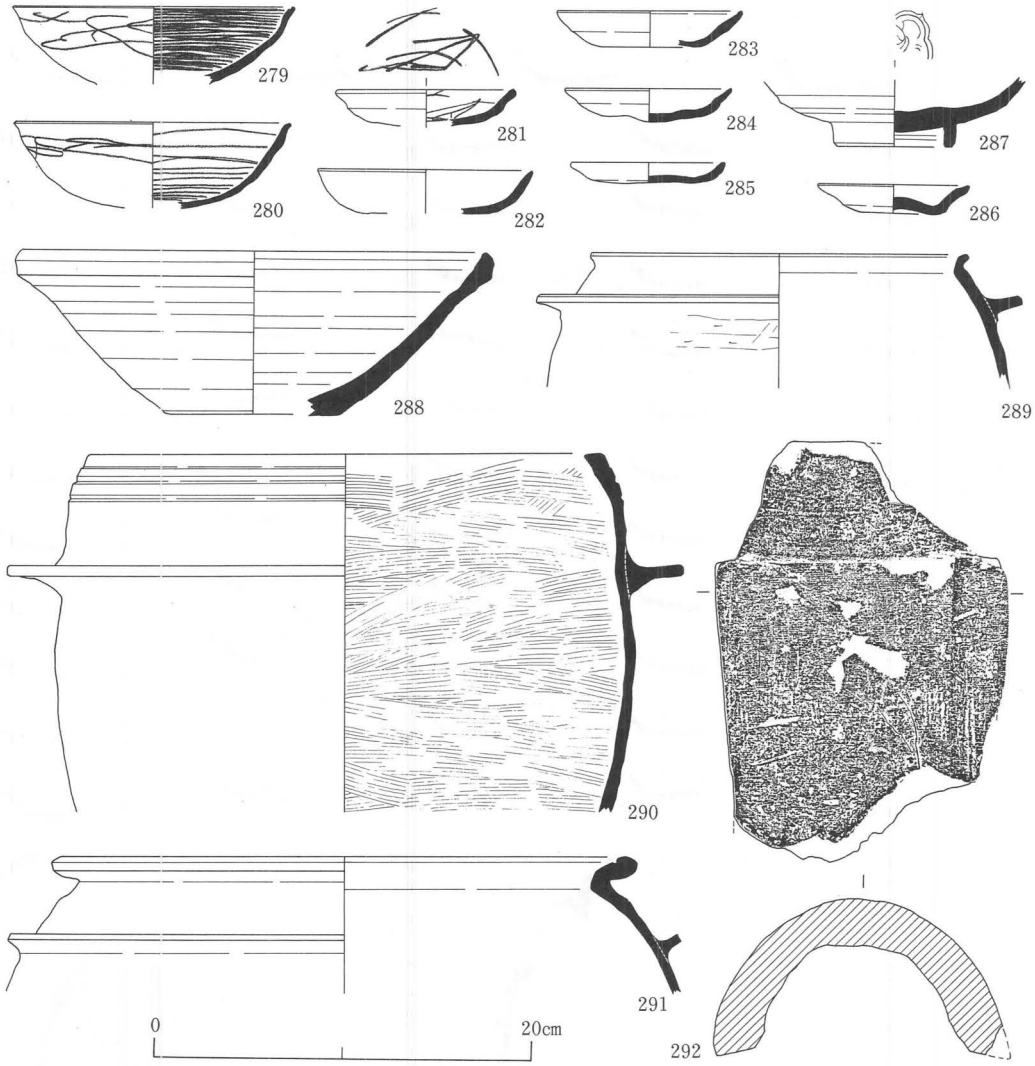
中国製磁器（213）　外面体部に、片切彫で蓮弁の文様をもつ龍泉窯系の青磁碗である。蓮弁



第22図　溝21出土瓦器・中国製磁器実測図



第23図　溝21出土土師器・瓦器実測図



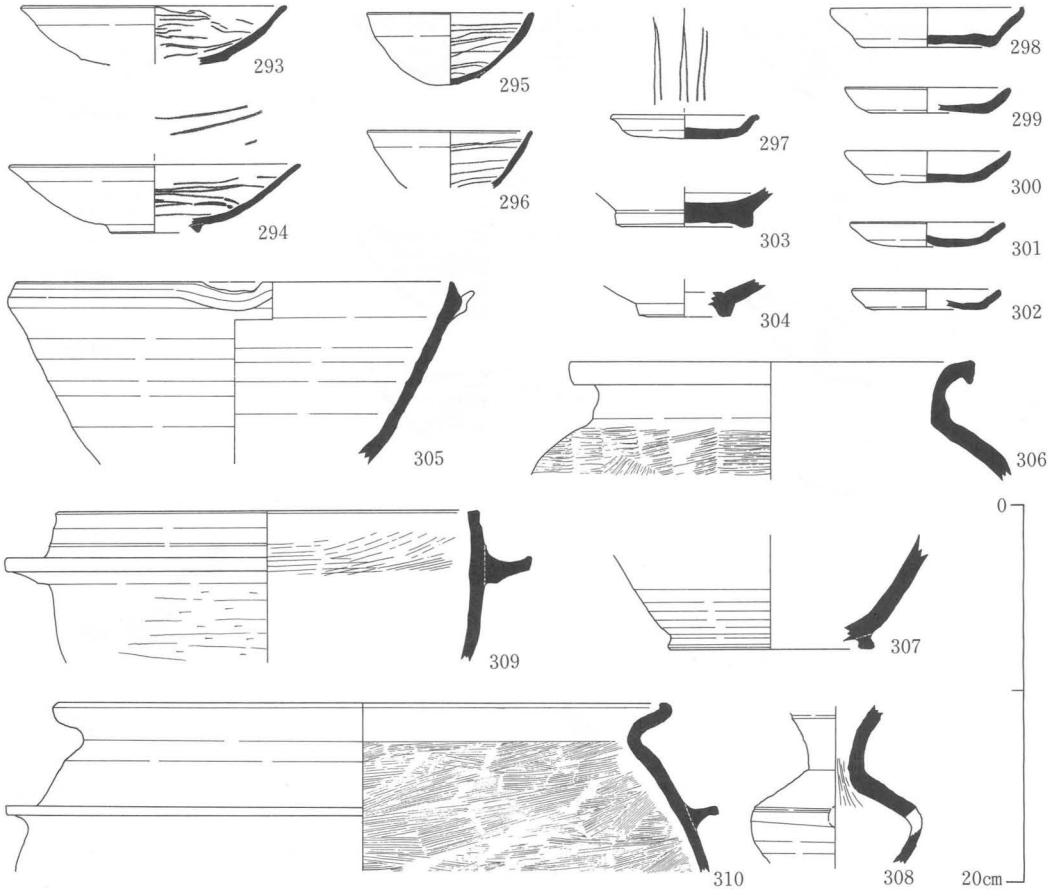
第24図　各溝出土土師器・瓦器・国産陶器・瓦実測図

には鎬をもつことから、13世紀後半頃に属す。

以上のことから、混入品も認められるが、溝20などの切り合いからみて、14世紀前半頃に属すものが機能時の遺物と考えられる。

その他の溝出土遺物（第24図　279～292、第25図　293～310）　出土遺物は、土師器・須恵器・瓦器・中国製磁器・瓦があり、形態は椀・皿・鉢・釜・甕・瑤が見られる。時期は、12世紀後半頃～14世紀代頃に属すものが主であるが、少量15世紀代頃に属すものもみられる。

大和型瓦器椀（279）13世紀前葉頃に属す。溝55出土。須恵器甕（306）・土師器羽釜（310）共に13世紀代頃に属す。溝33出土。和泉型瓦器椀（293）・瓦器小皿（297）・土師器小皿（299）・土師器羽釜（309）は13世紀中葉頃に属す。溝48出土。土師器羽釜（291）・土師器小皿（283・285）共に13世紀代頃に属す。溝８出土。和泉型瓦器椀（294）・東播系須恵器捏鉢（305）共に13世紀中葉頃に属す。溝18出土。混入品として、須恵器瑤（308）７世紀前半に属すものがあ

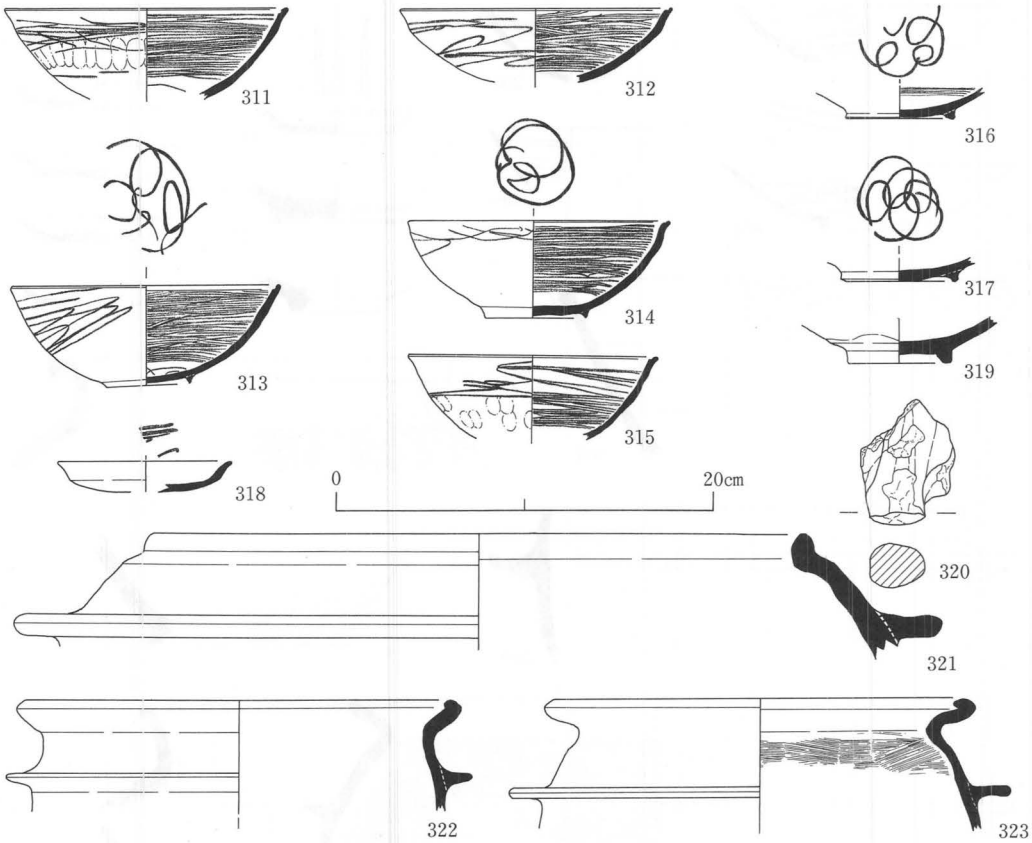


第25図　各溝出土土師器・須恵器・瓦器・国産陶器実測図

る。大和型瓦器椀（280）、土師器羽釜（289）共に13世紀後葉頃に属す。溝27出土。青磁碗（286）は14世紀代頃に属す。溝19出土。東播系須恵器捏鉢（288）は13世紀後半頃に属す。溝42出土。瓦器羽釜（290）・土師器小皿（286）共に15世紀代頃に属す。溝30出土。

井戸６出土遺物（第26図　311～323）　出土遺物は、土師器羽釜、瓦器椀・小皿・足釜、中国製磁器がある。大和型瓦器椀の特徴として、体部外面の分割性ミガキ調整、見込みに螺旋状暗文が施されている。口径13.1～15.0cm。（322・323）は、口縁部を「く」の字形に外反し、口縁端部を内側に折り返す大和型の土師器羽釜である。（321）は、口縁部を丸く納める河内型。（320）は足釜の三足の一部である。白磁碗（319）は、高台脇から高台内は釉が施されていない。12世紀後葉頃～13世紀前葉頃に属す。

井戸５出土遺物（第27図　324～348）　出土遺物は、土師器大・小皿、瓦器椀・小皿・足釜・鉢、東播系須恵器捏鉢、中国製磁器がある。大和型瓦器椀は、見込みに渦巻状暗文、和泉型瓦器椀は、見込みに平行線状暗文を施す。口径12.1～15.4cmを測る。瓦器小皿（322）は、見込みにジグザグ状暗文が施される。口径7.5cm、器高1.2cm。足釜（342・343・345）がある。（342）は、口縁部が内傾する釜の体部外面に三足を貼り付けた形態。三足は、鍔に接して直下に貼り付けている。口径18.8cm、器高24.7cm。



第26図　井戸６出土土師器・瓦器実測図

東播系須恵器捏鉢（347・348）は、口縁端部を上方へ拡張し、底部外面には、糸切り痕が見られる。(348) には、片口が見られる。

土師器大皿は、ゆるやかに立ち上がるもの（333)、立ち上がり部が強く屈曲するもの（334）とがある。小皿もゆるやかに立ち上がるもの（335・336・339)、立ち上がり部が強く屈曲するもの（337・338）がある。口径7.7～8.8cm。器高1.3～1.5cm。

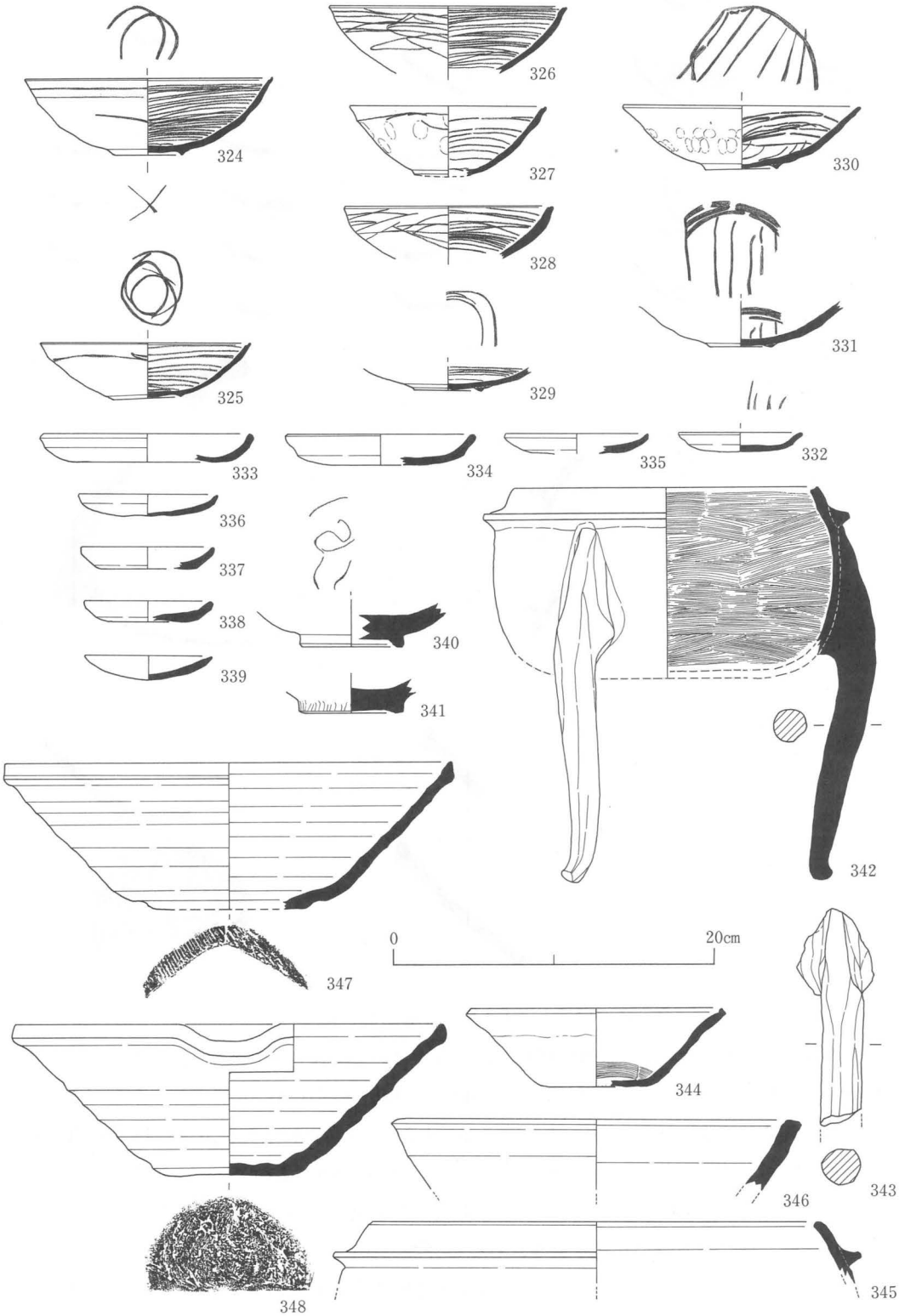
龍泉窯系青磁碗（340）の内面には、片切彫による文様が施される。13世紀後半に属す。

（346）のように12世紀中葉頃に属す混入品も認められるが機能時期は、12世紀後葉頃～13世紀後葉頃に属す。

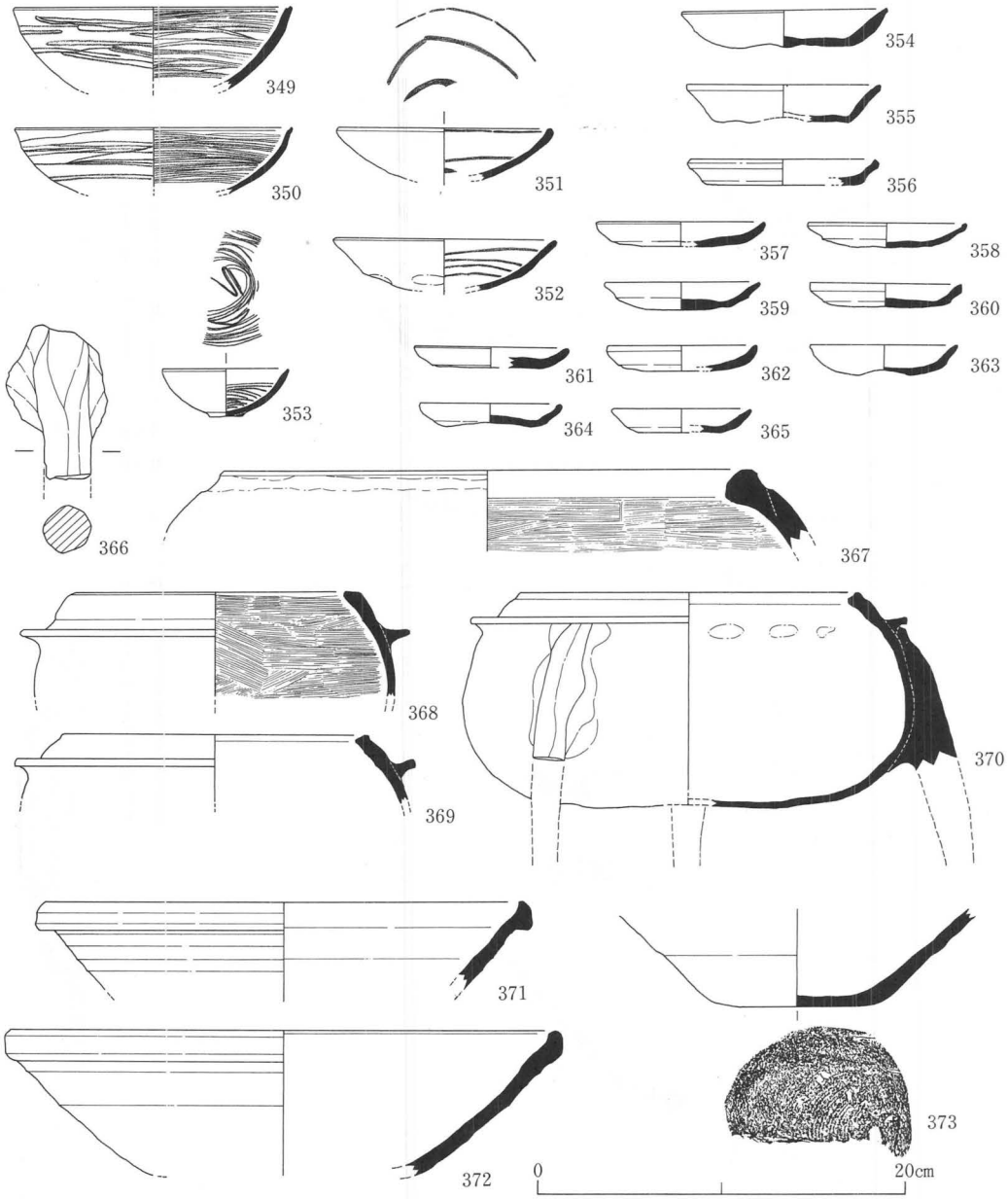
井戸１出土土器（第28図　349～373）　出土土器は、土師器大・小皿・羽釜、瓦器椀・小椀・足釜・鉢がある。和泉型瓦器椀の高台は無く、丸底の浅い椀形を呈する。瓦器小椀も見られる。口径6.9cm、器高2.6cm、底径1.7cm。足釜（370）は、口縁部が内傾する、釜の体部外面に三足を貼り付けた形態。三足は鍔に接して直下に貼り付けている。口径18.4cm。鉢（373）の底部外面には、糸切り痕が見られる。

土師器羽釜（367）の口縁部は内傾し、口縁端部は丸く納める。口径28.8cm。

東播系須恵器捏鉢（372）の口縁端部は上方に拡張される。口径30.4cm。(349・350) のように12世紀後葉頃～13世紀前葉頃に属す混入品も認められるが機能時の遺物は14世紀前半頃に属す。



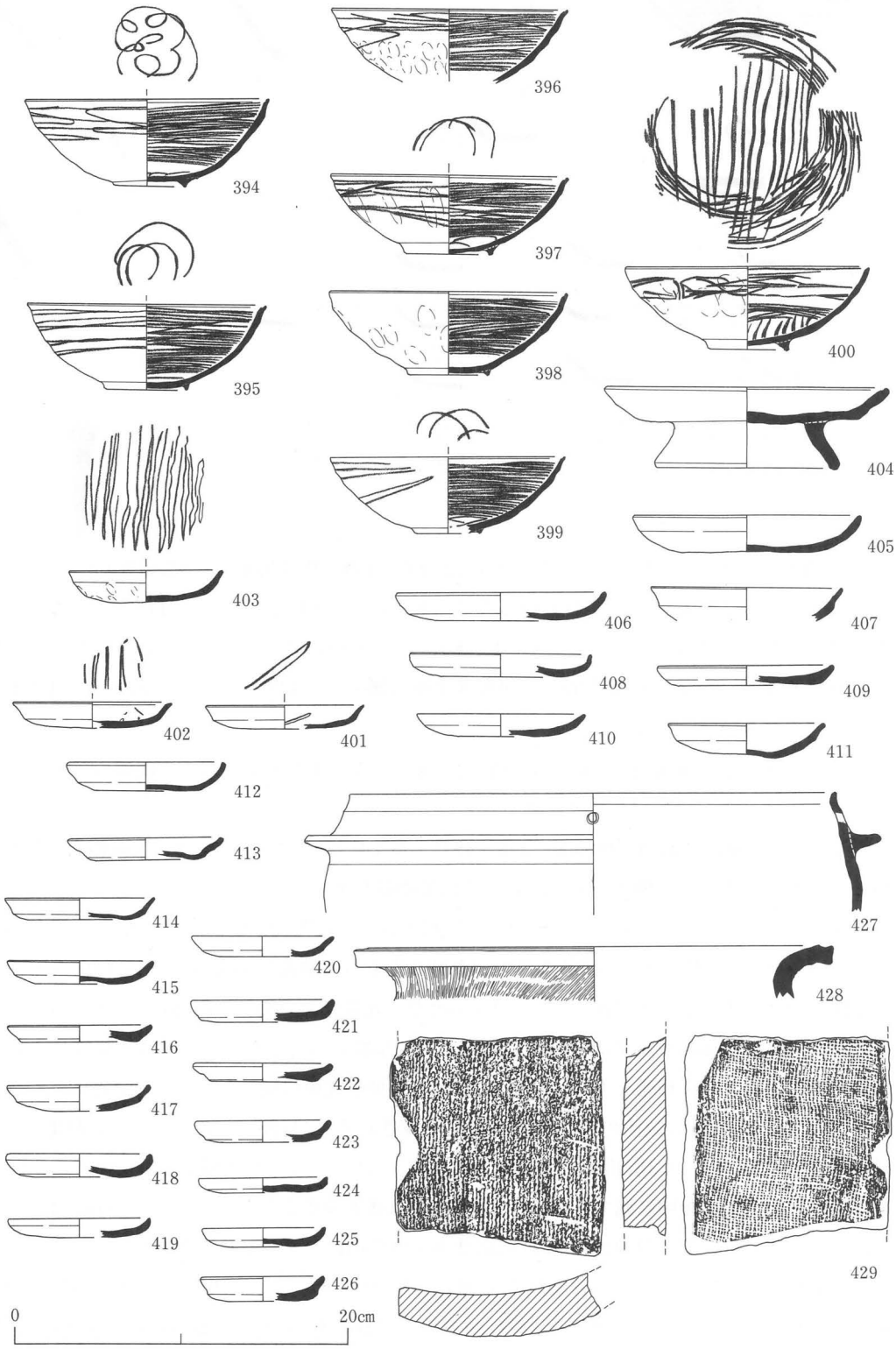
第27図　井戸５出土土師器・瓦器・国産陶器実測図



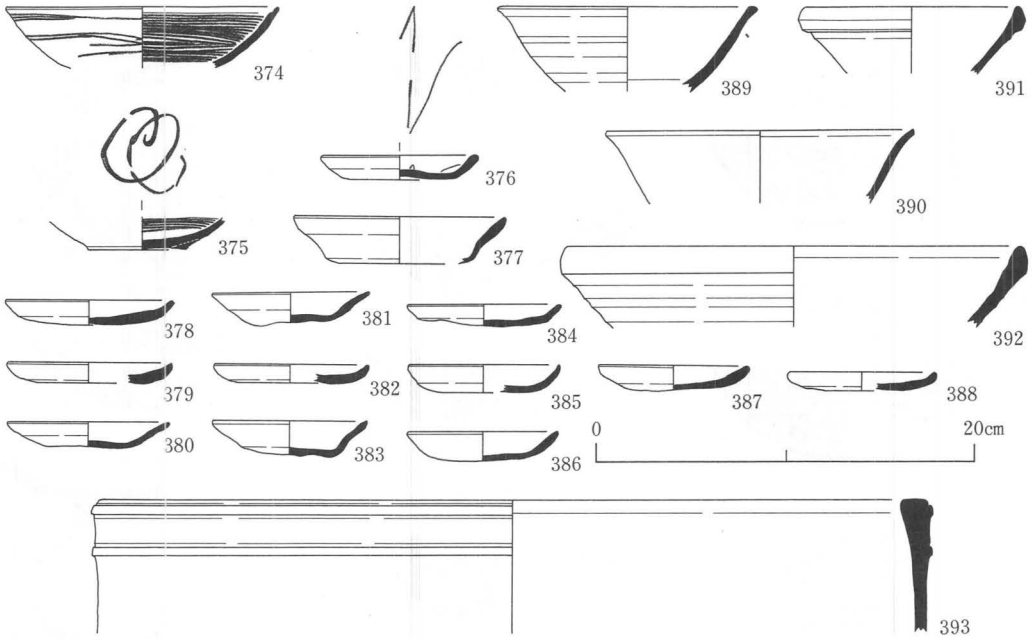
第28図　井戸Ⅰ出土土師器・瓦器・国産陶器実測図

井戸４出土遺物（第29図　394～429）　出土遺物は、土師器大・小皿・台付大皿、東播系須恵器甕、瓦器椀・小皿・羽釜、瓦がある。大和型瓦器椀の体部外面に分割性のあるミガキ調整、見込みの螺旋状暗文、口径14.1～14.6cm、器高4.7～5.3cm。和泉型瓦器椀は体部外面の成形時の指頭圧痕、見込みに平行線状暗文を施す。口径14.7cm、器高5.2cm、底径4.7cm。瓦器小皿（403）は、見込みに回数の多いジグザグ状暗文を施す。口径9.2cm。羽釜（427）の口縁部には、一ヶ所、焼成時の穿孔が施される。口径29.2cm。

土師器台付大皿（404）は、立ち上がり部が強く屈曲する大皿に、脚がついたもの。口径16.8cm、器高4.9cm、底径10.7cm。土師器大皿（405～410）は、立ち上がり部が強く屈曲する



第29図　井戸４出土土師器・須恵器・瓦器・瓦実測図



第30図　井戸３・各ピット・焼土壙出土土師器・瓦器・国産陶器・中国製磁器実測図

もの（408など）、ゆるやかに立ち上がるもの（405など）がある。小皿（411～426）は、立ち上がり部が強く屈曲するもの（413・414など）、ゆるやかに立ち上がるもの（411など）がある。口径9.4cm、器高0.9～2.1cm。12世紀後葉頃に属すが（429）のように奈良時代頃に属す平瓦の混入品も認められる。

井戸３出土土器（第30図　374）　大和型瓦器椀がある。体部外面は粗く、内面には密なミガキ調整が施される。13世紀前葉頃に属す。

ピット・焼土壙出土遺物（第30図　375～393）　多くのピットの中からは、土師器大・小皿、東播系須恵器捏鉢、瓦器椀・小皿・火舎、中国製磁器が出土した。

白磁碗（391）は、口縁部に玉縁をもつ。口径11.2cm。12世紀代頃に属す。ピット26出土。青磁碗（390）は、体部から口縁部まで均一な厚みをもち、端部に面をもつ。口径16.2cm。14世紀後半頃～15世紀前半頃に属す。ピット103出土。瓦器火舎（393）は、直立気味の体部から口縁部に至る。口縁部がわずか内側に張り出し、口縁端部に面をもつ。口縁部外面に、２条の凸帯で画した無文の文様帯をもつ。口径43.0cm。15世紀代頃に属す。ピット175出土。瓦器小皿（376）は、見込みに数回のジグザグ状暗文が施される。口径8.0cm。13世紀後葉頃～14世紀初頭頃に属す。ピット187出土。土師器大皿（377）は、立ち上がり部が強く屈曲する。13世紀後葉頃～14世紀初頭頃に属す。ピット241出土。東播系須恵器捏鉢（392）は、口縁端部を上方に引き出すもの。口径24.0cm。13世紀前葉頃～中葉頃に属す。ピット384出土。

焼土壙出土の土師器小皿（380・381・383・386・387）は、立ち上がり部が強く屈曲する（380・381など）、ゆるやかに立ち上がる（387）がある。口径7.8～8.4cm、器高1.4～1.9cm。胎土にくさり礫を含む。14世紀前葉頃に属す。

土壙Ⅰ出土遺物（第31図　455～502）　土師器大・小皿・羽釜、瓦器椀と中国製磁器がある。

瓦器椀（455～464）　大和型（455）と和泉型（456～464）がある。大和型は丸底の底部に断面が三角形を呈した低い高台を底面より上位に貼り付けている。内面に１連の渦巻状暗文を施す。和泉型は、内面の螺旋状暗文は粗く、数周巡るにすぎない。外面は未調整とは言え、成形時の指頭圧痕は目立たず、成美な丸底をなす。また口縁部及び内面のヨコナデも丁寧に施され、歪みも比較的少ない。口径10.1～10.9cm。

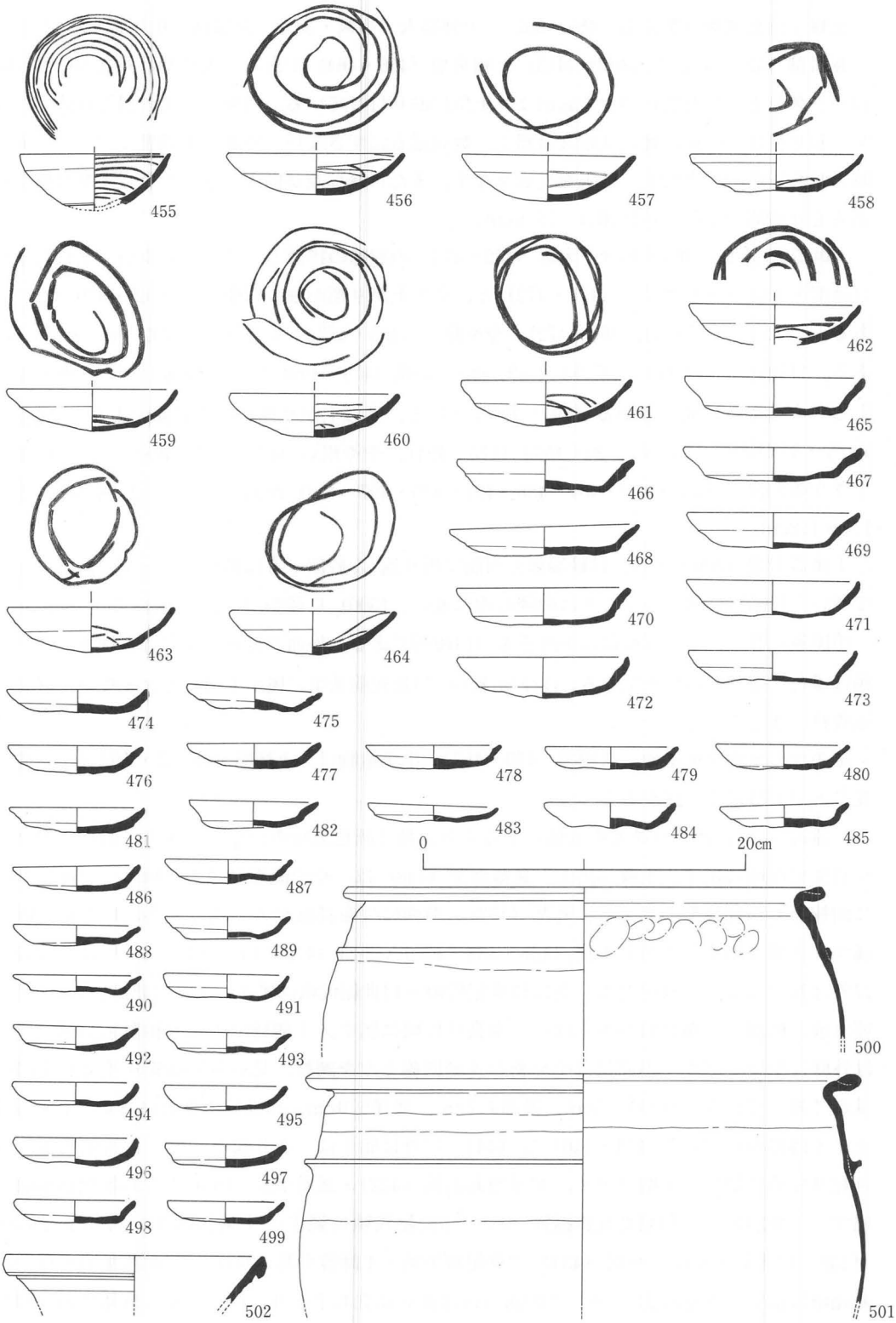
土師器大・小皿（465～499）　大皿（465～473）の形態の特徴として、ゆるやかに立ち上がり口縁部を１回ヨコナデする（471・472）と、立ち上がり部が強く屈曲する（465～470など）がある。胎土は、密で精良（466～472）、やや粗い（465・473）、くさり礫を含む（465・466）がある。口径10.3～11.0cm、器高1.8～2.5cm。小皿（474～499）は、口縁部１回ヨコナデを主とし、ゆるやかに立ち上がる（494～496など）と、立ち上がり部が強く屈曲するもの（487～490など）がある。胎土は、密で精良（475～494）、やや粗い（474・497・498）、粗い（495）、くさり礫を含む（474・482・484・486・491～495・497・498）がある。口径7.2～8.7cm、器高1.1～1.8cm。

土師器羽釜（500・501）　口縁端部を内側に折り返し、肩部下方に鍔をめぐらす。鍔はきわめて低い。（500）は、鍔というよりは微隆起線に近い。（500）口径29.4cm、（501）口径33.4cm。

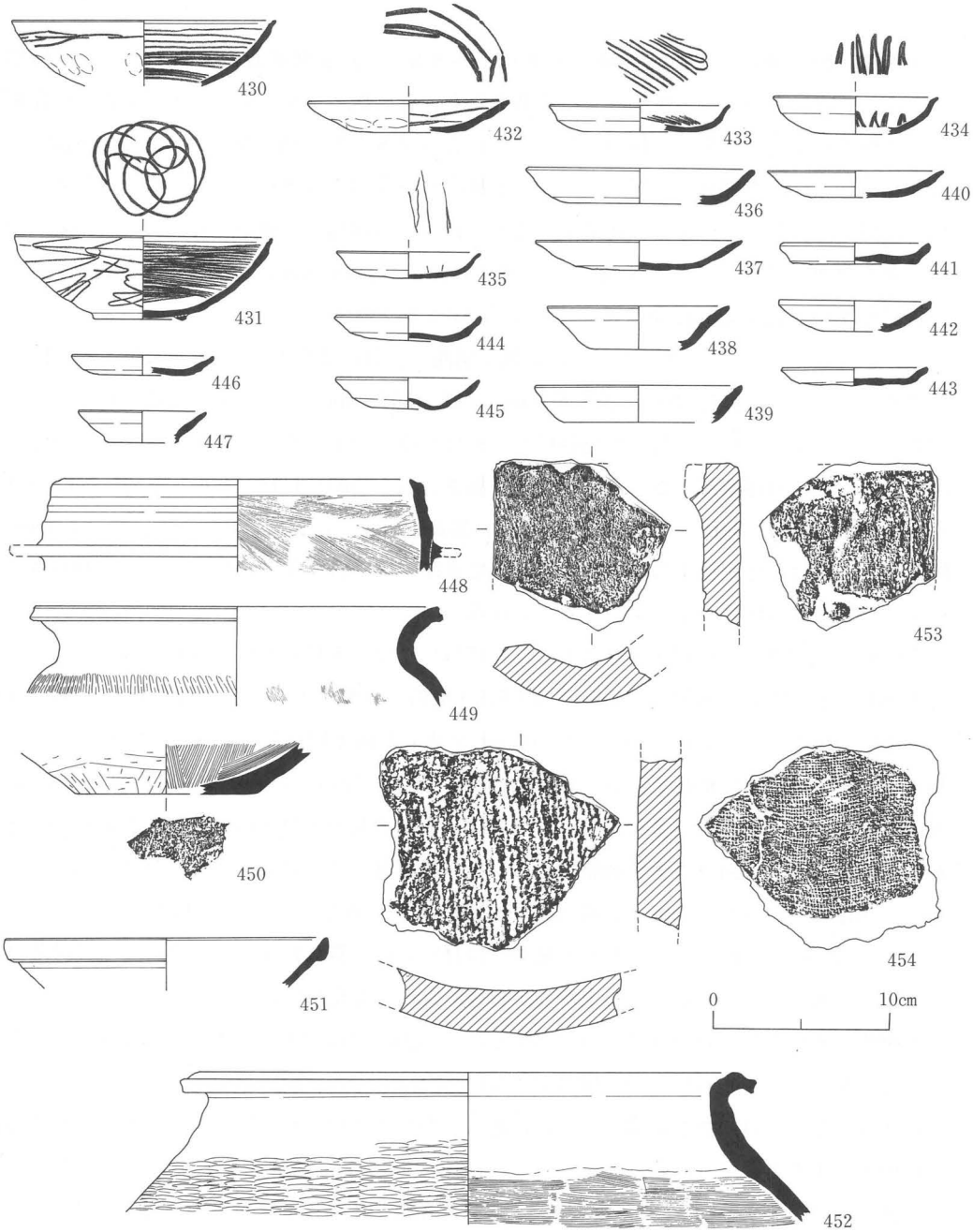
中国製磁器（502）　口縁部に玉縁をもつ白磁碗である。外面の体部下半には施釉されない。釉は緑色を帯びた白色を呈する。口径16.8cm。14世紀前葉頃に属す不純物を含まない良好な一括資料と考えられる。

その他の土壙出土遺物（第32図　430～452）　出土遺物は、土師器・須恵器・東播系須恵器・瓦器・中国製磁器・瓦がある。

白磁碗（451）は、口縁部を玉縁にするもの。釉は灰色気味の白色を呈する。11世紀中葉頃～12世紀代頃に属す。土壙15出土。瓦器羽釜（448）は、やや直立気味の口縁に、口縁部外面に凹線をもつ和泉型の羽釜と、丸瓦（453）、凹面には布目痕がみられる。共に15世紀代頃に属す。土壙17出土。土師器大皿（436・438・439）・小皿（440・442・445・447）は、（447）以外は胎土にくさり礫を含む。共に13世紀代頃～14世紀代頃に属す。平瓦（454）凸面は縄目叩き痕、凹面には布目痕がみられる。奈良時代頃に属す。土壙18出土。大和型瓦器椀（431）は外面に粗いミガキ、内面にはやや密な連続圏線ミガキ調整、見込みに螺旋状暗文を５回程重ねて施している。口径14.5cm、器高4.7cm、底径5.0cm。12世紀中葉頃に属す。土壙19出土。土師器小皿（443・444・446）は（443）以外は胎土にくさり礫を含む。13世紀代頃～14世紀初頭頃に属す。土壙21出土。和泉型瓦器椀（432）・瓦器小皿（435）共に14世紀前葉頃に属す。土壙24出土。和泉型瓦器擂鉢（450）15世紀代頃に属す。土壙26出土。大和型瓦器椀（430）13世紀前葉頃、小皿（434）12世紀後半頃・土師器小皿（441）13世紀後葉頃～14世紀初頭頃に属す。須恵器甕（449）の頸部はほぼ直立に立ち上がり、ゆるやかに外傾する口縁部をもつ。口縁端部は面をもち、上・下共につまみ出す。頸部のヨコナデは丁寧にナデられ、平



第31図　土壙Ⅰ出土土師器・瓦器・中国製磁器実測図



第32図　各土壙出土土師器・須恵器・瓦器・中国製磁器・瓦実測図

行条線叩きは消されている。13世紀後葉頃に属す。土壙29出土。瓦器小皿（433）12世紀中葉頃に属す。土壙30出土。東播系須恵器甕（452）は、口縁部は外折気味、口縁端部は面をもち、上・下共につまみ出す。頸部のヨコナデは丁寧にナデられ、平行条線叩きはほぼ消されている。胴部の叩き目は粗い。13世紀後葉頃に属す。土壙36出土。土師器大皿（437）は胎土にくさり礫を含む。13世紀後葉～14世紀初頭頃に属す。土壙37出土。

木棺墓１出土遺物（第33図　503～508・516～518）　龍泉窯系青磁碗（１点）と土師器大（１点）・小皿（４点）が副葬品として出土した。青磁碗（508）は、内面に蓮華文を片彫りし、２個連続した花の模様が描かれている。かなり厚みのある釉がかけられ、一部気泡による穴が見られる。高台畳付は、釉のカキ取りが施され、高台内は無釉である。貫入は認められない。内面には、使用時による、擦過痕が認められる。口縁端部を細かく打ち欠いている。おそらく碗を供献するにあたって施されたと思われる。口径16.0cm、器高6.9cm、底径4.7cm。12世紀中葉頃～13世紀初頭頃に属すものである。

土師器大皿（507）は、立ち上がり部が強く屈曲し、口縁部を２回ヨコナデ調整する。胎土は、密で精良である。口径12.1cm。器高2.1cm。小皿（503～506）は、大皿とは違う胎土をもつ。即ち、くさり礫・大粒の長石・黒色砂粒などを含む粗い胎土をもつ。口縁部は、１回ヨコナデ調整であるが、口縁端部にさらにヨコナデが施される。(503) 口径7.9cm、器高1.4cm。(504) 口径7.9cm、器高1.3cm。(505) 口径7.8cm、器高1.3cm。(506) 口径7.7cm、器高1.3cm。土師器大・小皿は13世紀後半に属す。したがって青磁碗は、約100年間伝世したものと判断される。使用時の擦過痕は伝世を示す証しと考えられる。

木棺墓に使用された鉄釘が３点出土した。(518) には、木棺の木目が残存する。

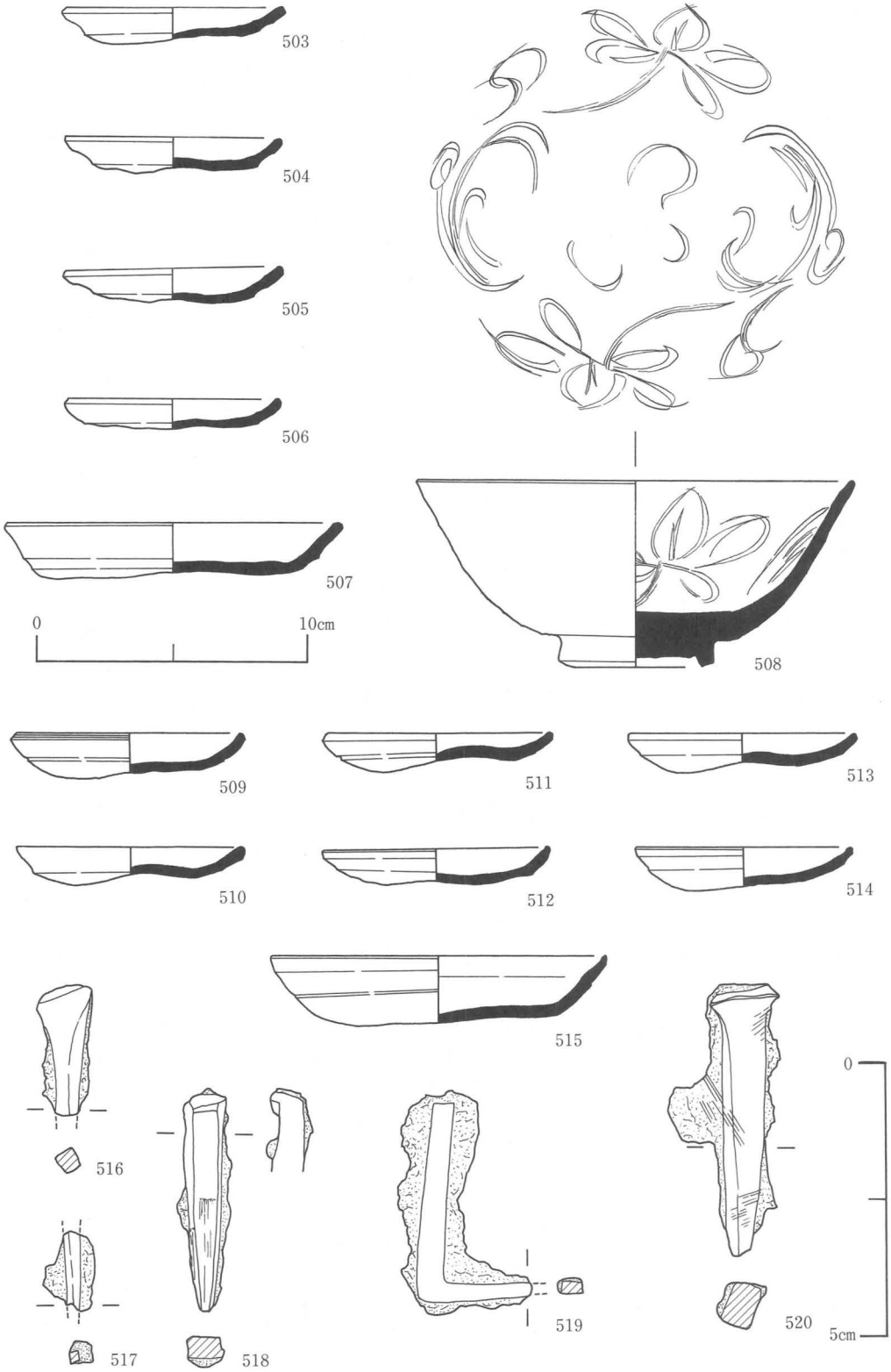
木棺墓２出土遺物（第33図　509～515・519・520）　副葬品として、土師器大（１点）・小皿（７点）が出土した。大皿（515）は、立ち上がり部が強く屈曲し、口縁部を２回ヨコナデ調整する。胎土は、密で精良である。口径12.3cm、器高2.5cm。小皿（510・511・513・514）は、大皿とは違う胎土をもつ。すなわち、くさり礫・大粒の長石・黒色砂粒などを含む粗い胎土である。口縁部は、１回ヨコナデ調整であるが、口縁端部にさらにヨコナデが施される。口径7.9～8.3cm、器高1.4～1.6cm。小皿（509・512）は、大皿と同じ、密で精良な胎土をもつ。(509) は、強い右廻りのヨコナデを施す。口径8.4cm、器高1.7cm。(512) は、口縁部２回ヨコナデを施し、ゆるやかに立ち上がる。口径8.3cm、器高1.3cm。

木棺墓に使用されていた鉄釘２点が出土した。(520) には、木棺の木目が残存する。鉄釘は他にも存在したと考えられるが、検出できなかった。

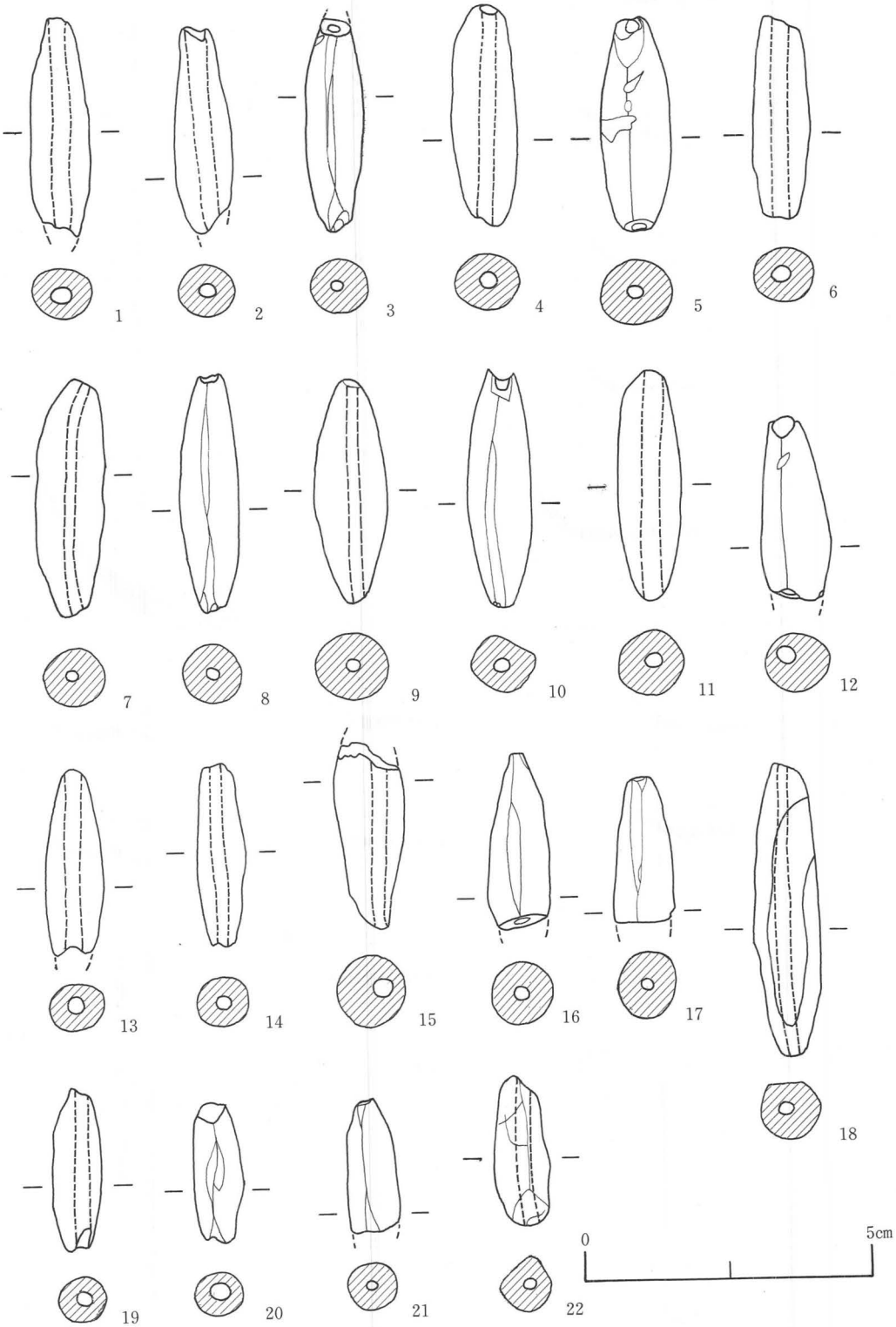
時期は、小皿の口径が木棺墓１出土品に比してやや大きいため、同墓にわずかに先行する13世紀後半に属すと考えられる。

土錘（第34図　１～22）　井戸５・溝25・溝21・溝20などから土錘が出土した。長さ2.4～5.1cm、重さ1.3～5.1g。明細は観察表（P101・P102）に示す。

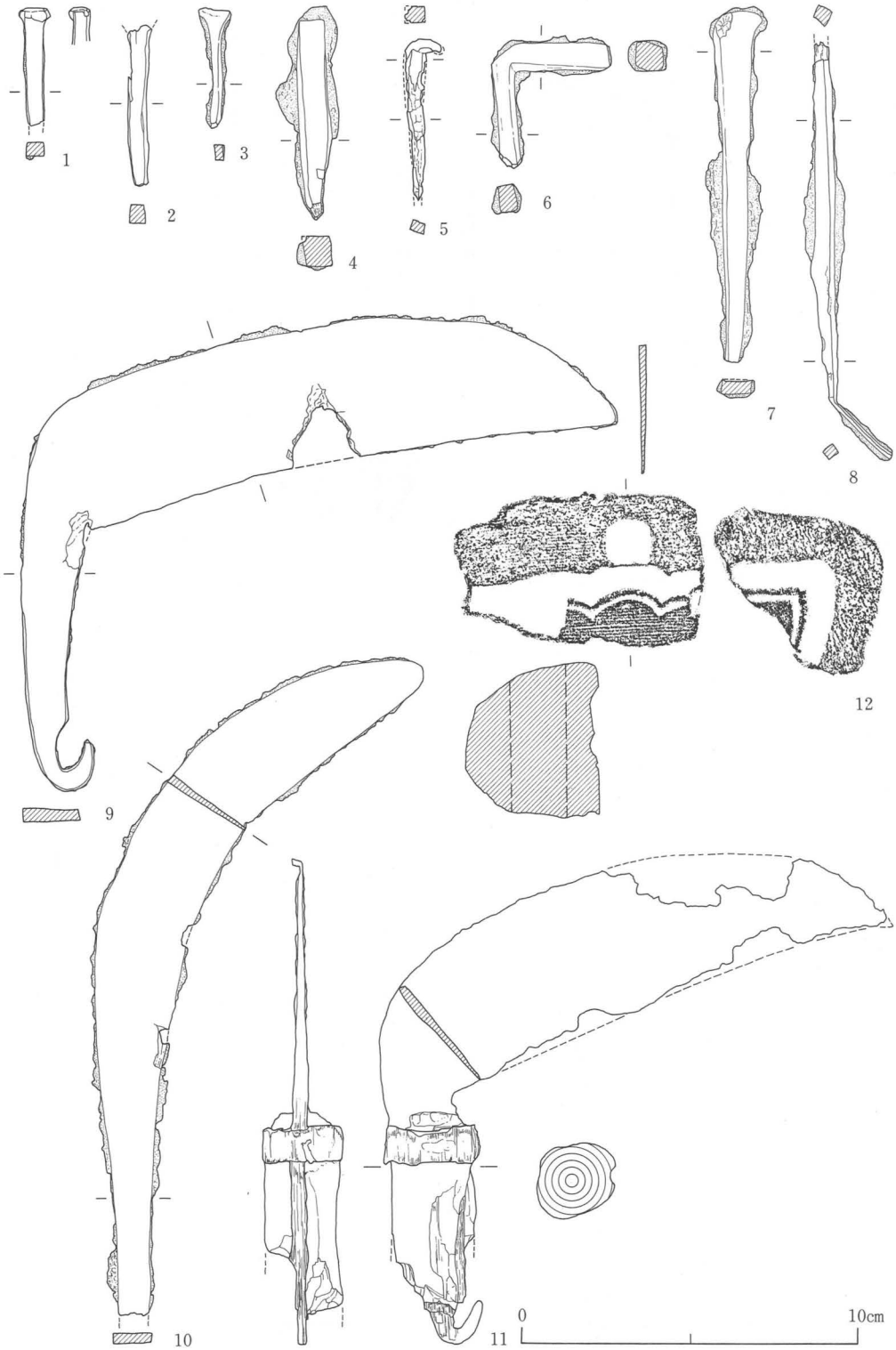
鋳型・鉄製品（第35図　１～12）　鋳型 (12)、鉄釘 (1～8)、鉄鎌 (9～11)、が出土した。鋳型は形態からみて、仏具関係の製品に関係するものと考えられるが明確にしがたい。鉄釘は、長さ3.6～12.5cm以上のものがある。全面にサビが付着している。鉄鎌（10）は、背面と先端部の曲がる角度が10°となだらかな刃部をもつ。(9～11) は、角度が70°と、柄に対してはほぼ直角に近い。鎌身の基部は、Ｊ型に曲げられている。(11) は、木柄とそれを固定するための、ハカマのようなものが残存している。木柄の材質は、広葉樹である。



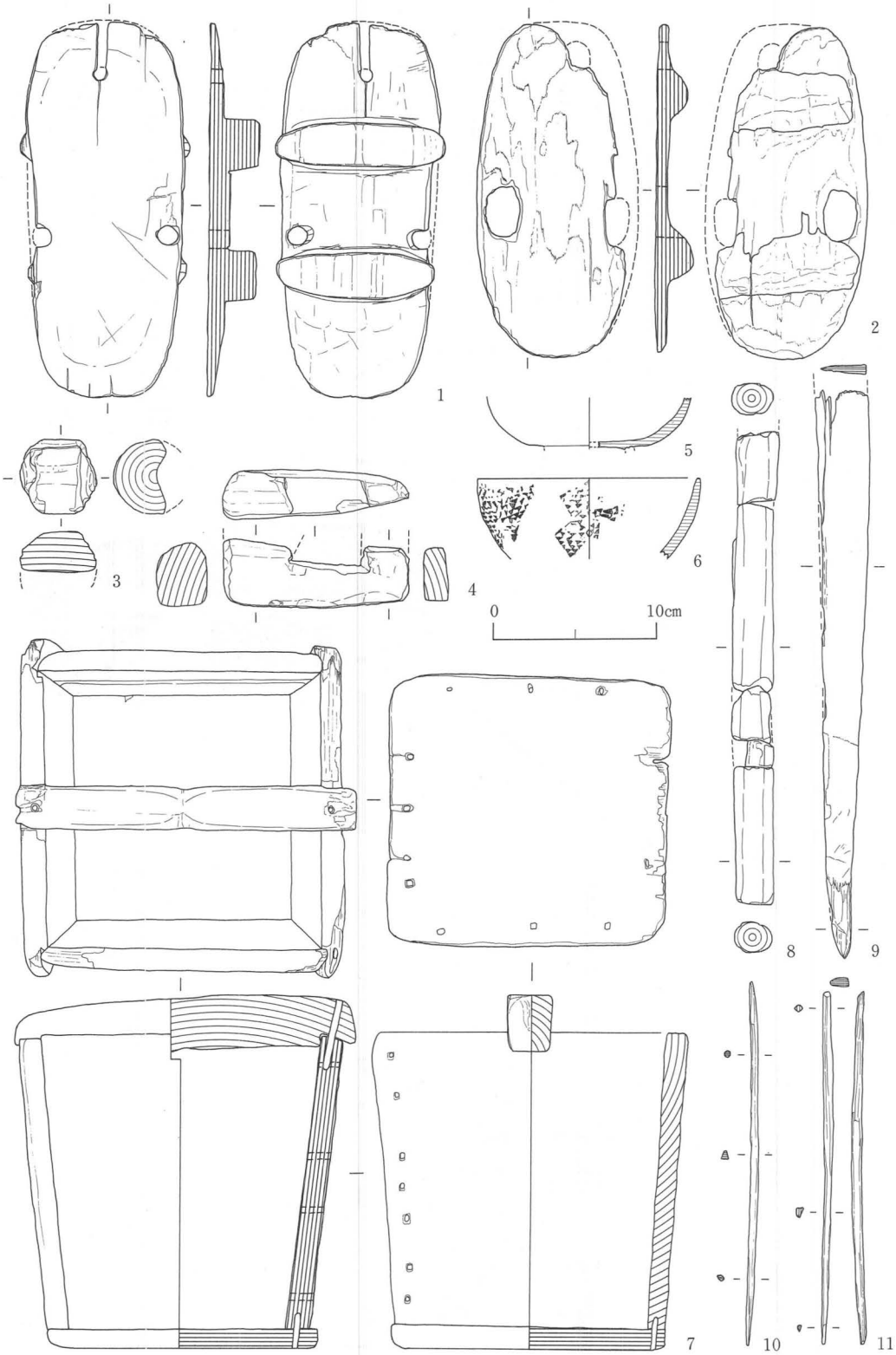
第33図　木棺墓Ⅰ・2出土土師器・中国製磁器・鉄製品実測図



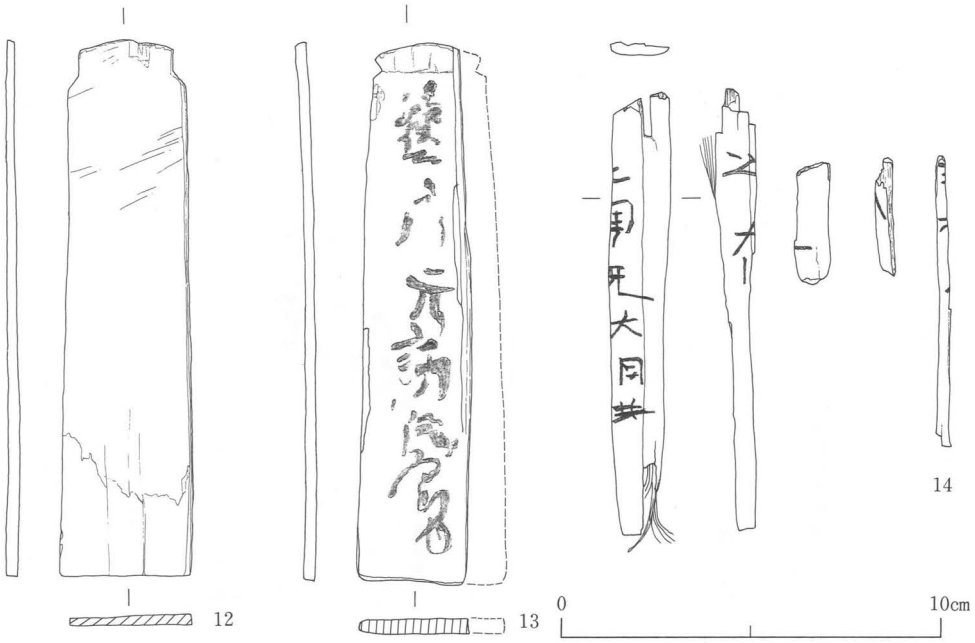
第34図　土錘実測図



第35図　鋳型・鉄製品（釘・鎌）実測図



第36図　木製品（下駄・漆器椀・釣瓶・箸）、用途不明品実測図



第37図　木製品（木簡・竹簡）実測図

木製品（第36図　1～11、第37図　12～14、第38図　15～24、第39図　25～44）　出土遺構ごとに記述する。所属時期は共伴した遺物より判断した各遺構の示す年代と考えている。

溝25出土品には漆器椀（5）、杭（25～35）がある。材質は漆器椀が広葉樹、杭（31）は二葉松、（34）マツ類などである。

溝20出土品には下駄（2）、曲物（24）、用途不明（3）、杭（36～44）がある。下駄は、楕円形を呈し、女性の左足用と思われる。材質はケヤキ。曲物は、方形を呈し、木釘穴や桜皮が残存する。材質は針葉樹。杭の材質は針葉樹のモミなどである。

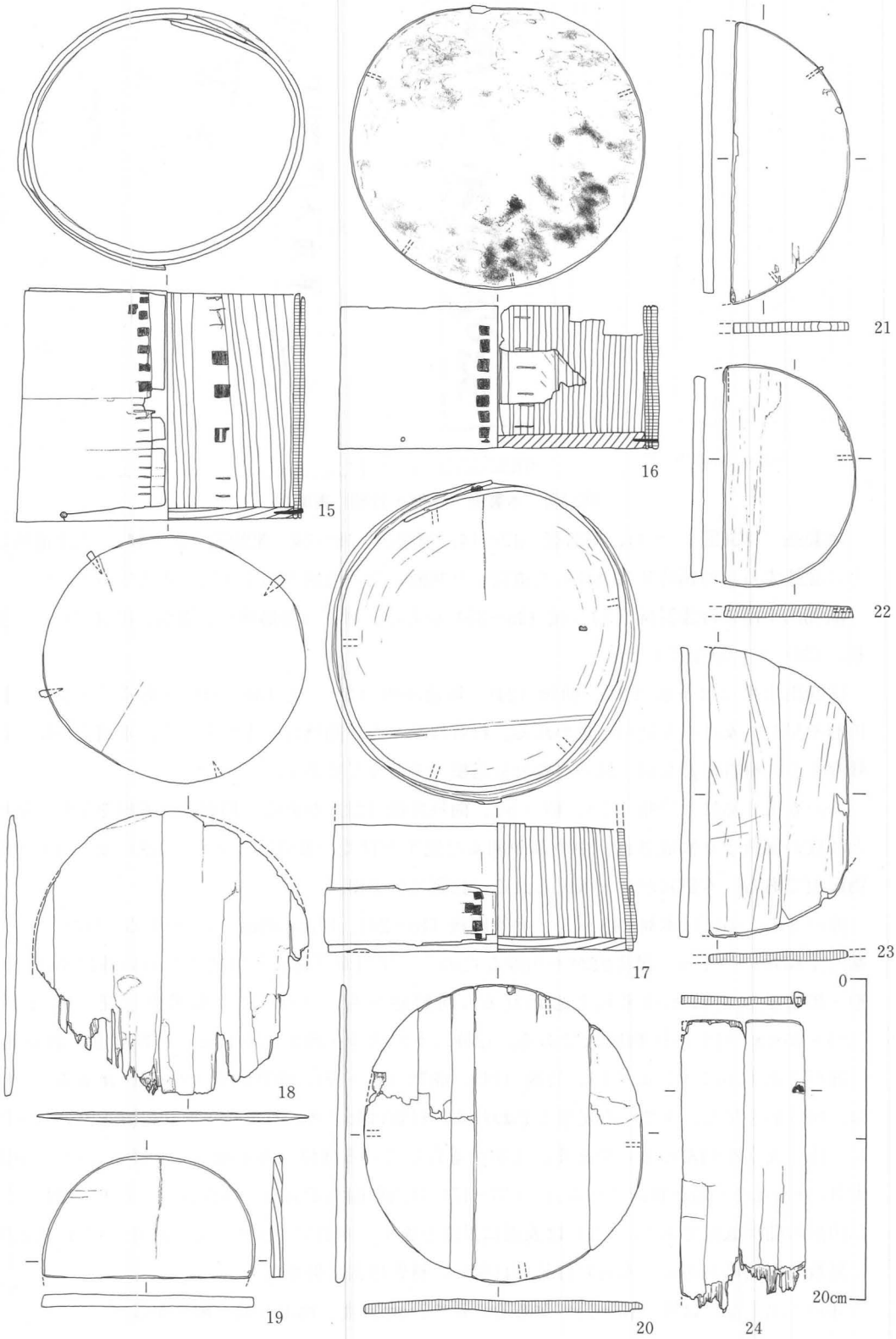
井戸6出土品には釣瓶（7）、柄（8）、曲物底板（22）がある。釣瓶は、方形を呈し、底板と4枚の側板より構成され、中央部が凹んだ把手が付く。材質はヒノキ。（22）は、円形の曲物底板である。木釘穴が2ヵ所見られる。材質は針葉樹。

井戸5出土品には木簡（12・13）、曲物底板（18～20）、用途不明品（4）がある。（13）は、上端を圭頭状につくる。墨書痕が不明瞭なため、一字目が「蘇」と判読される以外は不詳。形態・墨書痕から蘇民将来札と思われる。同形態をもつ（12）には墨書痕は見られない。（18～20）は、円形の曲物底板である。（20）に木釘穴4ヵ所が見られる。材質は全て針葉樹。

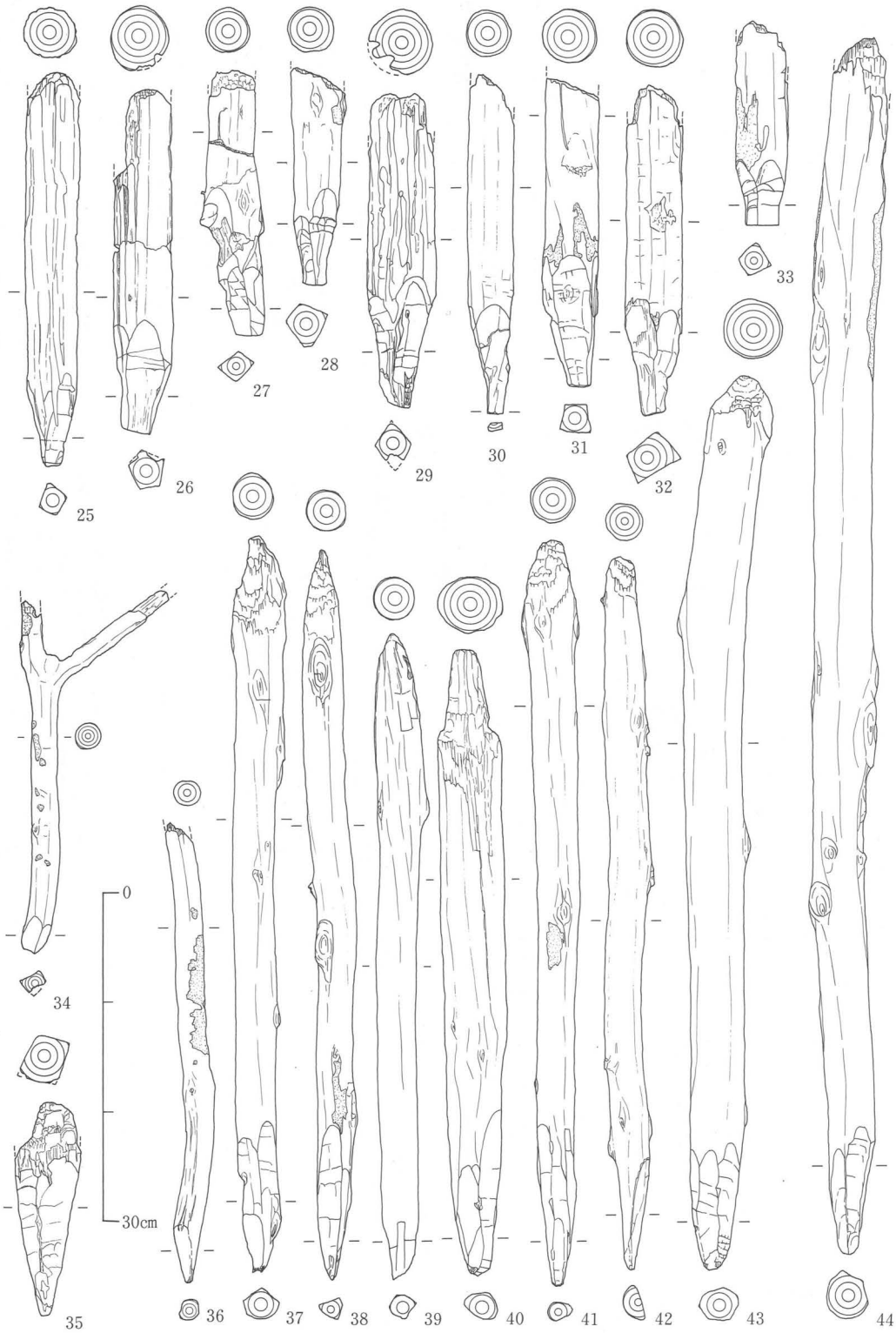
井戸1出土品には下駄（1）、竹簡（14）、曲物（15～17）、曲物底板（21・23）がある。下駄は、楕円形を呈し、女性の右足用と思われる。材質はヒノキ。竹簡は、筒状の竹を割いたものに、浅く文字を刻んだものである。文字が遺存している部位のみを摘出し、図示した。（南尤大日□・之有の一部が判読される。）（15～17）は円形曲物である。材質は、ヒノキ。（21・23）は円形の曲物底板である。（21）は表面に黒漆を施す。木釘穴1ヵ所が見られる。（23）は表裏に無数の刃物傷がある。木釘穴は見られない。材質は共に針葉樹。

井戸4出土品には箸（10・11）がある。長さ21cm程度、面取り風に加工する。

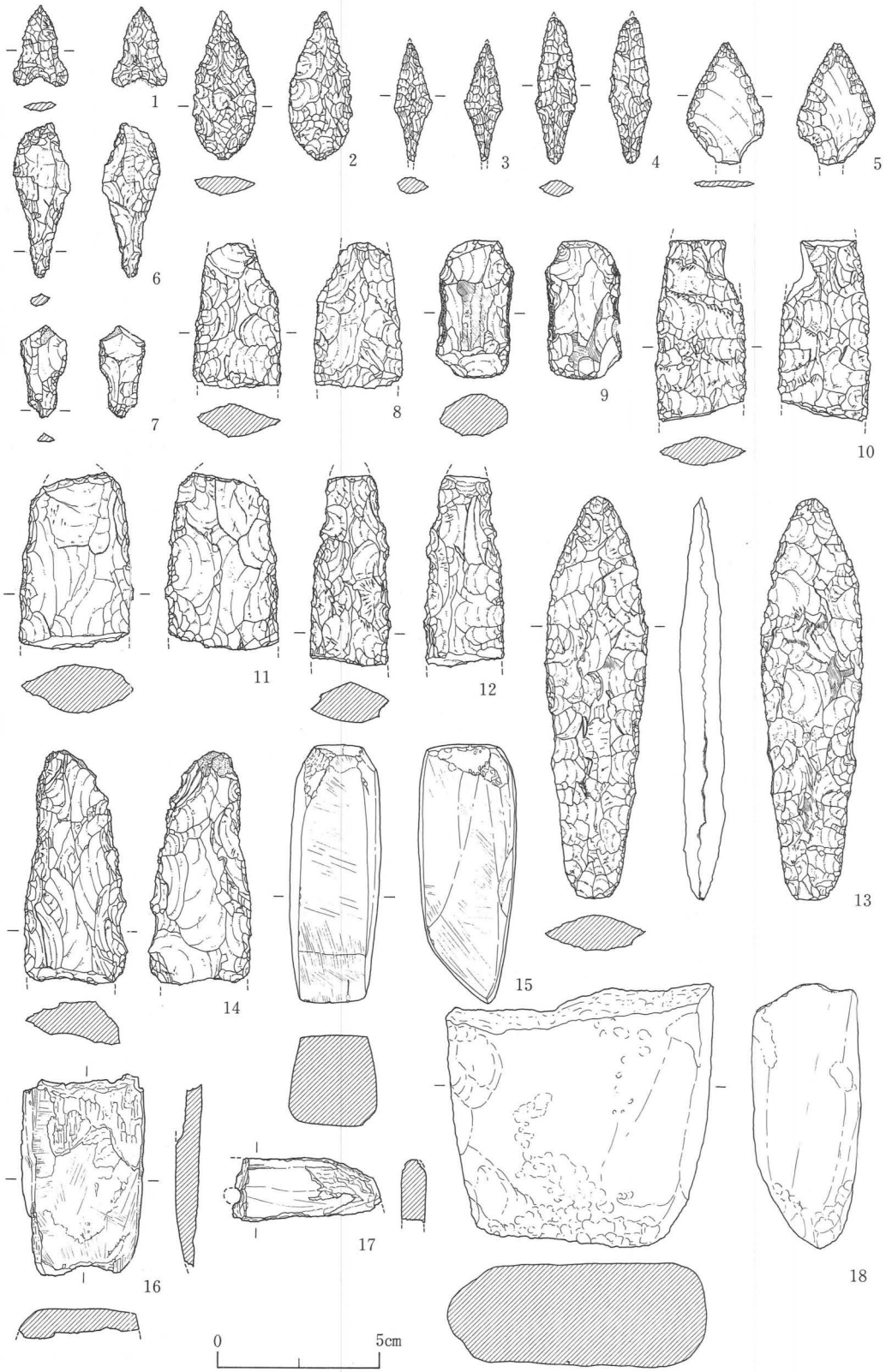
井戸7出土品には漆器椀（6）がある。材質は広葉樹。



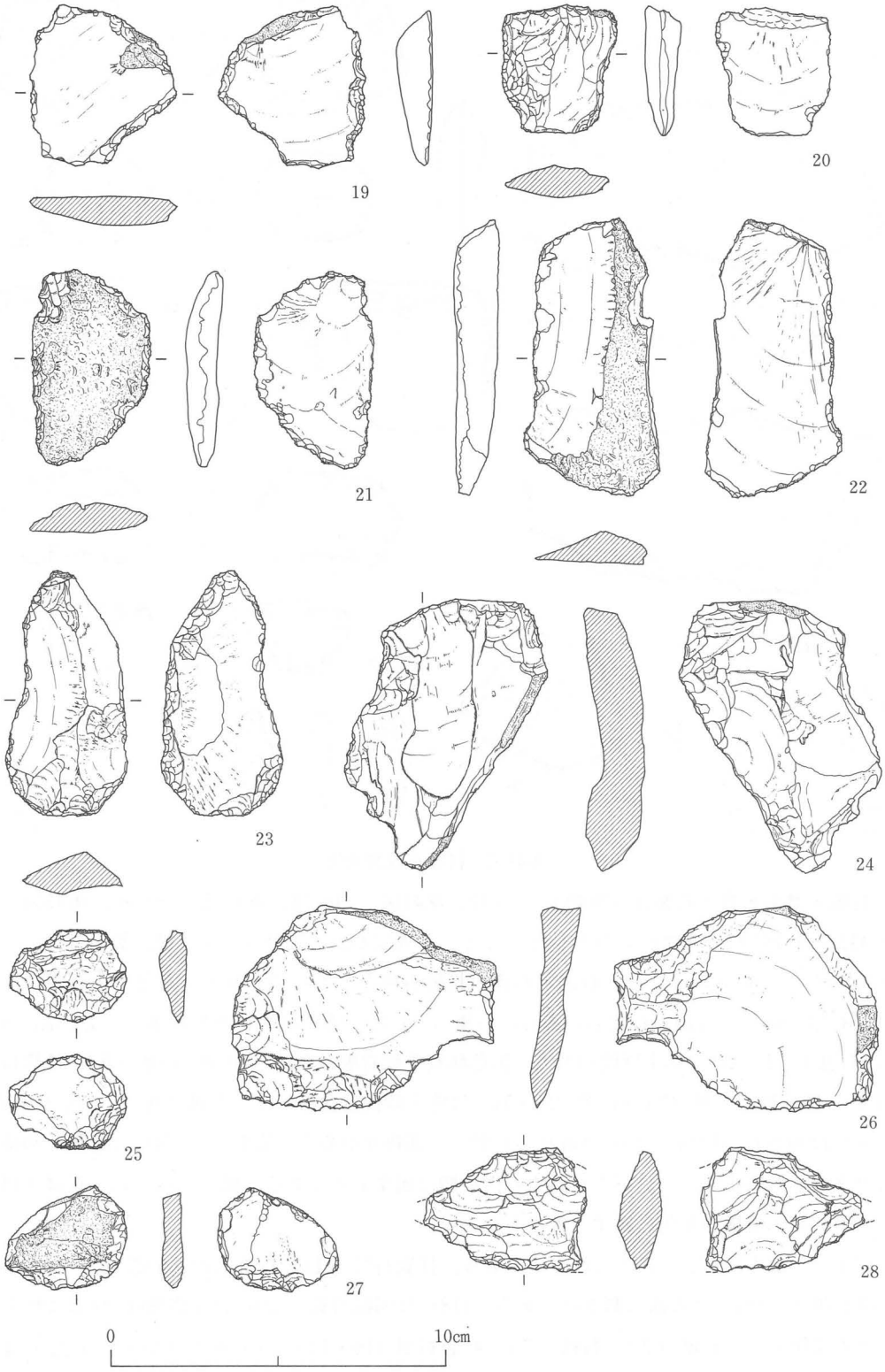
第38図　木製品（曲物）実測図



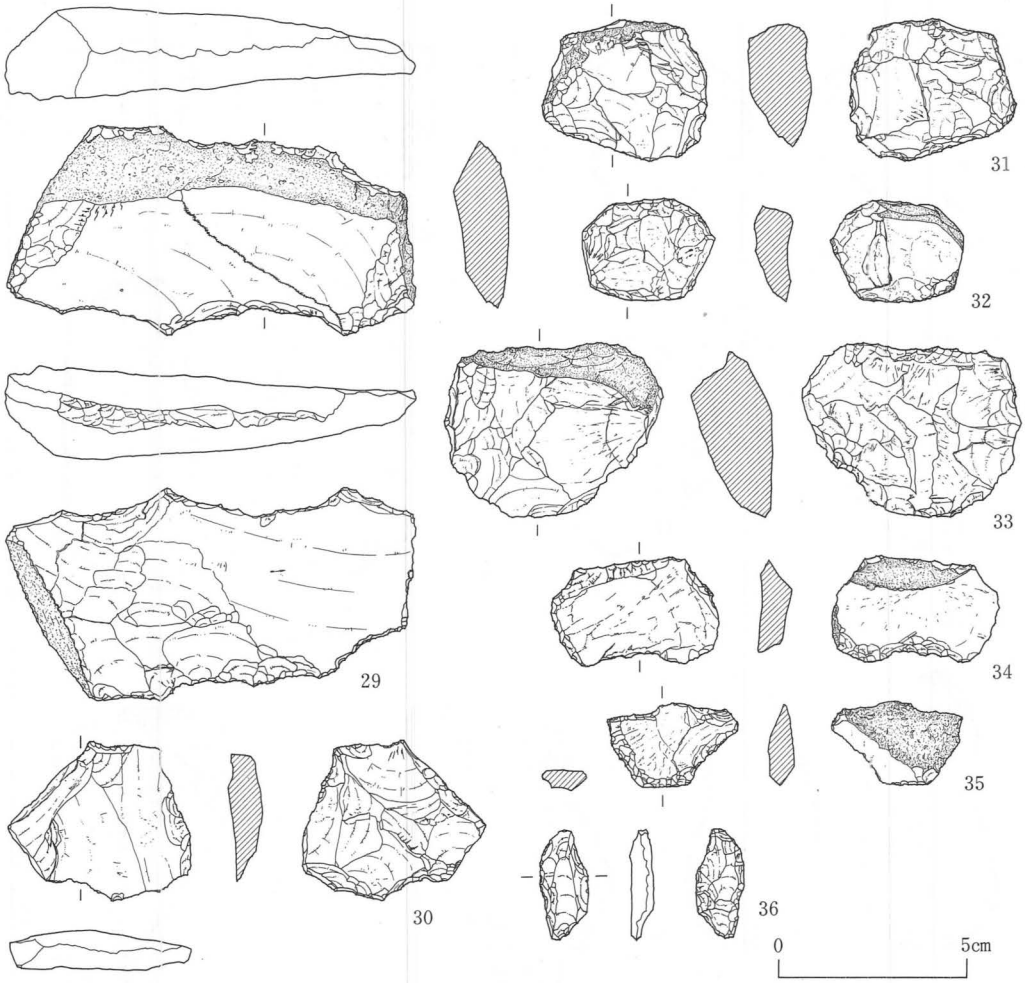
第39図　木製品（杭）実測図



第40図　打製・磨製石器実測図



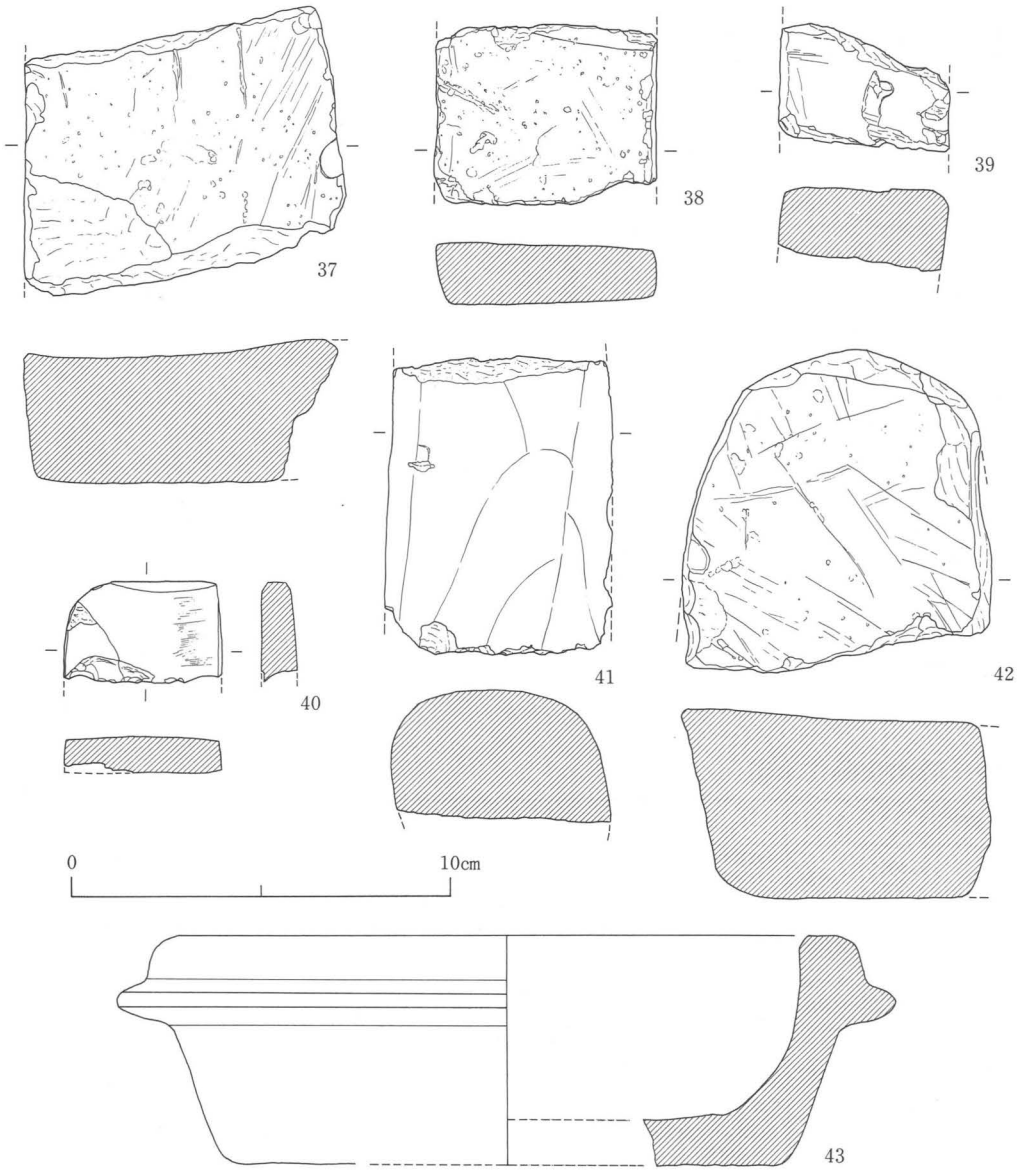
第41図　打製石器実測図



第42図　打製石器実測図

打製・磨製石器・石製品（第40図　1～18、第41図　19～28、第42図　29～36、第43図　37～43）　当該時期の遺構から出土したものと、混入品がある。サヌカイト製打製石器は、二上山産の石材を使用している。石鏃・石錐・打製石剣などの打製石器と、石包丁・石斧などの磨製石器、砥石・石鍋の石製品がある。石鏃（1）は、溝58出土。凹基無茎式。完形品。1.0g。石包丁（17）は、弥生時代川出土。黒色珪質千枚岩製。石鏃（4・5）・石錐（6）・打製石剣（9）・柱状片刃石斧（15）・削器（23・34）は弥生時代包含層出土。石鏃は共に、凸基有茎式。（9）は叩き石へ転用。（15）は班れい岩製。一部抉りがある。完形品。（34）は背部・側縁部にサヌカイト表皮をもつ。以上が弥生時代中期に属すものである。砥石（37～42）・石鍋（43）はそれぞれの遺構の年代に属すと考えられる。

以下は、混入品として出土したものである。打製石器（11）・石斧（18）・削器（29）・剥片（30）は溝25出土。（11）は表面に磨き痕がある。（18）は閃緑岩製。（29）は片側側縁・背部にサヌカイト表皮をもつ。石鏃（2）・石錐（7）・打製石剣（10・12・14）・削器（19・21・22・24・26・33）・剥片（20・35）・楔形石器（31）は溝20出土。（2）は凸基無茎式。完形品。5.3g。



第43図　砥石・石鍋実測図

（7）は基部にサヌカイト表皮をもつ。(12) は右側側縁磨滅。(14) は先端部にサヌカイト表皮をもち、側縁磨滅している。(19・20・26・31・33) は背部にサヌカイト表皮をもつ。(21・22・35) は片面にサヌカイト表皮をもつ。楔形石器 (32) は溝21出土。背部にサヌカイト表皮をもつ。削器 (27) は溝２出土。背部・表面にサヌカイト表皮をもつ。打製石剣 (13) は溝28出土。基部側縁磨滅。表面の一部に磨きがある。完形品。削器 (25) は溝42出土。背部にサヌカイト表皮をもつ。打製石剣（８）は井戸４出土。石斧 (16) はピット283出土。黒雲母一石英片岩製。石鏃（３）はピット438出土。凸基無茎式。削器 (28) は土壙15出土。剥片 (36) は土壙16出土。

観　察　表（弥生土器）

凡　例

番号	器種	法　量 (cm)			備　　考
1 ↓ 土器番号	鉢	13.0→口径 9.0→器高 5.0→底径 (復)→復元値 (推)→推定値 (残)→残存値			○溝57→出土遺構 ○浅黄色、他地域産→色調、産地 ○----------→その他

（挿図・図版は共通の番号）

溝57・58出土弥生土器

番号	器形	法量 (cm)	残存	形態の特徴	文様・技法の特徴	備考
1	壺	15.8(推) 4.0(残)	口頸部	○直立する頸部に強く外反する口縁部をもつ。 ○口縁端部は面をもち下方にわずかに拡張する。	外　面○口縁端面下端にヘラによるV字状の刻み目を施す。 内外面○全面、風化の為不明。	○浅黄橙色、他地域産。 ○溝57。
2	壺	29.4(推) 2.2(残)	口縁部	○大きく開く口縁部に外側下方に折れる口縁端部をもつ。	外　面○口縁端面に原体10条（1.5cm）の簾状文を逆時計回りに1帯施す。 内外面○全面、風化の為不明。	○褐色、在地産。 ○溝57。
3	細頸壺	9.0(復) 4.2(残)	口頸部	○わずかに斜めに外反する筒状の口頸部。 ○口縁端部は面をもち内傾する。	内外面○全面、風化の為不明。 ○粘土紐の継目(内傾)1箇所残る。	○褐色、在地産。 ○溝57。
4	鉢	12.8(復) 9.0 5.1	完形(復)	○底部から斜外上方に伸びる体部へとつづき口縁部で短く外反する。 ○口縁端部は尖って終わる。 ○底部は平底。	外　面○体部はタテハケ(下→上、6本/cm)。 内　面○体部はナナメハケ(10本/cm)。	○浅黄色、他地域産。 ○外面黒斑。 ○溝57。
5	小型鉢	5.0(復) 3.7 3.1(復)	底部欠失	○高台ふうの底部から斜外上方に伸びる直口の口縁部。 ○口縁端部は丸く終わる。	外　面○口縁端部はヘラによるV字状の刻み目を施す。 内外面○全面、風化の為不明。	○灰黄褐色、他地域産。 ○溝57。
6	鉢	19.2(推) 3.2(残)	口縁部 体部上半	○直立気味に内彎しながら立ち上る体部に段状口縁をもつ。 ○口縁端部は内側へもわずかに肥厚する。	内外面○全面、風化の為不明。	○淡橙色、他地域産。 ○溝57。
7	鉢	15.3(推) 3.5(残)	口縁部 体部上半	○張りの少ない体部に短く外反する口縁部をもつ。 ○口縁端部は丸みをもって終わる。	外　面○体部は同一原体(8条/cm)で列点文を1条、直線文を1条の順に施す。 内　面○全面、風化の為不明。	○橙色、他地域産。 ○溝57。
8	壺・鉢	—— 3.6(残) 6.0	体、底部	○上げ底と斜外上方に伸びる体部をもつ。	内外面○全面、風化の為不明。	○浅黄橙色、在地産。 ○溝57。
9	壺・鉢	—— 2.4(残) 5.6(復)	体、底部	○突出する上げ底と大きく斜外上方に開く体部をもつ。	内外面○全面、風化の為不明。	○濁褐色、在地産。 ○内面全面煤付着。 ○溝57。
10	甕	15.6(復) 6.8(残)	口頸部 体部	○張りのある体部に頸部でしまって短く外反する口縁部をもつ。 ○口縁端部は角ばって終わる。	外　面○体部はナナメハケ(7/cm)。 内　面○体部にユビオサエが見られる他は風化の為不明。	○淡橙色、在地産。 ○溝57。
11	甕	32.3(復) 9.9(残)	口頸部 体部上半	○少し張る体部とゆるやかに短く外反する口縁部をもつ。 ○口縁端部は巻き込み気味で角ばって終わる。	外　面○口縁端部はヘラによるV字状の刻み目を施す。 内外面○全面、風化の為不明。	○淡橙色、他地域産。 ○溝57。

番号	器形	法量(cm)	残存	形態の特徴	文様・技法の特徴	備考
12	甕	31.6(推) 3.0(残)	口頸部	○張りのある体部と「く」の字形に短く外反する口頸部をもつ。 ○口縁端部は外側下方に折れる。	外　面○口縁端面に刺突文を施す。 ○口頸部はヨコハケ(7本/cm)。 内　面○体部は風化の為明確ではないがナナメハケか？	○褐色、在地産。 ○口縁部内外面煤ける。 ○溝57。
13	甕	—— 5.0(残) 6.0(復)	体、底部	○上げ底気味の平底と斜外上方に伸びる体部をもつ。	外　面○全面、風化の為不明。 内　面○底部は放射線状のハケ。	○橙色、他地域産。 ○外面一部煤ける。 ○溝57。
14	甕	—— 3.3(残) 5.5	体・底部	○上げ底気味の平底と斜外上方に伸びる体部をもつ。 ○木葉底。	内外面○全面、風化の為不明。	○浅黄橙色、在地産。 ○溝57。
15	甕	—— 5.4(残) 8.2(推)	体・底部	○上げ底と斜外上方に伸びる体部をもつ。 ○底部は厚い。	内外面○全面、風化の為不明。	○淡橙色、他地域産。 ○溝57。
16	受け口状口縁壺	19.1(推) 4.5(残)	口縁部	○頸部から屈曲して直立する口縁部。その下端は拡張する。 ○口縁端部は面をもち内側にやや拡張する。	外　面○屈曲部のヨコナデ以外は風化の為調整不明。 内　面○ヨコナデ。	○淡黄色、他地域産。 ○溝58。
17	細頸壺	6.7 26.0 5.3	完形(復)	○算盤玉形に張る体部に頸部下で細くしまり、わずかに斜めに外反する筒状の口頸部をもつ。 ○口縁端部は面をもつ。 ○底部は平底。 ○体部下位に焼成後の穿孔1個有り。	外　面○口頸部から体部中位にかけてタテハケ(7本/cm)の後に原体7条(1cm)の直線文を8帯(単帯構成)時計回りに施す。文様帯間は横方向の1条のミガキ。 ○体部下半は縦方向(下→上)に密なミガキ。 内　面○口頸部はヨコナデ。 ○体部中位にヨコハケがみられる他は風化の為不明。 ○粘土紐の継ぎ目が1箇所残る。	○浅黄橙色、在地産。 ○内外面に黒斑。 ○溝58。
18	高杯・鉢	11.9(推) 2.5(残)	口縁部 体部上半	○斜外上方に伸びる体部につづく直口の口縁部。 ○口縁端部は角ばって終わる。	内外面○全面、風化の為不明。	○橙色、他地域産。 ○溝58。
19	甕蓋	—— 4.7(残) 3.8	つまみ部	○笠形。 ○つまみ部上面は、くぼむ。	内外面○全面、風化の為不明。	○橙色、他地域産。 ○溝58。
20	小型鉢	—— 3.8(残) 3.3(復)	体・底部	○平底と直立気味に斜外上方に伸びる体部をもつ。	外　面○風化の為明確ではないがタテハケか？ 内　面○未調整。	○濁黄橙色、在地産。 ○溝58。
21	甕	16.3 21.5 5.4	完形(復)	○中位に最大径をもつ張りのある体部に「く」の字形に外反する口頸部をもつ。口径より体部径が大きい。 ○口縁端部は丸く終わる。 ○底部は突出し平底。	外　面○体部はタテハケ(9本/cm)。 ○底部は縦方向(下→上)の密なミガキ。 内　面○全面、風化の為不明。 ○粘土紐の継目(外傾)が2箇所(2～4.5cm幅)残る。	○濁褐色、在地産。 ○外面に黒斑。 ○溝58。
22	甕	13.1 13.9 4.4	完形(復)	○傾鐘形の器体に頸部でややしまり短く外反する口縁部をもつ。 ○口縁端部は尖って終わる。 ○底部は上げ底。	外　面○頸部はヨコナデ。 ○器体は全面タテハケ(下→上、6本/cm)。 ○底面はケズリ。 内　面○全面、風化の為不明。	○浅黄橙色、他地域産。 ○内外面に黒斑。 ○溝58。
23	甕	13.8(推) 3.0(残)	口頸部 体部上半	○張りの少ない体部に頸部でややしまり短く外反する口縁部をもつ。 ○口縁端部は尖って終わる。	外　面○頸・体部はタテハケ。 内　面○全面、風化の為不明。	○浅黄橙色、他地域産。 ○溝58。
24	甕	16.7(復) 4.3(残)	口頸部 体部上半	○張りの少ない体部に「く」の字形に外反する口頸部をもつ。 ○口縁端部は面をもち下方にわずかに拡張する。	外　面○風化の為明確ではないが、体部はタテハケか？ ○口頸部はヨコハケ(6本/cm)。 ○体部はヨコナデ。	○橙色、他地域産。 ○内外面一部煤ける。 ○溝58。
25	甕	19.6 5.5(残)	口頸部 体部上半	○少し張る体部に「逆L字」状の口頸部をもつ。 ○口縁端部は面をもつ。	内外面○全面、風化の為不明。	○橙色、他地域産。 ○溝58。
26	甕	—— 4.3(残) 5.8	体・底部	○突出した平底と斜外上方に伸びる体部をもつ。	内外面○風化の為明確ではないがタテハケか？ ○粘土紐の継目残る。	○橙色、他地域産。 ○溝58。 ○内面全面煤ける。

弥生時代土壙・包含層・弥生時代川出土弥生土器

番号	器形	法量(cm)	残存	形態の特徴	文様・技法の特徴	備考
27	壺	16.0(復) 4.7(残)	口頸部	○短く直立する頸部とゆるやかに外反する口縁部をもつ。 ○口縁端部は面をもち上下に拡張する。	外　面○体部はタテハケ(6本/cm)。 ○全面風化の為不明。	○濁褐色、在地産。 ○溝59。
28	壺	22.4(復) 3.0(残)	口頸部	○大きく開く口頸部。 ○口縁端部は面をもち下方へ拡張する。	外　面○口縁端面は原体不明の簾状文を施した後円形浮文を貼り付ける。 内外面○全面、風化の為不明。	○暗褐色、在地産。 ○弥生時代川。

番号	器形	法量(cm)	残存	形態の特徴	文様・技法の特徴	備考
29	壺		口縁部	○斜めに開く頸部に外反する口縁部をもつ。 ○口縁端部は面をもち下方へ拡張し、上方へもわずかにつまみ上げる。	外　面○口縁端面は4帯の凹線文をめぐらした後沈線を縦方向に施し、円形浮文を上下2段に貼り付ける。さらに円形浮文の上から竹管文を施している。 ○調整は風化の為不明。 内　面○口縁部は櫛状工具による羽状の列点文を施す。	○暗褐色、在地産。 ○外面全面煤付着。 ○溝20－1。
30	壺	8.1(推) 4.6(残)	口頸部	○斜めに開く頸部と短く外反する口縁部をもつ。 ○口縁端部は外側下方に折れる。	内外面○全面、風化の為不明。	○褐色、在地産。 ○頸部内面煤ける。 ○第4層弥生包含層。
31	壺	10.8(推) 4.9(残)	口頸部	○短く直立してから「く」の字状に外反する口頸部をもつ。 ○口縁端部は面をもち上方に少し拡張する。 ○頸部上位に紐穴2孔を焼成前に内から外へ穿っている。 (破片の為対になっているかは不明。)	外　面○口縁端部に2帯の凹線文をめぐらす。 ○頸、体部はタテハケ(7本/cm)。 内　面○全面、風化の為不明。	○褐色、在地産。 ○溝20。
32	壺	22.2(復) 3.5(残)	口頸部	○大きく開く口頸部に下方に折れる口縁端部をもつ。	外　面○口縁端面に原体12条？(1.4cm？)の簾状文を1帯逆時計回りに施す。 内外面○全面、風化の為不明。	○濁黄褐色、在地産。 ○サブトレ。
33	水差	11.4(推) 11.2(残)	口頸部	○内彎しながら伸びる口頸部。	外　面○口縁部真下に4帯の凹線文、頸部から体部にかけて4帯の凹線文、原体5条？(5cm？)の波状文を1帯以上施す。 ○調整は風化の為不明。 内　面○全面、ナデ。	○濁黄褐色、在地産。 ○弥生包含層。
34	鉢	16.6(推) 3.0(残)	口縁部 体部上半	○直口の口縁部。 ○口縁端部は面をもつ。	外　面○口縁端面に原体不明の波状文を施す(3条みられる)。 内外面○調整は風化の為不明。	○淡橙色、他地域産。 ○弥生包含層
35	鉢	23.8 5.0(残)	口縁部 体部	○直立気味に内彎する体部から続く直口の口縁部。 ○口縁端部は面をもつ。	外　面○口縁端部上面に原体5条(0.6cm)の波状文を1帯施す。 ○体部は上から原体5条(0.6cm)の直線文を1帯、原体10条(1.3cm)の直線文を2帯、原体5条(0.6cm)の直線文を1帯施す。 内　面○全面風化の為不明。	○淡橙色、他地域産。 ○弥生時代川。
36	鉢	14.4(復) 4.5(残)	口縁部 体部上半	○内彎しながら伸びる体部に続く口縁部は内側へ屈曲する。 ○口縁端部は尖って終わる。	外　面○体部上位に3帯の凹線文をめぐらす。 内外面○調整は風化の為不明。	○黄褐色、在地産。 ○弥生包含層。
37	鉢	21.2(推) 4.5(残)	口頸部 体部上半	○斜外上方に伸びる体部と短く外反する口縁部をもつ。 ○口縁端部は面をもつ。	外　面○体部は風化の為明確ではないがミガキか？ 内　面○体部はヨコハケ。	○褐色、在地産。 ○外面黒斑。 ○溝20－2。
38	鉢	23.7(推) 2.9(残)	口縁部	○直口の口縁部。 ○口縁端部は面をもつ。	外　面○口縁端部は強いヨコナデ。 ○口縁部直下に4帯以上の凹線文を施す。 内　面○全面、風化の為不明。	○淡橙色、他地域産。 ○溝23。
39	鉢	33.6(推) 7.2(残)	口頸部 体部上半	○直立気味に内彎して伸びる体部に頸部でしまって水平に外反する口縁部をもつ。 ○口縁端部は丸味をもって終わる。	外　面○体部上位に原体5条(1.7cm)の波状文を1帯以上施す。 ○横方向の板ナデ。	○灰白色、他地域産。 ○攪乱。
40	鉢	36.2(推) 4.9(残)	口縁部 体部上半	○段状口縁で端部は内側へも拡張する。	外　面○体部上位に上から順に原体10条(1.4cm)の波状文を1帯、原体7条(1.4cm)の直線文を1帯施す。 内外面○調整は風化の為不明。	○褐色、在地産。 ○弥生包含層。
41	鉢	—— 5.3(残) 4.6	体・底部	○突出した平底と斜外上方に伸びる体部をもつ。	外　面○底部にユビオサエが見られる他は風化の為不明。 内　面○体部は風化の為不明。 ○底部は放射状のハケ。	○褐色、在地産。 ○外面一部煤ける。 ○溝20－3。
42	壺・鉢	—— 3.4(残) 6.0(復)	体・底部	○上げ底気味の平底と斜外上方に開く体部をもつ。	外　面○風化の為明確ではないが縦方向のミガキか？ 内　面○体部は風化の為不明。 ○底部は放射状のハケ。	○赤褐色、在地産。 ○体部外面黒斑。 ○弥生時代川。
43	壺・鉢	—— 5.2(残) 7.4(復)	体・底部	○上げ底気味の平底と斜外上方に開く体部をもつ。	外　面○風化の為明確ではないが縦方向のミガキか？ 内　面○全面、風化の為不明。	○褐色、在地産。 ○弥生時代川。
44	台付鉢	—— 8.9(残) 15.2(推)	脚部	○中空の太い脚部で脚柱部から脚裾部へ斜外方へ開がる。 ○裾端部は面をもち内傾する。	外　面○脚柱部に円形竹管文を3帯以上めぐらせる。 ○脚裾部に4帯の凹線文をめぐらす。 内外面○調整は風化の為不明。	○濁黄橙色、在地産。 ○弥生包含層。

番号	器形	法量(cm)	残存	形態の特徴	文様・技法の特徴	備考
45	器台	—— 6.4(残) 15.4(復)	脚部	○中空の脚柱部から続く脚裾部でなだらかに外反する。 ○裾端部は面をもち上方に少し拡張する。	外　面○脚柱部はヨコハケ(8本/cm)。 内　面○全面、風化の為不明。	○褐色、在地産。 ○SX19。
46	高杯	—— 4.9(残) 7.6(復)	脚部	○中空の短い脚柱部から屈曲して斜めに開く脚裾部をもつ。 ○裾端部は上方に拡張する。	内外面○全面、風化の為不明。	○黄褐色、在地産。 ○耕土内。
47	高杯	22.8(推) 3.6(残)	口縁部 体部	○斜外上方に伸びる体部から続く口縁部で弱く外反する。 ○口縁部内面に突帯を貼付する。 ○口縁端面は尖って終わる。	内外面○全面、風化の為不明。	○褐色、在地産。 ○内面煤付着。 ○弥生時代川。
48	高杯	23.6(復) 3.1(残)	口縁部	○斜めに開く口縁部と下方に折れる口縁端部をもつ。	内外面○全面、風化の為不明。	○褐色、在地産。 ○外面、煤ける。 ○弥生包含層。
49	高杯	—— 7.0(残) 12.4(復)	脚部	○中空の脚柱部から脚裾部へなだらかに開がる。 ○裾端部は面をもち上方へ拡張する。	外　面○全面、風化の為不明。 内　面○横方向(右→左)のケズリ。	○褐色、在地産。 ○内面煤付着。 ○弥生時代川。
50	高杯	—— 6.2(残) 13.5(復)	脚部	○中空の脚柱部から脚裾部へ内彎気味に開がる。 ○裾端部は面をもち上下へ拡張する。 ○脚柱部下位に外から内へ焼成前の穿孔有り。2孔1対が2組と思われる(残存は3個)。	外　面○脚柱部に4帯の回線文を施す。 ○調整は風化の為不明。 内　面○横方向(左→右)のケズリ。	○褐色、在地産。 ○弥生時代川。
51	高杯	14.8(復) 11.0 6.2	完形(復)	○浅い椀形の杯部。 ○中空の短い脚柱部に続く脚裾部でなだらかに外反する。 ○口縁端部は丸味をもって終わる。 ○裾端部はやや内彎し丸味をもって終わる。	外　面○杯部上面に原体不明の列点文を1帯とヘラ描沈線を1条施す。 ○杯部下位から脚柱部は縦方向のミガキ(2mm)。 内　面○しぼり目が残る。調整は風化の為不明。	○褐色、在地産。 ○脚裾部外面黒斑。 ○包含層。
52	高杯	14.0(推) 12.7 9.0	完形(復)	○椀形の杯部。 ○中空の長い脚柱部に続く脚裾部でなだらかに開がる。 ○円板充填法。 ○口縁端部は面をもち内傾する。 ○裾端部は面をもち上方に拡張する。	外　面○口縁端面両端にヘラによるV字状の刻み目を施す。 ○杯部は原体7条(0.9cm)の列点文を4帯施す。 ○脚裾部に刺突文を2.3cm～2.7cm間隔で施す。 ○裾端面上端にヘラによるV字状の刻み目を施す。 ○調整は風化の為不明。 内　面○全面、風化の為不明。	○褐色、在地産。 ○弥生時代川、サブトレ。
53	高杯	—— 9.5(残)	脚柱部	○筒状の脚柱部で上下になだらかに開がる。 ○脚柱部中位に外から内への焼成前の穿孔1個有り。	外　面○脚柱部に7帯と5帯の回線文をめぐらす。 ○調整は風化の為不明。 内　面○しぼり目が残る。調整は風化の為不明。	○黄褐色、在地産。 ○弥生時代川。
54	高杯	17.6(復) 4.6(残)	口縁部 体部	○体部から口縁部まで内彎しながら斜外上方に伸びる。 ○口縁部に弱い稜をもつ。 ○口縁端部は面をもつ。	内外面○全面、風化の為不明。	○黄褐色、在地産。 ○内面煤ける。 ○弥生時代川。
55	高杯	22.0(推) 5.0(残)	口縁部 体部	○腰に稜をもち、口縁部は少し内傾する。 ○口縁端部は面をもつ。	外　面○口縁部は櫛状工具による羽状の列点文を施す。 ○体部は横方向のミガキ。 内　面○全面、風化の為不明。	○褐色、在地産。 ○内外面共一部煤ける。 ○溝20－3。
56	高杯	22.9(復) 5.4(残)	口縁部 体部	○腰に稜をもち、口縁部は直立する。 ○口縁端部は面をもつ。	外　面○口縁部に3帯の回線文をめぐらす。 内外面○全面、風化の為不明。	○褐色、在地産。 ○外面に黒斑。 ○溝18、弥生包含層。
57	甕蓋	—— 11.0(残) 7.2	口縁部欠損	○笠形。 ○つまみ部上面はくぼむ。	外　面○体部はタテハケ(10本/cm)。 ○つまみの両側にユビオサエが残る。つまみ上面は未調整。 内　面○体部下位はヨコハケ(10本/cm)、以外は指頭圧痕残る。 ○つまみ部はナデ。	○褐色、在地産。 ○内外面一部煤ける。 ○土壙41。
58	器台	—— 3.4(残) 16.2(復)	脚部	○中空の脚柱部から続く脚裾部で水平に開がる。 ○裾端部は面をもつ。 ○脚柱部下位に焼成前の穿孔(残存で1個)あり。	外　面○脚柱部は風化の為明確ではないがタテハケか？ ○脚裾部は上から順にヘラによる刺突文、原体4条(0.8cm)の直線文、ヘラによる刺突文、原体3条(0.5cm)の直線文、ヘラによる刺突文を施す。 内　面○全面、風化の為不明。	○濁褐色、在地産。 ○脚裾部外面赤色彩色。 ○溝20－2。
59	壺蓋	12.6(推) 3.6	完形(復)	○笠形。 ○口縁端部は角ばって終わる。 ○1個のつまみをもつ。	内外面○つまみ部内面にしぼり目が見られる。調整は全て風化の為不明。	○褐色、在地産。 ○溝50。

番号	器形	法量(cm)	残存	形態の特徴	文様・技法の特徴	備考
60	台付鉢	—— 9.0(残) 18.9(復)	脚部	○中空の太い柱状部で脚柱部から脚裾部まであまり開かずに伸びる。 ○裾端部は面をもち内側へ拡張する。	外　面○ナナメハケ(10/cm)。 内　面○全面、風化の為不明。	○褐色、在地産。 ○弥生時代川。
61	甕	15.4(推) 13.0(残)	口頸部 体部	○張りのある体部と強く外反する口縁部をもつ。 ○口縁端部は丸みをもって終わる。	外　面○体部はタテハケ(風化の為原体不明)。 内　面○全面、風化の為不明。	○褐色、在地産。 ○弥生時代川。
62	甕	16.9(推) 4.4(残)	口頸部 体部上半	○少し張る体部と「く」の字形に外反してから水平に折れる口頸部をもつ。 ○口縁端部は面をもち上方に少し拡張する。	内外面○全面、風化の為不明。	○灰白色、他地域産。 ○弥生包含層。
63	甕	18.8(復) 5.7(残)	口頸部 体部上半	○張りのある体部と水平近く外反する口縁部をもつ。 ○口縁端部は丸みをもって終わる。	内外面○全面、風化の為不明。	○赤褐色、在地産。 ○土壙41。
64	甕	21.4(復) 3.5(残)	口頸部 体部上半	○張りのある体部となだらかに外反してから水平に折れる口縁部をもつ。 ○口縁端部は尖り気味に終わる。	外　面○口縁端部はヘラによるV字状の刻み目を施す。 ○体部はタテハケ(風化の為原体不明)。 内　面○全面、風化の為不明。	○灰白色、他地域産。 ○弥生時代川。
65	甕	25.8(復) 12.8(残)	口頸部 体部上半	○口径を上回る体部と「く」の字形に外反する口頸部をもつ。 ○口縁端部は面をもち上方に拡張する。	外　面○体部はタテハケ(風化の為原体不明)。 内　面○体部はナナメハケ(4本/cm)。	○褐色、在地産。 ○外面一部煤ける。 ○弥生時代川。
66	甕	30.2(復) 11.5(残)	口頸部 体部上半	○少し張る体部と水平近く外反する口縁部をもつ。 ○口縁端部は面をもつ。	内外面○全面、風化の為不明。 ○粘土紐の継目2箇所(5.6cm幅)残る。	○褐色、在地産。 ○内面一部煤ける。 ○弥生時代川。
67	甕	—— 9.9(残) 8.2	体・底部	○平底と斜外上方に伸びる体部をもつ。	内外面○内面底部に指頭圧痕が残るが、調整は全て風化の為不明。	○淡橙色、在地産。 ○弥生包含層。
68	甕	—— 5.5(残) 8.2	体・底部	○平底と斜外上方に伸びる体部をもつ。 ○体部下位に焼成後の外から内への穿孔有り。	外　面○縦方向のミガキ(4mm)。 内　面○全面、風化の為不明。	○褐色、在地産。 ○外面全面煤ける。 ○サブトレ。
69	甕	—— 5.5(残) 6.6	体・底部	○上げ底気味の平底と斜外上方に伸びる体部をもつ。	外　面○縦方向のミガキ(3mm)。 内　面○全面、風化の為不明。	○褐色、在地産。 ○弥生包含層。
70	甕	—— 2.2(残) 4.6	底部	○平底。 ○底面中央に焼成後の内から外への穿孔有り。	内外面○全面、風化の為不明。	○赤褐色、在地産。 ○弥生包含層。

観　察　表（中世土器・陶磁器）

凡　例

番号	器種	器形	法　量（cm）	備　考
1	瓦器・	椀	15.2⟶口径 5.6⟶器高 4.0⟶底径 ※36.8（径高指数）	○精緻、黒色砂粒⟶胎土 ○暗灰色N/3⟶色調㊗ ○溝25－3⟶出土遺構

※ 径高指数＝器高÷口径×100

（挿図・図版は共通の番号）

㊗ 色調は『新版標準土色帖』農林水産省農林水産技術会議事務局 監修 財団法人日本色彩研究所 色票監修による。

溝25出土瓦器・土師器・東播系須恵器・国産陶器・輸入磁器

番号	器種	器形	法量（cm）	残存	形態の特徴	技法の特徴	備考
1	瓦器・	椀	14.2 5.4 4.9 ※38.0	ほぼ完形	○平底から体部は内彎して外上方に立ち上がり、口縁部は少し屈曲して外彎気味に開く。 ○口縁端部は少し外方に開き、内傾して沈線をもつ。 ○高台は断面三角形。	○口縁部内端、外面をヨコナデ。 ○外面は口縁部から体部下位まで間隔の粗いミガキ。4分割。 ○内面は密にミガキ。 ○見込みに螺旋状の暗文。 ○高台はナデつけ。	○精緻、白色微砂粒を含む。 ○灰色N4/。 ○溝25－1。
2	瓦器・	椀	14.2 5.2 4.0 ※36.6	1/2	○丸底から体部は内彎して外上方に立ち上がり、口縁部は少し屈曲して外彎気味に開く。 ○口縁端部はゆるく内傾して沈線をもつ。 ○高台は断面三角形～台形。	○口縁部内端、外面をヨコナデ。 ○外面は口縁部から体部下位まで粗いミガキ。 ○内面は密にミガキ。 ○見込みに螺旋状の暗文。 ○高台はナデつけ。	○精緻、微砂粒を含む。 ○灰色N4/。 ○底部外面に線刻。 ○溝25－3。
3	瓦器・	椀	15.3 5.6 5.1 ※36.6	ほぼ完形	○丸底から体部は内彎して外上方に立ち上がり、口縁部は少し屈曲して外彎気味に開く。 ○口縁端部はゆるく内傾して沈線をもつ。 ○高台は断面三角形。	○口縁部内端、外面をヨコナデ。 ○外面は口縁部から体部下位まで粗いミガキ。 ○内面は密にミガキ。 ○見込みに螺旋状の暗文。 ○高台はナデつけ。	○精緻、白・黒色砂粒、くさり礫を含む。 ○灰色N3/～灰白色N7/ ○溝25－2。
4	瓦器・	椀	15.1 5.7 5.2 ※37.5	1/2強	○丸底から体部は内彎して外上方に立ち上がり、口縁部は少し屈曲して外彎気味に開く。 ○口縁端部はゆるく内傾して沈線をもつ。 ○高台は断面三角形～台形。	○口縁部内端、外面をヨコナデ。 ○外面は口縁部から体部下位まで粗いミガキ。 ○内面は密にミガキ。 ○見込みに螺旋状の暗文。 ○高台はナデつけ。	○精緻、白・黒色微砂粒を含む。 ○暗灰色N3/。 ○溝25－2。
5	瓦器・	椀	14.8 5.4 5.2 ※36.5	1/4強	○丸底から体部は内彎して外上方に立ち上がり、口縁部は少し屈曲して外彎気味に開く。 ○口縁端部はゆるく内傾して沈線をもつ。 ○高台は断面三角形。	○口縁部内端、外面をヨコナデ。 ○外面は口縁部から体部下位まで粗いミガキ。 ○内面は密にミガキ。 ○見込みに連結輪状の暗文。 ○高台はナデつけ。	○精緻、黒色微砂粒を含む。 ○灰色N5/。 ○口縁部内外面灰色N4/。炭素の吸着が無い。 ○溝25－1。
6	瓦器・	椀	14.8 5.3 5.1 ※35.5	完形	○丸底から体部は内彎して外上方に立ち上がり、口縁部は少し屈曲して外彎気味に開く。 ○口縁端部はゆるく内傾して沈線をもつ。 ○高台は断面三角形。	○口縁部内端、外面をヨコナデ。 ○外面は口縁部から体部下位まで粗いミガキ。4分割。 ○内面は密にミガキ。 ○見込みに連結輪状の暗文。 ○高台はナデつけ。	○精緻、黒色微砂粒を含む。 ○灰色N5/。 ○溝25－1。

番号	器形種	法量(cm)	残存	形態の特徴	技法の特徴	備考
7	瓦器・椀	14.8 5.5 5.6 ※36.9	1/2強	○丸底から体部は内彎して外上方に立ち上がり、口縁部は少し屈曲して外彎気味に開く。 ○口縁端部はゆるく内傾して沈線をもつ。 ○高台は断面三角形。	○口縁部内端、外面をヨコナデ。 ○外面は口縁部から体部下位まで粗いミガキ。 ○内面は密にミガキ。 ○見込みに螺旋状の暗文。 ○高台はナデつけ。	○精緻、黒色微砂粒を多く含む。 ○灰白色7.5Y8/1。 ○溝25－3。
8		14.5 5.1 4.8 ※35.2	1/2	○丸底から体部は内彎して外上方に立ち上がり、口縁部は少し屈曲して外彎気味に開く。 ○口縁端部はゆるく内傾して沈線をもつ。 ○高台は断面三角形。	○口縁部内端、外面をヨコナデ。 ○外面は口縁部から体部下位まで粗いミガキ。 ○内面は密にミガキ。 ○見込みに螺旋状の暗文。 ○高台はナデつけ。	○精緻、黒色微砂粒を多く含む。 ○灰白色7.5Y8/1。 ○溝25－3。
9		15.2 5.0 5.7 ※32.6	1/3	○丸底から体部は内彎して外上方に立ち上がり、口縁部は少し屈曲して外彎気味に開く。 ○口縁端部はゆるく内傾して沈線をもつ。 ○高台は台形。	○口縁部内端、外面をヨコナデ。 ○外面は口縁部から体部下位まで粗いミガキ。 ○見込みに螺旋状の暗文。 ○高台はナデつけ。	○精緻、黒色微砂粒を多く含む。 ○灰白色10YR8/1。 ○溝25－3。
10		15.1 5.8 4.6 ※38.1	1/4	○少し丸底。体部は内彎して外上方に立ち上がり、口縁部は少し屈曲して外彎気味に開く。 ○口縁端部はゆるく内傾して沈線をもつ。 ○高台は断面三角形。	○口縁部内端、外面をヨコナデ。 ○外面は口縁部から体部下位まで粗いミガキ。 ○内面は密にミガキ。 ○見込みに連結輪状の暗文。 ○高台はナデつけ。	○精緻、黒色砂粒を多く含む。 ○灰白色7.5Y8/1。 ○溝25－3。
11		14.2 5.2 4.6 ※36.6	1/4	○丸底から体部は内彎して外上方に立ち上がり、口縁部は少し屈曲して外彎気味に開く。 ○口縁端部はゆるく内傾して沈線をもつ。 ○高台は断面三角形。	○口縁部内端、外面をヨコナデ。 ○外面は口縁部から体部下位まで粗いミガキ。 ○内面は密にミガキ。 ○見込みに連結輪状の暗文。 ○高台はナデつけ。	○精緻、白色微砂粒を含む。 ○灰色N4/。 ○溝25－2。
12		14.4 5.5 4.1 ※38.2	ほぼ完形	○平底。体部は内彎して外上方に立ち上がり、口縁部は少し屈曲して外彎気味に開く。 ○口縁端部はゆるく内傾して沈線をもつ。 ○高台は断面三角形。	○口縁部内端、外面をヨコナデ。 ○外面は口縁部から体部下位まで粗いミガキ。 ○内面は密にミガキ。 ○見込みに連結輪状の暗文。 ○高台はナデつけ。	○精緻、微砂粒を含む。 ○灰色N4/。 ○溝25－1。
13		14.2 5.2 5.1 ※36.6	2/3	○丸底から体部は内彎して外上方に立ち上がり、口縁部は少し屈曲して外彎気味に開く。 ○口縁端部はゆるく内傾して沈線をもつ。 ○高台は断面三角形。	○口縁部内端、外面をヨコナデ。 ○外面は口縁部から体部中位まで粗いミガキ。 ○内面は密にミガキ。 ○見込みに螺旋状の暗文。 ○高台はナデつけ。	○精緻、微砂粒を含む。 ○灰白色N8/。 ○内外面90%位は、炭素吸着がない。 ○溝25－3。
14		13.7 5.0 4.4 ※36.1	1/4	○丸底から体部は内彎して外上方に立ち上がり、口縁部は少し屈曲して外彎気味に開く。 ○口縁端部はゆるく内傾して沈線をもつ。 ○高台は断面台形。	○口縁部内端、外面をヨコナデ。 ○外面は口縁部から体部下位まで粗いミガキ。 ○内面は密にミガキ。 ○見込みに連結輪状の暗文。 ○高台はナデつけ。	○精緻、白色微砂粒を含む。 ○灰色N4/。 ○溝25－2。
15		15.1 5.3 4.8 ※35.1	1/2弱	○丸底から体部は内彎して外上方に立ち上がり、口縁部は少し屈曲して外彎気味に開く。 ○口縁端部はゆるく内傾して沈線をもつ。 ○高台は断面台形。	○口縁部内端、外面をヨコナデ。 ○外面は口縁部から体部下位まで粗いミガキ。 ○内面は密にミガキ。 ○見込みに連結輪状の暗文。 ○高台はナデつけ。	○精緻、白色微砂粒を含む。 ○内面灰色N4/、外面灰色7.5Y6/1。 ○溝25－1。
16		15.2 5.6 4.0 ※36.8	完形	○丸底から体部は内彎しながらそのまま口縁部までなだらかに開く。 ○高台は断面方形で外側へふんばる。	○口縁部内端、外面をヨコナデ。 ○外面は口縁部から体部下位まで粗いミガキ。4分割。 ○内面はやや密にミガキ。 ○見込みは平行線の暗文。 ○高台はナデつけ。	○精緻、白・黒色微砂粒を多く含む。 ○内面灰色N4/、外面灰色N5/灰白色N7/。 ○溝25－3。
17		14.6 5.3 4.6 ※36.3	1/2	○丸底から体部は内彎しながらそのまま口縁部までなだらかに開く。 ○高台は断面台形。	○口縁部内端、外面をヨコナデ。 ○外面は口縁部から体部中位まで粗いミガキ。 ○内面はやや密にミガキ。 ○見込みは平行線の暗文。 ○高台はナデつけ。	○精緻、白色微砂粒を含む。 ○灰色N4/。 ○溝25－3。
18		14.8 5.4 5.2 ※36.5	1/4強	○丸底から体部は内彎して外上方に立ち上がり、口縁部は少し屈曲して外彎気味に開く。 ○口縁端部はゆるく内傾して沈線をもつ。 ○高台は断面三角形。	○口縁部内端、外面をヨコナデ。 ○外面は口縁部から体部中位まで粗いミガキ。 ○内面は密にミガキ。 ○見込みに連結輪状の暗文。 ○高台はナデつけ。	○精緻、黒色微砂粒を含む。 ○灰色N5/。 ○溝25－1。
19		14.4 5.3 4.8 ※36.8	ほぼ完形	○丸底から体部は内彎して外上方に立ち上がり、口縁部は少し屈曲して外彎気味に開く。 ○口縁端部はゆるく内傾して沈線をもつ。 ○高台は断面三角形、底部と同じくらいの出っぱり。	○口縁部内端、外面をヨコナデ。 ○外面は口縁部から体部中位まで粗いミガキ。4分割。 ○内面は密にミガキ。 ○見込みに同心円文の暗文。 ○高台はナデつけ。	○精緻、白色砂粒を含む。 ○暗灰色N3/。 ○溝25－2。

番号	器形 器種	法量 (cm)	残存	形態の特徴	技法の特徴	備考
20	瓦器・椀	15.5 5.0 4.9 ※32.3	1/2弱	○やや丸底から体部まで内彎しながらそのまま口縁部までなだらかに開く。 ○高台は断面方形で外側へふんばる。	○口縁部内端、外面をヨコナデ。 ○外面は粗いナデ。 ○内面はやや密にミガキ。 ○見込みの暗文は不明。 ○高台はナデつけ。	○やや粗、白色微砂粒を多く含む。 ○灰色N4/～灰白色N8/。 ○溝25－1。
21	瓦器・小皿	9.8 1.7	ほぼ完形	○平底から屈曲して外上方へ開く口縁部。 ○口縁端部は更に外方へ向き、丸く納める。	○口縁部内外面と、見込み半ばまでヨコナデ。見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。 ○見込みはジグザグ状の密な平行線の暗文。	○精緻、白・黒色微砂粒を含む。 ○灰色N4/。 ○溝25－1。
22		9.7 1.8	1/4	○平底から屈曲して外上方へ開く口縁部。 ○口縁端部は更に外方へ向き、丸く納める。	○口縁部内外面と、見込み半ばまでヨコナデ。見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。 ○見込みはナデの上に粗いジグザグ状の平行線の暗文。	○精緻、黒色微砂粒を含む。 ○灰色N4/。 ○溝25－1。
23		9.7 1.8	1/4	○上げ底気味の底部から屈曲して外上方へ開く口縁部。 ○口縁端部は更に外方へ向き、丸く納める。	○口縁部内外面と、見込み半ばまでヨコナデ。見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。 ○見込みはナデの上に粗いジグザグ状の平行線の暗文。	○精緻、微砂粒を含む。 ○灰色N4/。 ○溝25－2。
24		9.7 1.7	1/4	○上げ底気味の底部から屈曲して外上方へ開く口縁部。 ○口縁端部は更に外方へ向き、少し尖り気味。	○口縁部内外面と、見込み半ばまでヨコナデ。見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。 ○見込みはジグザグ状の密な平行線の暗文。	○精緻、微砂粒を含む。 ○灰色N5/。 ○溝25－3。
25		9.6 1.5	1/2弱	○上げ底気味の底部から屈曲して外上方へ開く口縁部。 ○口縁端部は更に外方へ向き、丸く納める。	○口縁部内外面と、見込み半ばまでヨコナデ。見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。 ○見込みはナデの上にジグザグ状の平行線の暗文。	○精緻、微砂粒を含む。 ○灰色N4/。 ○溝25－2。
26		9.6 1.6	1/3	○上げ底気味の底部から屈曲して外上方へ開く口縁部。 ○口縁端部は更に外方へ向き、丸く納める。	○口縁部内外面と、見込み半ばまでヨコナデ。見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。 ○見込みはナデの上にジグザグ状の平行線の暗文。	○精緻、微砂粒を含む。 ○内面明赤灰色2.5YR7/1。 外面灰白色7.5YR8/2。 ○溝25－2～3。
27		9.5 1.3	1/2弱	○上げ底気味の底部から屈曲して外上方へ開く口縁部。 ○口縁端部は更に外方へ向き、丸く納める。	○口縁部内外面と、見込み半ばまでヨコナデ。見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。 ○見込みはジグザグ状の密な平行線の暗文。	○精緻、微砂粒を含む。 ○灰色N5/。
28		9.2 1.8	1/2弱	○上げ底気味の底部から屈曲して外上方へ開く口縁部。 ○口縁端部は更に外方へ向き、丸く納める。	○口縁部内外面と、見込み半ばまでヨコナデ。見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。 ○見込みはジグザグ状の密な平行線の暗文。	○精緻、微砂粒を含む。 ○灰白色N8/～灰色N4/。 ○溝25－2。
29		9.2 1.9	ほぼ完形	○上げ底気味の底部から屈曲して外上方へ開く口縁部。 ○口縁端部は更に外方へ向き、丸く納める。	○口縁部内外面と、見込み半ばまでヨコナデ。見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。 ○見込みはジグザグ状の密な平行線の暗文。	○精緻、黒色微砂粒を含む。 ○灰色N4/。 ○溝25－3。
30		9.2 1.8	1/2	○平底から屈曲して外上方へ開く口縁部。 ○口縁端部は更に外方へ向き、丸く納める。	○口縁部内外面と、見込み半ばまでヨコナデ。見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。 ○見込みはナデの上にジグザグ状の平行線の暗文。	○精緻、白色微砂粒を含む。 ○内面灰色N4/、 外面暗灰色N3/。 ○溝25－1。
31		9.2 1.9	1/8	○平底から屈曲して外上方へ開く口縁部。 ○口縁端部は更に外方へ向き、丸く納める。	○口縁部内外面と、見込み半ばまでヨコナデ。見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。 ○見込みはナデの上にジグザグ状の平行線の暗文。	○精緻、白色微砂粒を含む。 ○灰色N5/。 ○溝25－2。
32		9.0 1.9	ほぼ完形	○平底から屈曲して外上方へ開く口縁部。 ○口縁端部は更に外方へ向き、丸く納める。	○口縁部内外面と、見込み半ばまでヨコナデ。見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。 ○見込みはナデの上にジグザグ状の平行線の暗文。	○精緻、黒色微砂粒を多く含む。 ○灰色N5/～灰白色N8/。
33		8.8 2.0	1/4	○平底から屈曲して外上方へ開く口縁部。 ○口縁端部は更に外方へ向き、丸く納める。	○口縁部内外面と、見込み半ばまでヨコナデ。見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。 ○見込みはジグザグ状の平行線の暗文。	○精緻、微砂粒を含む。 ○灰色N4/～灰色N5/。 ○溝25－2。
34		8.8 (2.0)	1/2弱	○丸底からゆるく内彎しながら口縁部へつづく。 ○口縁端部は少し外上方へ向き、丸く納める。	○口縁部内外面と、見込み半ばまでヨコナデ。見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。 ○見込みは平行線の暗文。	○精緻、微砂粒を含む。 ○灰色N4/。 ○溝25－3。

番号	器種	器形	法量(cm)	残存	形態の特徴	技法の特徴	備考
35	瓦器・小皿		8.8 1.9	ほぼ完形	○丸底からゆるく内彎しながら口縁部へつづく。 ○口縁端部は少し外上方へ向き、少し尖り気味。	○口縁部内外面と、見込み半ばまでヨコナデ。見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。 ○見込みは平行線の暗文。	○精緻、微砂粒を含む。 ○灰色N4/。
36			8.6 1.7	1/4弱	○平底から屈曲して外上方へ開く口縁部。 ○口縁端部は更に外方へ向き、尖り気味。	○口縁部内外面と見込み半ばまでヨコナデ。見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。 ○見込みはナデの上にジグザグ状の平行線の暗文。	○精緻、黒色微砂粒を多く含む。 ○灰白色2.5Y8/1。 ○溝25－2。
37			8.4 1.8	1/2強	○平底から屈曲して外上方へ開く口縁部。 ○口縁端部は更に外方へ向き、丸く納める。	○口縁部内外面と見込み半ばまでヨコナデ。見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。 ○見込みはナデの上にジグザグ状の平行線の暗文。	○精緻、白色微砂粒を含む。 ○灰色N4/。 ○溝25－2。
38	土師器・羽釜		25.4 (7.4)	1/4	○鍔・底部を欠く。 ○内傾する体部から外折する口縁部。 ○口縁端部は上方にわずかに肥厚。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○体部外面はナデ。 ○体部内面は不明。	○精緻、白色微砂粒、くさり礫を含む。 ○灰白色7.5YR8/1。 ○体部内面に煤付着。 ○溝25－2～3。
39			32.8 (7.8)	1/8	○底部を欠く。 ○内傾する体部から外折する口縁部。 ○口縁端部は上方にわずかに肥厚。	○口縁部内外面と鍔の周辺部をヨコナデ。 ○体部内外面をナデ。	○粗、白・黒色砂粒を多く含む。 ○内面灰色10YR8/1、外面にぶい黄橙色10YR7/3。 ○溝25－2～3。
40			27.2 (7.4)	1/4弱	○底部を欠く。 ○内傾する体部から外折する口縁部。 ○口縁端部は上方にわずかに肥厚。	○口縁部内外面と鍔の周辺部をヨコナデ。 ○体部内外面をナデ。	○粗、白・黒色砂粒を多く含む。 ○内面赤橙色10R6/8、外面にぶい赤褐色7.5R5/3。 ○溝25－2。
41			26.2 (7.2)	1/8	○底部を欠く。 ○内傾する体部から外折する口縁部。 ○口縁端部は上方にわずかに肥厚。	○口縁部内外面と鍔の周辺部をヨコナデ。 ○体部内外面をナデ。	○粗、白・黒色砂粒を多く含む。 ○内面にぶい橙色5YR7/4、外面灰赤色10R5/2～灰白色10YR7/1。 ○鍔下煤付着。 ○溝25－2～3。
42	土師器・大皿		14.7 2.7	ほぼ完形	○平底から口縁部までなだらかに内彎しながらつづく。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。他はナデ。 ○底部外面に指押さえ。	○精緻、微砂粒、くさり礫を含む。 ○にぶい黄橙色10YR7/3。 ○内外面一部煤けている。 ○溝25－2～3。
43			14.6 3.1	1/4	○丸底気味の底部から口縁部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。他はナデ。 ○底部外面に指押さえ。	○精緻、白・黒色微砂粒を含む。 ○にぶい黄橙色10YR7/3。 ○溝25－1。
44			14.6 2.5	1/3	○平底から口縁部まで内彎しながらつづく。 ○口縁端部は上方へつまみ上げ、丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。他はナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、微砂粒、くさり礫を含む。 ○にぶい黄橙色10YR7/3。 ○溝25－2～3。
45			14.2 (2.3)	1/8	○平底から口縁部まで内彎しながらつづく。 ○口縁端部は上方へつまみ上げ、丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。他はナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白・黒色微砂粒、くさり礫を含む。 ○浅黄橙色10YR8/3。 ○溝25－3。
46			14.1 2.9	1/12	○平底から口縁部まで内彎しながらつづく。 ○口縁端部は上方へつまみ上げ、丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。他はナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、黒色微砂粒を含む。 ○内面黒褐色10YR3/1～灰白色10YR7/1、外面灰白色N8/。 ○底部中央に焼成後の穿孔(径1cm)。 ○溝25－2～3。

番号	器種	器形	法量 (cm)	残存	形態の特徴	技法の特徴	備考
47	土師器	大皿	12.4 2.3	1/3	○上げ底気味の底部から屈曲して外上方へ開く口縁部。 ○口縁端部は更に外方へ向き、丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。他はナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白・黒色微砂粒、くさり礫を含む。 ○にぶい橙色7.5Y R7/4～褐灰色7.5Y R4/1。 ○溝25－1。
48			12.3 2.3	1/4	○平底から口縁部までなだらかに内彎しながらつづく。 ○口縁端部は上方へつまみ上げ、やや尖り気味。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。他はナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、黒色微砂粒、くさり礫を多く含む。 ○灰白色2.5Y8/2。 ○溝25－3。
49	土師器	小皿	9.4 1.3	1/2	○平底から屈曲して外上方へ開く口縁部。 ○口縁端部は更に外方へ向き、やや尖り気味。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。他はナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白色微砂粒を含む。 ○浅黄橙色10Y R8/3～灰白色10Y R8/2。 ○溝25－2～3。
50			9.2 2.2	完形	○中央部が上げ底気味の底部から、なだらかに内彎しながらつづく。 ○口縁端部は上方へつまみ上げ、丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。他はナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、黒色微砂粒、くさり礫を多く含む。 ○内面灰白色10Y R8/2、外面にぶい橙色5Y R7/4。 ○溝25－2。
51			9.2 2.0	完形	○丸底気味の底部から口縁部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縁端部はやや尖り気味。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。他はナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白色微砂粒を含む。 ○灰黄色2.5Y6/2。 ○溝25－2～3。
52			9.2 1.8	完形	○丸底気味の底部から口縁部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白・黒色微砂粒、くさり礫を含む。 ○にぶい橙色5Y R7/4～にぶい黄橙色10YR7/3。 ○溝25－2。
53			9.2 1.8	完形	○丸底気味の底部から口縁部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縁端部は少し尖り気味。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白・黒色微砂粒くさり礫を含む。 ○内面褐灰色7.5Y R5/1外面灰白色10Y R8/2。 ○溝25－3。
54			9.1 2.3	1/2	○丸底気味の底部から口縁部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白色砂粒を多く含む。 ○オリーブ灰色10Y5/2～灰色N5/。 ○溝25－2・3。
55			9.0 1.8	完形	○丸底気味の底部から口縁部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白色砂粒を含む。 ○灰白色10Y R8/1。 ○溝25－2・3。
56			8.8 2.2	1/2	○丸底気味の底部から口縁部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白・黒色微砂粒を含む。 ○橙色7.5Y R7/6。 ○溝25－3。
57			8.6 1.5	1/2	○丸底気味の底部から口縁部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、黒色微砂粒、くさり礫を含む。 ○灰白色10Y R8/2。 ○溝25－2。
58			8.5 1.6	完形	○中央部が上げ底気味の底部から、なだらかに内彎しながら口縁部につづく。 ○口縁端部は丸く納める。 ○底部の中央が肉薄になる。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白・黒色微砂粒、くさり礫を含む。 ○にぶい黄橙色10YR6/3～橙色7.5YR6/6。 ○溝25－1。
59			8.5 1.7	1/2弱	○丸底気味の底部から口縁部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白・黒色微砂粒を含む。 ○にぶい黄橙色10Y R7/2。 ○溝25－2・3。
60			8.4 1.4	1/4	○平底から屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白・黒色微砂粒を含む。 ○内面橙色2.5Y R6/6、外面にぶい橙色7.5YR7/4。 ○溝25－3。

番号	器種	器形	法量(cm)	残存	形態の特徴	技法の特徴	備考
61	土師器・小皿		8.4 1.5	ほぼ完形	○平底から屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白・黒色砂粒を含む。 ○浅黄色2.5Y7/3。 ○溝25－1。
62			8.2 1.5	完形	○平底から屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縁端部はやや尖り気味。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白・黒色砂粒を含む。 ○にぶい黄橙色10Y R7/3。 ○溝25－1。
63			8.4 1.3	1/2	○中央部が上げ底気味の底部から、なだらかに内彎しながら口縁部につづく。 ○口縁端部はやや尖り気味。 ○底部の中央が肉薄になる。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白・黒色砂粒、くさり礫を含む。 ○内面浅黄橙色7.5Y R8/3、外面浅黄橙色7.5Y R8/4。 ○溝25－1。
64			8.4 1.5	1/4	○丸底気味の底部から、口縁部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縁端部は上方へつまみ上げ、尖り気味。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白・黒色砂粒、くさり礫を含む。 ○にぶい黄橙色10Y R7/3。 ○溝25－3。
65			8.4 2.2	完形	○中央部が上げ底気味の底部から、なだらかに内彎しながら口縁部につづく。 ○口縁端部は上方へつまみ上げ、丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、黒色微砂粒、くさり礫を含む。 ○灰白色10Y R8/2。 ○溝25－2。
66			8.3 1.6	完形	○丸底気味の底部から、口縁部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縁端部はやや尖り気味。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、微砂粒を含む。 ○浅黄色2.5Y7/3。
67			8.3 1.5	完形	○丸底気味の底部から、口縁部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白・黒色砂粒、くさり礫を含む。 ○灰白色10Y R8/2。 ○溝25－1。
68			8.3 1.4	完形	○中央部が上げ底気味の底部から、なだらかに内彎しながら口縁部につづく。 ○口縁端部はやや尖り気味。 ○底部の中央が肉薄になる。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白・黒色砂粒、くさり礫を含む。 ○にぶい橙色7.5YR7/4。 ○溝25－3。
69			8.3 1.2	1/3	○平底から屈曲して外上方へ伸びる口縁部。 ○口縁端部は上方へつまみ上げ、丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白・黒色砂粒、くさり礫を含む。 ○内面淡黄色2.5Y8/3、外面灰黄色2.5Y7/2。 ○溝25－1。
70			8.3 1.8	完形	○平底から屈曲して外上方へ伸びる口縁部。 ○口縁端部は上方へつまみ上げ、丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、黒色微砂粒、くさり礫を含む。 ○にぶい黄橙色10Y R7/3。 ○溝25－2。
71			8.2 1.5	1/3	○平底から屈曲して外上方へ伸びる口縁部。 ○口縁端部は上方へつまみ上げ、丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白・黒色砂粒、くさり礫を含む。 ○内面浅黄橙色10Y R8/3、外面淡黄色2.5Y8/3。 ○溝25－1。
72			8.2 1.5	完形	○平底から屈曲して外上方へ伸びる口縁部。 ○口縁端部は上方へつまみ上げ、丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白・黒色砂粒、くさり礫を含む。 ○浅黄橙色10Y R8/3。 ○溝25－1。
73			8.2 1.4	1/3	○上げ底気味の底部から、屈曲して外上方へ伸びる口縁部。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白・黒色砂粒、くさり礫を含む。 ○浅黄橙色10Y R8/3。 ○溝25－1。
74			8.2 1.1	1/3	○上げ底気味の底部から、屈曲して外上方へ伸びる口縁部。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白・黒色砂粒を含む。 ○淡黄色2.5Y8/3。 ○溝25－1。
75			8.1 1.2	1/2弱	○平底から口縁部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縁端部は更に外方へ向き面をもつ。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白・黒色砂粒、くさり礫を含む。 ○浅黄橙色7.5Y R8/4。 ○溝25－1。

番号	器形	法量 (cm)	残存	形態の特徴	技法の特徴	備考
76	土師器・小皿	8.1 1.5	1/2強	○やや小さい底部から口縁部が屈曲後、外彎しながら開く。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白・黒色砂粒、くさり礫を含む。 ○淡黄色5Y8/3。 ○溝25－1。
77		8.0 1.4	1/2弱	○平底から口縁部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縁端部は上方へつまみ上げ、やや尖り気味。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白・黒色砂粒を含む。 ○内面橙色2.5Y R6/8、外面にぶい橙色7.5YR 6/6。 ○溝25－1。
78		7.9 1.5	1/3強	○中央部が上げ底気味の底部から、口縁部までなだらかに内彎しながらつづく。 ○口縁端部は上方へつまみ上げ、丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白・黒色砂粒、くさり礫を含む。 ○灰白色2.5Y8/2。 ○溝25－1。
79		7.9 1.3	1/4	○平底から口縁部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縁端部はやや尖り気味。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白・黒色砂粒、くさり礫を含む。 ○内面灰白色7.5Y R8/2、外面浅黄橙色7.5Y R8/3。 ○口縁部内外面一部煤けている。 ○溝25－1。
80		7.9 1.3	1/2強	○平底から口縁部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縁端部はやや尖り気味。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白・黒色砂粒、くさり礫を含む。 ○内面橙色7.5Y R7/6、外面橙色Y R6/6。 ○溝25－1。
81		7.8 1.6	完形	○中央部が上げ底気味の底部から、口縁部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縁端部はやや尖り気味。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、砂粒を含む。 ○にぶい黄橙色10Y R7/3。
82		7.8 1.5	1/6	○平底。底部と口縁部の境は厚くなり外方に出張り気味で口縁部が外上方へ伸びる。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白・黒色微砂粒、くさり礫を含む。 ○浅黄色7.5Y R8/4。 ○溝25－1。
83		7.8 1.2	1/3	○平底から口縁部までなだらかに内彎しながらつづく。 ○口縁端部は外方へ面をもつ。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白・黒色微砂粒、くさり礫を含む。 ○淡橙色5Y R8/3。 ○溝25－1。
84		7.5 1.2	1/3	○上げ底気味の底部から、口縁部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縁端部は上方へつまみ上げ、丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白・黒色微砂粒、くさり礫を含む。 ○にぶい黄橙色10Y R6/4。 ○溝25－1。
85		7.8 1.4	完形	○上げ底気味の底部から、口縁部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縁端部はやや尖り気味。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、微砂粒を含む。 ○にぶい黄橙色10Y R7/3。 ○溝25－1。
86		7.6 1.3	1/3	○中央部が上げ底気味の底部から口縁部までなだらかに内彎しながらつづく。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白・黒色砂粒、くさり礫を含む。 ○内面にぶい橙色7.5YR 6/4、 外面にぶい褐色7.5YR 6/3。 ○溝25－1。
87		7.5 1.4	完形	○平底から口縁部までなだらかに内彎しながらつづく。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、微砂粒を含む。 ○にぶい黄橙色10Y R7/3。 ○溝25－1。
88		7.5 1.2	完形	○平底から口縁部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縁端部は尖り気味。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、微砂粒を含む。 ○にぶい黄橙色10Y R7/3。 ○溝25－1。
89	須恵器・捏鉢	28.8 (8.6)	1/6	○直線的に外方へ開く体部。 ○口縁部は下端部を下方に拡張し丸く納める。 ○体部内外面はロクロナデにより凹凸が残る。	○内外面はロクロナデ。	○やや粗、白色砂粒を多く含む。 ○灰オリーブ2.5GY6/1。 ○東播系。 ○溝25－2・3。

番号	器形	法量(cm)	残存	形態の特徴	技法の特徴	備考
90	須恵器・捏鉢	16.4 4.6	1/2弱	○直線的に外方へ開く体部。 ○口縁部は下端部を下方に拡張し丸く納める。 ○体部内外面はロクロナデにより凹凸が残る。	○内外面はロクロナデ。 ○見込みに指押さえで円周の溝。 ○底部外面、ゲタ痕。	○やや粗、白色砂粒を多く含む。 ○灰色N6/。 ○溝25－3。
91		21.6 6.5	1/4	○直線的に外方へ開く体部。 ○口縁部は上下端を拡張し丸く納める。 ○体部内外面はロクロナデにより凹凸が残る。	○内外面はロクロナデ。 ○底部外面に静止糸切り痕。	○やや粗、白色砂粒を含む。 ○灰色N4/～5/。 ○口縁端面に自然袖。 ○東播系。 ○溝25－2・3。
92	国産陶器・常滑焼甕	45.2 (61.7)		○底部から腰部までなだらかにひろがり肩部は内傾する。 ○頸部は屈曲し、下位は内傾、上位は少し直立する。口縁部は外反する。 ○口縁端部は上・下に肥厚する。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○粗、粗い砂粒を含む。 ○釉 暗オリーブ色7.5Y 4/3～オリーブ黒色7.5Y3/2、 素地 黒褐色2.5Y3/2 ○内外面灰かぶり(灰白色7.5Y7/1)。 ○溝25－3。
93	輸入磁器 青磁碗	19.4 (4.5)	1/8	○底部を欠く。 ○体部は直線的に外上方に開き口縁部は屈曲する。	○全面をロクロナデ。 ○内面に片彫りによる文様。	○精良。 ○釉 灰オリーブ7.5YR 6/2、 素地 灰白色N8/。
94	輸入磁器 白磁碗	底 4.6 高 (1.8)	1/2弱	○底部のみ。 ○肉厚の底部から内彎しながら体部へつづく。 ○高台は断面方形。	○高台はヘラ削り。 ○内面に施釉。	○精良、黒色砂粒を含む。 ○釉・素地とも灰白色N8/。

溝20出土瓦器・土師器・東播系須恵器・国産陶器・中国製磁器・須恵器・軒瓦他

番号	器形	法量(cm)	残存	形態の特徴	技法の特徴	備考
95	瓦器・椀	14.9 5.3 5.7 ※35.7	ほぼ完形	○丸味をもった深い椀形の体部から口縁部は少し屈曲して外彎気味に開く。 ○口縁端部は浅い沈線。 ○高台は断面三角形。	○口縁内外面をヨコナデ。 ○口縁部から体部下位まで粗いミガキ。3分割。 ○内面は密なミガキ。 ○見込みに螺線状の暗文。 ○高台はナデつけ。	○精緻、微砂粒を含む。 ○暗灰色N3/。 ○溝20セキ。
96		14.6 4.9 3.7 ※33.6	1/4	○丸底から体部は内彎して外上方に立上がり、口縁部は少し屈曲して外彎気味に開く。 ○口縁端部はゆるく内傾して沈線をもつ。 ○高台は断面三角形。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○口縁部から体部下位まで粗いミガキ。 ○内面は密なミガキ。 ○見込みに連結輪状の暗文。 ○高台はナデつけ。	○精緻、微砂粒を含む。 ○暗灰色N3/。 ○溝20－3。
97		14.6 4.9 4.5 ※33.6	1/2強	○丸底から体部は内彎して外上方に立上がり、口縁部は少し屈曲して外彎気味に開く。 ○口縁端部はゆるく内傾して沈線をもつ。 ○高台は断面三角形。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○体部外面に掌紋。口縁部に粗いミガキ。 ○内面はやや粗いミガキ。 ○見込みに同心円文の暗文(2重)。 ○高台はナデつけ。	○精緻。 ○暗灰色N3/～灰白色5Y7/1。 ○溝20－3。
98		14.5 5.1 4.5 ※35.2	1/4	○少し丸底から体部は内彎して外上方に立上がり、口縁部は少し屈曲して外彎気味に開く。 ○口縁端部はゆるく内傾して沈線をもつ。 ○高台は断面三角形。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○体部外面は指押え。口縁部に粗いミガキ。 ○内面はほぼ密なミガキ。 ○見込みに連結輪状の暗文。 ○高台はナデつけ。	○精緻、微砂粒を含む。 ○灰色N5/。 ○溝20－2。
99		底 4.7 (3.9)	底部のみ完形	○丸底から体部は内彎して外上方に立上がる。 ○高台は断面台形。	○内面は密なミガキ。 ○体部外面はナデ。 ○見込みに同心円文の暗文(4重)。 ○高台はナデつけ。	○精緻、微砂粒を含む。 ○暗灰色N3/。 ○溝20－3。
100		12.7 3.3 3.2 ※26.0	1/2	○丸底から体部は内彎しながら口縁部までなだらかに開く。 ○口縁端部は丸く納める。 ○高台の形は大きさが不均一。	○口縁部内面、外面をヨコナデ。 ○口縁部から体部下位まで粗いミガキ。 ○内面は口縁部に粗いミガキ。体部上位～見込みは平行線の暗文。 ○高台はナデつけ。	○精緻、白色砂粒を含む。 ○内面灰色N6/、 外面暗灰色N3/。 ○溝20－2。
101		10.4 2.5 ※23.6	1/6	○丸底からゆるく内彎して開く体部。 ○口縁端部は少し外方に向き丸く納める。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○体部外面は指押え。 ○体部内面はナデの上に粗いミガキ。	○精緻、白色微砂粒を含む。 ○灰色N4/。 ○溝20－2。
102		11.4 (2.9)	1/4強	○丸底からゆるく内彎して開く体部。 ○口縁端部は少し外方に向き丸く納める。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○体部外面は指押え。 ○体部内面はナデの上に粗いミガキ。	○やや粗、白・黒色砂粒を含む。 ○灰白色10Y8/1。 ○溝20－3。

番号	器種器形	法量(cm)	残存	形態の特徴	技法の特徴	備考
103	瓦器・椀	15.0 (4.2)	1/3	○丸底からゆるく内彎して開く体部。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○体部外面は指押え。 ○体部内面はナデの上に粗いミガキ。	○やや粗、白色砂粒を含む。 ○灰色N5/～灰白色N8/。 ○溝20－2。
104		10.4 2.5 ※24.2	完形	○丸底からゆるく内彎して開く体部。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○体部外面は指押え。 ○体部内面はナデの上に粗いミガキ。	○やや粗、白・黒色砂粒を含む。 ○灰色N4/～6/。 ○溝20－3。
105		12.8 (2.9)	1/3	○丸底からゆるく内彎して開く体部。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○体部外面は指押え。 ○体部内面はナデの上に粗いミガキ。	○やや粗、白色砂粒を含む。 ○暗灰色N3/。 ○溝20－3。
106	瓦器・小皿	10.2 1.7	1/3	○平底からゆるやかに屈曲して外上方に立ち上がる口縁部。 ○口縁端部は少し外方に向き、やや尖り気味。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○見込みはナデの上にジグザグ状の密な平行線の暗文。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白色砂粒を含む。 ○灰色N4/。 ○溝20－2。
107		9.0 1.5	1/2弱	○中央部が上げ底気味の底部から口縁部が屈曲して、外上方へ伸びる。 ○口縁端部はやや尖り気味。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○見込みはナデの上にジグザグ状の平行線の暗文。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻。 ○灰色N4/。 ○溝20－3。
108		9.1 1.9	1/2弱	○平底からゆるやかに外彎してつづく口縁部。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○見込みは幅の広いミガキ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白色砂粒を含む。 ○灰色N6/。 ○溝20－3。
109		8.0 1.7	ほぼ完形	○平底から屈曲して外上方へ伸びる口縁部。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○見込みはナデの上にジグザグ状の平行線の暗文。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻。 ○灰色N4/。 ○溝20－3。
110	土師器・大皿	13.8 2.2		○平底から口縁部までなだらかに内彎しながらつづく。 ○口縁端部は上方へつまみあげ丸く納める。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○見込みはナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○やや粗、白・黒色砂粒・くさり礫を含む。 ○内面にぶい橙色7.5YR7/3、 外面にぶい黄橙色10YR7/2。 ○溝20－3。
111		12.4 2.5		○やや丸底気味の底部から口縁部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○見込みはナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○やや粗、白・黒色砂粒・くさり礫を含む。 ○にぶい橙色7.5YR7/3。 ○一部煤ける。 ○溝20－2。
112		11.1 2.0	1/8	○平底から口縁部までなだらかに内彎しながらつづく。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○見込みはナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白・黒色砂粒を含む。 ○内面褐灰色10YR5/1、 外面にぶい黄橙色10YR7/3。 ○内面煤ける。 ○溝20－1。
113		11.0 2.1	1/4弱	○やや丸底気味の底部から口縁部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縁端部は上方へつまみ上げ丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白・黒色砂粒を含む。 ○内面淡黄色2.5Y8/3、 外面浅黄橙色10YR8/3。 ○溝20－2。
114		10.6 1.7	完形	○平底から屈曲して外彎しながら外上方に伸びる口縁部。 ○口縁端部は更に屈曲し丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白色砂粒・くさり礫を含む。 ○内面淡黄色2.5Y8/3、 外面浅黄橙色10YR8/4。 ○溝20－2。
115		10.5 2.0	1/3	○平底から屈曲して外彎しながら外上方に伸びる口縁部。 ○口縁端部は更に屈曲し丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白色砂粒を含む。 ○内面灰白色5Y8/2、 外面浅黄色2.5Y7/3。 ○溝20－2。
116		10.4 1.9	ほぼ完形	○平底から屈曲して外彎しながら外上方に伸びる口縁部。 ○口縁端部は更に屈曲し丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白色砂粒・くさり礫を含む。 ○浅黄色2.5Y7/3。 ○溝20－3。
117		10.4 1.8	1/4	○平底から口縁部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白色砂粒・くさり礫を含む。 ○内面にぶい黄橙色10YR7/3、 外面浅黄色2.5Y7/3。 ○溝20－2。

番号	器種	器形	法量 (cm)	残存	形態の特徴	技法の特徴	備考
118	土師器・小皿		9.5 1.7	完形	○やや丸底気味の底部から口縁部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白色砂粒を含む。 ○内面にぶい黄橙色10YR6/4、外面橙色5YR6/6。 ○溝20－3。
119			9.3 1.3	1/2弱	○平底から口縁部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白・黒色砂粒を含む。 ○灰白色10YR8/2。 ○溝20－2。
120			8.6 1.1	1/4強	○平底から口縁部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、黒色砂粒を含む。 ○浅黄橙色10YR8/3。 ○溝20－2。
121			8.6 1.5	1/2弱	○平底から口縁部までなだらかに内彎しながらつづく。 ○口縁端部は上方へつまみ上げ尖り気味。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白・黒色砂粒を含む。 ○橙色2.5YR7/6～浅黄橙色7.5YR8/4。 ○溝20－2。
122			8.5 1.3	1/2弱	○平底。底部と口縁部の境は厚くなり外方に出張り気味で口縁部が外上方へ伸びる。 ○口縁端部は上方へつまみ上げ尖り気味。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白色砂粒を含む。 ○灰白色10YR8/2～5Y8/1。 ○溝20－2。
123			8.4 1.3	1/2	○平底から口縁部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白色砂粒を含む。 ○浅黄橙色7.5YR8/3～灰白色2.5Y8/2。 ○溝20－3。
124			8.4 1.2	1/3	○平底から口縁部までなだらかに外彎しながらつづく。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、黒色砂粒を含む。 ○内面浅黄橙色7.5YR8/3、外面淡赤橙色2.5YR7/3。 ○溝20－2。
125			8.3 1.3	ほぼ完形	○平底から口縁部までなだらかに内彎しながらつづく。 ○口縁端部は上方へつまみ上げ尖り気味。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白色砂粒を含む。 ○灰白色5Y8/1～にぶい橙色5YR7/3。 ○溝20－3。
126			8.2 1.1	1/4	○平底から屈曲して外反しながら外上方に伸びる口縁部。 ○口縁端部は更に屈曲し丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白・黒色砂粒、くさり礫を含む。 ○浅黄橙色7.5YR8/3。 ○溝20－3。
127			8.0 1.3	1/4	○平底。底部と口縁部の境は厚くなり外方に出張り気味で口縁部が外上方へ伸びる。 ○口縁端部は上方へつまみ上げ尖り気味。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、黒色砂粒を含む。 ○内面灰白色10YR8/2、外面にぶい黄橙色10YR7/2。 ○溝20－2。
128			8.2 1.6	1/3	○中央部が上げ底気味の底部から口縁部までなだらかに内彎しながらつづく。 ○口縁端部は上方へつまみ上げ丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白・黒色砂粒を含む。 ○内面浅黄色2.5Y8/3、外面にぶい黄橙色10YR7/3。 ○溝20－2。
129			8.2 1.5	2/3	○平底から口縁部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縁端部は上方へつまみ上げ丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、微砂粒を含む。 ○浅黄色2.5Y7/3～にぶい黄橙色10YR6/3。 ○溝20－3。
130			8.1 1.3	1/2弱	○中央部が上げ底気味の底部から口縁部までなだらかに内彎しながらつづく。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白・黒色砂粒、くさり礫を含む。 ○内面浅黄橙色7.5YR8/3、外面にぶい橙色7.5YR7/4。 ○溝20－2。
131			8.0 1.5	1/4	○平底から口縁部が屈曲して外上方に伸びる。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白・黒色砂粒を含む。 ○灰白色10YR8/2。 ○溝20－3。
132			8.2 1.1	1/2弱	○平底から口縁部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縁端部は上方へつまみ上げ、やや尖り気味。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白・黒色砂粒を含む。 ○灰白色10YR8/2。 ○溝20－3。

番号	器種	器形	法量(cm)	残存	形態の特徴	技法の特徴	備考
133	土師器・小皿		7.9 1.5	1/2弱	○やや小さい底部から口縁部が屈曲後、外彎しながら開く。 ○口縁端部は上方へつまみ上げ、尖り気味。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、黒色砂粒を含む。 ○浅黄橙色10YR8/3。 ○溝20－2。
134			7.9 1.4	ほぼ完形	○丸底気味の底部から口縁部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縁端部は尖り気味。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白色砂粒、くさり礫を含む。 ○浅黄橙色7.5YR8/3～灰白色5YR8/2。 ○溝20－2。
135			7.9 1.5	1/2弱	○丸底気味の底部から口縁部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縁端部は尖り気味。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白・黒色砂粒を含む。 ○内面灰白色10YR8/2、外面にぶい黄橙色10YR7/3。 ○溝20－2。
136			7.9 1.2	ほぼ完形	○平底から口縁部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縁端部は尖り気味。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白色砂粒を含む。 ○内面黄橙色7.5YR7/8、外面黄橙色7.5YR8/8。 ○溝20－2。
137			7.9 1.2	完形	○平底から口縁部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縁端部は尖り気味。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白・黒色砂粒、くさり礫を含む。 ○内面にぶい黄橙色10YR7/4、外面にぶい黄橙色10YR7/3。 ○溝20－2。
138			7.9 1.3	1/2弱	○平底から口縁部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縁端部は尖り気味。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○粗、白・黒色砂粒、くさり礫を多く含む。 ○浅黄橙色10YR8/3。 ○溝20－2。
139			7.8 1.4	1/3	○丸底気味の底部から口縁部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白・黒色砂粒、くさり礫を含む。 ○にぶい黄橙色10YR7/2。 ○溝20－3。
140			7.8 1.4	1/4	○中央部が上げ底気味の底部から口縁部までなだらかに内彎しながらつづく。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白・黒色砂粒を含む。 ○内面～口縁部外面褐灰色10YR5/1(煤ける)。底部外面浅黄橙色10YR8/3。 ○溝20－3。
141			7.8 1.5	1/2強	○中央部が上げ底気味の底部から口縁部までなだらかに内彎しながらつづく。 ○口縁端部は更に水平近く屈曲し丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白色砂粒、くさり礫を含む。 ○浅黄橙色10YR8/3～灰白色2.5Y8/2。 ○溝20－3。
142			7.8 1.2	ほぼ完形	○中央部が上げ底気味の底部から口縁部までなだらかに内彎しながらつづく。 ○口縁端部は上方へつまみ上げ尖り気味。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白色砂粒を含む。 ○灰白色10YR8/2～5Y8/2。 ○溝20－2。
143			7.8 1.2	完形	○平底。底部は外方に出張り気味で口縁部が外上方に伸びる。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白色砂粒を含む。 ○内面浅黄橙色10YR8/3、外面灰白色2.5Y8/2。 ○溝20－2。
144			7.8 1.3	ほぼ完形	○やや丸底気味の底部から口縁部までなだらかに内彎しながらつづく。 ○口縁端部は上方へつまみ上げ丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白色砂粒を含む。 ○にぶい赤橙色10YR6/3～灰白色5YR8/2。 ○溝20－2。
145			7.7 1.4	1/2弱	○平底から口縁部までなだらかに内彎しながらつづく。 ○口縁端部は上方へつまみ上げ尖り気味。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白・黒色砂粒、くさり礫を含む。 ○浅黄橙色10YR8/3。 ○溝20－2。
146			7.6 1.3	1/4	○中央部が上げ底気味の底部から口縁部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縁端部は上方へつまみ上げ丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白・黒色砂粒を含む。 ○内面灰白色10YR8/2、外面浅黄橙色10YR8/3。 ○溝20－3。

番号	器種	器形	法量(cm)	残存	形態の特徴	技法の特徴	備考
147	土師器・小皿		7.4 1.5	完形	○中央部が上げ底気味の底部から口縁部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縁端部は上方へつまみ上げ尖り気味。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白・黒色砂粒、くさり礫を含む。 ○灰白色5YR8/1～にぶい橙色7.5YR6/4。 ○溝20－2。
148			7.3 1.4	ほぼ完形	○平底から口縁部までなだらかに内彎しながらつづく。 ○口縁端部はやや尖り気味。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、微砂粒を含む。 ○浅黄橙色10YR8/3。 ○溝20－2。
149			7.2 1.6	1/8	○丸底気味の底部から口縁部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、黒色微砂粒を含む。 ○にぶい橙色10YR7/2～7/4。 ○溝20－3。
150			7.2 1.3	1/4弱	○中央部が上げ底気味の底部から口縁部までなだらかに内彎しながらつづく。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、黒色微砂粒を含む。 ○内面灰白色5YR8/2、外面灰白色5Y7/1。 ○溝20－2。
151			7.2 1.2	1/4	○平底。底部は外方に出張り気味で口縁部が外上方へ伸びる。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、黒色微砂粒を含む。 ○内面灰白色2.5Y8/2、外面浅黄橙色10YR8/3。 ○溝20－1。
152	土師器・羽釜		21.8 (6.7)	1/8	○体部はほぼまっすぐ立ち、肩部は内傾して、口縁部が水平近く内反する。 ○口縁端部は外側に巻き込み、張り付け状にする。 ○鍔は水平につき、断面方形。	○口縁部内外面～鍔部周辺部までヨコナデ。 ○体部内外面はナデ。	○粗、白・黒色砂粒を多く含む。 ○浅黄橙色7.5YR8/4。 ○内面煤付着。 ○溝20－2。
153			27.2 (6.0)	1/4弱	○内傾する体部から「く」の字状に外折する口縁部。 ○口縁端部は上方に少し肥厚し丸く納める。	○口縁部内外面～鍔部周辺部までヨコナデ。 ○体部内外面はナデ。	○粗、白・黒色砂粒を多く含む。 ○口縁部内面～外面灰白色10YR7/1～黒色10YR2/1体部内面灰白色10YR8/2。 ○溝20－3。
154			29.0 (8.0)	1/4	○内傾する体部から「く」の字状に外折する口縁部。 ○口縁端部は内側に巻き込み、張り付け状にする。	○口縁部内外面～鍔部周辺部までヨコナデ。 ○体部内外面はナデ。	○粗、白・黒色砂粒を多量くさり礫を含む。 ○灰白色10YR3/2。 ○内外共煤ける。 ○溝20－3。
155			33.8 (15.0)	1/4弱	○内傾する体部から「く」の字状に外折する口縁部。 ○口縁端部は内側に巻き込み、張り付け状にする。	○口縁部内外面～鍔部周辺部までヨコナデ。 ○体部内外面はナデ。	○やや粗、白・黒色砂粒を含む。 ○灰白色7.5YR8/1。 ○内面煤ける。 ○溝20－2。
156			30.0 (8.5)	1/8	○内傾する体部から、口縁部は短く外折する。端部は丸い。	○口縁部内外面～鍔部周辺部までヨコナデ。	○粗、白・黒色砂粒を多く含む。 ○口縁部内外面橙色5YR7/6、体部外面褐灰色5YR4/1。 ○外面煤ける。 ○溝20－3。
157			33.0 (6.1)	1/6	○体部はほぼまっすぐ立ち口縁部は短く外折する。端部は丸い。	○口縁部内外面～鍔部周辺部までヨコナデ。	○やや粗、白色砂粒、くさり礫を含む。 ○橙色7.5YR7/6～灰白色7.5Y8/1。 ○溝20－2。
158			29.2 (8.9)	1/6	○肩部に水平方向の鍔が付き口縁部は内方に向く。 ○口縁端部はやや肥厚する。	○口縁部内外面～鍔部周辺部までヨコナデ。 ○体部内外面はナデ。	○やや粗、白色砂粒、くさり礫を含む。 ○橙色5YR6/6～黒色5Y2/1。 ○体部外面煤付着。 ○溝20－2。
159	須恵器・杯蓋		11.6 4.0	1/2強	○口縁部は、垂直に下り、端部は尖り気味。 ○天井部は比較的浅く、約1/3は平らである。	○天井部の2/3に回転ヘラ削り調整。	○やや粗、白色砂粒、くさり礫を含む。 ○内面灰色5Y6/1、外面灰色5N7/1。 ○溝20－2。

番号	器形 器種	法量 (cm)	残存	形態の特徴	技法の特徴	備考
160	須恵器・杯蓋	13.4 (4.1)	1/6	○天井部と口縁部とをわける凹線や稜は全くみとめられない。	○天井部の2/3に回転ヘラ削り調整。	○やや粗、白色砂粒を含む。 ○灰白色10Y8/1。 ○溝20－3。
161		12.0 (4.2)	1/2弱	○端部は内傾して、端面と内・外面とを分ける稜線は明瞭である。	○天井部の2/3に回転ヘラ削り調整。	○やや粗、白色砂粒を含む。 ○灰色5Y7/1。 ○溝20－3。
162		19.6 (1.9)	1/4	○口縁端部は下方へ短く屈曲し、先端はにぶい稜をなす。	○天井部は粗くヘラ削り。	○精緻、白色砂粒を含む。 ○青灰色5B6/1。 ○溝20－3。
163	須恵器・杯身	13.3 (2.4)	1/6	○たちあがりは矮小化し、受部はやや上向きに外方へ伸びる。		○精緻、白色微砂粒を含む。 ○灰白色7.5Y7/1。 ○溝20－3。
164		10.0 (4.9)	1/4	○底部は受部先端から全体に丸く仕上げている。 ○たちあがり端面が内へ傾斜している。	○底部ヘラ削りは1/3強。	○やや粗、白色砂粒を含む。 ○内面灰色N6/、外面暗オリーブ色2.5GY4/1。 ○溝20－3。
165		8.6 (2.2)	1/6	○たちあがりは矮小化し、受部はやや上向きに外方へ伸びる。		○やや粗、白色砂粒を含む。 ○内面灰白色N7/。 ○溝20－2。
166		底 9.3 (1.9)	1/4	○高台はあまり高くなく、わずかに外方へふんばる。 ○脚端面がほぼ水平。	○内面はヨコナデ調整。	○精緻、白色微砂粒を含む。 ○青灰色5BG6/1。 ○溝20－3。
167	須恵器・甕	27.6 (4.5)	1/12	○口頸部は短く、外反部が大である。 ○口縁端部に段をなし、面をもつ。	○外面に斜めの平行叩き。	○粗、白・黒色砂粒を多く含む。 ○灰白色N7/～灰色N5/。 ○溝20－3。
168	須恵器 捏鉢	25.6 (5.7)	1/8	○体部から口縁部まで直線的に開く。 ○口縁端部は上下に肥厚し、外端面をもつ。	○内外面をロクロナデ。	○粗、白色砂粒を多く含む。 ○灰色N6/～4/。 ○溝20－2。 ○東播系
169	瓦器・擂鉢	24.6 (6.9)		○体部から口縁部まで直線的に開く。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○体部内面をナデの後、５条の擂目。 ○体部外面を指押さえ。	○粗、白色砂粒を多く含む。 ○灰色N4/。 ○溝20－2。
170	輸入磁器 白磁碗	15.5 (4.7)		○体部から口縁部まで直線的に開く。 ○口縁端部は下端部が肥厚する。	○口縁部外面をヨコナデ。 ○内面をナデ。 ○体部外面をロクロ削り。 ○体部上位まで施釉。	○精良。 ○素地 白灰色7.5GY8/2、釉 白灰色2.5GY8/1。
171	輸入磁器・青磁皿	7.8 (1.9)	1/8	○屈曲して外反しながら外上方に伸びる口縁部。 ○口縁端部は上方へつまみ上げ、丸く納める。	○口縁部内外面をロクロナデ。	○精良。 ○素地 白灰色N7/、釉 オリーブ灰色2.5GY6/1。 ○溝20－2。
172	輸入磁器 白磁皿	底 3.0 3.7	1/4弱	○平底から屈曲して外反しながら外上方に伸びる口縁部。 ○口縁端部は更に外反し面をもつ。	○口縁部内外面をロクロナデ。 ○底部外面を糸切り。	○精良。 ○素地 灰白色N8/、釉 灰白色2.5GY8/1。 ○溝20－3。
173	輸入磁器・青磁碗	底 5.2 (2.3)	1/2	○厚い平底から、見込みと体部の間にやや凹みをつくってから立ち上がる。 ○高台は低い。	○見込みはロクロナデ。 ○高台は削り出し。	○精良。 ○素地 灰白色N7/、釉 オリーブ灰色10Y6/2。 ○溝20－2。
174	国産陶器・緑釉碗	底 8.1 (1.3)	1/6	○平底。 ○高台は低い。	○高台は削り出し。	○精良。 ○素地 にぶい橙色5YR7/4、釉 オリーブ黒色10Y3/1。 ○溝20－3。
175	輸入磁器・青磁碗	底 5.5 (2.3)	3/4	○厚い平底から、見込みと体部の間にやや凹みをつくってから立ち上がる。 ○高台は低い。	○高台は削り出し。	○精良。 ○素地 灰白色N7/、釉 内面オリーブ黄色5Y6/4。 外面灰オリーブ色5Y5/3。 ○溝20－3。

番号	器種	器形	法量(cm)	残存	形態の特徴	技法の特徴	備考
176	輸入磁器	青磁碗	底 5.0 (3.0)	1/3	○平底から、やや内彎しながわ大きく開く体部。 ○高台は低い。	○高台は削り出し。	○精良。 ○素地 灰白色N7/、釉 オリーブ灰色10Y6/2。 ○溝20－3。
177	瓦器	甕	24.6 (6.4)	1/6	○内傾する体部に大きく外彎しながら頸部から口縁部につづく。 ○口縁端部は上下に肥厚する。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○頸部内面はナデ。 ○頸部外面を斜め方向の叩き。 ○体部外面を横方向の叩き。	○粗、白色砂粒、くさり礫を含む。 ○暗灰色N3/。 ○溝20－3。
178	土師器	羽釜	21.6 (6.7)	1/8弱	○体部から口縁部まで、内方に少し内彎しながら立つ。 ○口縁端部は内傾し、面をもつ。 ○鍔は断面方形。	○口縁部内外面～鍔部までヨコナデ。 ○体部内面は板状工具によるナデ。 ○体部外面は横方向のヘラ削り。	○粗、白・黒色砂粒を含む。 ○明褐色7.5YR7/2。 ○鍔下部に煤付着。 ○溝20－2。
179	瓦器	足釜	17.6 (6.8)	1/4弱	○内彎する体部から口縁部が少し内傾して立つ。 ○口縁端部は内に面をもつ。	○口縁部内外面～鍔部までヨコナデ。 ○体部外面はナデ。 ○体部内面は横方向にハケ目。	○粗、白・黒色砂粒を含む。 ○内面灰白色5Y7/1、外面灰色N5/(煤付着)。 ○溝20－2。
180			18.4 (5.2)	1/4弱	○内彎する体部から口縁部が少し内傾して立つ。 ○口縁端部は内に面をもつ。	○口縁部内外面～鍔部までヨコナデ。 ○体部外面はナデ。 ○体部内面は横方向にハケ目。	○やや粗、白・黒色砂粒を含む。 ○灰白色N8/～灰色N4/。 ○溝20－2。
181			22.4 (5.8)	1/4	○内彎する体部から口縁部が少し内傾して立つ。 ○口縁端部は内に面をもつ。	○口縁部内外面～鍔部までヨコナデ。 ○体部外面は指押さえ。 ○体部内面はナデ。	○やや粗、白・黒色砂粒を含む。 ○暗灰色N3/。 ○溝20－1。
182			残存長 (10.1) 残存幅 (3.4) 厚 1.5		○断面円形の柱状をなす。 ○先端部を欠く。	○本体との接合面に横方向のハケ目が残る。 ○全面に強いナデ。	○精緻。 ○灰色N4/～灰白色N7/。 ○溝20－3。
183			残存長 (12.0) 残存幅 (4.4) 厚 2.4		○断面円形の柱状をなす。 ○先端部を欠く。	○本体との接合面に横方向のハケ目が残る。 ○全面に強いナデ。	○やや粗、白・黒色砂粒を含む。 ○灰色N4/。 ○溝20－3。
184	軒丸瓦	蓮華文			○周縁は、細く低い外傾縁で素文。 ○花弁は細弁、弁端は円形。 ○外区には連珠文。		○白・黒色砂粒を含む。 ○灰色N5/。 ○溝20－2。
185	軒平瓦	唐草文			○細片のため、顎の形態は不明。 ○周縁はなく、外区に連珠文。	○凹面にわずか布目痕がみられる。	○白・黒色砂粒を含む。 ○灰色N6/。 ○溝20－3。
186	軒平瓦	重孤文			○四重孤文？		○白・黒色砂粒を含む。 ○灰色N6/。 ○溝20－3。
187	軒平瓦	唐草文			○周縁は幅がせまく、中高の素文直立縁。 ○顎は、薄い作りの段顎。	○凹面に布目、凸面に板ナデがみられる。	○白・黒色砂粒を含む。 ○灰色N6/。 ○溝20－3。

溝21出土瓦器・土師器・輸入磁器

番号	器種	器形	法量(cm)	残存	形態の特徴	技法の特徴	備考
188	瓦器	椀	14.5 5.3 4.2 ※36.2	1/2弱	○丸底から体部は内彎して外上方に立ち上がり、口縁部は少し屈曲して外彎気味に開く。 ○口縁端部はゆるく内傾して沈線をもつ。 ○高台は断面三角形。	○口縁部内端、外面をヨコナデ。 ○体部外面に指押さえ。口縁部～体部下位まで粗いミガキ。 ○内面は密なミガキ。 ○見込みに同心円文の暗文。 ○高台はナデつけ。	○精緻、白・黒色微砂粒を含む。 ○灰白色N8/～灰色N4/。
189			14.6 4.8 5.4 ※32.9	1/6	○平底から体部は内彎して外上方に立ち上がり、口縁部は少し屈曲して外彎気味に開く。 ○口縁端部はゆるく内傾して沈線をもつ。 ○高台は断面台形をなすが、痕跡程度、一周しない。	○口縁部内端、外面をヨコナデ。 ○体部外面に指押さえ。口縁部～体部中位まで粗いミガキ。 ○内面は、やや粗いミガキ。 ○見込みに同心円文(？)の暗文がわずかにみられる。 ○高台はナデつけ。	○精緻、白・黒色微砂粒を含む。 ○灰色N4/。 ○溝21－3。

番号	器種	器形	法量(cm)	残存	形態の特徴	技法の特徴	備考
190	瓦器	椀	12.6 3.6 5.0 ※28.6	1/3	○平底から体部は内彎して外上方に立ち上がり、口縁部は少し屈曲して外彎気味に開く。 ○口縁端部はゆるく内傾して沈線をもつ。 ○高台は断面台形。	○口縁部内端、外面をヨコナデ。 ○体部外面に指押さえ。口縁部～体部中位まで粗いミガキ。 ○内面は、ほぼ密なミガキ。 ○見込みに同心円文(？)の暗文がわずかにみられる。 ○高台はナデつけ。	○精緻、白・黒色微砂粒を含む。 ○内面灰色N5/、外面灰色N4/。 ○溝21－1。
191			12.1 3.0 3.7 ※24.4	1/4	○平底から体部は内彎して外上方に立ち上がり、口縁部までつづく。 ○口縁端部はゆるく内傾して沈線をもつ。 ○高台は断面三角形。	○口縁部内端、外面をヨコナデ。 ○体部外面に指押さえ。口縁部～体部中位まで粗いミガキ。 ○内面は、やや粗いミガキ。 ○見込みに同心円文(？)の暗文がわずかにみられる。 ○高台はナデつけ。	○精緻、白・黒色微砂粒を含む。 ○灰色N6/。 ○溝21－2。
192			10.6 3.2 3.7 ※30.2	完形	○丸底から内彎しながら体部が高く、外上方に伸びる。 ○口縁端部は内傾して浅い沈線。 ○高台は低い断面三角形で、底部は高台よりはみ出る。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○体部内面～見込みまで一定方向のナデの上に渦巻状の暗文。 ○高台はナデつけ。	○精緻、白・黒色微砂粒を含む。 ○灰色N5/。 ○溝25－2～3。
193			11.1 3.1 3.8 ※27.9	ほぼ完形	○丸底から内彎しながら、外上方に伸びる。 ○口縁部はそのままつづき浅い沈線をもつ。 ○高台は低い断面三角形で、底部は高台よりはみ出る。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○体部内面～見込みまで一定方向のナデの上に渦巻状の暗文。 ○高台はナデつけ。	○精緻、白・黒色微砂粒を含む。 ○暗灰色N3/～灰色N6/。 ○内面に重ね焼き痕。 ○溝21－2。
194			11.6 3.5 ※30.2	1/3	○丸底から内彎しながら口縁部までつづく。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○体部外面を指押さえ。 ○体部内面はナデの上に渦巻状の暗文。	○やや粗、白・黒色砂粒を含む。 ○灰白色N8/(一部灰色N5/)。 ○溝21－1。
195			11.2 3.0 ※26.8	ほぼ完形	○丸底から内彎しながら口縁部までつづく。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○体部外面を指押さえ。 ○体部内面はナデの上に渦巻状の暗文。	○やや粗、白・黒色砂粒を含む。 ○暗灰色N3/～灰色N5/。 ○溝21－2。
196			11.7 3.0 ※25.6	完形	○丸底から内彎しながら口縁部までつづく。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○体部外面を指押さえ。 ○体部内面はナデの上に渦巻状の暗文。	○精緻、白色微砂粒を含む。 ○内面灰色N5/、外面灰色N4/。 ○溝21－2。
197			11.1 2.9 ※26.1	完形	○丸底から内彎しながら口縁部までつづく。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○体部外面を指押さえ。 ○体部内面はナデの上に渦巻状の暗文。	○やや粗、白・黒色砂粒を含む。 ○灰白色N8/～灰色N4/。
198			10.1 2.9 ※28.7	完形	○丸底から内彎しながら口縁部までつづく。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○体部外面を指押さえ。 ○体部内面はナデの上に渦巻状の暗文。	○精緻、白・黒色砂粒を含む。 ○灰色N4/(一部灰白色N7/)。 ○溝21－1。
199			11.7 3.0 ※25.6	完形	○丸底から内彎しながら口縁部までつづく。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○体部外面を指押さえ。 ○体部内面はナデの上に渦巻状の暗文。	○精緻、白色砂粒を含む。 ○灰色N6/～5/。 ○溝21－2。
200			11.6 3.2 ※27.2	完形	○丸底から内彎しながら口縁部までつづく。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○体部外面を指押さえ。 ○体部内面はナデの上に渦巻状の暗文。	○精緻、白色砂粒を含む。 ○灰色N4/(一部灰白色N8/)。 ○溝21－2。
201			11.6 3.0 ※25.4	完形	○丸底から内彎しながら口縁部までつづく。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○体部外面を指押さえ。 ○体部内面はナデの上に渦巻状の暗文。	○精緻、白色砂粒を含む。 ○灰白色N7/～暗灰色N3/。 ○溝21－2。
202			11.4 (3.0)	1/2	○丸底から内彎しながら口縁部までつづく。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○体部外面を指押さえ。 ○体部内面はナデの上に渦巻状の暗文。	○粗、白・黒色砂粒を多く含む。 ○内面灰白色10YR8/2、外面灰白色7.5Y8/1。 ○溝21－1。
203			11.2 3.2 ※28.1	1/4	○丸底から内彎しながら口縁部までつづく。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○体部外面を指押さえ。 ○体部内面はナデの上に渦巻状の暗文。	○やや粗、白・黒色砂粒を含む。 ○灰白色N8/～灰色N4/。 ○溝21－2。

番号	器種	器形	法量(cm)	残存	形態の特徴	技法の特徴	備考
204	瓦器・椀		11.6 3.0 ※24.4	1/2強	○丸底から内彎しながら口縁部までつづく。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○体部外面を指押さえ。 ○体部内面はナデの上に渦巻状の暗文。	○やや粗、白・黒色砂粒を含む。 ○灰色N5/。 ○溝21－1。
205			11.5 2.8 ※24.3	1/2強	○丸底から内彎しながら口縁部までつづく。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○体部外面を指押さえ。 ○体部内面はナデの上に渦巻状の暗文。	○やや粗、白色砂粒を含む。 ○灰色N5/(一部灰白色N7/)。 ○溝21－2。
206			11.1 2.9 ※26.1	完形	○丸底から内彎しながら口縁部までつづく。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○体部外面を指押さえ。 ○体部内面はナデの上に渦巻状の暗文。	○粗、白・黒色砂粒を多く含む。 ○灰色N4/(一部灰白色N8/)。
207			11.3 3.0 ※26.5	1/2	○丸底から内彎しながら口縁部までつづく。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○体部外面を指押さえ。 ○体部内面はナデの上に渦巻状の暗文。	○粗、白・黒色砂粒を多く含む。 ○灰色N5/。 ○溝21－1。
208			12.4 3.5 3.4 ※27.8	1/4	○丸底気味の底部から体部は内彎しながら伸び口縁部はやや開き気味。 ○高台は低く痕跡程度。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○体部外面を指押さえ。 ○体部内面はナデの上に渦巻状の暗文。	○やや粗、白・黒色砂粒を含む。 ○灰白色N8/(一部灰色N5/～4/)。 ○溝21－2。
209			11.1 3.0 ※27.0	完形	○丸底から内彎しながら口縁部までつづく。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○体部外面を指押さえ。 ○体部内面はナデの上に渦巻状の暗文。	○粗、白・黒色砂粒を多く含む。 ○灰色N4/～灰白色N8/。 ○溝21－1。
210			10.2 3.1 ※29.9	1/4	○丸底から内彎しながら口縁部までつづく。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○体部外面を指押さえ。 ○体部内面は風化の為不明。	○やや粗、白・黒色砂粒を含む。 ○灰白色N7/～暗灰色N3/。 ○溝21－1。
211			12.6 3.2 2.9 ※25.4	ほぼ完形	○丸底から内彎しながら口縁部までつづく。 ○口縁端部は丸く納める。 ○高台は低く、底部とほぼ同じ。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○体部外面を指押さえ。 ○体部内面はナデの上に粗いミガキ。	○やや粗、白・黒色砂粒を含む。 ○暗灰色N3/～灰白色N7/。 ○溝21－3。
212	瓦器・小皿		9.9 1.7	1/4	○上げ底気味の底部から屈曲して外方へ開く口縁部。 ○口縁端部は更に外方へ向き、丸く納める。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○見込みはナデ。 ○底部外面は指押さえ。 ○見込みはジグザグ状の暗文。	○やや粗、白・黒色砂粒を含む。 ○内面灰白色2.5GY8/1。外面灰白色N8/。 ○溝21－2。
213	輸入青磁器・碗		15.6 (5.8)	1/6	○高台を欠失。 ○体部～口縁部まで斜上方に直線的に伸びる。 ○口縁端部はややつまみあげ、丸く納める。	○体部外面に連続した片切彫りの幅の広い蓮弁の文様をつける。	○精良。 ○釉 オリーブ灰色5GY6/1、 素地 灰色N6/。 ○溝21－2。
214	土師器・大皿		11.7 2.3	1/2	○平底から屈曲して外反しながら外上方に伸びる口縁部。 ○口縁端部は更に屈曲し丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面はナデ。	○精緻、砂粒を含む。 ○にぶい黄橙色10YR7/3。 ○溝21－1。
215			10.9 1.9	ほぼ完形	○平底から屈曲して外反しながら外上方に伸びる口縁部。 ○口縁端部は更に屈曲し丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面はナデ。	○精緻、砂粒を含む。 ○浅黄色2.5Y7/3。 ○煤付着。 ○溝21－2。
216			11.1 1.9	完形	○中央部が上げ底気味の底部から口縁部までなだらかに内彎しながらつづく。 ○口縁端部は上方につまみ上げ、やや尖り気味。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、黒色微砂粒を含む。 ○橙色7.5YR6/6～にぶい橙色7.5YR6/5。 ○溝21－1。
217			10.7 2.1	完形	○平底から屈曲して外反しながら外上方に伸びる口縁部。 ○口縁端部は更に屈曲し尖り気味。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、黒色微砂粒を含む。 ○淡赤橙色2.5YR7/4～灰白色10YR7/1。 ○溝21－2。
218	土師器・小皿		8.6 1.7	ほぼ完形	○平底から屈曲して外反しながら外上方に伸びる口縁部。 ○口縁端部はやや尖り気味。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面はナデ。	○精緻、砂粒を含む。 ○浅黄橙色7.5YR8/3。 ○溝21－1。

番号	器種	器形	法量(cm)	残存	形・態の特徴	技法の特徴	備考
219	土師器・小皿		8.6 1.7	完形	○丸底気味の底部からなだらかに外反しながらつづく口縁部。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面はナデ。	○精緻、微砂粒を含む。 ○にぶい黄橙色10YR7/3。 ○溝21－1。
220			8.6 1.4	完形	○平底から口縁部が屈曲して外反しながら外上方に伸びる。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白・黒色砂粒、くさり礫を含む。 ○灰白色7.5YR8/2。 ○内外面共一部煤ける。 ○溝21－1。
221			8.4 1.4	ほぼ完形	○平底から屈曲して外反しながら外上方へ伸びる。 ○口縁端部は更に屈曲し、外上方へつまみ上げ尖り気味。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白色砂粒を含む。 ○灰白色2.5Y8/2～浅黄色2.5Y7/3。 ○溝21－2。
222			8.4 1.3	ほぼ完形	○平底から屈曲して外反しながら外上方へ伸びる。 ○口縁端部は下方に肥厚し、やや尖り気味。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白・黒色砂粒、くさり礫を含む。 ○内面灰白色10YR8/2、外面にぶい橙色7.5YR7/4。 ○溝21－2。
223			8.4 1.4	ほぼ完形	○平底から口縁部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縁端部はやや尖り気味。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面はナデ。	○精緻、微砂粒を含む。 ○浅黄色2.5Y7/3。 ○溝21－2。
224			8.4 1.4	ほぼ完形	○平底から口縁部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縁端部はやや尖り気味。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白・黒色砂粒を含む。 ○浅黄橙色7.5YR8/4～橙色7.5YR7/6。
225			8.4 1.4	完形	○平底から口縁部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縁端部はやや尖り気味。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○やや粗、白・黒色砂粒、くさり礫を含む。 ○淡橙色5YR8/3。 ○溝21－2。
226			8.3 2.0	完形	○平底から口縁部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縁端部は下方に肥厚し、上方につまみ上げる。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白・黒色砂粒を含む。 ○灰白色10YR8/2。 ○溝21－2。
227			8.3 1.5	完形	○平底から屈曲して外反しながら外上方に伸びる口縁部。 ○口縁端部は更に屈曲し、下方に肥厚し丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○やや粗、白・黒色砂粒、くさり礫を含む。 ○内面浅黄橙色10YR8/3外面にぶい橙色7.5YR7/3。 ○溝21－1。
228			8.3 1.3	ほぼ完形	○平底から口縁部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白・黒色砂粒を含む。 ○暗灰黄色2.5Y4/2～灰色5Y4/1。 ○溝21－2。
229			8.3 1.5	完形	○平底から口縁部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。(右廻り)。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白・黒色砂粒を含む。 ○淡黄色2.5Y8/3。 ○外面に一部煤付着。 ○溝21－2。
230			8.2 1.4	完形	○平底から口縁部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白・黒色砂粒を含む。 ○にぶい黄橙色10YR7/2～浅黄色2.5Y7/3。
231			8.2 1.2	1/2強	○平底から口縁部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縁端部は上方につまみ上げ丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。(右廻り)。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白・黒色砂粒、くさり礫を含む。 ○浅黄橙色7.5YR8/3。 ○口縁端部内面一部煤ける。 ○溝21－2。
232			8.2 1.7	完形	○平底から屈曲して外反しながら外上方に伸びる口縁部。 ○口縁端部は更に屈曲し、やや尖り気味。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面はナデ。	○精緻、微砂粒を含む。 ○浅黄色2.5Y7/3。 ○溝21－2。
233			8.2 1.5	ほぼ完形	○平底から口縁部までなだらかに内彎しながらつづく。 ○口縁端部は上方へつまみ上げ、丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白色微砂粒を含む。 ○灰白色2.5YR8/2～明黄褐色10YR6/6。 ○溝21－1。

番号	器種	器形	法量(cm)	残存	形態の特徴	技法の特徴	備考
234	土師器・小皿		8.2 1.6	完形	○平底から屈曲して外反しながら外上方に伸びる口縁部。 ○口縁端部は更に屈曲し、尖り気味。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、微砂粒を含む。 ○にぶい黄橙色10YR7/3。 ○溝21－1。
235			8.2 1.2	完形	○平底から屈曲して外反しながら外上方に伸びる口縁部。 ○口縁端部は更に屈曲し、尖り気味。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白色砂粒、くさり礫を含む。 ○にぶい黄橙色10YR7/4～橙色7.5YR6/6。
236			8.2 1.3	完形	○平底から屈曲して外反しながら外上方に伸びる口縁部。 ○口縁端部は上方へつまみ上げ、尖り気味。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白・黒色砂粒を含む。 ○浅黄橙色7.5YR8/3。 ○溝21－3。
237			8.2 1.5	ほぼ完形	○平底から屈曲して外反しながら外上方に伸びる口縁部。 ○口縁端部は上方へつまみ上げ、尖り気味。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白・黒色砂粒、くさり礫を含む。 ○淡橙色5YR8/3。 ○溝21－2。
238			8.2 1.5	完形	○平底。底部は外方に出張り気味で口縁部が外上方へ伸びる。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白・黒色砂粒、くさり礫を含む。 ○浅黄色5Y7/3。 ○内面煤ける。 ○溝21－2。
239			8.1 1.3	ほぼ完形	○平底。底部と口縁部の境は厚くなり外方に出張り気味で口縁部が外上方へ伸びる。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、砂粒を含む。 ○にぶい黄橙色10YR6/3。 ○溝21－2。
240			8.1 1.4	完形	○平底。底部と口縁部の境は厚くなり外方に出張り気味で口縁部が外上方へ伸びる。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面はナデ。	○精緻、微砂粒を含む。 ○浅黄橙色10YR8/3。 ○溝21－1。
241			8.1 1.4	完形	○平底から、なだらかに外反しながらつづく口縁部。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は粗いナデ。	○精緻、白・黒色砂粒を含む。 ○浅黄橙色10YR8/3。 ○内外面一部煤ける。 ○溝21－2。
242			8.1 1.3	完形	○平底から、なだらかに内彎しながらつづく口縁部。 ○口縁端部は上方へつまみ上げ、丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は粗いナデ。	○精緻、白色砂粒、くさり礫を含む。 ○にぶい黄橙色10YR6/3。 ○内外面一部煤ける。 ○溝21－2。
243			8.1 1.5	完形	○平底。底部は外方に出張り気味で口縁部が外上方へ伸びる。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○やや粗、白・黒色砂粒、くさり礫を含む。 ○内面にぶい黄橙色10YR7/3、 外面浅黄色2.5Y7/3。 ○溝21－2。
244			8.1 1.2	ほぼ完形	○平底。底部と口縁部の境は厚くなり外方に出張り気味で口縁部が外上方へ伸びる。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、微砂粒を含む。 ○にぶい黄橙色10YR7/3。 ○溝21－2。
245			8.1 1.4	完形	○丸底気味の底部から口縁部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込み中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白・黒色砂粒、くさり礫を含む。 ○浅黄橙色7.5YR8/4。 ○溝21－1。
246			8.1 1.3	2/3	○平底。底部と口縁部の境は厚くなり外方に出張り気味で口縁部が外上方へ伸びる。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込み中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白・黒色砂粒、くさり礫を含む。 ○にぶい黄橙色10YR7/2。 ○溝21－2。
247			8.0 1.6	ほぼ完形	○やや小さい底部から口縁部が屈曲後、外彎しながら開く。 ○口縁端部はやや尖り気味。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込み中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白色砂粒、くさり礫を含む。 ○浅黄橙色7.5YR8/4～灰オリーブ色5Y5/2。 ○溝21－1。
248			8.0 1.4	完形	○平底からなだらかに内彎しながらつづく口縁部。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込み中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白・黒色砂粒を含む。 ○黄橙色10YR7/3～黒褐色10YR2/2。

番号	器種	器形	法量(cm)	残存	形態の特徴	技法の特徴	備考
249	土師器・小皿		8.0 1.3	完形	○平底から口縁部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縁端部は、上方へつまみ上げ尖り気味。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込み中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、黒色砂粒、くさり礫を含む。 ○橙色7.5YR6/6～にぶい橙色7.5YR7/4。
250			8.0 1.2	完形	○平底から口縁部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縁端部は上方へつまみ上げ、尖り気味。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込み中央部はナデ。 ○底部外面は粗いナデ。	○精緻、白・黒色微砂粒、くさり礫を含む。 ○にぶい橙色7.5YR7/3。 ○溝21－2。
251			8.0 1.3	完形	○平底から口縁部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込み中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白・黒色砂粒を含む。 ○浅黄色7.5YR8/4～にぶい黄橙色10YR7/4。 ○内面一部煤付着。
252			7.9 1.5	完形	○平底から口縁部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込み中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白・黒色砂粒を含む。 ○内面浅黄橙色10YR8/3、外面にぶい橙色7.5YR7/4。 ○溝21－2。
253			7.9 1.5	完形	○平底から口縁部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込み中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白・黒色砂粒、くさり礫を含む。 ○にぶい橙色7.5YR7/4。 ○溝21－1。
254			7.9 1.5	完形	○平底から口縁部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縁端部は上方へつまみ上げ、やや尖り気味。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込み中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白・黒色砂粒、くさり礫を含む。 ○淡橙色5YR8/4。 ○溝21－1。
255			7.7 1.5	完形	○やや小さい底部から口縁部が屈曲後、外彎しながら開く。 ○口縁端部は尖り気味。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込み中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、微砂粒を含む。 ○にぶい黄橙色10YR7/3。 ○溝21－1。
256			7.7 1.5	完形	○平底からゆるやかに外彎しながらつづく口縁部。 ○口縁端部は、やや尖り気味。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込み中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、微砂粒を含む。 ○浅黄色2.5Y7/3。 ○溝21－1。
257			7.8 1.4	完形	○平底から口縁部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縁端部は上方へつまみ上げ丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込み中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白・黒色砂粒、くさり礫を含む。 ○内面にぶい黄橙色10YR7/3、 外面淡黄色2.5Y8/3。 ○溝21－1。
258			7.8 1.2	完形	○平底から口縁部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縁端部は上方へつまみ上げやや尖り気味。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込み中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白・黒色砂粒、くさり礫を含む。 ○にぶい橙色7.5YR7/4。 ○溝21－1。
259			7.8 1.3	完形	○平底から口縁部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込み中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、微砂粒を含む。 ○灰黄色2.5Y7/2。 ○溝21－1。
260			7.8 1.4	ほぼ完形	○平底から口縁部までなだらかに内彎しながらつづく。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込み中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白色微砂粒、くさり礫を含む。 ○淡黄色2.5Y8/3～にぶい黄橙色10YR7/3。 ○溝21－1。
261			7.8 1.5	完形	○平底からなだらかに外彎しながらつづく口縁部。 ○口縁端部は上方へつまみ上げ丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込み中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白・黒色砂粒を含む。 ○浅黄橙色10YR8/3。 ○溝21－2。
262			7.8 1.6	完形	○丸底気味の底部から口縁部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込み中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白・黒色微砂粒を含む。 ○内面浅黄色2.5YR7/3、外面にぶい橙色5YR7/4。
263			7.8 1.4	1/2強	○平底から口縁部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込み中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白・黒色砂粒、くさり礫を含む。 ○内面にぶい橙色7.5YR7/4、 外面にぶい橙色7.5YR6/4。 ○溝21－1。

番号	器種	器形	法量(cm)	残存	形態の特徴	技法の特徴	備考
264	土師器・小皿		7.8 1.2	完形	○平底。底部と口縁部の境は厚くなり外方に出張り気味で口縁部が外上方へ伸びる。 ○口縁端部はやや尖り気味。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白・黒色砂粒、くさり礫を含む。 ○にぶい黄橙色10YR6/3～灰黄褐色10YR4/2。 ○溝21－2。
265			7.7 1.6	ほぼ完形	○丸底気味の底部から口縁部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、微砂粒を含む。 ○浅黄色2.5Y7/3。 ○溝21－1。
266			7.7 1.5	完形	○丸底気味の底部から口縁部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、微砂粒を含む。 ○にぶい黄橙色10YR7/3。 ○溝21－1。
267			7.7 1.4	完形	○平底から口縁部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、黒色微砂粒、くさり礫を含む。 ○内面灰黄色2.5Y7/2、外面灰白色2.5Y8/2。 ○溝21－3。
268			7.7 1.5	完形	○やや小さい底部から口縁部が屈曲後、外彎しながら開く。 ○口縁端部はやや尖り気味。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白色砂粒、くさり礫を含む。 ○浅黄色2.5Y7/4～暗オリーブ灰色2.5GY3/1。 ○内外面一部煤ける。 ○溝21－2。
269			7.6 1.6	完形	○中央部が上げ底気味の底部から口縁部までなだらかに内彎しながらつづく。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白色砂粒、くさり礫を含む。 ○内面橙色7.5YR6/6、外面橙色5YR6/6。
270			7.6 1.3	完形	○平底から口縁部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縁端部はやや尖り気味。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、微砂粒を含む。 ○にぶい黄橙色10YR7/3。 ○溝21－1。
271			7.3 1.4	完形	○平底。底部と口縁部の境は厚くなり外方に出張り気味で、口縁部が外上方へ伸びる。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、黒色砂粒、くさり礫を含む。 ○内面灰白色10YR8/2、外面浅黄橙色7.5YR8/3。 ○溝21－1。
272			7.9 2.7	完形	○丸底から口縁部までなだらかに内彎しながらつづく。 ○口縁端部は更に外方へ屈曲し尖り気味。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、微砂粒を含む。 ○灰白色10YR8/2。 ○溝21－1。
273	土師器・羽釜		14.5 (3.5)		○内傾する体部から口縁部が内折する。内部に稜をもつ。 ○口縁端部は上方に肥厚し、面をもつ。 ○鍔はほぼ水平につき、断面方形。	○口縁部内外面～鍔下までヨコナデ。 ○体部内面は指押さえ痕あり。	○やや粗、白・黒色砂粒を含む。 ○内面灰白色10YR8/1、外面黒色10YR7/1(煤付着)。 ○溝21－3。
274			23.6 (5.9)	1/6	○やや内傾する体部から口縁部が内折する。 ○口縁端部は外方に巻き込み、丸く納める。 ○鍔はほぼ水平につき、断面方形。	○口縁部内外面～鍔下までヨコナデ。 ○体部内面はナデ。	○やや粗、白・黒色砂粒を含む。 ○内面浅黄橙色7.5YR8/6、外面にぶい橙色7.5YRR7/3。 ○内外面共煤ける。
275			23.4 (3.5)		○やや内傾する体部から口縁部が内折する。 ○口縁端部は外方に巻き込み、丸く納める。 ○鍔はわずかに上方を向き、断面方形。	○口縁部内外面～鍔下までヨコナデ。 ○体部内面はナデ。	○やや粗、白・黒色砂粒を含む。 ○淡黄色2.5Y8/4。 ○溝21－1。
276			29.4 (6.4)		○内傾する体部から口縁部が外折する。 ○口縁端部は内方に巻き込み、丸く納める。 ○鍔は上方を向き、断面方形。	○口縁部内外面と鍔周辺部をヨコナデ。 ○体部内面は指押さえ痕あり。	○やや粗、白・黒色砂粒を含む。 ○内面灰白色2.5Y8/1、外面淡黄色2.5Y8/3。 ○鍔下煤ける。
277			31.2 (14.3)	1/4	○体部から口縁部にかけて内彎し、口縁端部は短く外折する。 ○鍔は上方を向き、端部は丸く納める。	○口縁部内外面～鍔周辺部までヨコナデ。 ○体部内面はナデ。 ○鍔下からヘラ削り。	○やや粗、白・黒色砂粒を含む。 ○黒色5Y2/1～にぶい橙色7.5YR7/3。 ○溝21－3。

番号	器形 器種	法量 (cm)	残存	形態の特徴	技法の特徴	備考
278	瓦器・足釜	16.8 (6.2)		○内彎する体部から口縁部が少し内傾して立つ。 ○口縁端部は丸みをもつ。 ○鍔を上向きにつける。	○口縁部内外面～鍔周辺部までヨコナデ。 ○体部内面は横方向に細かいハケ目。	○やや粗、白色砂粒、くさり礫を含む。 ○内面緑灰色5G6/1、外面青灰色5PB6/1。 ○溝21－1。

溝出土瓦器・土師器・輸入磁器・東播系須恵器他

番号	器形 器種	法量 (cm)	残存	形態の特徴	技法の特徴	備考
279	瓦器・椀	14.9 (4.1)	1/4	○底部を欠く。 ○体部は内彎して外上方に立ち上がり口縁部は少し屈曲して外彎気味に開く。 ○口縁端部はゆるく内傾して沈線をもつ。	○口縁部内端、外面をヨコナデ。 ○体部外面はナデの上に、口縁部から下位までミガキ。 ○内面はほぼ密なミガキ。	○精緻 ○灰色N5/。 ○溝55。
280		14.6 (4.6)	1/4	○底部を欠く。 ○体部は内彎して外上方に立ち上がり口縁部は少し屈曲して外彎気味に開く。 ○口縁端部はゆるく内傾して沈線をもつ。	○口縁部内端、外面をヨコナデ。 ○体部外面はナデの上に、口縁部から中位までミガキ。 ○内面は粗いミガキ。	○精緻、白・黒色微砂粒を含む。 ○内面灰色N4/、外面灰白色N8/。 ○溝27。
281	瓦器・小皿	9.3 1.9	1/3	○丸底からゆるく内彎しながら口縁部へつづき口縁部が外反する。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○底部外面は指押え。 ○見込みはナデの上にミガキ。	○精緻、白色砂粒を含む。 ○灰色N4/。 ○溝2。
282	土師器・大皿	11.4 2.4	1/4	○平底から口縁部までなだらかに内彎しながらつづく。 ○口縁端部は上方へつまみ上げ、尖り気味。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○見込みはナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白・黒色砂粒を含む。 ○にぶい黄橙色10YR7/4～明黄褐色10YR6/6。 ○溝2。
283	土師器・小皿	9.7 1.9	1/6	○平底から口縁部までなだらかに内彎しながらつづく。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○見込みはナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、黒色微砂粒くさり礫を含む。 ○灰白色10YR8/2。 ○溝8。
284		8.8 1.8	ほぼ完形	○平底から屈曲して外反しながら外上方に伸びる口縁部。 ○口縁端部は更に屈曲し、上方へつまみ上げやや尖り気味。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○見込みはナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白色砂粒、くさり礫を含む。 ○浅黄橙色10YR8/3。 ○溝26。
285		8.4 1.3	1/2強	○平底から口縁部までなだらかに内彎しながらつづく。 ○口縁端部はやや尖り気味。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○見込みはナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白・黒色砂粒、くさり礫を含む。 ○にぶい赤褐色2.5YR5/4～暗赤褐色5Y3/2。 ○溝8。
286		8.0 1.6	1/2弱	○中央部が上げ底気味の底部から口縁部までなだらかに内彎しながらつづく。 ○口縁端部は外方へ屈曲し丸く納める。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○見込みはナデ。 ○底部外面は指押え。	○精緻、黒色微砂粒を含む。 ○にぶい褐色7.5YR5/3。 ○溝30。
287	輸入磁器・青磁碗	底 6.2 (3.7)	1/3	○やや丸底から内彎する体部。 ○高台は高く、断面方形。	○体部内面～見込みにかけてロクロナデ。 ○底部外面をロクロ削り。 ○高台は削り出し。	○精良。 ○素地 灰白色N8/、釉 明オリーブ灰色5GY7/1。 ○溝19。
288	須恵器・捏鉢	24.6 8.7	1/12	○直線的に外方に開く体部。 ○口縁部は上下へ拡張し、端部は内傾し尖り気味。 ○体部内外面はロクロナデにより凹凸が残る。	○内外面はロクロナデ。	○精緻、白色砂粒を含む。 ○灰白色N7/。 ○東播系 ○溝42。
289	土師器・羽釜	20.0 (7.1)	1/12	○体部から口縁部にかけて内傾し、端部は短く外折し丸く納める。 ○鍔は、水平につく。	○口縁部内外面～鍔部までヨコナデ。 ○体部内面は板ナデ。 ○鍔部以下の体部はヘラ削り。	○精緻、白色砂粒、くさり礫を含む。 ○橙色7.5YR7/6。 ○鍔下部に煤付着。 ○溝27。
290	瓦器・羽釜	27.0 (19.0)	1/2弱	○直立する体部から口縁部が少し内傾して立つ。 ○口縁端部は内側に少し肥厚し、上端部に面をもつ。 ○口縁部外面に凹線を3条もつ。 ○鍔は水平につく。	○口縁部内外面～鍔下までヨコナデ。 ○体部内面は横方向のハケ目。 ○体部外面は指押えとナデ。	○粗、白・黒色砂粒を多く含む。 ○内面灰白色N8/～灰色N4/、外面灰白色N7/。 ○溝30。

番号	器形 器種	法量 (cm)	残存	形態の特徴	技法の特徴	備考
291	土師器・羽釜	29.8 (7.2)	1/6	○内傾する体部から外折する口縁部。 ○口縁端部は上方にわずか肥厚する。 ○鍔は幅が狭く断面方形。	○口縁部、鍔部の内外面をヨコナデ。	○粗、白・黒色砂粒を多く含む。 ○内面灰白色2.5Y8/2、外面褐色5YR6/3。 ○溝8。
292	平瓦	長(22.4) 幅(15.4)			○外面、縄目叩きのちナデ。 ○内面、布目痕。	○やや粗、白・黒色砂粒を含む。 ○灰白色N8/～灰色N5/。 ○溝3。
293	瓦器・椀	14.0 (3.1)	1/3	○丸底から体部は内彎し、口縁部までそのままつづく。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○体部外面を指押さえ。 ○体部内面はナデの上に粗いミガキ。	○精緻、白・黒色微砂粒を含む。 ○灰色N5/。 ○溝48。
294		15.2 (3.6)	1/4強	○平底から体部は大きく内彎しながら開き、そのままつづく。 ○口縁端部は丸く納める。 ○高台は断面三角形。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○体部外面を指押さえ。 ○体部内面はナデの上に粗いミガキ。 ○高台はナデつけ。	○精緻、白・黒色微砂粒を含む。 ○灰色N4/。 ○溝18－2。
295		8.8 (3.8) ※43.2	ほぼ完形	○丸底から内彎しながら体部が高く外上方に伸びる。 ○口縁端部は内傾して浅い沈線。 ○高台は低く断面三角形で底部より出ない。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○体部内面～見込みまでナデの上に渦巻き状の暗文。 ○高台はナデつけ。	○精緻、白・黒色微砂粒を含む。 ○灰色N6/～灰白色N8/。 ○溝22。
296		8.7 (3.0)	1/6	○丸底から内彎しながら体部が高く外上方に伸びる。 ○口縁端部は浅い沈線。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○体部内面～見込みまでナデの上に渦巻き状の暗文。	○精緻、黒色微砂粒を含む。 ○内面灰白色N8/、外面灰色N6/。 ○溝22。
297	瓦器・小皿	8.0 1.3	1/3	○平底から屈曲して口縁部が外上方を向く。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○見込みはナデの上にジグザグ状の平行線の暗文。 ○底部外面は粗いナデ。	○精緻、黒色微砂粒を含む。 ○内面灰白色N7/、外面灰色N5/。 ○溝48。
298	土師器・大皿	10.1 2.1	1/8	○平底から口縁部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縁端部は上方へつまみ上げ、丸く納める。	○口縁部内外面～見込みの半ばまでヨコナデ。 ○見込みはナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白・黒色砂粒、くさり礫を含む。 ○灰黄色2.5Y7/2。 ○溝22。
299	土師器・小皿	8.7 1.4	1/6	○平底から口縁部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込みの半ばまでヨコナデ。 ○見込みはナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白・黒色砂粒を含む。 ○浅黄橙色10YR8/3。 ○溝48。
300		8.6 1.8	ほぼ完形	○平底から口縁部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込みの半ばまでヨコナデ。 ○見込みはナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白・黒色砂粒、くさり礫を含む。 ○内面淡黄色2.5Y8/3、外面にぶい黄橙色10YR7/3。 ○溝22。
301		8.1 1.3	1/4弱	○中央部が上げ底気味の底部から口縁部までなだらかに内彎しながらつづく。 ○口縁端部は上方へつまみ上げやや尖り気味。	○口縁部内外面～見込みの半ばまでヨコナデ。 ○見込みはナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白・黒色砂粒を含む。 ○にぶい橙色7.5YR7/4～浅黄橙色10YR8/3。 ○溝19。
302		7.7 1.1	1/3	○中央部が上げ底気味の底部から口縁部までなだらかに内彎しながらつづく。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込みの半ばまでヨコナデ。 ○見込みはナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白・黒色砂粒、くさり礫を含む。 ○にぶい橙色7.5YR7/3。 ○溝22。
303	白磁輸入磁器・碗	底 6.3 (2.1)	1/2	○肉厚の底部から内彎しながら体部へつづく。 ○高台は低く、断面短形。	○内面は施釉。 ○高台は削り出し。内側を斜めに、外側をまっすぐ削る。	○精良。 ○素地 灰白色7.5Y7/1、釉 灰白色N8/。 ○溝19。
304	輸入磁器・青磁碗	底 4.0 (2.0)	1/3	○平底から見込みと体部の間に凹みをつくってから立ち上がる。 ○高台は断面台形。	○体部～底部外面をロクロ削り。 ○高台は削り出し。	○精良。 ○素地 明オリーブ灰色2.5GY7/1、釉 灰オリーブ色7.5Y6/2。 ○溝19。
305	須恵器・捏鉢	23.0 (9.7)	1/8	○体部は内彎気味に立ち上がり、直線的に口縁部につづく。 ○口縁端部は上方につまみ出す。	○内外面をヨコナデ。	○精緻、白・黒色砂粒を含む。 ○灰白色N7/。 ○溝18－2。 ○東播系

番号	器形 器種	法量 (cm)	残存	形態の特徴	技法の特徴	備考
306	須恵器・甕	21.4 (6.3)	1/6	○短く立つ頸部から水平近く外反する口縁部。 ○口縁端部は下方に肥厚。外端面をもつ。	○口縁部内外面と頸部をロクロナデ。 ○体部外面は叩き目。	○やや粗、白色砂粒、くさり礫を含む。 ○明黄褐色10YR6/6。 ○溝33。
307	須恵器・壺	底10.6 (6.0)	1/4弱	○外方へ直線的に伸びる体部。 ○「ハ」の字形の高台。	○体部外面の下方をヘラ削り。 ○内面～体部上位をロクロナデ。	○やや粗、白色砂粒を含む。 ○灰色N6/。 ○溝19。
308	須恵器・瓶	頸 3.0 腹 9.1 高(7.9)	1/2強		○内外面をロクロナデ。 ○口縁部と腹部に一条の凹線。 ○腹部下方にヘラ削り。	○やや粗、白・黒色砂粒を含む。 ○灰色N6/。 ○溝18。
309	土師器・羽釜	22.2 (8.0)	1/3	○わずかに内傾する体部から口縁部がほぼまっすぐに立つ。 ○口縁上端部は面をもつ。	○口縁部～鍔部までヨコナデ。 ○体部外面は横方向のヘラ削り。 ○口縁部内面はハケ、体部はナデ。	○やや粗、白・黒色砂粒を含む。 ○口縁部灰白色2.5Y8/2、体部黒褐色2.5Y3/1。 ○溝48。
310		31.8 (8.9)	1/8	○内傾する体部から外折する口縁部。 ○口縁端部は上方へ少し立ち上がり、丸く納める。	○口縁部～鍔下までヨコナデ。 ○体部内面はハケ目。	○やや粗、白・黒色砂粒を含む。 ○内面黒褐色10YR3/1、外面にぶい黄橙色10YR7/2。 ○溝33。

井戸6出土瓦器・土師器・輸入磁器

番号	器形 器種	法量 (cm)	残存	形態の特徴	技法の特徴	備考
311	瓦器・椀	15.0 (4.9)	1/4	○底部を欠く。 ○ほぼまっすぐ外上方に伸びる体部から少し内彎して口縁部につづく。 ○口縁端部は深い沈線。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○体部外面を指押さえ。口縁部から体部中位まで4分割の粗いミガキ。 ○内面は密にミガキ。	○精緻、白・黒色微砂粒を含む。 ○灰色N4/。
312		14.2 (3.9)	1/6	○底部を欠く。 ○内彎しながら伸びる体部から口縁部が屈曲して外上方に開く。 ○口縁端部は少し内傾して沈線。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○体部外面はナデの上に粗いミガキ。 ○内面は密にミガキ。	○精緻、白・黒色微砂粒を含む。 ○灰色N4/。
313		14.1 5.4 4.3 ※38.3	1/3	○丸底から体部は内彎して外上方に立ち上がり、口縁部は少し屈曲して外彎気味に開く。 ○口縁端部はゆるく内傾して沈線をもつ。 ○高台は断面三角形。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○体部外面に指押さえ、口縁部から体部中位まで粗いミガキ。分割か。 ○内面は密にミガキ。 ○見込みに連結輪状の暗文。 ○高台はナデ付け。	○精緻、白色微砂粒を含む。 ○暗灰色N3/。
314		13.7 5.2 5.3 ※37.6	1/3	○平底から体部は内彎して外上方に立ち上がり、口縁部は少し屈曲して外彎気味に開く。 ○口縁端部はゆるく内傾して沈線をもつ。 ○高台は断面三角形。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○体部外面に指押さえ。口縁部外面に粗いミガキ。 ○内面は密にミガキ。 ○見込みに同心円文の暗文。 ○高台はナデつけ。	○精緻、白・黒色微砂粒を含む。 ○灰色N5/。
315		13.1 (4.4)	1/4	○底部を欠く。 ○体部は内彎して外上方に立ち上がり、口縁部は少し屈曲して外彎気味に開く。 ○口縁端部は少し外方に開き、沈線をもつ(ところによっては2重になる)。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○体部外面は指押さえの上に粗いミガキ。 ○体部内面をナデの上にほぼ密なミガキ。	○精緻、黒色微砂粒を多く含む。 ○灰色N4/～灰白色N7/。
316		底 5.6 (1.6)	2/3	○口縁～体部を欠く。 ○丸底。 ○高台は断面三角形。	○体部内面は密なミガキ。 ○見込みに連結輪状の暗文。 ○高台はナデつけ。 ○体部～底部外面を指押さえ。	○精緻、白・黒色微砂粒を含む。 ○内面灰色N5/、外面灰色N4/。
317		底 5.7 (1.3)	2/3	○口縁～体部を欠く。 ○丸底。 ○高台は断面三角形。	○見込みに連結輪状の暗文。 ○高台はナデつけ。 ○底部外面をナデ。	○精緻、白・黒色微砂粒を含む。 ○灰色N4/。 ○高台灰白色N8/。
318	瓦器・小皿	9.1 1.6	1/4	○丸底からゆるく内彎して口縁部が外方に伸びる。 ○口縁端部は外方へ向き、少し尖り気味。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○底部外面は指押さえ。 ○見込みはジグザグ状の平行線の暗文。	○精緻、白色微砂粒を含む。 ○灰白色10Y8/1～暗灰色N3/。

番号	器種	器形	法量(cm)	残存	形態の特徴	技法の特徴	備考
319	輸入磁器	白磁碗	底 5.3・(2.5)	高台ほぼ完形	○口縁～体部を欠く。 ○丸底。 ○高台は断面逆台形。	○内面・体部外面をロクロナデ。 ○底部外面はロクロ削り。 ○高台は削り出し。 ○底部外面には施釉しない。	○精良。 ○素地 灰白色7.5Y8/2、釉 灰白色10Y8/2。
320	瓦器・足釜		残存長(6.5) 残存幅(4.9) 脚径2.9×2.3		○断面やや楕円形。	○全面に強いナデ。	○精緻、白黒色微砂粒を多く含む。 ○内面灰白色5Y7/1、外面暗灰色N3/。 煤付着。
321	土師器・羽釜		34.4 (6.7)		○底部を欠く。 ○肩部に水平方向の鍔が付き、口縁部は内方に向く。 ○口縁端部は上方につまみ上げ、丸く納める。	○口縁～体部内外面をヨコナデ。	○粗、白色砂粒を多く含む。 ○内面にぶい橙色7.5YR7/4～7.5YR6/4、外面灰褐色7.5YR5/2～にぶい橙色7.5YR6/4。
322			22.4 (5.8)		○内傾する体部から外折する口縁部。 ○口縁端部は上方へ少し立ち上がり、丸く納める。	○口縁部～鍔下までヨコナデ。 ○体部内面はナデ。	○粗、白・黒色砂粒を多く含む。 ○内面灰白色2.5Y8/2、外面黒褐色10YR2/2～灰白色2.5Y8/2。
323			21.4 (7.1)		○内傾する体部から外折する口縁部。 ○口縁端部は内折する。	○口縁部～鍔下までヨコナデ。 ○体部内面はハケ目。	○粗、白・黒色砂粒を多く含む。 ○内面灰褐色10YR4/2～にぶい黄橙色10YR7/2、外面褐灰色5YR4/1。

井戸5出土瓦器・土師器・輸入磁器・東播系須恵器

番号	器種	器形	法量(cm)	残存	形態の特徴	技法の特徴	備考
324	瓦器・	椀	15.4 4.8 4.2 ※31.2	1/2	○丸底から体部は内彎して外上方に立ち上がり、口縁部までそのままつづく。 ○口縁端部はゆるく内傾して沈線をもつ。 ○高台は断面三角形。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○体部外面を指押さえ。 口縁部から体部中位まで粗いミガキ。 ○内面はほぼ密なミガキ。見込みは同心円文の暗文。 ○高台はナデつけ。高台内に『X』の刻線。	○精緻、白色微砂粒を多く含む。 ○灰色N4/～灰白色10Y8/1。
325			13.0 5.7 4.2 ※43.7	1/2	○やや丸底の底部から体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部はそのままつづく。 ○口縁端部はゆるく内傾して沈線をもつ。 ○高台は断面三角形。	○口縁部内外面をヨコナデ。外面に粗いミガキ。 ○体部内面はハケ目が部分的に残る。その上に粗いミガキ。 見込みは同心円文の暗文。 ○高台はナデつけ。	○精緻、白色微砂粒を多く含む。 ○灰色N5/。
326			14.6 (3.3)	1/4	○底部を欠く。 ○体部から口縁部まで内彎しながら立ち上がる。全体に厚手。 ○口縁端部は幅の狭い沈線。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○体部外面を指押さえ、中位まで粗いミガキ。 ○体部内面はほぼ密にミガキ。	○精緻、白・黒色微砂粒を含む。 ○灰白色N8/。
327			12.1 (4.9) 4.2	1/4	○体部から口縁部まで内彎しながら立ち上がり、そのままつづく。 ○口縁端部はゆるく内傾して沈線をもつ。 ○高台は低い断面三角形で、底部と同じくらいの出っぱり？	○口縁部内外面をヨコナデ。外面に粗いミガキ。 ○体部外面を指押さえ。 ○体部内面は渦巻状の暗文。 ○高台はナデつけ。	○精緻、白色微砂粒を多く含む。 ○内面灰色2.5Y4/1、外面灰白色10Y8/1～暗灰色N3/。 ○底部外面炭素吸着しない。
328			12.6 (4.1)	1/8	○底部を欠く。 ○体部から口縁部まで内彎しながら立ち上がり、そのままつづく。 ○口縁端部はゆるく内傾して浅い沈線。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○体部外面を指押さえ、中位まで粗いミガキ。 ○体部内面はほぼ密にミガキ。	○精緻、白・黒色微砂粒を含む。 ○灰白色2.5GY8/1。
329			底 4.2 (1.5)	1/2弱	○少し丸底。 ○高台は断面三角形。	○内面はほぼ密なミガキ。見込みは同心円文の暗文。 ○高台はナデつけ。	○精緻。 ○内面灰色N5/、外面灰色N4/。 ○見込みに煤付着。
330			14.6 4.0 4.4 ※30.1	1/2	○やや丸底気味の底部から体部は内彎しながら伸び、口縁部までつづく。 ○口縁端部は丸く納める。 ○高台は断面三角形。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○体部外面を指押さえ。 ○体部～見込みに平行線の暗文。 ○高台はナデ付け。	○精緻、白色微砂粒を含む。 ○オリーブ黒色10Y3/1～灰白色10Y8/1。 ○内面一部煤付着。

番号	器形 器種	法量 (cm)	残存	形態の特徴	技法の特徴	備考
331	瓦器・椀	底 3.8 (2.9)	1/4	○丸底。 ○高台は歪んだ断面三角形。	○体部内面～見込みに平行線の暗文。 ○高台はナデ付け。	○精緻、白色微砂粒を含む。 ○灰色N5/。
332	瓦器・小皿	7.5 1.2	1/8	○平底から口縁部が外反する（厚さは体部＜底部）。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○見込みはナデの上にジグザグ状の平行線の暗文。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白色微砂粒を含む。 ○内面灰白色7.5Y7/1、外面灰色7.5Y6/1。
333	土師器・大皿	12.3 1.8	1/6	○平底から屈曲して口縁部が外上方へ伸びる。 ○口縁端部は上方へつまみ上げ、尖り気味。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白色微砂粒、くさり礫を含む。 ○にぶい橙色7.5YR7/4。
334		11.5 1.9	1/12	○平底から屈曲して口縁部が外上方へ伸びる。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○見込みはナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、黒色微砂粒を多く含む。 ○にぶい橙色5YR6/4、口縁部外面灰白色2.5Y7/1。
335	土師器・小皿	8.8 (1.3)	1/4弱	○平底から口縁部までなだらかに内彎しながらつづく。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○見込みはナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白・黒色砂粒を多く含む。 ○にぶい橙色7.5YR7/4。
336		8.5 1.3	1/4	○丸底気味の底部からなだらかに内彎しながらつづく。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○見込みはナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白色砂粒を多く含む。 ○にぶい橙色7.5YR8/3～浅黄橙色2.5Y7/3。
337		8.1 1.4	1/4	○平底から口縁部までなだらかに内彎しながらつづく。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白・黒色砂粒を含む。 ○にぶい橙色7.5YR7/4。
338		7.8 1.3	1/6	○平底から口縁部までなだらかに内彎しながらつづく。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばにかけてヨコナデ。 ○見込みはナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白・黒色砂粒を含む。 ○にぶい黄橙色10YR7/2。
339		7.7 1.5	1/2強	○丸底から口縁部が外彎気味に大きく開く。 ○口縁端部は肉薄になる。	○風化の為不明。	○精緻、白色砂粒、くさり礫を含む。 ○浅黄色2.5Y7/3。
340	青磁碗 輸入磁器	底 6.3 (2.7)	1/4 (底部のみ)	○厚い平底から、内彎して立ち上がる体部。 ○高台は低く、断面短形。	○体部内外面をロクロナデ。 ○体部下位と底部はロクロ削り。 ○高台は削り出し。内側を斜めに外側をまっすぐ削る。 ○底部外面には施釉しない。	○精良。 ○素地 灰白色N7/、釉 緑灰色7.5GY6/1。
341	白磁碗 輸入磁器	底 5.5 (2.1)	1/2 (底部のみ)	○厚い平底から、内彎して立ち上がる体部。 ○高台は低く、断面短形。	○体部内外面をロクロナデ。 ○体部下位と底部はロクロ削り。 ○高台は削り出し。内側を斜めに外側をまっすぐ削る。 ○底部外面には施釉しない(ハケ目痕あり)。	○精良。 ○素地 灰白色N8/、釉 灰白色7.5Y8/1。
342	瓦器・足釜	18.8 24.7	1/6	○体部から口縁部まで、内方に少し内彎しながら立つ。 ○口縁端部は内傾し、面をもつ。 ○鍔は幅が厚く短い。 ○脚部は断面円形の柱状をなし、先端部にいくに従い肉薄になり、外方を向く。	○口縁部外面～鍔部の下までヨコナデ。 ○体部外面は指押さえ。 ○体部内面は横方向にハケ目。 ○脚部は全面に強いナデ。	○精緻、白・黒色砂粒を多く含む。 ○暗灰色N3/～明緑灰色7.5GY8/1。 ○一部外面に煤付着。
343		残存長 (13.6) 残存幅 (4.8) 脚径 2.5×2.2	脚部	○断面多角形の脚部。	○体部との接合面に横方向のハケ目が残る。 ○全面に強いナデ。	○精緻、白色の粗砂粒を多く含む。 ○灰色N5/。
344	瓦器・鉢	15.6 4.9	1/8	○平底から口縁部が外彎気味に大きく開く。 ○口縁端部は外側に面をもつ。	○口縁部内外面～体部内面をヨコナデ。 ○体部～底部外面を指押さえ。 ○底部内面に横方向のハケ目(原体幅1.8cm)。 ○見込みはナデ。	○精緻、白・黒色砂粒を多く含む。 ○灰色10Y5/1。
345	瓦器・足釜	27.8 (3.8)	1/16	○体部から口縁部まで、内方に少し内彎しながら立つ。 ○口縁端部は内傾し、面をもつ。 ○鍔は幅が厚く短い。	○口縁部内外面～鍔の下までヨコナデ。	○精緻、白・黒色砂粒を多く含む。 ○灰色N4/。 ○鍔下部に煤付着。
346	須恵器・鉢	23.6 (4.4)	1/10	○体部～口縁部まで外彎気味に大きく開く。 ○口縁端部上端部は面をもつ。	○口縁部内外面～体部をヨコナデ。	○やや粗、白色砂粒を多く含む。 ○暗灰色N3/。

番号	器形	法量(cm)	残存	形態の特徴	技法の特徴	備考
347	須恵器・鉢	27.6 (9.2)	1/4	○直線的に外方に開く体部。 ○口縁部は上方につまみあげる。端部は丸味をもつ。 ○体部内外面はロクロナデにより凹凸が残る。	○内外面はロクロナデ。 ○内面は更に乱方向にナデ。 ○底部外面に回転糸切り痕。	○やや粗、白色砂粒を多く含む。 ○灰白色N7/。 ○東播系。
348		26.6 9.5	1/4	○直線的に外方に開く体部。 ○口縁部は上方へ拡張し、内傾する。端部は丸味をもつ。 ○体部内外面はロクロナデにより凹凸が残る。	○内外面はロクロナデ。 ○内面は更に乱方向にナデ。 ○底部外面に回転糸切り後ナデ。	○やや粗、白色砂粒を多く含む。 ○灰色N4/。 ○口縁端面は、オリーブ黒色7.5Y3/1。

井戸１・３出土瓦器・土師器・東播系須恵器

番号	器形	法量(cm)	残存	形態の特徴	技法の特徴	備考
349	瓦器・椀	15.0 (4.5)	1/6	○底部を欠く。 ○体部は内彎して外上方に立ち上がり、口縁部は少し屈曲して外彎気味に開く。 ○口縁端部はゆるく内傾して沈線をもつ。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○体部外面に指押さえ。 口縁部から体部中位まで粗いミガキ。 ○内面はナデの上にミガキ。	○精緻、黒色微砂粒を含む。 ○灰色N4/(外面下半灰白色N8/)。
350		15.0 (3.6)	1/8	○底部を欠く。 ○体部は内彎して外上方に立ち上がり、口縁部は少し屈曲して外彎気味に開く。 ○口縁端部はゆるく内傾して沈線をもつ。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○体部外面に指押さえ。 口縁部から体部中位まで粗いミガキ。 ○内面はナデの上にミガキ。	○精緻、白・黒色微砂粒を含む。 ○内面灰色N4/、 外面暗灰色N3/。
351		11.6 (2.8)	1/4	○底部を欠く。 ○体部からゆるく内彎して開く。 ○口縁部は肉厚になり、端部は丸く納める。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○体部外面は粗いナデ。 ○体部内面はナデの上に粗いミガキ。	○精緻、白色微砂粒を含む。 ○内面灰色N4/、 外面灰色N5/。
352		11.9 (2.8)	1/6	○底部を欠く。 ○体部からゆるく内彎して開く。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○体部外面は粗いナデ。 ○体部内面はナデの上に粗いミガキ。	○精緻、白色微砂粒を含む。 ○暗緑灰色10GY3/1。
353	瓦器・小椀	6.9 2.6 1.7	1/3	○丸底から内彎しながら体部が高く外上方に伸びる。 ○口縁端部は内傾し、少しつまみ上げる。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○体部外面に指押さえ。 ○体部内面～見込みまでナデの上に渦巻状の暗文。 ○高台は貼り付け。	○精緻、白・黒色微砂粒を含む。 ○灰色10Y8/1。
354	土師器・大皿	11.0 2.0	ほぼ完形	○丸底気味の底部から屈曲して口縁部が外上方へ伸びる。 ○口縁端部はつまみ上げ風。	○口縁部内外面～見込み半ばにかけてヨコナデ。 ○見込みはナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白・黒色微砂粒を含む。 ○灰白色5Y8/2。
355		10.5 2.0	1/2弱	○平底気味の底部から屈曲して口縁部が外上方へ伸びる。 ○口縁端部は少しつまみ上げる。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○見込みはナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白・黒色微砂粒を含む。 ○淡黄色2.5Y8/3。
356		10.0 1.4	1/8	○平底から屈曲して、口縁部が短く外上方へ伸びる。 ○口縁端部は上方につまみ上げる。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、黒色微砂粒を含む。 ○口縁部内外面橙色5YR7/6。 体部内外面にぶい黄橙色10YR7/2。
357	土師器・小皿	9.0 1.4	1/3	○平底から口縁部までなだらかに内彎しながらつづく。 ○口縁端部は上方へつまみ上げる。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ(右廻り)。 他はナデ。	○精緻、白・黒色微砂粒を含む。 ○灰黄色2.5Y6/2。
358		8.5 1.3	1/2強	○平底から口縁部までなだらかに内彎しながらつづく。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みはナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白色微砂粒、くさり礫を含む。 ○灰黄色2.5Y7/2。
359		8.5 1.5	1/2強	○丸底気味から、口縁部が外反する。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みはナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白色微砂粒、くさり礫を含む。 ○にぶい黄橙色10YR7/2～灰褐色7.5YR6/2。
360		8.2 1.3	1/4弱	○平底から、口縁部が外反する。 ○口縁端部はやや尖り気味。	○口縁部内外面～見込みにかけてヨコナデ。 ○見込みはナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白色微砂粒、くさり礫を含む。 ○浅黄色2.5Y8/3。
361		8.2 1.1	1/6	○平底から口縁部までなだらかに内彎しながらつづく。 ○口縁端部はやや尖り気味。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みはナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白・黒色微砂粒、くさり礫を含む。 ○にぶい橙色7.5YR7/3。
362		8.0 1.4	1/8	○平底から口縁部までなだらかに内彎しながらつづく。 ○口縁端部は上方へつまみあげる。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、黒色微砂粒を含む。 ○灰色5Y7/2。

番号	器形	器種	法量(cm)	残存	形態の特徴	技法の特徴	備考
363	土師器・小皿		7.9 1.6	完形	○上げ底から内彎しながら口縁部までつづく。底部中央は肉薄になる。 ○口縁端部はやや尖り気味。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みはナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白色微砂粒、くさり礫を含む。 ○浅黄色2.5Y7/3。
364			7.6 1.3	1/2弱	○上げ底から内彎しながら口縁部までつづく。 ○口縁端部はやや丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みはナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、くさり礫を含む。 ○灰白色2.5Y8/2。
365			7.4 1.3		○平底から口縁部が外反する。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みはナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白・黒色微砂粒、くさり礫を含む。 ○灰黄色2.5Y7/2。
366	瓦器・足釜		残存長 (8.5) 残存幅 (5.5)		○脚部は断面円形の棒状。	○体部内面は横方向の細かいハケ目。 ○脚部は縦方向のヘラ削りの上をナデ。	○やや粗、黒色微砂粒を含む。 ○内面灰色N6/、外面灰色N4/。
367	土師器	羽釜	28.8 (3.4)		○底部を欠く。 ○口縁部は内方を向く。 ○口縁端部はやや肥厚する。	○口縁部～体部の外面をヨコナデ。 ○体部内面はハケ目。	○粗、白・黒色砂粒を含む。 ○内面褐灰色5YR4/1、外面灰褐色5YR6/2。 ○外面一部に煤付着。
368	瓦器・足釜		14.4 (5.7)	1/2	○体部から口縁部まで、内方に内彎しながら立つ。 ○口縁端部は内側に少し肥厚し、上端部は面をもつ。 ○鍔は短く、断面三角形。	○口縁部外面～鍔の下までヨコナデ。 ○体部外面はナデ。 ○内面は横方向の細かいハケ目。	○やや粗、白色微砂粒を含む。 ○内面灰色N5/、外面暗灰色N3/。
369			16.4 (3.8)	1/6	○体部から口縁部まで、内方に内彎しながら立つ。 ○口縁端部は内傾し、面をもつ。 ○鍔は短い。	○口縁部外面～鍔の下までヨコナデ。 ○体部外面はナデ。	○やや粗、黒色微砂粒を含む。 ○内面灰色N6/、外面灰色N4/。
370			18.4 (11.3)	1/2強	○体部から口縁部まで、内方に内彎しながら立つ。 ○口縁端部は内傾し、面をもつ。 ○肩部に水平方向の鍔が付き、短く、断面方形。	○口縁部内外面～鍔部までヨコナデ。 ○体部外面はナデ。 ○口縁部内面を指押さえ。 ○体部内面はナデ。	○やや粗、白色微砂粒を含む。 ○内面灰色N4/、外面暗灰色N3/。
371	須恵器・捏鉢		26.0 (4.8)		○直線的に外方へ開く体部。 ○口縁部は上方に拡張し、内傾する。端部は丸味をもつ。 ○口縁部すぐ下の器壁は薄くなる。	○内外面は右廻りのロクロナデ。	○粗、粗い白色砂粒を多く含む。 ○オリーブ灰色2.5GY5/1～灰色N6/。 口縁部端面は灰色N4/。 ○外面に煤付着。 ○東播系。
372			30.4 (7.9)		○体部から口縁部まで直線的に開く。 ○口縁端部は内上方に丸く肥厚し、内傾する外端面をもつ。	○内外面をロクロナデ。	○やや粗、白色砂粒を含む。 ○灰色10Y5/1。 ○東播系。
373			底径 9.0 (5.3)	1/2	○底部から体部まで直線的に開く。	○底部外面に静止糸切り痕。 ○体部外面ナデ。 ○体部内面は煤付着のため不明。	○粗、白色砂粒を多く含む。○東播系。 ○内面黒色N2/、外面灰色10Y5/1。
374	瓦器・椀		14.3 (3.3)		○ほぼ直線的に伸びる体部から口縁部につづく。 ○口縁端部はやや内傾して沈線をもつ。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○体部外面は指押さえの上をナデ、口縁部～体部下位まで粗いミガキ。 ○内面はナデの上に密なミガキ。	○精緻、白色砂粒を含む。 ○灰色N5/。 ○井戸3。

井戸4出土瓦器・土師器・須恵器・平瓦

番号	器形	器種	法量(cm)	残存	形態の特徴	技法の特徴	備考
394	瓦器・椀		14.6 5.3 4.3	1/2強	○少し丸底。体部は内彎して外上方に立ち上がり、口縁部は少し屈曲して外彎気味に開く。 ○口縁端部はゆるく内傾して沈線をもつ。 ○高台の形は大きさが不均一。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○体部外面を指押さえ、口縁部から体部中位まで粗いミガキ。 ○内面はほぼ密にミガキ。 ○見込みに螺施状の暗文。	○精緻、白色微砂粒を含む。 ○灰色N4/。 ○井戸4－1。
395			14.3 5.2 4.9	1/3強	○少し丸底。体部は内彎して外上方に立ち上がり、口縁部は少し屈曲して外彎気味に開く。 ○口縁端部はゆるく内傾して沈線をもつ。 ○高台は、断面三角形でつまみ風。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○体部外面を指押さえ、口縁部から体部中位まで粗いミガキ。 ○内面はほぼ密にミガキ。 ○見込みに同心円文の暗文。	○精緻、黒色微砂粒を含む。 ○灰色N5/。 ○井戸4－2。
396			14.2 (4.4)	1/4	○底部を欠く。 ○内彎しながら伸びる体部から、口縁部が屈曲して外上方に開く。 ○口縁端部は内傾して沈線をもつ。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○体部外面を指押さえ、口縁部から体部中位まで粗いミガキ。 ○内面はほぼ密にミガキ。	○精緻、白・黒色微砂粒を含む。 ○灰色N5/～灰白色2.5Y8/1。

番号	器種	器形	法量(cm)	残存	形態の特徴	技法の特徴	備考
397	瓦器・椀		14.2 4.8 5.1	1/3	○丸底から体部は内彎して外上方に立ち上がり、口縁部は少し屈曲して外彎気味に開く。 ○口縁端部はゆるく内傾して沈線をもつ。 ○高台は断面逆台形。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○体部外面を指押さえ、口縁部から体部中位まで粗いミガキ。 ○内面はほぼ密にミガキ。 ○見込みに同心円文の暗文。	○精緻、白・黒色微砂粒を含む。 ○灰色N5/。 ○井戸4－1。
398			14.2 5.1 4.7	1/2弱	○平底から体部は内彎して外上方に立ち上がり、口縁部は少し屈曲して外彎気味に開く。 ○口縁端部はゆるく内傾して沈線をもつ。 ○高台は断面逆台形。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○体部外面を指押さえ、口縁部から体部中位まで粗いミガキ。 ○内面はほぼ密にミガキ。 ○見込みは風化の為暗文不明。	○精緻、白・黒色微砂粒を含む。 ○灰色N5/。
399			14.1 4.7 3.8	1/8	○丸底から体部は内彎して外上方に立ち上がり、口縁部は少し屈曲して外彎気味に開く。 ○口縁端部はゆるく内傾して沈線をもつ。 ○高台は断面逆台形。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○体部外面を指押さえ、口縁部から体部中位まで粗いミガキ。 ○内面はほぼ密にミガキ。 ○見込みに同心円文の暗文。	○精緻、白色微砂粒を含む。 ○灰色N4/。 ○井戸4、最下層。
400			14.7 5.2 4.7	ほぼ完形	○丸底から体部は内彎しながらそのまま口縁部までなだらかに開く。器壁は薄い。 ○高台は断面三角形。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○体部外面を指押さえ。 ○口縁部外面に粗いミガキ。 ○体部内面はナデの上にやや粗いミガキ。 ○見込みは平行線状の暗文。	○精緻、白・黒色微砂粒を含む。 ○灰色N4/。
401	瓦器・小皿		9.5 1.4	1/6	○平底から屈曲して外上方へ開く口縁部。 ○口縁端部は更に外上方へ向き、少し尖り気味。	○口縁部内外面～見込みの半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。 ○見込みは粗いジグザグ状の平行線の暗文(?)。	○精緻、白色微砂粒を含む。 ○灰白色10YR7/1～灰白色10YR8/1。
402			9.4 1.5		○平底から屈曲して外上方へ開く口縁部。 ○口縁端部は更に外方へ向き、丸く納める。	○口縁部内外面～見込みの半ばまでヨコナデ。 ○底部外面は指押さえ。 ○見込みはナデの上を粗いジグザグ状の平行線の暗文。	○精緻、白色砂粒を含む。 ○灰色7.5Y4/1。 ○井戸4－1。
403			9.2 2.0	ほぼ完形	○やや丸底気味の底部から、なだらかに内彎して口縁部へつづく。端部は厚くなり丸く納める。	○口縁部内外面～見込みの半ばまでヨコナデ。 ○底部外面は指押さえ。 ○見込みはジグザグ状の平行線の暗文。 ○口縁部内面に密なミガキ。	○精緻、黒色砂粒を含む。 ○灰色N4/～灰白色N8/。 ○井戸4－2。
404	土師器・台付大皿		16.8 4.9 10.7	ほぼ完形	○「ハ」の字形の脚部に、底部からほぼ斜めに開く口縁部。 ○口縁端部に沈線。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○見込みはナデ。 ○体部外面、脚部は風化の為不明。	○精緻、白色砂粒、くさり礫を多く含む。 ○灰白色5Y8/2。 ○外面に煤付着。 ○井戸4－2。
405	土師器・大皿		13.6 2.3	1/2弱	○平底から口縁部までなだらかに内彎しながらつづく。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○見込みはナデ。 ○底部外面を指押さえ。	○精緻、白色砂粒、くさり礫を多く含む。 ○淡黄色2.5Y8/3。 ○SX最下層。
406			12.5 1.7	1/6	○中央部が上げ底気味の底部から口縁部までなだらかに内彎しながらつづく。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○見込みはナデ。 ○底部外面を指押さえ。	○精緻、白・黒色砂粒、くさり礫を含む。 ○にぶい黄橙色10YR7/4。
407			11.4 (2.0)	1/6	○底部を欠く。 ○口縁部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○見込みはナデ。 ○底部外面を指押さえ。	○精緻、白・黒色砂粒、くさり礫を含む。 ○にぶい橙色7.5YR7/3～7/4。
408			10.8 1.4	1/6	○中央部が上げ底気味の底部から、口縁部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込みにかけてヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面を指押さえ。	○精緻、白・黒色砂粒、を含む。 ○にぶい橙色7.5YR7/3～褐灰色7.5YR6/1。(煤ける)。
409			10.3 1.2	1/6	○平底。底部と口縁部の境は厚くなり、口縁部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込みにかけてヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面を指押さえ。	○精緻、白・黒色砂粒を含む。 ○にぶい橙色7.5YR7/4。
410			10.1 1.4	1/6	○丸底気味の底部から、口縁部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込みにかけてヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面を指押さえ。	○精緻、黒色砂粒、くさり礫を含む。 ○灰白色2.5Y8/2。 ○SX最下層。
411	土師器・小皿		9.4 2.1	ほぼ完形	○丸底気味の底部から、口縁部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○見込みはナデ。 ○底部外面を指押さえ。	○精緻、くさり礫を多く含む。 ○内面淡黄色2.5Y8/3、外面黄灰色2.5Y6/1～にぶい橙色7.5YR7/4。 ○井戸4－2。

番号	器種器形	法量(cm)	残存	形態の特徴	技法の特徴	備考
412	土師器・小皿	9.3 1.7	1/4強	○平底から口縁部までなだらかに内彎しながらつづく。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○見込みはナデ。 ○底部外面を指押さえ。	○精緻、白色微砂粒を含む。 ○浅黄橙色10YR8/3。 ○井戸4－2。
413		9.0 1.3	1/6	○平底から屈曲して外反しながら外上方に伸びる口縁部。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込みにかけてヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面を指押さえ。	○精緻、白・黒色砂粒を含む。 ○内面橙色2.5YR6/6、外面にぶい橙色2.5YR6/4。
414		8.9 1.3	1/4	○平底から屈曲して外反しながら外上方に伸びる口縁部。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込みにかけてヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面を指押さえ。	○精緻、白・黒色砂粒を含む。 ○にぶい黄橙色10YR7/3。
415		8.6 1.4	1/4強	○やや丸底気味の底部から口縁部までなだらかに内彎しながらつづく。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込みにかけてヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面を指押さえ。	○精緻、白・黒色微砂粒、くさり礫を含む。 ○内面媒付着。 外面にぶい黄橙色2.5YR7/4～10YR7/3。 ○SX最下層。
416		8.5 1.4	1/6	○平底。底部と口縁部の境は厚くなり外方に出張り気味で口縁部が外上方へ伸びる。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込みにかけてヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面を指押さえ。	○精緻、白・黒色微砂粒、くさり礫を含む。 ○にぶい黄橙色10YR7/3。 ○内外面共一部煤ける。
417		8.5 1.6	1/4強	○丸底気味の底部から口縁部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込みにかけてヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面を指押さえ。	○精緻、白・黒色微砂粒、くさり礫を含む。 ○にぶい橙色7.5YR7/3。
418		8.4 1.4	1/8	○平底から口縁部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縁端部は上方へつまみ上げ丸く納める。	○口縁部内外面～見込みにかけてヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面を指押さえ。	○精緻、黒色砂粒、くさり礫を含む。 ○内面浅黄橙色7.5YR8/3、 外面浅黄橙色7.5YR8/4。
419		8.4 1.2	1/6	○平底から口縁部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縁端部は上方へつまみ上げ丸く納める。	○口縁部内外面～見込みにかけてヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面を指押さえ。	○精緻、黒色砂粒、くさり礫を含む。 ○褐灰色10YR6/1～にぶい橙色7.5YR7/4。
420		8.4 1.3	1/4弱	○平底から、なだらかに内彎しながら口縁部につづく。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込みにかけてヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面を指押さえ。	○精緻、白・黒色砂粒を含む。 ○にぶい橙色7.5YR7/3。
421		8.2 1.3	1/4弱	○平底。底部から口縁部の器壁は厚くなり外方に出張り気味で口縁部がやや外上方へ伸びる。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込みにかけてヨコナデ。 ○見込みはナデ。 ○底部外面はナデ。	○精緻、黒色微砂粒、くさり礫を含む。 ○内面にぶい橙色5YR7/3、 外面浅黄橙色7.5YR8/3。
422		8.1 1.1	1/6	○平底。底部と口縁部の境は厚くなり外方に出張り気味で口縁部が外上方へ伸びる。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込みにかけてヨコナデ。 ○見込みはナデ。 ○底部外面はナデ。	○精緻、黒色微砂粒、くさり礫を含む。 ○内面にぶい橙色7.5YR7/3、 外面にぶい橙色7.5YR7/4。
423		8.0 1.3	1/4弱	○平底。底部と口縁部の境は厚くなり外方に出張り気味で口縁部が外上方へ伸びる。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込みにかけてヨコナデ。 ○見込みはナデ。 ○底部外面はナデ。	○精緻、黒色微砂粒、くさり礫を含む。 ○内面灰赤色2.5YR5/2、外面にぶい褐色7.5YR6/3。
424		7.7 0.9	1/8	○平底。底部と口縁部の境は厚くなり外方に出張り気味で口縁部が外上方へ伸びる。 ○口縁端部は上方につまみあげ尖り気味。	○口縁部内外面～見込みにかけてヨコナデ。 ○見込みはナデ。 ○底部外面はナデ。	○精緻、白・黒色砂粒、くさり礫を含む。 ○にぶい橙色7.5YR7/4。
425		7.2 1.2	1/4弱	○平底からなだらかに内彎しながら口縁部までつづく。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込みにかけてヨコナデ。 ○見込みはナデ。 ○底部外面はナデ。	○精緻、白・黒色砂粒を含む。 ○にぶい橙色7.5YR7/4。
426		7.2 1.5	1/4	○平底。底部と口縁部の境は厚くなり外方に出張り気味で口縁部は外上方へ伸びる。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込みにかけてヨコナデ。 ○見込みはナデ。 ○底部外面はナデ。	○精緻、白・黒色砂粒を含む。 ○内面褐灰色5YR5/1、外面灰褐色5YR6/2。

番号	器種	器形	法量(cm)	残存	形態の特徴	技法の特徴	備考
427	瓦器	羽釜	29.2 (7.2)	1/4弱	○内彎する体部から口縁部が少し内傾して立つ。 ○口縁端部はやや丸味をもつ。 ○短い鍔をやや上向きにつける。	○内面～鍔部までヨコナデ。 ○体部外面はナデ。	○やや粗、白・黒色砂粒を含む。 ○暗灰色N3/～灰白色8/。 ○井戸4－2。
428	須恵器	甕	28.8 (3.2)		○短く立つ頸部に口縁部が外反する。 ○口縁部は内端に沈線をもつ。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○頸部外面は叩きの上をヨコナデ。 ○頸部内面をナデ。	○粗、白・黒色砂粒を多く含む。 ○内面オリーブ灰色5GY7/1、 外面灰色N4/。 ○井戸4－1。
429	平瓦		残存長 (13.5) 残存幅 12.7 厚 2.6			○表面縄目痕平行タタキ。 ○表面布目痕。	○粗、白・黒色砂粒を多く含む。 ○青灰色5GB5/1。 ○井戸4－2。

土壙・ピット出土瓦器・土師器・東播系須恵器・輸入磁器

番号	器種	器形	法量(cm)	残存	形態の特徴	技法の特徴	備考
375	瓦器	椀	底 5.1 (1.7)		○丸底。 ○高台は断面三角形。	○見込みはナデの上に連結輪状の暗文。 ○高台はナデつけ。	○精緻、黒色砂粒を含む。 ○灰色N5/。 ○ピット441。
376	瓦器	小皿	8.0 1.3	1/2弱	○平底から口縁部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○見込みはナデの上に、ジグザグ状の平行線の暗文。 ○外面底部は指押さえ。	○精緻、白色砂粒を含む。 ○灰色N5/～浅黄色7.5Y7/3。 ○ピット187。
377	土師器	大皿	11.1 2.5	1/8	○底部を欠く。 ○口縁部が屈曲後外彎しながら開く。 ○口縁端部は尖り気味。	○口縁部内外面をヨコナデ。	○精緻、白・黒色砂粒、くさり礫を含む。 ○にぶい橙色7.5YR7/3。 ○ピット241。
378	土師器・小皿		8.8 1.4	1/6	○平底から口縁部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込み中央部はナデ。 ○底部外面はナデ。	○精緻、白・黒色砂粒を含む。 ○内面淡赤橙色2.5YR7/3、外面灰色2.5Y8/1。 ○ピット198、192。
379			8.6 1.1	1/8	○平底から口縁部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縁端部は上方へつまみ上げ、尖り気味。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込み中央部はナデ。 ○底部外面はナデ。	○精緻、白・黒色砂粒を含む。 ○淡黄色2.5Y8/3。 ○ピット445。
380			8.4 1.4	完形	○やや小さい底部から口縁部が屈曲後、外彎しながら開く。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込み中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、黒色砂粒、くさり礫を含む。 ○灰白色2.5Y8/2。 ○焼土壙。
381			8.3 1.9	ほぼ完形	○やや小さい底部から口縁部が屈曲後、外彎しながら開く。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込み中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白色砂粒、くさり礫を含む。 ○にぶい橙色7.5YR7/3。 ○焼土壙。
382			8.1 1.0	1/4弱	○平底から口縁部までなだらかに内彎しながらつづく。 ○口縁端部は上方へつまみ上げ、やや尖り気味。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込み中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白・黒色砂粒を含む。 ○浅黄橙色10YR8/3。 ○ピット301。
383			8.0 1.9	完形	○やや小さい底部から口縁部が屈曲後、外彎しながら開く。 ○口縁端部は上方へつまみ上げ、やや尖り気味。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ(左廻り)。 ○見込み中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、くさり礫を含む。 ○灰白色2.5Y8/2。 ○焼土壙。
384			8.0 1.2	ほぼ完形	○平底から口縁部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ(右廻り)。 ○見込み中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白・黒色砂粒、くさり礫を含む。 ○浅黄橙色10YR8/3。 ○ピット281。
385			7.9 1.5	1/4	○平底から口縁部までなだらかに内彎しながらつづく。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込み中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白・黒色砂粒、くさり礫を含む。 ○浅黄橙色10YR8/3。 ○ピット307。
386			7.8 1.6	完形	○平底から口縁部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込み中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白色砂粒、くさり礫を含む。 ○淡黄色2.5Y8/3。 ○焼土壙。

番号	器形	法量(cm)	残存	形態の特徴	技法の特徴	備考
387	土師器・小皿	7.8 1.4	2/3	○平底から口縁部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込み中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白色砂粒、くさり礫を含む。 ○淡黄色2.5Y8/3。 ○焼土壙
388		7.6 1.0	1/4弱	○平底から口縁部までなだらかに内彎しながらつづく。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込み中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白・黒色砂粒を含む。 ○浅黄橙色10YR8/3。 ○ピット307。
389	輸入磁器・青磁碗	12.8 (4.6)		○外傾する体部からそのまま口縁部につづく。 ○口縁端部は少し外折し、丸く納める。 ○底部を欠く。	○口縁部内外面をロクロナデ。 ○体部外面をロクロ削り。 ○内外面共施釉。	○精良。 ○素地 灰白色7.5Y7/1、釉 灰オリーブ7.5Y6/2。 ○ピット137。
390		16.2 (3.9)	1/8	○外傾する体部からそのまま口縁部につづく。 ○口縁端部は少し外折し、丸く納める。 ○底部を欠く。	○内外面共ロクロナデ。	○精良。 ○素地 灰白色N8/、釉 灰色7.5Y6/1。 ○ピット103。
391	輸入磁器 白磁碗	11.2 (3.6)	1/8	○内彎しながら外上方に立ち上がる体部から口縁部につづく。 ○口縁端部は玉縁状を呈す。 ○底部を欠く。	○口縁部内外面をロクロナデ。 ○体部外面をロクロ削り。 ○内外面共施釉。	○精良。 ○素地、釉共灰白色7.5Y7/1。 ○ピット261。
392	須恵器 捏鉢	24.0 (4.4)		○斜め上方に開く体部からそのまま口縁部につづく。 ○口縁端部の上部肥厚。	○内外面をロクロナデ。	○精緻、白・黒色微砂粒を含む。 ○灰色N6/。○東播系。 ○ピット384。
393	瓦器・火舎	43.0 (7.1)		○直立する体部からそのまま口縁部につづく。 ○口縁部に2条の凸帯。	○内外面をヨコナデ。	○精緻、白・黒色微砂粒を含む。 ○黒褐色10YR3/1。 ○ピット175。

土壙出土瓦器・土師器・東播系須恵器・輸入磁器・瓦

番号	器形	法量(cm)	残存	形態の特徴	技法の特徴	備考
430	瓦器・椀	14.9 (3.8)	1/6	○底部を欠く。 ○体部は内彎して外上方に立ち上がり、口縁部は少し屈曲して外彎気味に開く。 ○口縁端部はゆるく内傾して沈線をもつ。	○口縁部内端、外面をヨコナデ。 ○体部外面は指押さえ。口縁部から体部中位まで粗いミガキ。 ○内面はほぼ密なミガキ。 ○見込みの暗文は不明。	○精緻、白色砂粒を多く含む。 ○灰色N6/。 ○土壙29。
431		14.5 4.7 5.0 ※32.4	完形	○少し丸底気味。体部は内彎して外上方に立ち上がり口縁部は少し屈曲して外彎気味に開く。 ○口縁端部はゆるく内傾して沈線をもつ。	○口縁部内端、外面をヨコナデ。 ○体部外面は指押さえ。口縁部から体部下位まで粗いミガキ。 内面はほぼ密なミガキ。 ○見込みに螺旋状の暗文。 ○高台はナデつけ。	○精緻、白・黒色微砂粒を多く含む。 ○灰色N4/。 ○土壙19。
432		11.3 1.8 ※16.0	1/6	○やや丸底から、そのまま内彎しながら口縁部につづく。 ○器厚はほぼ均一。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○体部外面を指押さえ。 ○内面は、とぎれとぎれの渦巻状の暗文。	○精緻、白色砂粒を多く含む。 ○内面灰色N6/～灰白色N7/、 外面灰色N6/。 ○土壙24。
433	瓦器・小皿	10.0 1.5	1/3	○上げ底気味の底部から屈曲して外上方へ開く口縁部。 ○口縁端部は更に外方へ向き、丸く納める。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○底部外面は指押さえ。 ○見込みはジグザグ状の密な平行線の暗文。	○精緻、黒色微砂粒を含む。 ○灰色N6/～灰白色N7/。 ○土壙30。
434		9.1 (2.1)	1/6	○丸底から口縁部まで内彎しながら開く。 ○口縁端部は少し外方を向き、丸く納める。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○底部外面は指押さえ。 ○見込みはジグザグ状の粗い平行線の暗文。	○精緻、白・黒色砂粒を含む。 ○灰白色N7/。 ○土壙29。
435		8.0 1.5	1/3	○丸底からゆるく内彎しながら口縁部へつづき、口縁部は外反する。 ○口縁端部は更に外方へ向き、丸く納める。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○底部外面は指押さえ。 ○見込みはジグザグ状の粗い平行線の暗文。	○精緻、白・黒色砂粒を含む。 ○灰色N5/。 ○土壙24。
436	土師器・大皿	12.6 2.0	1/8	○底部を欠く。 ○底部から屈曲して口縁部が外上方へ伸びる。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面をヨコナデ。	○精緻、白・黒色砂粒、くさり礫を含む。 ○浅黄橙色7.5YR8/3。 ○土壙18。

番号	器形	法量(cm)	残存	形態の特徴	技法の特徴	備考
437	土師器・大皿	11.7 2.7	1/4弱	○丸底気味の底部から口縁部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縁端部はやや外方を向き薄くなるが丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白・黒色砂粒、くさり礫を含む。 ○灰白色7.5YR8/2～にぶい橙色5YR7/3。 ○土壙37。
438		10.3 2.5	1/4弱	○やや小さい底部から口縁部が屈曲後、外彎しながら開く。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○外面を指押さえ。	○精緻、白・黒色砂粒、くさり礫を含む。 ○にぶい橙色7.5YR7/4。 ○土壙18。
439		11.6 2.1	1/8	○底部を欠く。 ○口縁部が屈曲後、外彎しながら開く。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○外面を指押さえ。	○精緻、白・黒色砂粒、くさり礫を含む。 ○にぶい橙色7.5YR7/4。 ○土壙18。
440	土師器・小皿	9.9 (1.5)	1/4	○丸底気味の底部から、口縁部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縁端部はやや外方を向き薄くなるが丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白色微砂粒、くさり礫を多く含む。 ○にぶい黄橙色10YR7/3。 ○土壙18。
441		8.3 1.2	1/3	○平底。底部と口縁部の境は厚くなり外方に出張り気味で口縁部が外上方へ伸びる。 ○口縁端部は上方につまみ上げる。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白色微砂粒、くさり礫を多く含む。 ○にぶい黄橙色10YR6/4。 ○土壙29。
442		8.5 1.8	1/4弱	○やや小さい底部から口縁部が屈曲後、外彎しながら開く。 ○口縁端部は上方につまみ上げ、丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、黒色砂粒、くさり礫を多く含む。 ○内面にぶい黄橙色10YR7/2、 外面にぶい橙色7.5YR7/4。 ○口縁端部煤付着。 ○土壙18。
443		8.1 1.0	完形	○平底から屈曲して口縁部が外上方へ伸びる。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、黒色微砂粒を含む。 ○浅黄橙色10YR8/3。 ○土壙21。
444		8.1 1.5	1/2強	○中央部が上げ底気味の底部から口縁部までなだらかに内彎しながらつづく。 ○口縁端部は上方につまみ上げ、丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白・黒色砂粒、くさり礫を多く含む。 ○にぶい黄橙色10YR7/3。 ○土壙21。
445		8.1 1.9	完形	○中央部が上げ底気味の底部から口縁部が屈曲後、外彎しながら開く。 ○口縁端部はやや尖り気味。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白色砂粒、くさり礫を多く含む。 ○にぶい黄橙色10YR7/3。 ○土壙18。
446		8.0 1.1	1/3	○中央部が上げ底気味の底部から口縁部が屈曲後、外彎しながら開く。 ○口縁端部は上方につまみ上げ、丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白色砂粒、くさり礫を多く含む。 ○にぶい黄橙色10YR7/3。 ○土壙21。
447		7.2 1.8	1/4強	○底部を欠く。 ○やや小さい底部から口縁部が屈曲後、外彎しながら開く。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、黒色微砂粒を多く含む。 ○淡黄色2.5Y8/3。 ○土壙18。
448	瓦器・羽釜	19.4 (5.2)	1/8	○わずかに内傾する体部から口縁部がほぼまっすぐに立ち、口縁部外面にはナデにより、二つの段をもつ。 ○口縁端部は内方に拡張後つまみ上げ、上端部に面をもつ。　○鍔を欠く。	○口縁部内外面～鍔の下までヨコナデ。 ○体部内面は横方向の細かいハケ目。	○やや粗、白・黒色砂粒を多く含む。 ○灰白色2.5Y8/1～黄灰色2.5Y6/1。 ○土壙17。
449	須恵器・甕	22.6 (5.6)		○内傾する体部から、短く立つ頸部に口縁部が外反する。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○体部外面を平行タタキ。 ○体部内面は横方向の細かいハケ目。	○やや粗、白・黒色砂粒を多く含む。 ○灰色N6/～青灰色5B5/1。 ○土壙29。
450	須恵器・擂鉢	底10.4 (2.8)	1/8	○平底からほぼ直線的に体部が開く。	○体部外面～底部はヘラ削り(原体幅1.8cm)。 ○体部内面にスリ目。	○やや粗、白・黒色砂粒を多く含む。 ○明オリーブ灰色2.5GY7/1。 ○土壙26。

番号	器種	器形	法量(cm)	残存	形態の特徴	技法の特徴	備考
451	輸入磁器・白磁	碗	16.0 (2.8)	1/8	○底部を欠く。 ○体部～口縁部まで斜上方に直線的に伸びる。 ○口縁端部は下方に肥厚する。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○体部外面露胎。	○精良。 ○素地 明オリーブ灰色2.5GY7/1、 釉 灰白色2.5GY8/1。 ○土壙15。
452	須恵器	甕	30.6 (8.4)		○なだらかに内傾して伸びる体部から、ゆるやかに屈曲してやや外反気味に上方へ短く立ち上がる頸部。 ○口縁部は外反し、端部は外傾し面をつくる。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○体部外面を平行タタキ。 ○体部内面は横方向の細かいハケ目。	○粗、白・黒色砂粒を多く含む。 ○灰色N6/～明オリーブ灰色2.5GY7/1。 ○土壙36。
453	丸瓦		長(9.7) 幅(10.1) 厚 2.2			○表面、縄目痕タタキ、後ナデ。 ○裏面、布目痕。	○粗、白・黒色砂粒を多く含む。 ○灰色5Y6/1。 ○土壙17。
454	平瓦		長(11.6) 幅(13.6) 厚 2.5			○表面、縄目痕タタキ。 ○裏面、布目痕。	○粗、白・黒色砂粒を多く含む。 ○灰色5Y5/1。 ○土壙18。

土壙1出土土器

番号	器種	器形	法量(cm)	残存	形態の特徴	技法の特徴	備考
455	瓦器	椀	9.3 (3.3)	2/3	○丸底から内彎しながら体部が高く外上方に伸びる。 ○口縁端部は内傾して浅い沈線。 ○高台は低い断面三角形。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○体部内面～見込みまで渦巻状の暗文。 ○体部外面を指押さえ。 ○高台はナデつけ。	○精緻、白色微砂粒を含む。 ○暗青灰色5PB4/1。 ○土壙1－1。
456			10.9 2.7 ※24.8	完形	○丸底から口縁部まで内彎しながらそのままつづく。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○体部外面を指押さえ。 ○体部内面は一定方向のナデの上に渦巻状の暗文。	○やや粗、白・黒色砂粒、くさり礫を含む。 ○灰色N4/。
457			10.6 2.9 ※27.4	ほぼ完形	○丸底から口縁部まで内彎しながらそのままつづく。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○体部外面は指押さえとナデ。 ○体部内面は一定方向のナデの上に渦巻状の暗文。	○やや粗、白色砂粒を含む。 ○灰色N5/。 ○炭素吸着にムラがある。
458			10.6 2.4 ※22.6	1/2	○丸底から口縁部まで内彎しながらそのままつづく。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○体部外面は指押さえ。 ○体部内面は一定方向のナデの上に渦巻状の暗文。	○やや粗、白色砂粒を多く含む。 ○灰色N6/。
459			10.5 2.6 ※24.8	完形	○丸底から口縁部まで内彎しながらそのままつづく。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○体部外面は指押さえ。 ○体部内面は一定方向のナデの上に渦巻状の暗文。	○やや粗、白色砂粒を含む。 ○暗灰色N3/～灰色N5/。 ○底部に重ね焼き痕。 ○土壙1－1。
460			10.4 2.7 ※26.0	完形	○丸底から口縁部まで内彎しながらそのままつづく。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○体部外面は指押さえ。 ○内面はナデの上に渦巻状の暗文を切れ切れに施す。	○粗、白・黒色砂粒を多く含む。 ○灰白色N7/。 ○炭素吸着は口縁部のみ灰色N4/。
461			10.4 2.9 ※27.4	ほぼ完形	○丸底から口縁部まで内彎しながらそのままつづく。 ○口縁端部は丸く納める。 ○口縁部すぐ下の器壁は薄くなる。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○体部外面は指押さえ。 ○体部内面はナデの上に渦巻状の暗文。	○粗、白・黒色砂粒を多く含む。 ○灰色N4/。 ○体部外面灰白色N7/。炭素吸着しない。
462			10.4 (2.5)	1/2弱	○底部からゆるく内彎しながら立ち上がる体部から口縁部までそのままつづく。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○体部外面は指押さえ。 ○体部内面はナデの上に渦巻状の暗文。	○やや粗、白・黒色砂粒を含む。 ○口縁部外面一部灰色N6/。その他灰白色5Y8/1。
463			10.3 2.8 ※27.2	完形	○丸底から口縁部まで内彎しながらそのままつづく。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○体部外面は指押さえ。 ○内面はナデの上に渦巻状の暗文を切れ切れに施す。	○やや粗、白・黒色微砂粗を多量に含む。 ○灰白色N8/。 ○炭素吸着は口縁部一部のみ。 ○土壙1－1。

番号	器種	器形	法量(cm)	残存	形態の特徴	技法の特徴	備考
464	土師器	瓦器・椀	10.1 2.7 ※26.7	完形	○丸底から口縁部まで内彎しながらそのままつづく。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面をヨコナデ。 ○体部外面を指押さえ。 ○内面はナデの上に渦巻状の暗文。	○やや粗、白・黒色砂粒を含む。 ○暗灰色N3/。 炭素吸着98%。 ○土ﾅ壙1−1。
465	土師器・大皿		11.0 2.3	完形	○平底。底部がやや出張り気味で、稜を残して口縁部が外上方へ伸びる。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面〜見込みにかけてヨコナデ。他はナデ。	○やや粗、黒色砂粒、くさり礫を多く含む。 ○浅黄橙色7.5YR8/3。
466			10.9 2.0	完形	○上げ底気味の底部から屈曲して外上方へ開く口縁部。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面〜見込みにかけてヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面はナデ。指押さえ。	○やや粗、黒色微砂粒、くさり礫を含む。 ○灰白色7.5YR8/2。 ○内面〜口縁部外面にかけて煤ける。
467			10.8 2.1	完形	○平底。底部がやや出張り気味で、口縁部が外上方へ伸びる。 ○口縁端部は厚くなり丸く納める。	○口縁部内外面〜見込みにかけてヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面はナデ。	○精緻、白、黒色微砂粒を多く含む。 ○浅黄橙色7.5YR8/3。
468			11.7 1.8	完形	○平底。底部がやや出張り気味で、稜を残して口縁部が外上方へ伸びる。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面〜見込みにかけてヨコナデ(右廻り)。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面はナデ。	○精緻、黒色微砂粒を含む。 ○にぶい橙色7.5YR7/4。
469			10.7 2.2	完形	○平底。底部がやや出張り気味で、口縁部が外上方へ伸びる。 ○口縁端部はやや厚くなり丸く納める。	○口縁部内外面〜見込みにかけてヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は粗いナデ。	○精緻、白、黒色微砂粒を多く含む。 ○浅黄橙色10YR8/3。 ○口縁部一部に煤付着。
470			10.6 2.3	ほぼ完形	○平底。底部がやや出張り気味で、口縁部が外上方へ伸びる。 ○口縁端部はやや厚くなり丸く納める。	○口縁部内外面〜見込みにかけてヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は粗いナデ。	○精緻、白、黒色微砂粒を含む。 ○浅黄橙色7.5YR8/3。 ○外面に煤付着、暗灰色N3/。
471			10.6 2.3	完形	○やや丸底気味の底部から口縁部までなだらかに内彎しながらつづく。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面〜見込みにかけてヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は粗いナデ。	○精緻、白、黒色微砂粒を含む。 ○淡橙色5YR8/3。
472			10.5 2.5	完形	○やや丸底気味の底部から口縁部までなだらかに内彎しながらつづく。 ○口縁端部はつまみ上げる。	○口縁部内外面〜見込みにかけてヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は粗いナデ。	○精緻、白・黒色微砂粒を含む。 ○浅黄橙色7.5YR8/3。
473			10.3 2.0	完形	○平底。底部がやや出張り気味で、口縁部が外上方へ伸びる。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面〜見込みにかけてヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は粗いナデ。	○やや粗、白・黒色微砂粒を含む。 ○灰白色10YR8/2。
474	土師器・小皿		8.7 1.5	2/3	○平底から口縁部までなだらかに内彎しながらつづく。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面〜見込みにかけてヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は粗いナデ。	○やや粗、白色微砂粒、くさり礫を含む。 ○内面橙色7.5YR7/6、外面にぶい黄橙色10YR7/2。
475			8.3 1.4	完形	○平底。底部がやや出張り気味で、口縁部が外上方へ伸びる。 ○口縁端部は尖り気味。	○口縁部内外面〜見込みにかけてヨコナデ(右廻り)。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は粗いナデ。	○精緻、白・黒色微砂粒を含む。 ○内面にぶい黄橙色10YR7/2、外面にぶい橙色7.5YR7/3。 ○口縁端部一部煤ける。褐灰色10YR6/1。
476			8.3 1.8	完形	○やや丸底気味の底部から口縁部までなだらかに内彎しながらつづく。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面〜見込みにかけてヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は粗いナデ。	○精緻、白・黒色微砂粒を含む。 ○内面にぶい黄橙色10YR7/3、外面にぶい橙色7.5YR7/3。
477			8.2 1.6	ほぼ完形	○やや丸底気味の底部から口縁部までなだらかに内彎しながらつづく。 ○口縁端部はやや尖り気味。	○口縁部内外面〜見込みにかけてヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は粗いナデ。	○精緻、白・黒色微砂粒を含む。 ○にぶい橙色7.5YR7/3。
478			8.2 1.5	ほぼ完形	○やや丸底気味の底部から口縁部までなだらかに内彎しながらつづく。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面〜見込みにかけてヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は粗いナデ。	○精緻、白・黒色微砂粒を含む。 ○内面灰白色7.5YR8/2、外面淡橙色5YR8/3。
479			8.2 1.4	ほぼ完形	○平底。底部と口縁部の境は厚くなり外方に出張り気味で口縁部が外上方へ伸びる。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面〜見込みにかけてヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は粗いナデ。	○精緻、白・黒色微砂粒を含む。 ○内面浅黄橙色10YR8/3、外面にぶい褐色7.5YR6/3。

番号	器種	器形	法量(cm)	残存	形態の特徴	技法の特徴	備考
480	土師器・小皿		8.1 1.6	完形	○平底。底部がやや出張り気味で、口縁部が外上方に伸びる。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込みにかけてヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は粗いナデ。	○精緻、白・黒色微砂粒を含む。 ○にぶい黄橙色10YR7/3。
481			8.3 1.6	完形	○やや丸底気味の底部から口縁部までなだらかに内彎しながらつづく。 ○口縁端部は尖り気味。	○口縁部内外面～見込みにかけてヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は粗いナデ。	○精緻、白・黒色微砂粒を含む。 ○内面浅黄橙色10YR8/3、外面にぶい褐色7.5YR6/3。
482			8.0 1.8	完形	○平底。底部がやや出張り気味で、稜を残して口縁部が外上方へ伸びる。 ○口縁端部はやや尖り気味。	○口縁部内外面～見込みにかけてヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白・黒色微砂粒、くさり礫を含む。 ○にぶい黄橙色10YR7/3。 ○土壙1－1。
483			8.0 1.1	完形	○平底から口縁部までなだらかに内彎しながらつづく。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込みにかけてヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白・黒色微砂粒を含む。 ○内面灰白色7.5YR8/2、外面にぶい橙色7.5YR7/3。
484			7.9 1.6	完形	○上げ底気味の底部から屈曲して外上方へ開く口縁部。 ○口縁端部は厚くなり丸く納める。	○口縁部内外面～見込みにかけてヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白・黒色微砂粒、くさり礫を含む。 ○浅黄橙色7.5YR8/4。 ○外面煤ける灰色N6/。
485			7.9 1.4	完形	○平底。底部が出張り気味で、口縁部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込みにかけてヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白・黒色微砂粒を含む。 ○浅黄橙色10YR8/3。
486			7.8 1.6	完形	○平底。底部が出張り気味で、口縁部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縁端部はやや尖り気味。	○口縁部内外面～見込みにかけてヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白・黒色微砂粒、くさり礫を含む。 ○内面橙色2.5YR6/6、外面にぶい黄橙色10YR7/3。 ○土壙1－1。
487			7.8 1.6	完形	○丸底気味の底部から屈曲して外上方へ開く口縁部。 ○口縁端部は丸く納める。 ○底部中央は肉厚。	○口縁部内外面～見込みにかけてヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白・黒色微砂粒を含む。 ○内面にぶい黄橙色10YR7/3。 外面にぶい黄橙色10YR7/2。
488			7.8 1.3	完形	○平底から口縁部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込みにかけてヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白・黒色微砂粒を含む。 ○にぶい黄橙色10YR7/3。
489			7.8 1.5	完形	○平底から口縁部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縁端部はやや尖り気味。	○口縁部内外面～見込みにかけてヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白・黒色微砂粒を含む。 ○灰黄色2.5Y7/2。 ○土壙1－1。
490			7.8 1.2	完形	○平底から口縁部が屈曲して外上方へ伸びる。 ○口縁端部はやや尖り気味。	○口縁部内外面～見込みにかけてヨコナデ(右廻り)。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白・黒色微砂粒を含む。 ○内面灰白色2.5Y8/2、外面浅黄橙色7.5YR8/3。
491			7.7 1.7	完形	○丸底気味の底部から口縁部までなだらかに内彎しながらつづく。 ○口縁端部はやや尖り気味。	○口縁部内外面～見込みにかけてヨコナデ。(右廻り)。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は指押さえ。	○精緻、白色微砂粒、くさり礫を含む。 ○内面にぶい橙色7.5YR6/4、 外面にぶい黄橙色7.5YR7/3。 ○口縁部内外面煤ける。
492			7.7 1.5	完形	○平底から屈曲して外上方へ開く口縁部。 ○口縁端部はやや尖り気味。	○口縁部内外面～見込みにかけてヨコナデ(右廻り)。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は粗いナデ。	○精緻、白色微砂粒、くさり礫を含む。 ○内面にぶい黄橙色10YR7/2、 外面にぶい橙色7.5YR6/4。
493			7.7 1.3	完形	○平底。底部がやや出張り気味で口縁部が外上方へ伸びる。 ○口縁端部はやや尖り気味。	○口縁部内外面～見込みにかけてヨコナデ(右廻り)。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は粗いナデ。	○精緻、黒色微砂粒、くさり礫を含む。 ○内面灰白色10YR8/2、外面浅黄橙色10YR8/3。

番号	器種	器形	法量(cm)	残存	形態の特徴	技法の特徴	備考
494	土師器・小皿		7.6 1.4	完形	○平底から口縁部までなだらかに内彎しながらつづく。 ○口縁端部はやや尖り気味。	○口縁部内外面～見込みにかけてヨコナデ(右廻り)。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は粗いナデ。	○精緻、白・黒色微砂粒、くさり礫を含む。 ○灰白色2.5Y8/2。 煤付着灰色N4/。
495			7.5 1.6	完形	○平底から口縁部までなだらかに内彎しながらつづく。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込みにかけてヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は粗いナデ。	○粗、白・黒色砂粒、くさり礫を多く含む。 ○内面浅黄橙色10YR8/4、 外面淡黄色2.5Y8/3。
496			7.5 1.7	完形	○やや丸底気味の底部から口縁部までなだらかに内彎しながらつづく。 ○口縁端部はつまみ上げ、やや尖り気味。	○口縁部内外面～見込みにかけてヨコナデ(右廻り)。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は粗いナデ。	○精緻、白・黒色微砂粒を含む。 ○浅黄橙色10YR8/3。
497			7.4 1.4	完形	○平底。底部と口縁部の境は厚くなり外方に出張り気味で口縁部が外上方へ伸びる。 ○口縁端部はつまみ上げ、やや尖り気味。	○口縁部内外面～見込みにかけてヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は粗いナデ。	○やや粗、白・黒色砂粒、くさり礫を多く含む。 ○灰黄色2.5Y7/2。
498			7.4 1.4	完形	○平底から屈曲して外上方へ開く口縁部。 ○口縁端部はつまみ上げ、やや尖り気味。	○口縁部内外面～見込みにかけてヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は粗いナデ。	○やや粗、白・黒色砂粒、くさり礫を含む。 ○にぶい黄橙色10YR7/2～淡赤橙色2.5YR7/3。
499			7.2 1.4	ほぼ完形	○平底。底部と口縁部の境は厚くなり外方に出張り気味で口縁部が上方へ伸びる。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込みにかけてヨコナデ。 ○見込みの中央部はナデ。 ○底部外面は粗いナデ。	○精緻、白・黒色微砂粒を含む。 ○にぶい黄橙色10YR7/3。
500	土師器・羽釜		29.4 (9.6)	1/2	○体部はほぼまっすぐ立ち、肩部は内傾して、口縁部が水平近く外反する。 ○口縁端部は内側に巻き込み、張り付け状にする。 ○鍔は短く上方を向き、斜傾した外端面をもつ。	○口縁部内外面はヨコナデ。 ○体部内面はナデ。 ○鍔をナデつけ。	○やや粗、白・黒色砂粒、くさり礫を含む。 ○灰白色10YR8/2。
501			33.4 (14.3)	1/3	○体部はほぼまっすぐ立ち、肩部は内傾して、口縁部が水平近く外反する。 ○口縁端部は内側に巻き込み、張り付け状にする。 ○鍔は短く上方を向き、斜傾した外端面をもつ。	○口縁部内外面はヨコナデ。 ○体部内面はナデの後、横方向の粗い板ナデ。 ○鍔をナデつけ。	○やや粗、白・黒色砂粒を多く含む。 ○浅黄橙色10YR8/3。 ○土壙1－1。
502	輸入磁器	白磁碗	16.0 2.8	1/8	○体部から口縁部は直線的に外方へ開く。 ○口縁部は玉縁状を呈す。 ○底部を欠く。	○内外面ともヨコナデ。 ○体部中位外面には施釉しない。	○精良、黒色微砂粒を含む。 ○素地 灰白色N8/、 釉 灰白色2.5GY8/1。 ○土壙1－2。

木棺墓2供献土師器・輸入磁器

番号	器種	器形	法量(cm)	残存	形態の特徴	技法の特徴	備考
503	土師器・小皿		口 7.9 高 1.4	ほぼ完形	○中央部が上げ底気味の底部から、なだらかに内彎しながら口縁部につづく。 ○口縁端部はやや尖り気味。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込み中央部・底部外面はナデ。	○精緻。くさり礫、黒・白色砂粒など微砂粒を含む。 ○浅黄橙色10YR8/3。
504			7.9 1.3	完形	○平底から口縁部までなだらかに内彎しながらつづく。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○底部外面は指押さえとナデ。	○精緻。くさり礫、黒・白色砂粒など微砂粒を含む。 ○浅黄橙色7.5YR8/4。
505			7.8 1.3	完形	○平底から口縁部までなだらかに内彎しながらつづく。 ○口縁端部はやや尖り気味。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○底部外面は指押さえとナデ。	○精緻。くさり礫、黒・白色砂粒など微砂粒を含む。 ○浅黄橙色10YR8/3。
506			7.7 1.3	完形	○平底から口縁部までなだらかに内彎しながらつづく。 ○口縁端部はやや尖り気味。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○底部外面は指押さえとナデ。	○精緻。くさり礫、黒・白色砂粒など微砂粒を含む。 ○浅黄橙色10YR8/3。
507	土師器・大皿		12.1 2.1	ほぼ完形	○平底から口縁部までなだらかに内彎しながらつづく。 ○口縁端部はやや尖り気味。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○底部外面は指押さえとナデ。	○精緻。くさり礫、黒・白色砂粒など微砂粒を含む。 ○浅黄橙色10YR8/3。

番号	器形 器種	法量 (cm)	残存	形態の特徴	技法の特徴	備考
508	輸入磁器・青磁碗	口 16.0 高 6.9 底 4.7 ※ 43.1	完形	○厚い平底から口縁部まで斜上方に直線的に伸びる。 ○口縁端部は丸く納める。 ○高台は断面方形。	○体部内面と見込みに蓮華文の模様を付ける。 ○見込みはロクロナデ。 ○体部から底部外面をロクロ削り。 ○高台は削り出し。 ○底部外面の中程まで施釉。	○精良。 ○緑灰色7.5GY6/1。

木棺墓１供献土師器

番号	器形 器種	法量 (cm)	残存	形態の特徴	技法の特徴	備考
509	土師器・小皿	口 8.4 高 1.7	完形	○平底から口縁部までなだらかに内彎しながらつづく。 ○口縁端部はやや尖り気味。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込み中央部・底部外面はナデ。	○精緻、くさり礫、黒・白色砂粒など微砂粒を含む。 ○浅黄橙色10YR8/3。
510		8.3 1.5	ほぼ完形	○中央部が上げ底気味の底部から、なだらかに内彎しながら口縁部につづく。 ○口縁端部は丸くなるが尖り気味。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込み中央部・底部外面はナデ。	○精緻、くさり礫、黒・白色砂粒など微砂粒を含む。 ○淡黄色2.5Y8/3。
511		8.3 1.4	ほぼ完形	○中央部が上げ底気味の底部から、なだらかに内彎しながら口縁部につづく。 ○口縁端部はやや尖り気味。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込み中央部・底部外面はナデ。	○精緻、くさり礫、黒・白色砂粒など微砂粒を含む。 ○淡黄色2.5Y8/3。
512		8.3 1.3	完形	○平底から口縁部までなだらかに内彎しながらつづく。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込み中央部・底部外面はナデ。	○精緻、くさり礫、黒・白色砂粒など微砂粒を含む。 ○浅黄橙色10YR8/3。
513		8.2 1.5	完形	○中央部が上げ底気味の底部から、なだらかに内彎しながら口縁部につづく。 ○口縁端部はやや尖り気味。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込み中央部・底部外面はナデ。	○精緻、くさり礫、黒・白色砂粒など微砂粒を含む。 ○淡黄色2.5Y8/3。
514		7.9 1.6	ほぼ完形	○平底から口縁部までなだらかに内彎しながらつづく。 ○口縁端部は丸く納める。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込み中央部・底部外面はナデ。	○精緻、くさり礫、黒・白色砂粒など微砂粒を含む。 ○淡黄色2.5Y8/3。
515	土師器大皿	12.3 2.5	完形	○平底から口縁部が屈曲して外方へ伸びる。 ○口縁端部は上方へつまみあげ、やや尖り気味。	○口縁部内外面～見込み半ばまでヨコナデ。 ○見込み中央部・底部外面はナデ。	○精緻、くさり礫、黒・白色砂粒など微砂粒を含む。 ○浅黄橙色10YR8/3。

木棺墓１・２使用鉄釘

番号	器種	器形	法量 (cm)	形態の特徴	備考
516	鉄器	鉄釘	長 (2.4) 幅 1.0 厚 0.4	○基部欠失。 ○全面にサビ付着。	○木棺墓２。
517		鉄釘	長 (1.5) 幅 0.3 厚 0.5	○両端部欠失。 ○全面にサビ付着。	○木棺墓２。
518		鉄釘	長 4.1 幅 0.8 厚 0.7	○木質　縦目に付着。 ○全面にサビ付着。	○木棺墓２。

番号	器種	器形	法量 (cm)	形態の特徴	備考
519	鉄器	鉄釘	長 (4.2) 幅 0.4 厚 0.5	○全面にサビ付着。	○木棺墓１。
520		鉄釘	長 5.0 幅 1.3 厚 0.8	○木質　斜めに付着。 ○全面にサビ付着。	○木棺墓１。

土　錘

番号	法量 (cm)(g)	特徴	備考
1	長 (3.8) 幅 1.0 厚 0.9 重 3.3	○一端を欠失。 ○横方向にナデ調整。	○黒色微砂粒を含む。 ○灰赤色10R6/2～赤橙色10Y6/6。 ○井戸5。
2	長 (3.6) 幅 1.0 厚 1.0 重 3.3	○一端を欠失。 ○丁寧なナデ調整。	○白・黒色砂粒を多く含む。 ○にぶい赤褐色5YR5/4。 ○溝25。
3	長 (3.7) 幅 1.0 厚 1.0 重 3.3	○一端を欠失。 ○粘土の継目がみられる。	○黒色砂粒を多く含む（在地産）。 ○にぶい赤褐色5YR4/4。 ○溝21－3。
4	長 3.9 幅 1.2 厚 1.0 重 4.2	○完形（一部掘り上げ時の欠けあり） ○ナデ調整。	○白色砂粒を多く含む。 ○灰白色2.5Y8/1。 ○溝20－2。

番号	法量 (cm)(g)	特徴	備考
5	長 3.8 幅 1.2 厚 1.2 重 5.1	○完形。 ○研磨されているかのような丁寧なナデ調整。	○白色微砂粒を含む。 ○にぶい黄橙色10YR7/2。 ○撹乱。
6	長 (3.5) 幅 1.0 厚 1.0 重 2.8	○一端を欠失。 ○丁寧なナデ調整。	○白色砂粒を含む。 ○にぶい赤褐色7.5YR5/3。 ○溝20－1。
7	長 4.2 幅 1.2 厚 1.0 重 4.9	○完形。 ○ナデ調整。	○くさり礫を含む。 ○橙色7.5YR7/6。 ○溝20－2。
8	長 4.2 幅 1.1 厚 1.1 重 4.4	○完形。 ○丁寧なナデ調整。	○白色微砂粒を含む。 ○にぶい黄橙色10YR6/3。 ○撹乱。

番号	法量 (cm)(g)	特徴	備考
9	長 3.9 幅 1.3 厚 1.2 重 4.2	○完形。 ○無数の気泡による凹みがみられる。	○白・黒色砂粒、くさり礫を含む。 ○灰白色7.5Y8/2。 ○溝20－3。
10	長 4.1 幅 1.1 厚 1.0 重 3.3	○両端部を欠失。 ○丁寧なナデ調整。	○白色砂粒を含む。 ○灰白色7.5Y8/1。 ○土壙40。
11	長 4.1 幅 1.1 厚 1.1 重 4.2	○完形。 ○丁寧なナデ調整。	○白色微砂粒を含む。 ○淡赤橙色2.5YR7/3～灰色7.5Y4/1。 ○溝20－3。
12	長 (3.3) 幅 1.2 厚 1.1 重 3.6	○一端を欠失。	○白色砂粒を多く含む。 ○灰赤色10R4/2～赤褐色10R5/3。 ○溝32。
13	長 (3.3) 幅 1.0 厚 0.8 重 2.8	○一端を欠失。	○白・黒色砂粒、くさり礫を多く含む。 ○にぶい黄橙色10YR7/3。 ○土壙24。
14	長 3.2 幅 0.9 厚 0.9 重 1.9	○ほぼ完形。 ○指調整。	○白色砂粒を含む。 ○にぶい赤褐色10R6/3。 ○溝20。
15	長 (3.3) 幅 1.3 厚 1.2 重 3.4	○ナデ調整。	○白色砂粒を含む。 ○灰赤色10R5/2。 ○溝20－3。

番号	法量 (cm)(g)	特徴	備考
16	長 (3.1) 幅 1.1 厚 1.1 重 2.6	○ナデ調整。	○白色砂粒を多く含む。 ○にぶい黄橙色10YR6/3～灰褐色5YR5/2。 ○溝21－2。
17	長 (2.6) 幅 1.1 厚 1.2 重 2.6	○丁寧なナデ調整。	○白色砂粒を多く含む。 ○にぶい赤橙色10YR6/4。 ○溝21－2。
18	長 5.1 幅 1.1 厚 1.0 重 5.0	○完形。 ○丁寧なナデ調整。	○黒色砂粒、くさり礫を含む。 ○黄橙色7.5YR7/8。 ○溝20－3。
19	長 2.8 幅 0.9 厚 0.8 重 1.4	○ほぼ完形。 ○ナデ調整。	○白・黒色砂粒を含む。 ○にぶい赤橙色。 ○第2層。
20	長 2.4 幅 0.9 厚 0.8 重 1.3	○指調整。	○白色砂粒を含む。 ○淡赤橙色2.5YR7/4。 ○溝30。
21	長 (2.4) 幅 0.9 厚 0.9 重 2.2	○丁寧なナデ調整。	○黒色砂粒を多く含む（在地産）。 ○黒褐色10YR3/1。 ○溝28。
22	長 (2.6) 幅 0.9 厚 1.0 重 1.4	○指調整。	○黒色砂粒を含む。 ○にぶい赤褐色7.5R5/3。 ○溝20。

鉄製品

番号	器形	法量 (cm)	形態の特徴	備考
1	鉄釘	長 (3.5) 幅 0.9 厚 0.4	○基部欠失。 ○断面方形。	○溝20－1。
2		長 (4.8) 幅 (0.7) 厚 0.6	○両端部欠失。 ○断面方形。	○溝20－1。
3		長 3.6 幅 1.0 厚 0.5	○ほぼ完形。 ○断面方形。 ○全面にサビ付着。	○土壙1。
4		長 6.4 幅 0.9 厚 0.9	○頭部欠失。 ○断面方形。 ○全面にサビ付着。	○土壙24。
5		長 (4.9) 幅 (1.1) 厚 0.8	○基部欠失。 ○基部著しく剥離している。	○溝30－3。
6		長 4.0 幅 3.6 厚 0.8	○断面方形。 ○全面にサビ付着。	○溝21－1。
7		長 10.7 幅 1.5 厚 0.5	○基部欠失。 ○断面方形。 ○全面にサビ付着。	○溝25－3。
8		長 (12.5) 幅 0.5 厚 0.4	○一端を欠失。 ○断面方形。 ○全面にサビ付着。	○井戸1。

番号	器形	法量 (cm)	形態の特徴	備考
9	鉄鎌	刃部長 16.0 幅 4.1 背厚 0.2 柄長 7.7 幅 1.8 厚 0.5	○刃の角度20° ○基部に目釘を打って刃と柄を固定するための曲げあり。	○井戸6。
10		刃部長 14.7 幅 2.9 背厚 0.2 柄長 幅 厚	○刃の角度80° ○基部欠失。	○井戸4。
11		刃部長 (16.0) 幅 (4.4) 背厚 0.3 柄長 7.0	○刃の角度20° ○木柄材質　広葉樹。 ○木柄元に切り込みを入れ、鎌身の基部を挿入し、木柄部に鉄のハカマのようなもので固定。 ○鎌身の基部はJ型に曲げられ、残存してはいないが、基部に目釘で止め、鎌と柄が上下に揺れ動くのを防いだと思われる。	○井戸6。

鋳　型

番号	器形	法量 (cm)	形態の特徴	備考
12	鋳型	厚 4.0	○何の型かは不明。 ○遺存状態良好。 ○白・黒色砂粒を多く含む。 ○浅黄橙色7.5YR8/3～褐灰色10YR6/1。	○溝25－3。

木製品

番号	器形	法量(cm)	形態の特徴	備考
1	下駄	長 (22.8) 幅 (10.3) 高 (3.1) 厚 1.3	○ほぼ完形。 ○縦木取り、板目。 ○材質 ヒノキ。 ○楕円形。 ○裏面より見て、前・後歯ともに右側がすり減っている。 ○歯のつけ根に、ノミ痕あり。 ○大きさより女性用、足型痕と歯の減り方より右足用と考えられる。	○井戸1。
2	下駄	長 (20.2) 幅 (9.2) 高 (2.4) 厚 0.8	○ほぼ完形。 ○縦木取り、板目。 ○材質 ケヤキ。 ○楕円形。 ○大きさより女性用、歯の減り方より左足用と考えられる。 ○遺存状態不良の為、調整不明。	○溝20－3。
3	用途不明木製品	長 4.6 幅 4.6 厚 (3.1)	○丸木。 ○材質 針葉樹。 ○こま状の形態をもつが、風化の為、調整されたものかは不明。	○溝20－3。
4	用途不明木製品	長 11.2 幅 (4.3) 厚 3.1	○縦木取り。 ○材質 広葉樹。 ○遺存状態不良の為、明細不明。	○井戸5。
5	漆器椀	底径 (5.5) 器高 (3.2)	○横木取り。 ○材質 広葉樹。 ○内外面共に朱漆を施すが、文様はみられない。	○溝25－2。
6	漆器椀	口径(13.6) 器高 (4.9)	○横木取り。 ○材質 広葉樹。 ○内外面共に黒漆地に、筆描きとおもわれる朱漆で、幾何学文様を施す。	○井戸4。
7	釣瓶	口径 19.7×19.3 器高 21.4 底径 16.5×16.7	○ほぼ完形。 ○材質 ヒノキ。 ○鉄釘で全てをとめる。 ○把手中央にくぼみがあることから、縄あるいは竹棹でつるされていたと思われる。	○井戸6。
8	柄	長 (26.7) 幅 2.6 厚 2.0	○丸木。 ○材質 広葉樹。 ○断面 楕円形。 ○樹皮を取り去る程度の加工にとどまる。	○井戸6。
9	用途不明木製品	長 (34.9) 幅 (3.3) 厚 0.6	○縦木取り。 ○材質 針葉樹。 ○遺存状態不良の為、明細不明。	○溝26。
10	箸	長 21.9 厚0.4～0.5	○完形。 ○材質 針葉樹。 ○遺存状態不良の為、明細不明。	○井戸4。
11	箸	長 21.5 厚 0.6	○完形。 ○材質 針葉樹。 ○断面円形から、先端部三角形を形成。	○井戸4。
12	木簡	長 14.2 幅 3.5～2.5 厚 0.3～0.2	○完形。 ○縦木取り(柾目)。 ○材質 針葉樹。 ○上部両側縁に抉り。	○井戸5。
13	木簡	長 14.3 幅 (3.1) 厚 0.3	○縦木取り、柾目。 ○材質 針葉樹。 ○墨書痕はごくわずかしか残存せず、あとは墨書がはがれた状態。 ○判読不明。	○井戸5。
14	竹簡		○丸竹。 ○材質 竹。 ○文字は浅く刻む。 ○判読不明。 ○遺存状態不良。	○井戸1。
15	曲物	口径 17.3 器高 14.7 底径 17.6	○完形。 ○縦木取り、柾目。 ○材質 ヒノキ。 ○側板・まわし側板は一重。桜皮で一列止め。 ○底板は楕円形。木釘穴4か所。一枚板。クレ底。	○井戸1。
16	曲物	底径 17.7×18.2 器高 (9.0)	○縦木取り、柾目。 ○材質 針葉樹。ヒノキ。 ○側板二重？内側に漆を施す。桜皮で一列止め。 ○まわし側板一重。 ○底板に木釘穴4か所。表面に漆を施す。 ○遺存状態不良。	○井戸1。
17	曲物	底径 20.4×19.4 器高 (8.0)	○縦木取り、柾目。 ○材質 ヒノキ。 ○側板は一列止め。桜皮ではない。 ○まわし側板は桜皮で一列止め。 ○底板に木釘穴5か所。表面に刃物キズと鉄釘貫通。アゲ底。	○井戸1。
18	曲物 底板？	長 (17.5) 幅 (17.1) 厚 0.6	○縦木取り、柾目。 ○材質 針葉樹。 ○木釘痕なし。 ○一枚板。楕円形。 ○円の縁を薄く削り出している為、曲物底板かどうかは不明。	○井戸5。
19	曲物底板	長 13.1 幅 (7.6) 厚0.5～0.8	○縦木取り、柾目。 ○材質 針葉樹。 ○一枚板。 ○表面に刃物傷。 ○木釘穴がないので、貼り付け底とも考えられる。	○井戸5。
20	曲物底板	長 18.3 幅 17.4 厚0.4～0.7	○完形。 ○縦木取り。柾目。 ○材質 針葉樹。 ○一枚板。 ○木釘穴4か所。	○井戸5。
21	曲物底板	長 17.5 幅 7.4 厚 0.7	○縦木取り、柾目。 ○材質 針葉樹。 ○木釘穴4か所。表面に黒漆を施す。	○井戸1。
22	曲物底板	長 13.8 幅 8.3 厚 0.7	○縦木取り、柾目。 ○材質 針葉樹。 ○木釘穴2か所。	○井戸6。
23	曲物底板	長 (17.0) 幅 (8.7) 厚0.4～0.6	○縦木取り、柾目。 ○材質 針葉樹。 ○表裏面ともに無数の刃物傷。 ○木釘穴がないので、貼り付け底とも考えられる。	○井戸1。
24	方形曲物 蓋？	長 (18.0) 幅 7.8 厚0.4～0.5	○縦木取り、柾目。 ○材質 針葉樹。 ○1か所、桜皮残存。板の厚さに対して桜皮のゆるみ分がありすぎることからもう一枚板を重ねてとめていたと考えられる。 ○一部木釘穴のあとらしき痕あり。 ○方形？	○溝20－3。

杭

番号	法量(cm)	形態の特徴	備考
25	長 (36.4) 幅 4.9 厚 4.9	○丸木。 ○全面虫くい。 ○杭先4面取り、端部平坦。	○溝25－1。
26	長 (31.7) 幅 (5.4) 厚 5.9	○丸木。 ○虫くい。 ○杭先5面取り、端部平坦。	○溝25－2。
27	長 (24.5) 幅 4.2 厚 4.1	○丸木。 ○表面樹皮を取り去る程度の粗い削り。 ○杭先4面取り、端部平坦。	○溝25－1。
28	長 (20.0) 幅 4.2 厚 4.1	○丸木。 ○表面樹皮を取り去る程度の加工。 ○杭先4面取り、端部平坦。	○溝25－2。
29	長 (28.8) 幅 4.9 厚 5.8	○丸木。 ○虫くい。 ○杭先4面取り、端部平坦。	○溝25－3。
30	長 (31.2) 幅 4.2 厚 4.2	○丸木。 ○表面樹皮を取り去る程度の加工。 ○杭先4面取り。	○溝25－1。
31	長 (28.4) 幅 5.0 厚 5.3	○丸木。 ○材質　二葉松。 ○一部樹皮残存。 ○杭先4面取り、端部平坦。	○溝25－1。
32	長 (30.3) 幅 5.1 厚 5.1	○丸木。 ○一部樹皮残存。 ○杭先4面取り、端部平坦。	○溝25－1。
33	長 (18.6) 幅 4.7 厚 4.5	○丸木。 ○杭先4面取り、端部平坦。	○溝25－1。
34	長 (33.1) 幅 2.5 厚 2.5	○丸木。 ○材質　針葉樹　マツ類。 ○杭先4面取り、端部平坦。	○溝20－3。
35	長 (19.4) 幅 4.8 厚 5.0	○丸木。 ○杭先4面取り、端部尖る。	○溝25－1。
36	長 (41.9) 幅 2.5 厚 2.3	○丸木。 ○材質　針葉樹。 ○先端部のみ加工を施す(1面取り)。	○溝20セキ。
37	長 67.4 幅 3.7 厚 4.1	○ほぼ完形。 ○丸木。 ○表面樹皮を取り去る程度の加工。 ○杭先2面取り、端部尖る。	○溝20セキ。
38	長 66.8 幅 3.6 厚 3.6	○完形。 ○丸木。 ○材質　針葉樹モミ。 ○表面樹皮を取り去る程度の加工。 ○杭先3面取り、端部尖る。	○溝20セキ。
39	長 (58.9) 幅 3.6 厚 3.8	○丸木。 ○表面樹皮を取り去る程度の加工。 ○杭先4面取り、端部尖る。	○溝20セキ。
40	長 57.4 幅 6.8 厚 5.1	○ほぼ完形。 ○丸木。 ○表面樹皮を取り去る程度の加工。 ○杭先は多面取り、端部丸い。	○溝20セキ。
41	長 68.3 幅 4.0 厚 4.0	○丸木。 ○材質　針葉樹モミ。 ○表面樹皮を取り去る程度の加工。 ○杭先は多面取り、端部尖る。	○溝20セキ。
42	長 65.4 幅 4.4 厚 3.2	○完形。 ○丸木。 ○材質　針葉樹。モミ。 ○表面樹皮を取り去る程度の加工。 ○杭先1面取り、端部尖る。	○溝20セキ。
43	長 81.8 幅 5.3 厚 5.4	○ほぼ完形。 ○丸木。 ○表面樹皮を取り去る程度の加工。 ○杭先1面取り、端部尖る。	○溝20セキ。
44	長 (111.5) 幅 5.1 厚 5.2	○丸木。 ○材質　針葉樹モミ。 ○先端部のみ加工を施す(3面取り)。	○溝20セキ。

石製品観察表

番号	種類	石材	法量				備考	出土地
			長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)		
1	石鏃	暗灰色サヌカイト	2.5	1.7	0.4	1.0	凹基無茎式。完形品。中央断面形両凸。	溝58。
2	石鏃	暗灰黒色サヌカイト	4.6	2.0	0.7	5.3	凸基無茎式。完形品。中央断面形両凸。	溝20－1。
3	石鏃	暗灰黒色サヌカイト	(3.7)	1.2	0.5	1.6	凸基有茎式。基部欠損。中央断面形両凸。	ピット438。
4	石鏃	暗灰黒色サヌカイト	(4.6)	1.3	0.6	3.0	凸基有茎式。先端部欠損。中央断面形両凸。	
5	石鏃	暗灰黒色サヌカイト	(3.8)	2.4	0.2	2.4	凸基有茎式。基部欠損。中央断面形片凸。	東側断面、3－E層。
6	石錐	暗灰黒色サヌカイト	4.9	1.9	0.8	5.7		サブトレ。
7	石錐	暗灰黒色サヌカイト	2.9	1.9	0.7	2.5	基部にサヌカイト表皮をもつ。	溝20－3。
8	打製石剣	暗灰黒色サヌカイト	(4.5)	2.8	1.1	15.1	両端部欠損。中央断面形両凸。	井戸4。
9	打製石剣	暗灰色サヌカイト	4.3	2.4	1.4	17.7	叩き石へ転用。両側縁に叩き痕。表面に条痕。中央断面形両凸。	
10	打製石剣	暗灰色サヌカイト	(5.7)	2.9	0.9	17.2	両端部欠損。中央断面形両凸。	溝20－3。
11	打製石剣	暗灰色サヌカイト	(5.6)	3.5	1.5	39.5	両端部欠損。表面に磨き痕あり。中央断面形両凸。	溝25－3。

番号	種類	石材	法量				備考	出土地
			長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)		
12	打製石剣	暗灰黒色サヌカイト	(6.0)	2.5	1.3	23.0	両端部欠損。右側側縁磨滅。中央断面形両凸。	溝20－3。
13	打製石剣	暗灰色サヌカイト	12.6	3.1	1.2	51.4	基部側縁磨滅。表面一部磨き痕あり。完形品。中央断面形両凸。	溝28。
14	打製石剣	暗灰色サヌカイト	(7.4)	3.2	1.2	34.9	先端部にサヌカイト表皮をもつ。基部欠損。側縁磨滅。中央断面形片凸。	溝20－3。
15	柱状片刃石斧	緑灰色？ホルンフェルス	8.1	2.8	3.0	137.1	一部抉り。完形品。	攪乱。
16	石斧	青灰色緑色片岩	(6.3)	(4.8)	(0.9)	33.8	片面欠損。	ピット283。
17	石包丁	黒色頁岩	(2.0)	(4.6)	0.8	11.0	片面背部に溝状の抉り。	弥生時代川。
18	石斧	緑灰色斑砺岩	(8.2)	(8.3)	3.2	383.2	片刃。基部欠損。	溝25－1。
19	削器	暗灰色サヌカイト	3.4	4.9	0.9	22.2	背部にサヌカイト表皮をもつ。刃部片面調整。	溝20－3。
20	細部調整剥片	暗灰色サヌカイト	3.9	3.4	1.2	14.8	背部にサヌカイト表皮をもつ。両側縁刃部。	溝20－3。
21	削器	暗灰黒色サヌカイト	3.6	5.9	0.9	23.1	片面にサヌカイト表皮をもつ。	溝20－3。
22	削器	暗灰黒色サヌカイト	8.5	4.1	1.0	41.0	片面片側にサヌカイト表皮をもつ。	溝20－2。
23	削器	暗灰色サヌカイト	7.4	3.6	1.1	29.0	尖頭器型。	第2層。
24	削器	灰色サヌカイト	8.2	6.0	1.9	87.0	背部・側縁側面にサヌカイト表皮をもつ。	溝20－3。
25	削器	暗灰色サヌカイト	2.8	3.5	0.8	8.7	背部にサヌカイト表皮をもつ。	溝42。
26	削器	暗灰色サヌカイト	6.2	7.9	1.4	73.8	背部にサヌカイト表皮をもつ。	溝20－3。
27	削器	暗灰色サヌカイト	3.1	3.6	0.6	8.5	背部・表面にサヌカイト表皮をもつ。	溝2－2。
28	削器	暗灰黒色サヌカイト	3.7	(4.9)	1.3	23.3	両側縁欠損。	土壙15。
29	複刃削器	暗灰黒色サヌカイト	5.7	10.9	2.4	37.1	片側側縁・背部にサヌカイト表皮をもつ。	溝25－3。
30	細部調整剥片	暗灰黒色サヌカイト	4.3	4.8	1.0	20.5	刃部片面調整。	溝25。
31	楔形石器	暗灰黒色サヌカイト	3.8	4.4	1.6	33.5	背部にサヌカイト表皮をもつ。	溝20－3。
32	楔形石器	暗灰黒色サヌカイト	2.8	3.5	1.1	12.6	背部にサヌカイト表皮をもつ。	溝21－3。
33	凸刃削器	暗灰色サヌカイト	3.8	4.4	1.6	33.5	背部にサヌカイト表皮をもつ。	溝20－3。
34	凹刃削器	暗灰色サヌカイト	2.9	4.5	0.8	12.9	刃部片面調整。背部にサヌカイト表皮をもつ。	サブトレ。
35	剥片	暗灰黒色サヌカイト	2.2	3.5	0.9	5.3	刃部に使用痕認める。片面にサヌカイト表皮をもつ。	溝20－3。
36	細部調整剥片	暗灰黒色サヌカイト	2.9	1.3	0.6	2.2		土壙16。
37	砥石	乳灰色凝灰岩	(7.7)	(8.5)	3.7	306.3	3面使用。	溝20－3。
38	砥石	乳灰色凝灰岩	(4.8)	5.9	1.7	78.5	全面使用。両端部欠損。	溝30。
39	砥石	灰白色凝灰岩	(3.3)	(4.5)	(2.2)	39.3	3面使用。片面・両端部欠損。	溝20－2。
40	砥石	灰黄色粘板岩	(2.7)	4.2	0.9	18.8	全面使用。基部欠損。	土壙45。
41	砥石	緑灰色砂岩	(8.0)	(6.0)	(3.7)	297.3	3面使用。片面・両端部欠損。	井戸1。
42	砥石	灰色凝灰岩	(8.7)	(8.2)	5.5	480.1	2面使用。基部欠損。	溝25。
43	石鍋	灰色滑石	口径 17.4	器高 (6.0)	底径 14.2	147.2	外面スス付着。内面削り後研磨。	溝20－3。

Ⅵ まとめ

今回の調査で明らかになった事柄を若干の考察を加えて、遺構(河川)・遺物の順に古い時代から述べまとめとする。

縄文時代

遺構・遺物ともに検出していない。東に隣接する第22次調査地点[注2)]などでは、縄文時代中期後半以降の河川が確認され、少量の早期・中期・後期・晩期の土器が出土している。早期の土器は、神並遺跡から流れたもので、他の時期の土器は摩滅がほとんど認められないことから、調査地点のごく近くにそれぞれの時期の小規模な集落が存在していると想定した。今回や、西に隣接して実施した調査では全く認められないため、より東側に居住域を限定できる。

弥生時代前期

遺構・遺物共に検出していない。第22次調査地点では、検出した河川内から第Ⅰ様式中～新段階に属す弥生土器が混入品として出土し、縄文時代と同様ごく近くに小規模な集落を想定した。また、鬼虎川遺跡においても少量の同時期か、やや古い時期の前期土器が検出され集落の存在が想定できる。今回の調査地点は、同時に存在した両集落の中間地帯と考えられる。

弥生時代中期

方形周溝墓・土壙・河川を検出した。遺構の所属時期はいずれも第Ⅲ～第Ⅳ様式である。

方形周溝墓は、墳丘が削平され主体部は検出できていないが第７次調査[注3)]で南半が検出されていた第２号・６号方形周溝墓の北半部分を確認し、ほぼ全形を明らかにできた。第２号方形周溝墓が長辺12.8m・短辺8.6m、第６号方形周溝墓が長辺13.4m・短辺10mの規模である。

検出位置は、川の南東の岸にあたる。現在までに８基が周溝を共有する状況で確認されている。大きく切り合うものが認められないことから一定の企画性をもち継続し、あるいはほぼ同時に墓が営まれたことを示している。

川を隔てた対岸の植附遺跡でも川の岸近くに方形周溝墓と壺棺墓[注4)]が発見されている。川の中州からは第23次調査[注5)]などで胎児を収めた土器棺墓が検出されている。両遺跡とも居住域の外側の川に隣接した地点や川の中に墓域を設定したことが判明する。

中州の土器棺墓が、植附遺跡か本遺跡のいずれに属すか、あるいは両者が混在するのか、また両遺跡とも方形周溝墓に伴う土器棺墓も認められることから、この差が階層（出自）に伴うのか、乳幼児などの年令差に拠るものかなど類例の増加を待ち検討する必要があろう。

土壙は１基、検出したが墓域に存在するため墓と何らかの関係があると考えるしかない。

河川は、第22次調査でSR25と仮称した続きの一部である。SR25ほどの遺物量は出土しておらず出土状況から見ても、居住域の外れにあたると考える。

弥生時代後期

遺構は、検出していない。遺物も微量、後世の遺構や包含層から出土しただけである。墓域と居住域が移動した結果と考えられる。

古墳時代

遺構は検出していない。中期後半以降（５世紀後半以降）の遺物が少量、混入品として出土している。この時代の居住域は、本遺跡の東部から神並遺跡（４～６世紀）にかけてと鬼虎川遺跡の東端部から本遺跡の西端部（５世紀後半～６世紀初頭に限定される）に認められる。両居住域のいずれかから、もたらされたのであろう。

飛鳥～奈良時代

遺構は、検出していない。遺物は微量、溝20などから法通寺所用瓦や土器が出土している。法通寺は、調査地点より北東に約800m離れており、瓦が本来の使用が終わった段階でかなり広い範囲に広がることを示している。

平安時代

後期まで（12世紀中葉以前）の遺構は検出していない。遺物もほとんど認められない。

後期の遺構は、溝・井戸がある。土壙・柱穴の中にもこの時期に属すものがあると思われるが識別できない。

溝は、12世紀後半に水路として造られ13世紀初頭に廃絶した溝25がある。水流調節用の杭列や自然石を用いた護岸施設が認められた。調査地周辺を流れる河川の管理がほぼ成功するのは奈良時代後期から平安時代と考えているが、この水路もそうした河川管理のもとに掘られたと思われる。機能が停止した後、ゴミ捨て場として利用され多数の土器と共にウマ３頭、ウシ１頭、イヌ１頭以上がまとめて捨てられていた。西中川駿氏によれば、[注6)] ウマは御崎馬より少し小さい体高126.12±4.61cmの中型馬である。同じくウシは、口之島牛の雌とほぼ同じ大きさで、112.65±2.87cmである。

井戸は、２基検出した。いずれも底部付近で、鉄鎌が各１点出土した。本遺跡で検出される平安時代後期から鎌倉時代の井戸からは、しばしば鎌の他に刀子・包丁・熊手・斧などの金属製品が出土する。大半が底部付近で出土しており偶然に落としたと考えるよりも、井戸に対する何らかの祭祀に用いられた可能性が高い。また、今回の調査も含めて本遺跡の埋没河川以外（段丘上）で検出される井戸は、井筒の存在が想定される上部は別として、下部は掘り方が径１m前後ほぼ円形で、深さ３m前後の湧水層まで掘り下げている。調査時、人力で底まで掘り下げることが困難であったので、機械を用いて断ち割りを行なった。中世の一般農民では掘削が困難な作業ではないかと考える。井戸掘りの専門職人の存在を想定しておきたい。

鎌倉時代

遺構は、溝・井戸・柱穴・木棺墓・土壙を検出した。

溝は、溝20・27・21などがある。溝20は溝25が埋没した後、同様の性格で掘られたものである。土器と共にウシ・ウマなどの動物遺存体も捨てられていた。溝21は溝20が埋没した後、掘られたものであるが、従前の溝に比べて短期間しか機能していない。溝27は屋敷ないし建物を区画する性格が考えられる。

井戸は３基検出した。いずれも13世紀後葉に属す。13世紀中葉に属すものは認められない。

井戸１から竹簡、井戸５から木簡が出土した。２点とも、呪符を記している。

掘立柱建物を構成する柱穴は、全域に多数存在するため建物の復元は困難である。今回検出された井戸の数と所属時期から見て、12世紀後半に属すよりも13世紀後葉に属すものが多いと考える。根石をもつものも少数、認められた。柱穴同士の切り合いは少ない。

木棺墓は、２基とも頭位を北に向けほぼ並行に掘られていた。頭位を同じくし、近接して造られていることから、近親者の墓と考えられる。断定できないが男性の方が早く葬られていること、いずれも壮年（40才代）であることから、両者の関係は夫婦である可能性が最も高い。

ただ、男性が土師器の皿（８点）のみの副葬品であるのに対して、女性は土師器（５点）だけでなく使い込んだものとはいえ青磁碗をもつ。同時期の木棺墓の副葬品の有無や質は、被葬者の階層差に起因すると考えるが、この異なりについては、土師器に数の差が認められることから許容範囲に入るのかどうかを含め、今後検討していきたい。

周辺で検出された柱穴の多くが同時期と推定できることから、建物との位置関係は明らかにできないが居住域の中あるいは隣接して営まれた屋敷墓であることは間違いない。

土壙のうち時期が確実に判明するのは、14世紀初頭にゴミ捨て穴として溝21・22がほぼ埋まった段階で掘られた土壙１だけである。

平安時代末期から鎌倉時代初頭と、鎌倉時代後半に属す良好な一括資料を含む遺物が各遺構から多量に出土した。生駒山西麓の中世日常雑器を考えるうえで重要な資料となろう。

中でも、溝25出土の仏具と考えられる鋳型は、出土層位より平安時代末期から鎌倉時代初頭に比定できる。おそらく法通寺の仏具製作に用いられたのであろうが、河内鋳物師の活動を知るうえに貴重な資料である。

南北朝から江戸時代

15世紀代に属す溝30や16世紀前半に属す溝48などがある。溝48は耕作用と考えられる。第22次調査では、14世紀から15世紀代の川や井戸が検出された。川は今回の調査地点の北側を流れ、井戸は存在しない。溝30は、居住域に関連する可能性があるが、ほぼ居住域の外側にあたる。

16世紀代以降の遺物は極端に減少し、遺構は棚田・畦畔など耕作関連のものである。以降、近代を通して耕作地として存在した。

要するに、今回の調査地点は弥生時代中期に方形周溝墓が営まれたのと平安時代末から鎌倉時代（13世紀中葉を除く）に居住域となった他は、各時代を通して居住域の中間地帯にあたる場所であった。

注1）　菅原章太　1984年「大阪府東大阪市西ノ辻遺跡出土の中世木棺墓について」『考古学ジャーナル』237 p2～5　ニューサイエンス社

注2）　東大阪市教育委員会・財団法人東大阪市文化財協会　1995年『西ノ辻遺跡第22次発掘調査報告書』

注3）　東大阪市教育委員会・財団法人東大阪市文化財協会　1988年『西ノ辻遺跡・鬼虎川遺跡』

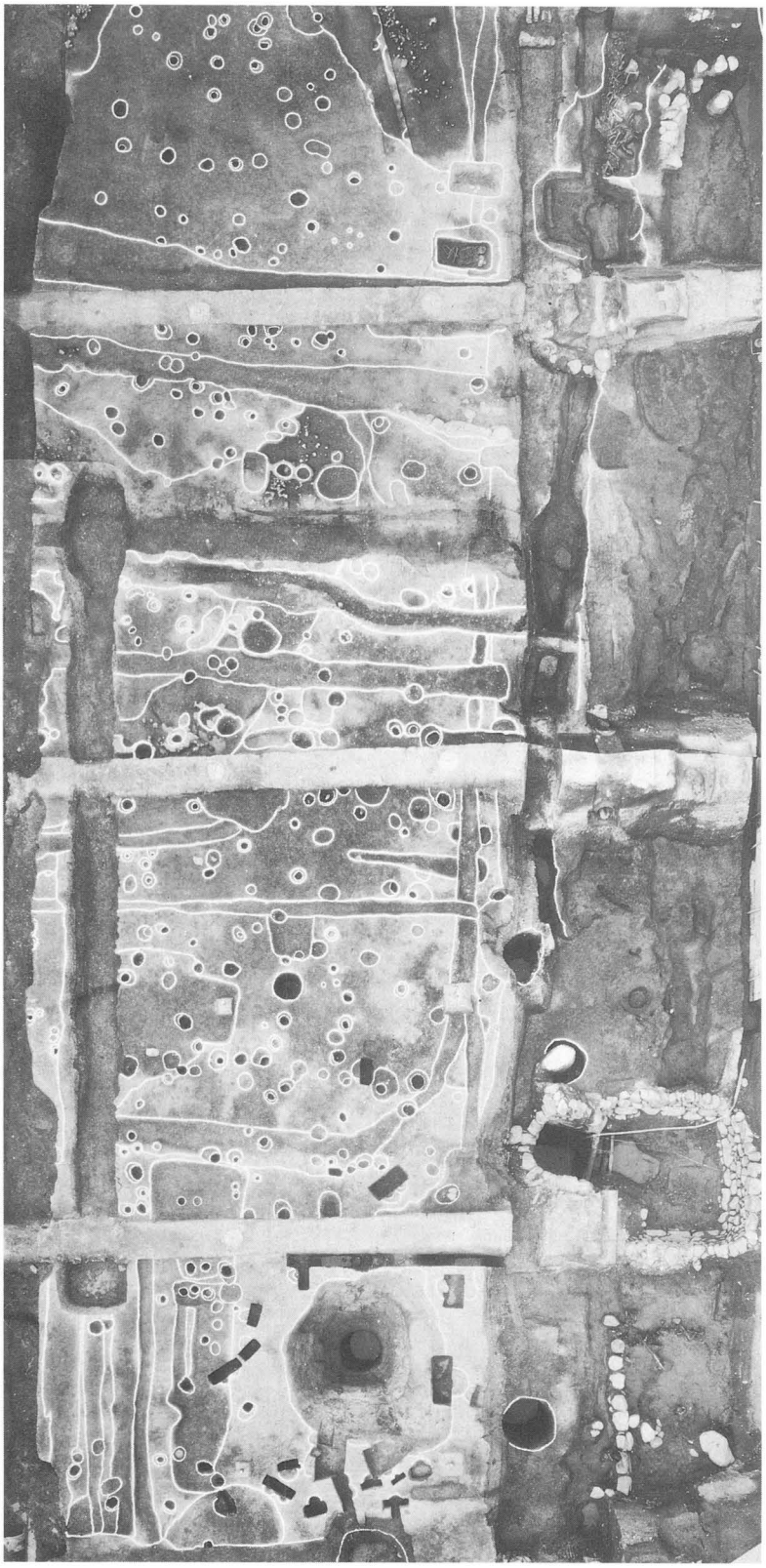
注4）　大阪府教育委員会　1986年『神並・西ノ辻・鬼虎川遺跡発掘調査整理概要Ⅱ』

注5）　東大阪市教育委員会・財団法人東大阪市文化財協会　1992年『西ノ辻遺跡第23次発掘調査報告』

注6）　鹿児島大学農学部　1991年「古代遺跡出土骨からみたわが国の牛、馬の渡来時期とその経路に関する研究」『平成２年度文部省科学研究費補助金（一般研究Ｂ）研究成果報告書』

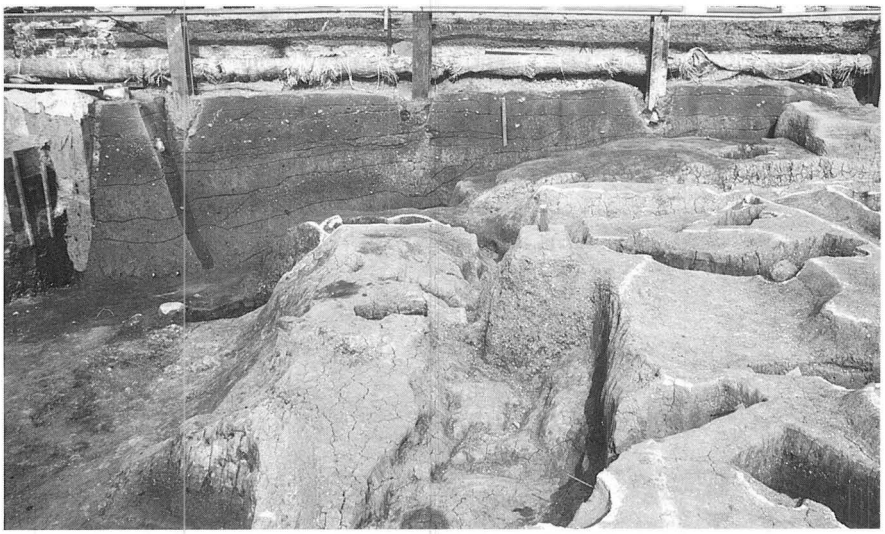
図　　版

図版1　遺　跡

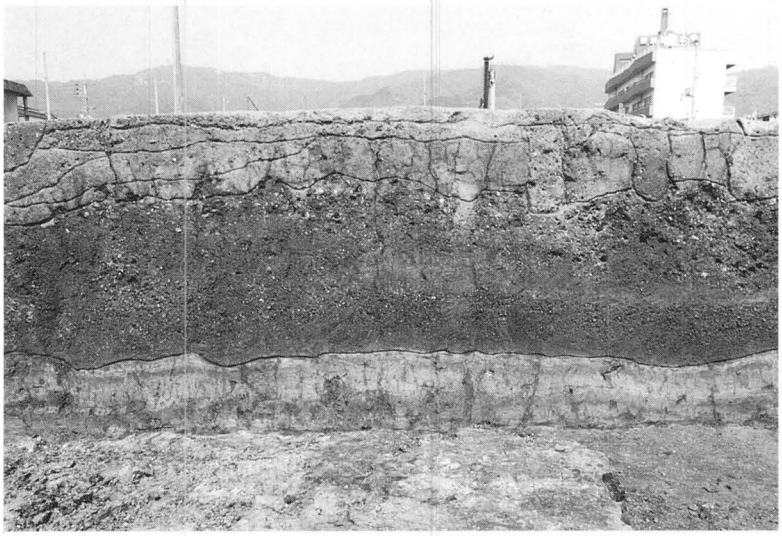


検出遺構全景（上より）

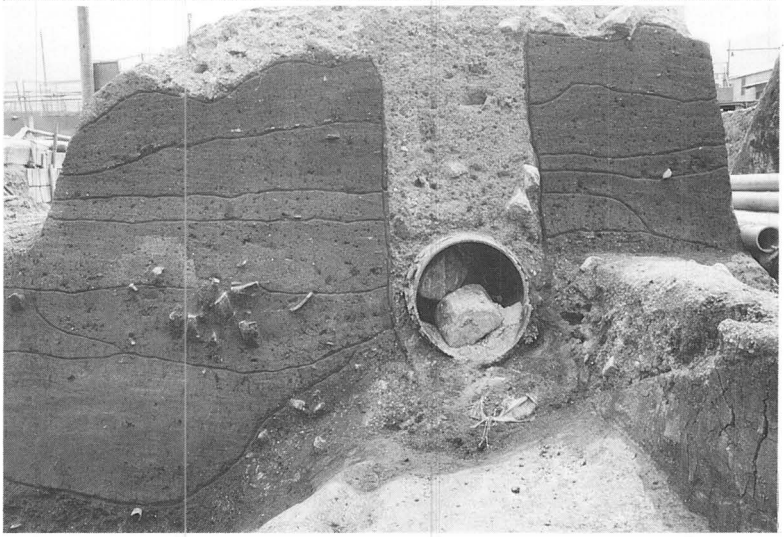
図版2　遺　跡



調査地東壁断面
（西より）



調査地西壁中央付近断面
（東より）



溝20・25断面（西より）

図版3　遺跡

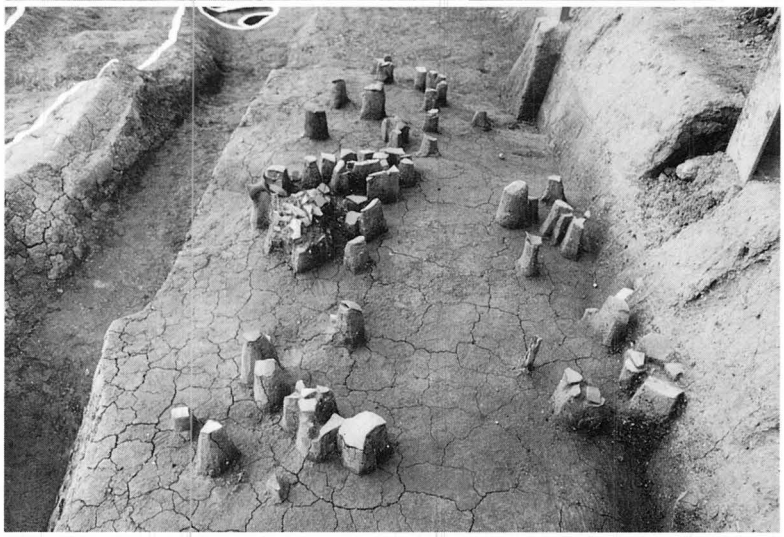
溝59検出状況（北東より）

２号・６号方形周溝墓
検出状況（南東より）

溝58検出状況（西より）

図版4　遺跡

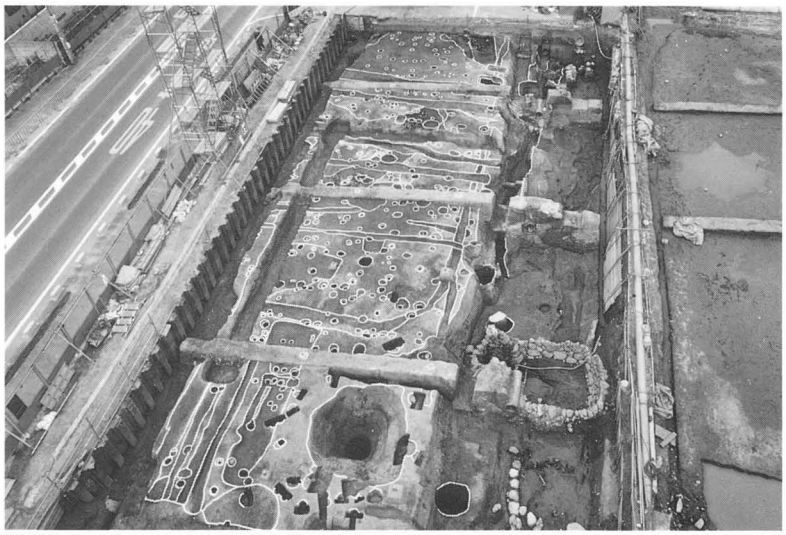
土壙41検出状況
（南より）



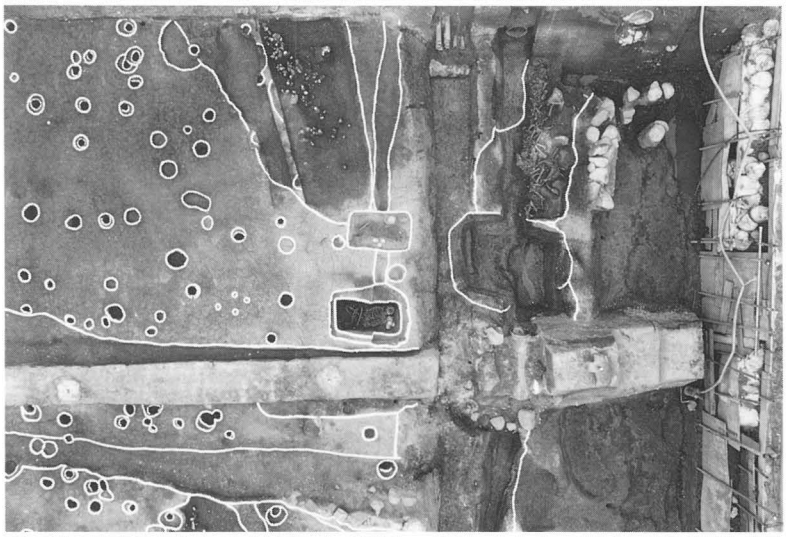
弥生時代河遺物出土状況
（南より）

打製石剣出土状況
（南より）

図版5　遺跡



中世遺構全景（東より）

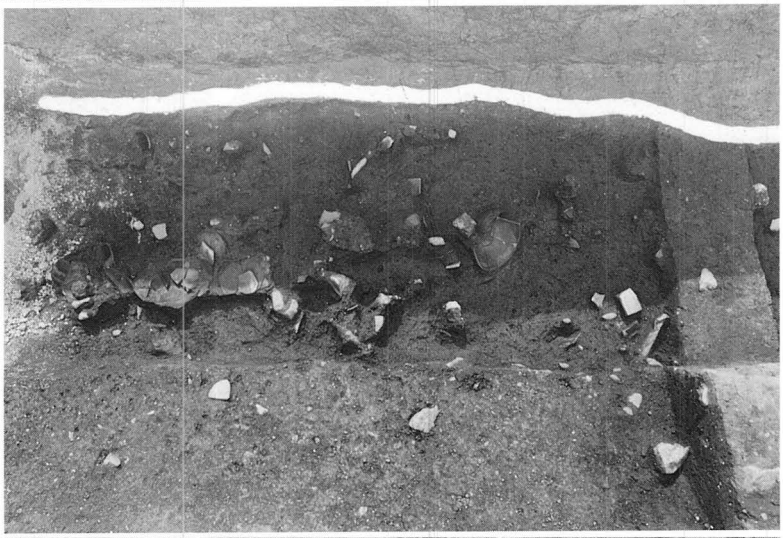


調査地西端遺構検出状況
（上より）

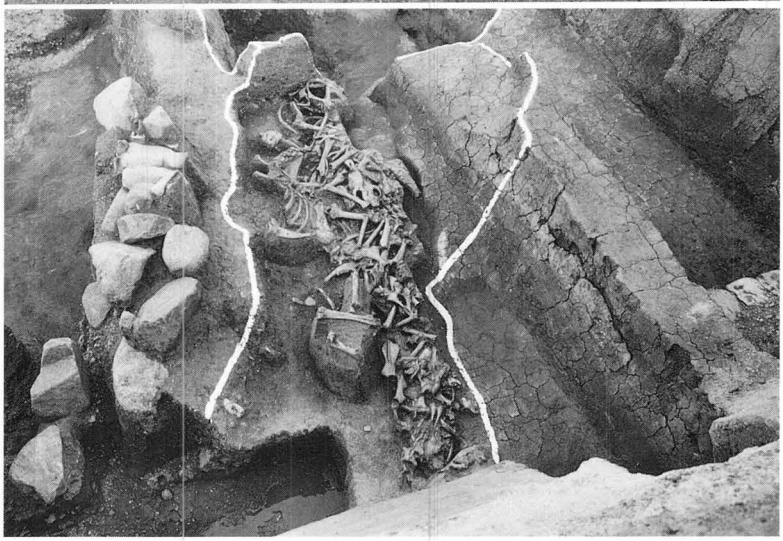
調査地中央中世遺構
検出状況（南より）

図版6　遺　跡

溝21・23～25検出状況
（南より）



溝25遺物出土状況
（北より）



溝25獣骨出土状況
（西より）

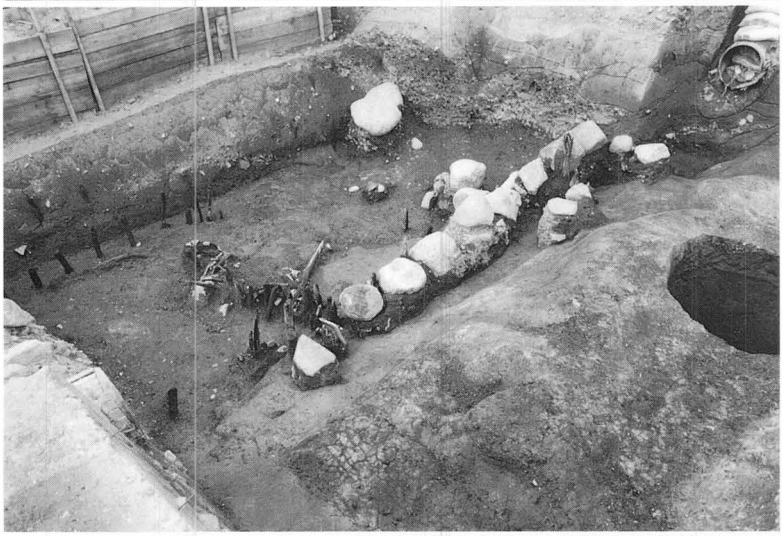
溝25獣骨（ウマ他）
出土状況（南より）

溝25獣骨（ウシ他）
出土状況（南より）

溝25獣骨（ウマ頭骨）
出土状況（西より）

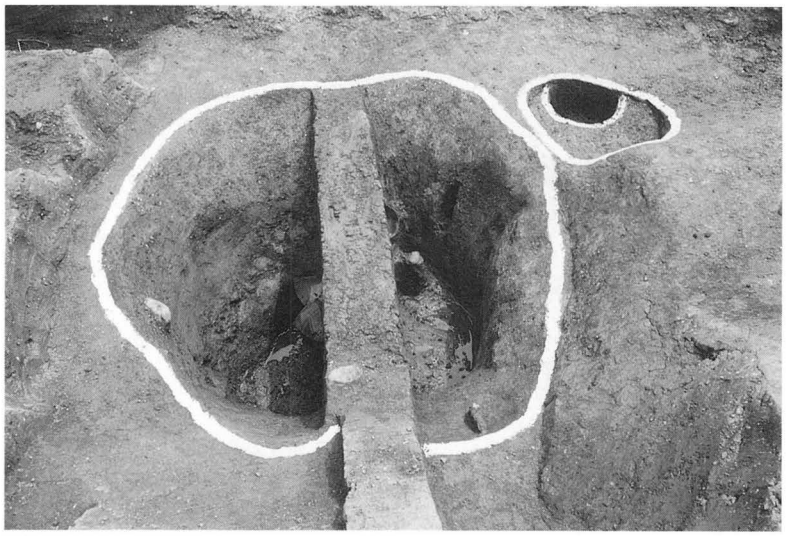
図版8　遺　跡

溝21・25・53検出状況
（東より）



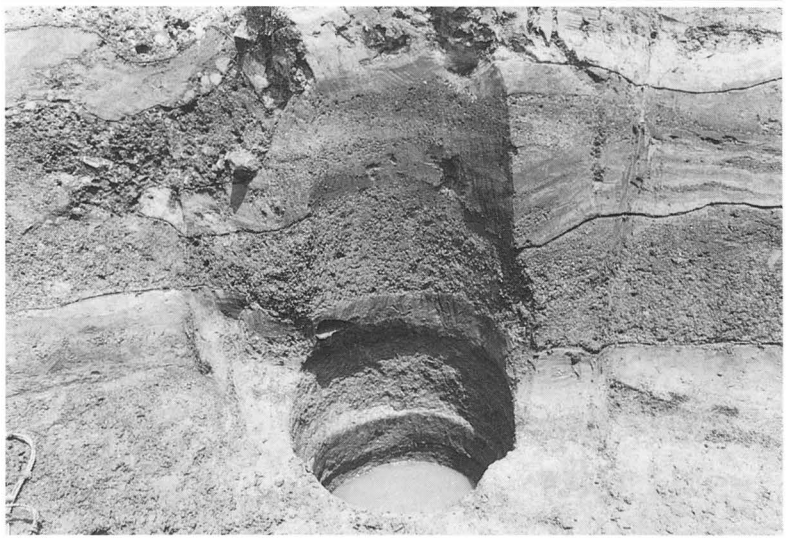
溝20杭列・石列検出状況
（南西より）

溝20曲物出土状況
（西より）



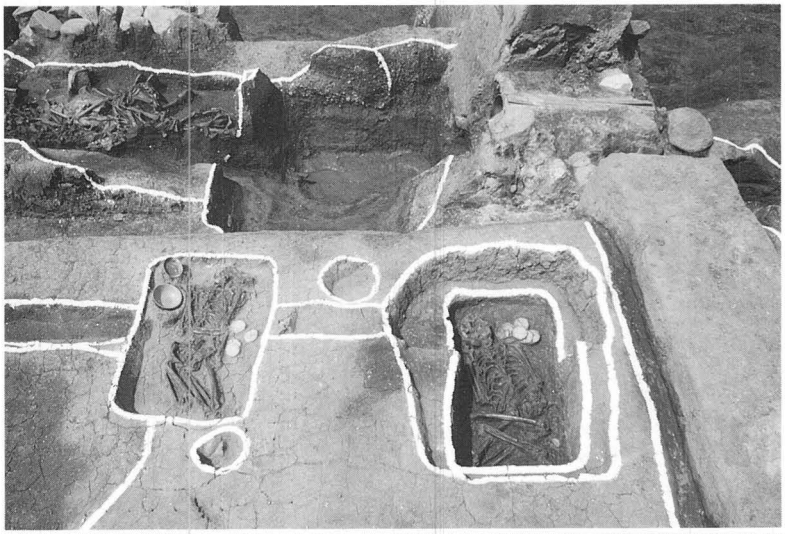
井戸5・ピット373
検出状況（西より）

井戸4堆積土検出状況
（南より）

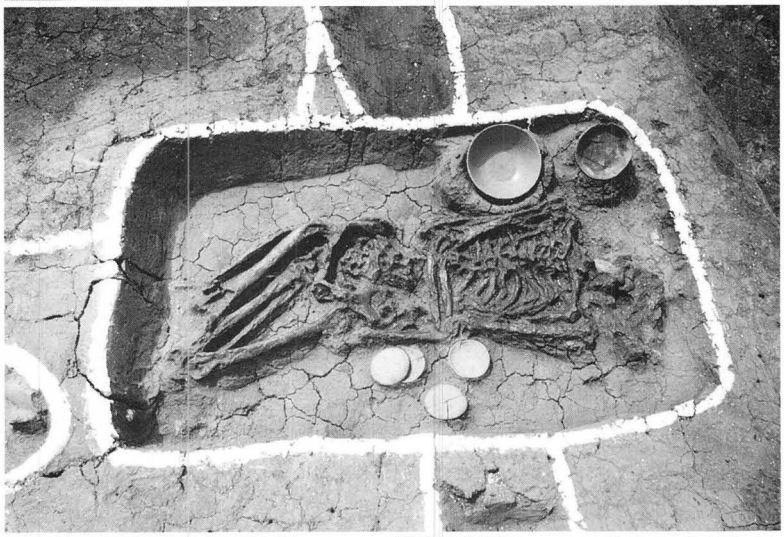


井戸5断ち割り状況
（南より）

図版10　遺　跡



木棺墓１・２検出状況
（南より）



木棺墓１検出状況
（東より）

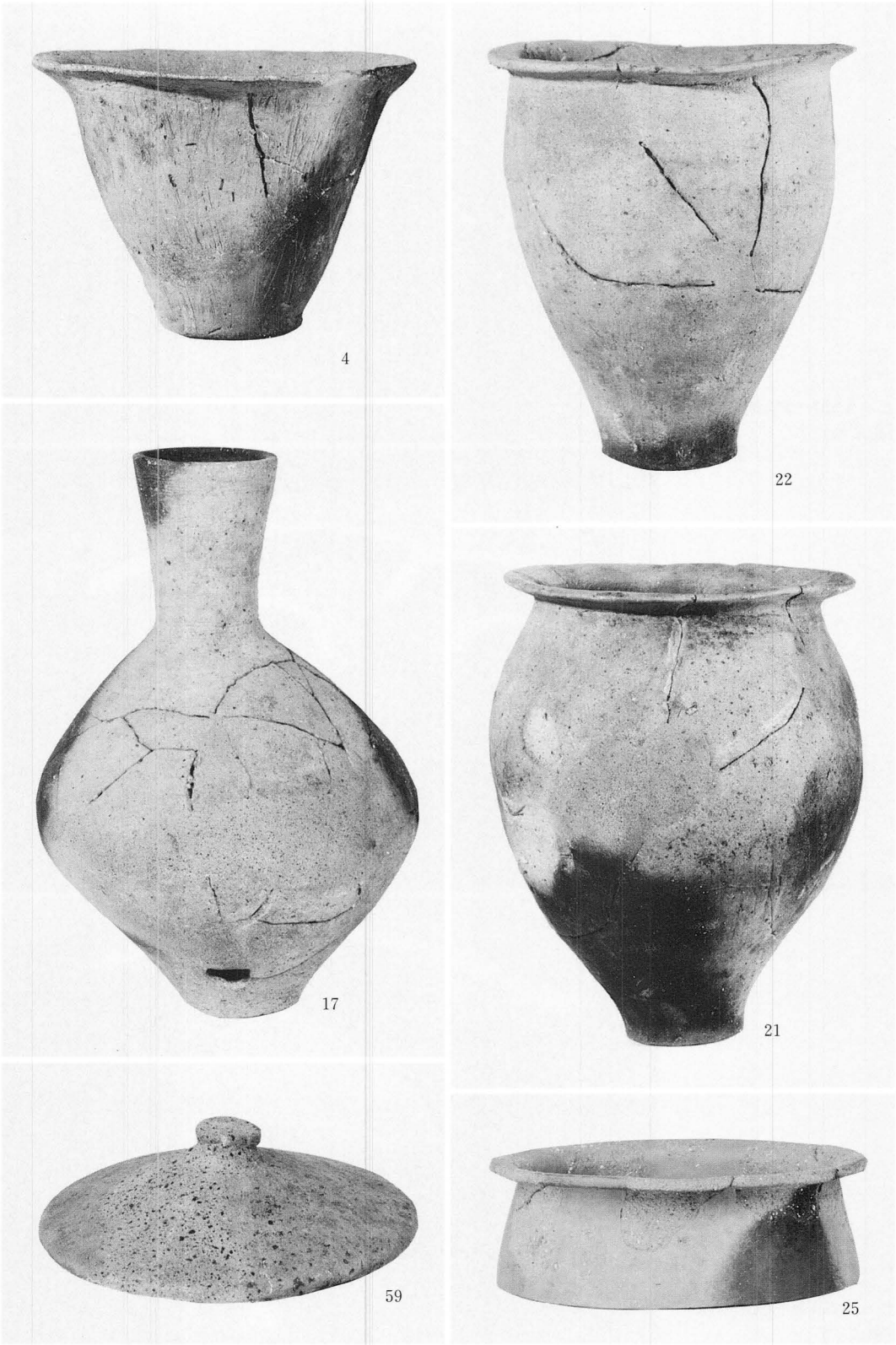
木棺墓２検出状況
（東より）

ピット557・558検出状況
(北より)

ピット156・157断ち割り
状況（北より）

ピット201根石検出状況
(南より)

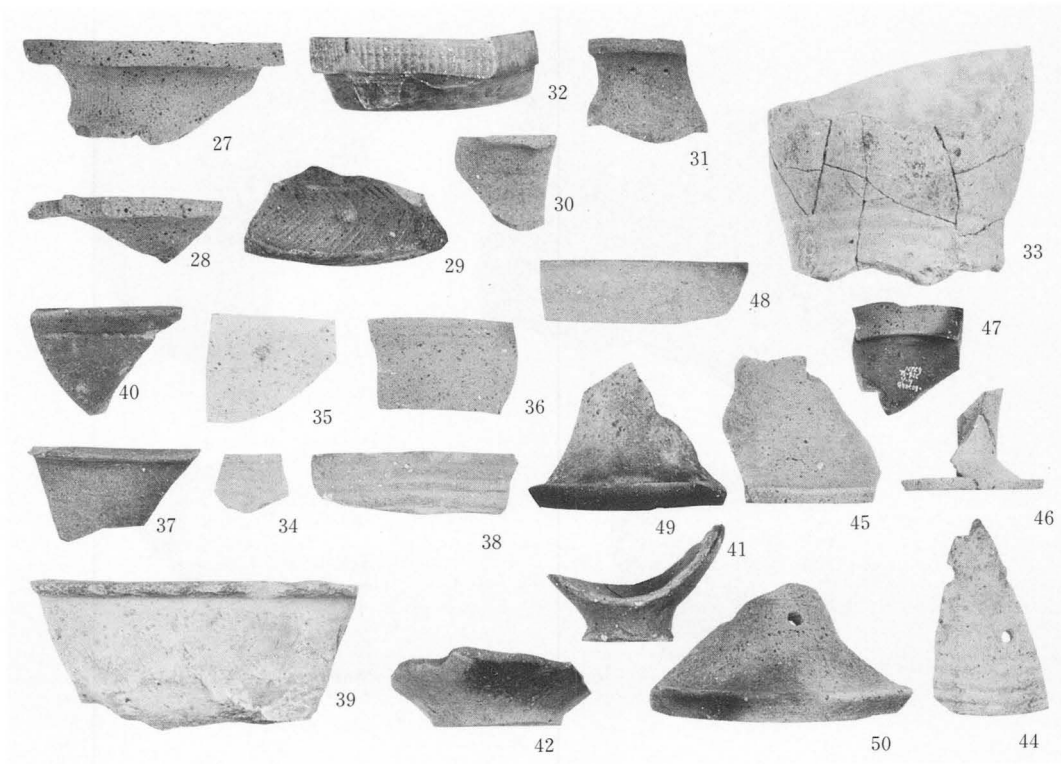
図版12　溝50・溝57・溝58出土弥生土器



溝50出土壺蓋(59)、溝57出土鉢(4)、溝58出土細頸壺(17)、甕(21・22・25)

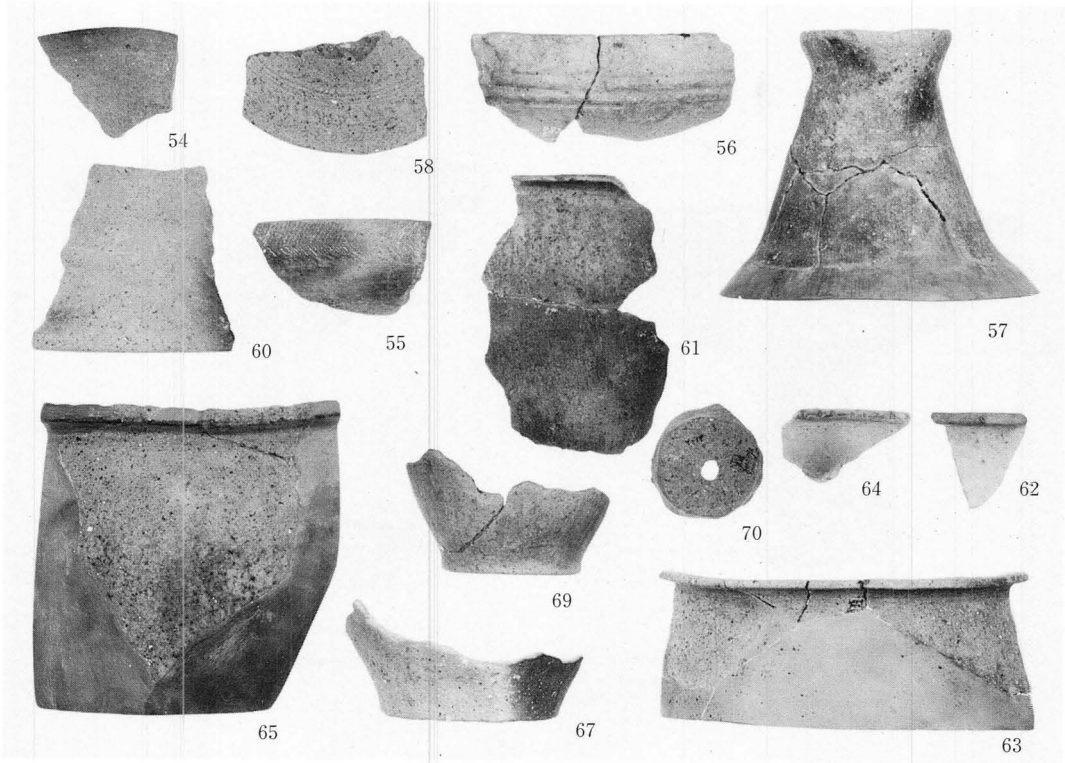
図版13　溝、井戸、弥生時代川他出土弥生土器

弥生時代包含層出土高杯(51・52)

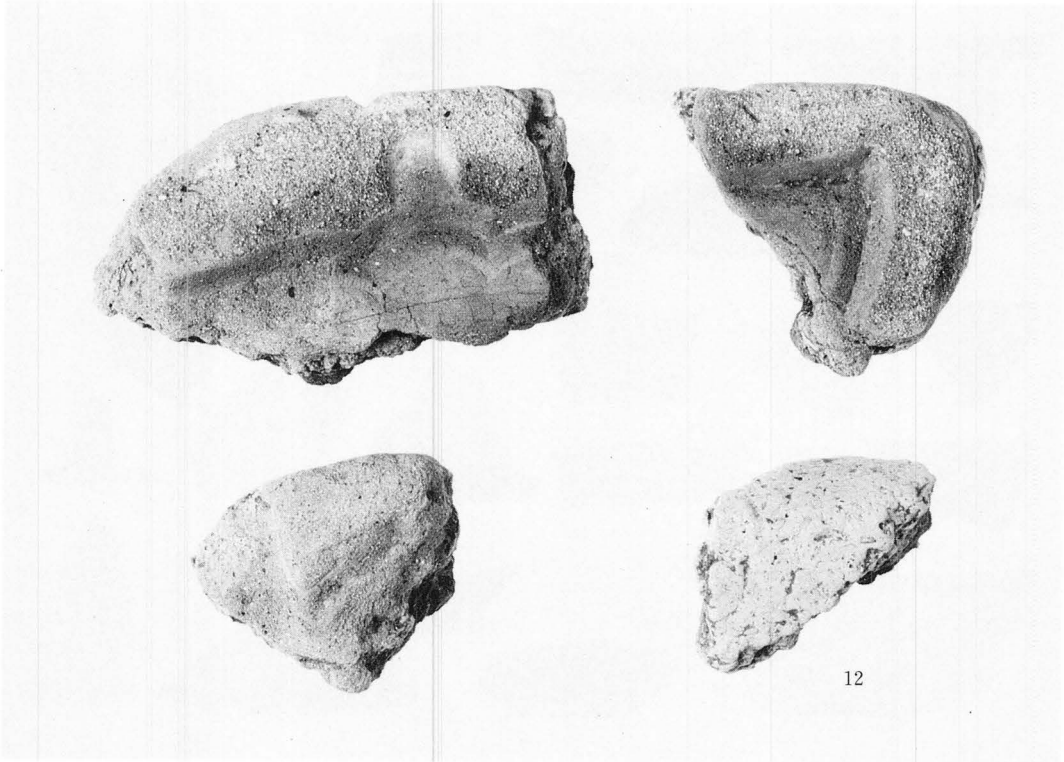


壺(27～32・42)、細頸壺(33)、鉢(34～41)、台付鉢(44)、高杯(46～50)、器台(45)

図版14　溝20・溝25、土壙41、弥生時代川他出土弥生土器

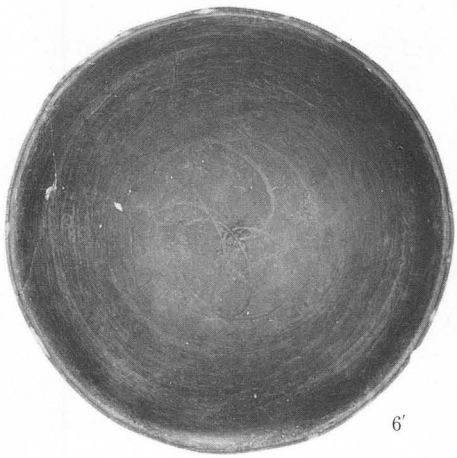


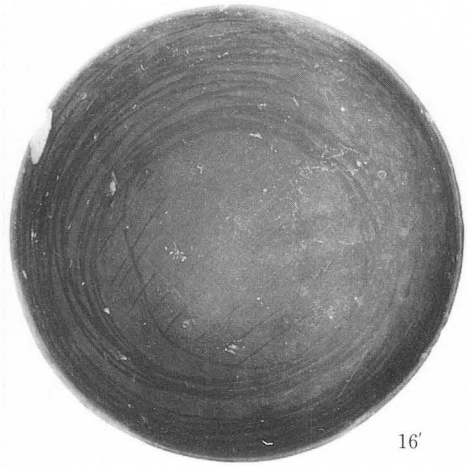
台付鉢(60)、甕(61～65・67・69・70)、甕蓋(57)、高杯(54～56)、器台(58)

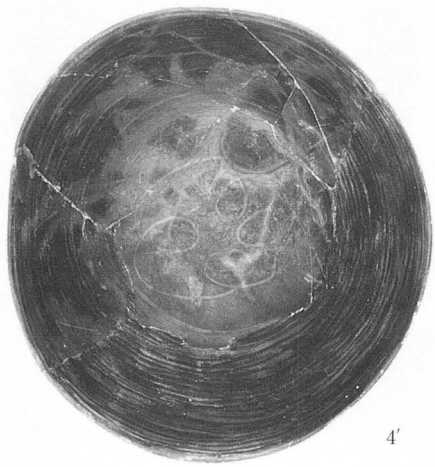


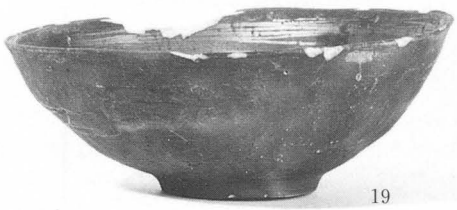
溝25出土鋳型(12)

図版15　溝25出土瓦器



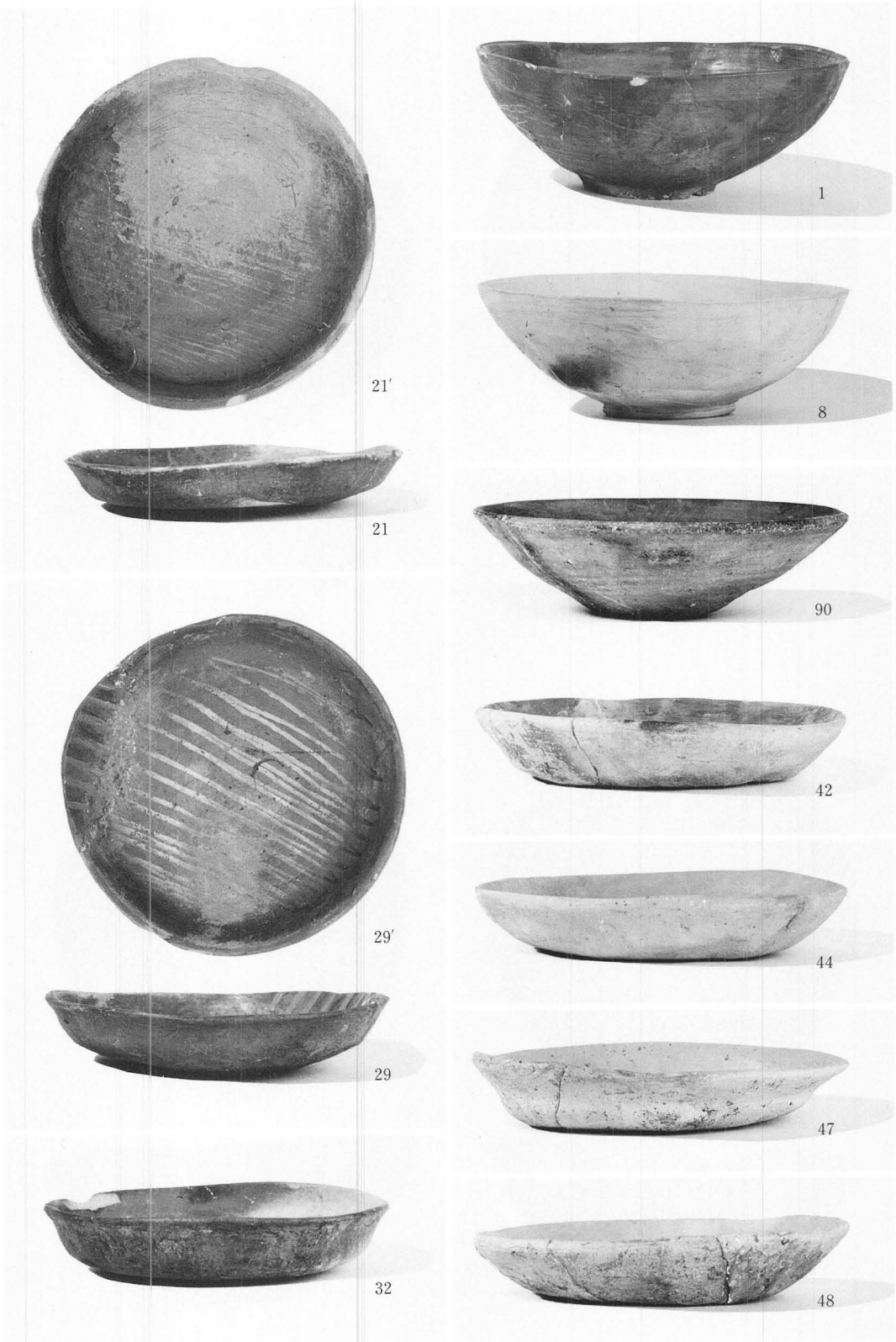






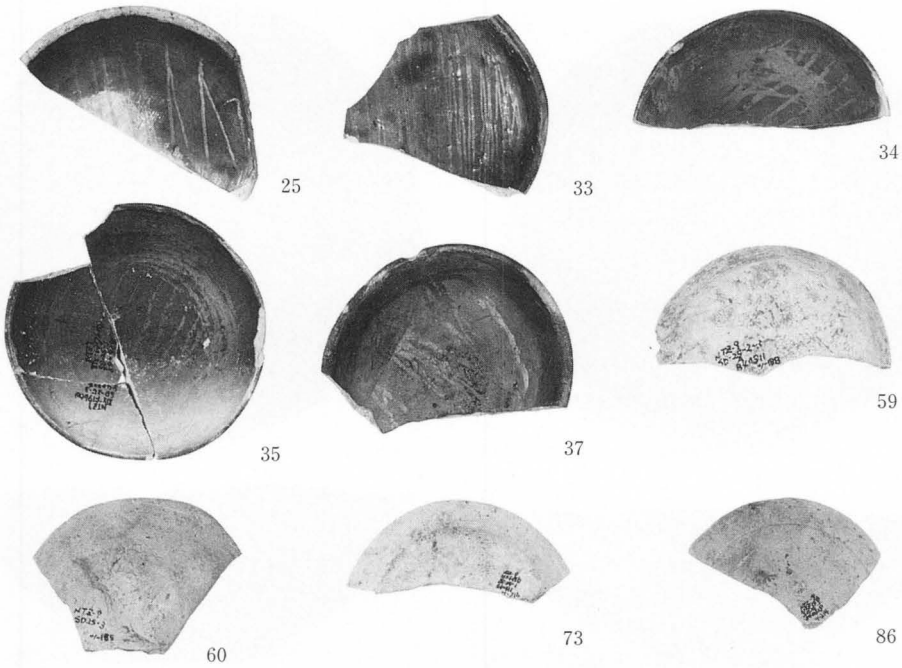
瓦器椀(4・6・16・19)

図版16　溝25出土土師器・瓦器・東播系須恵器

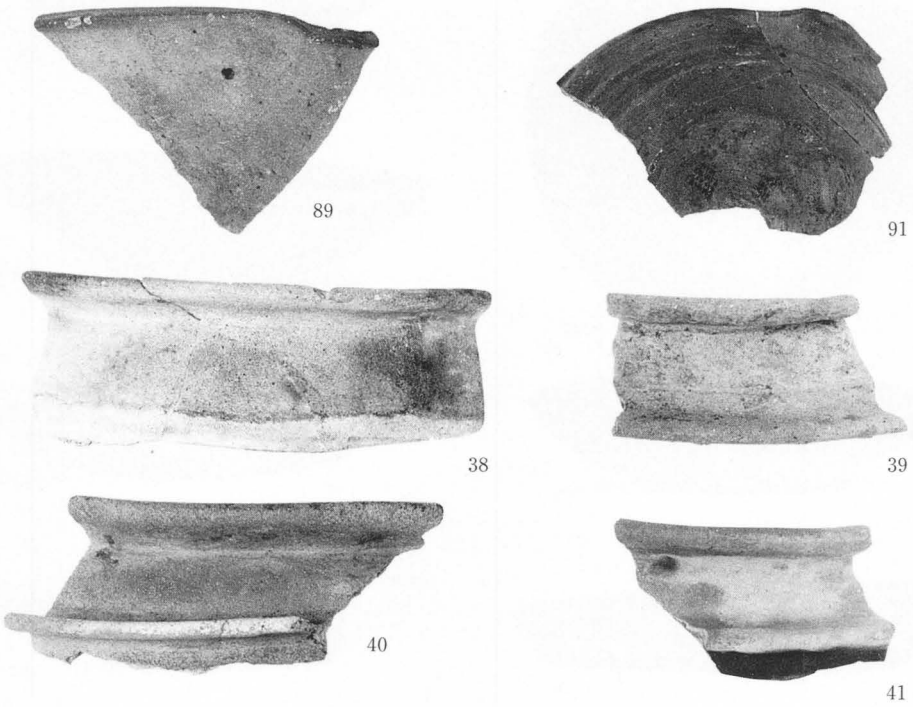


土師器大皿(42・44・47・48)、瓦器椀(1・8)、小皿(21・29・32)、東播系須恵器捏鉢(90)

図版17　溝25出土土師器・瓦器・東播系須恵器

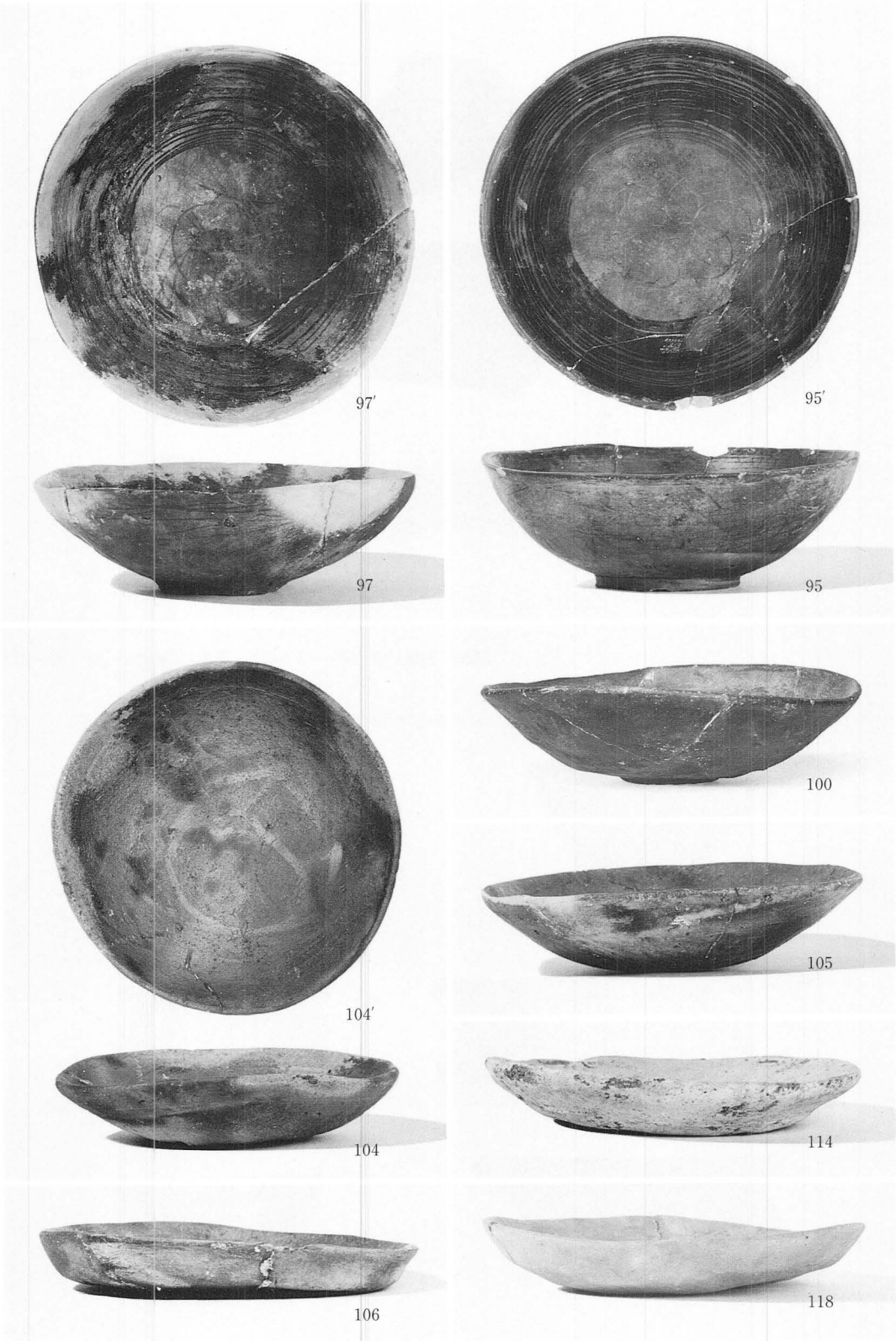


土師器小皿(59・60・73・86)、瓦器小皿(25・33～35・37)

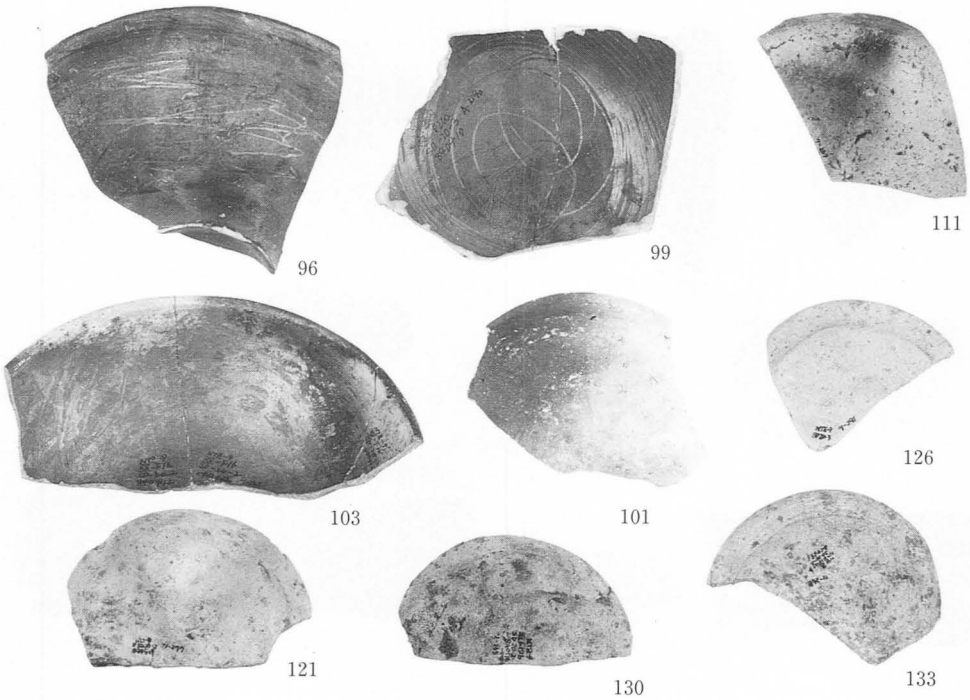


土師器羽釜(38～41)、東播系須恵器捏鉢(89・91)

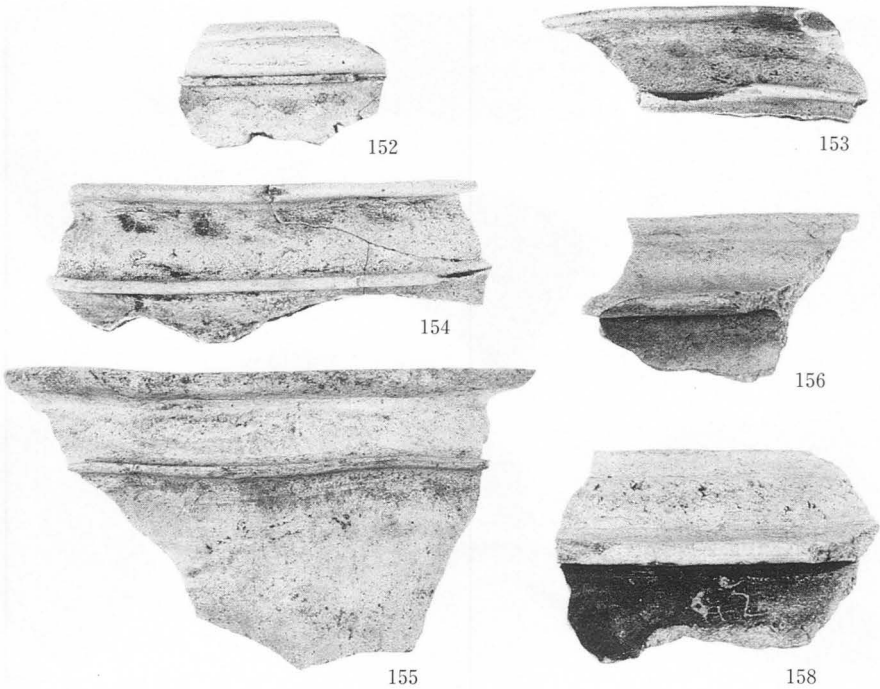
図版18　溝20出土土師器・瓦器



土師器大皿(114)、小皿(118)、瓦器椀(95・97・100・104・105)、小皿(106)

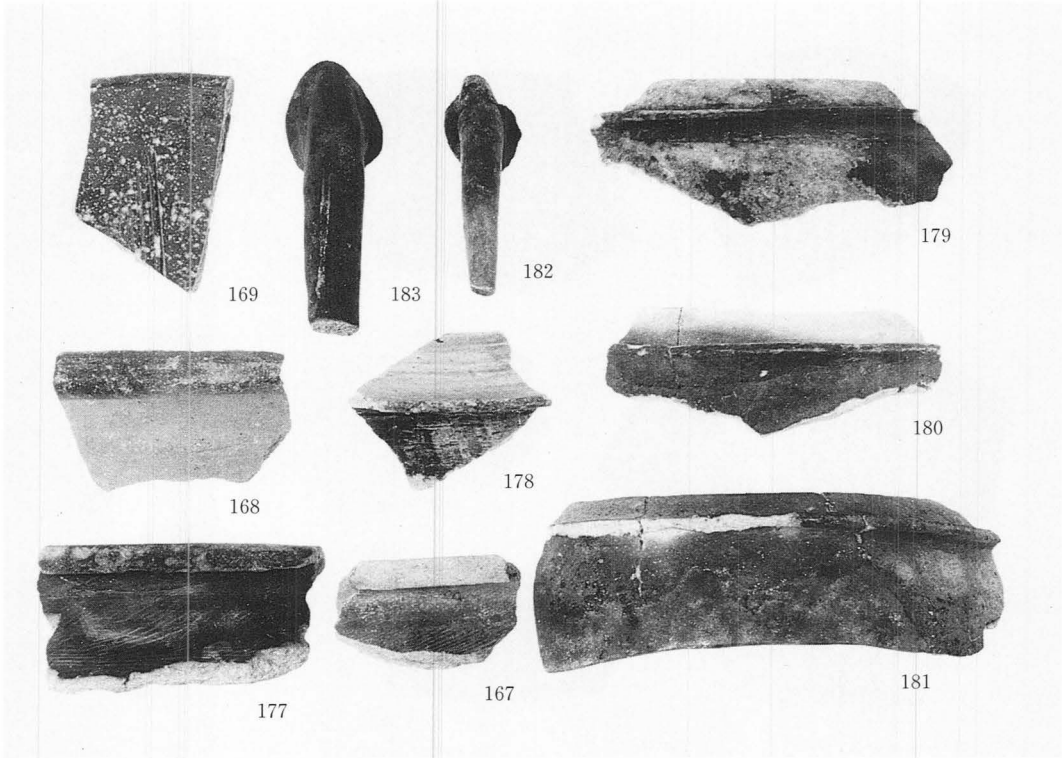


土師器小皿(121・126・130・133)、瓦器椀(96・99・101・103・111)

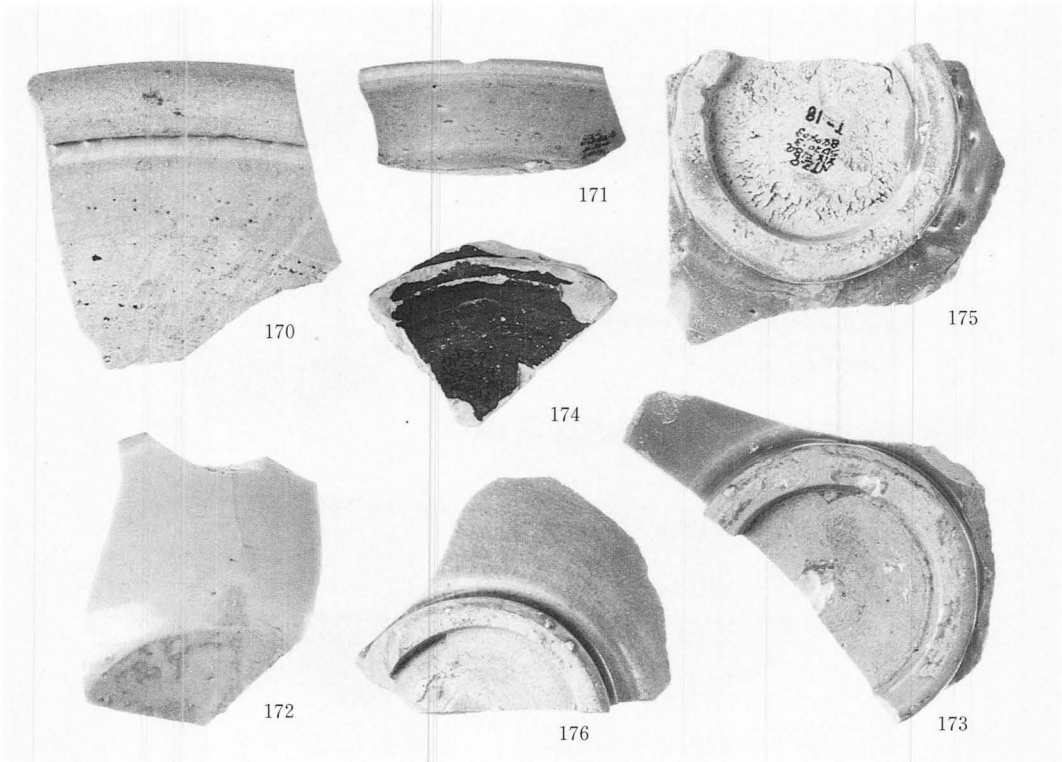


土師器羽釜(152～156・158)

図版20　溝20出土土師器・瓦器・東播系須恵器・国産陶器・中国製磁器



土師器羽釜(178)、瓦器擂鉢(169)、甕(177)、足釜(179～183)、東播系須恵器甕(167)、捏鉢(168)

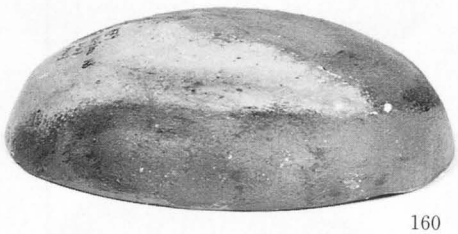


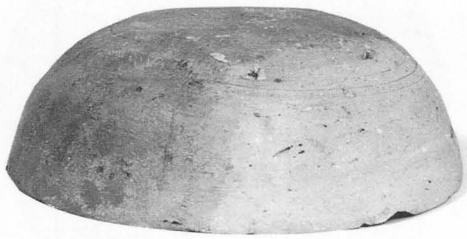
緑釉椀(174)、青磁碗(173・175・176)、皿(171)、白磁碗(170)、皿(172)

115

117

116


160


161

159

187′

186

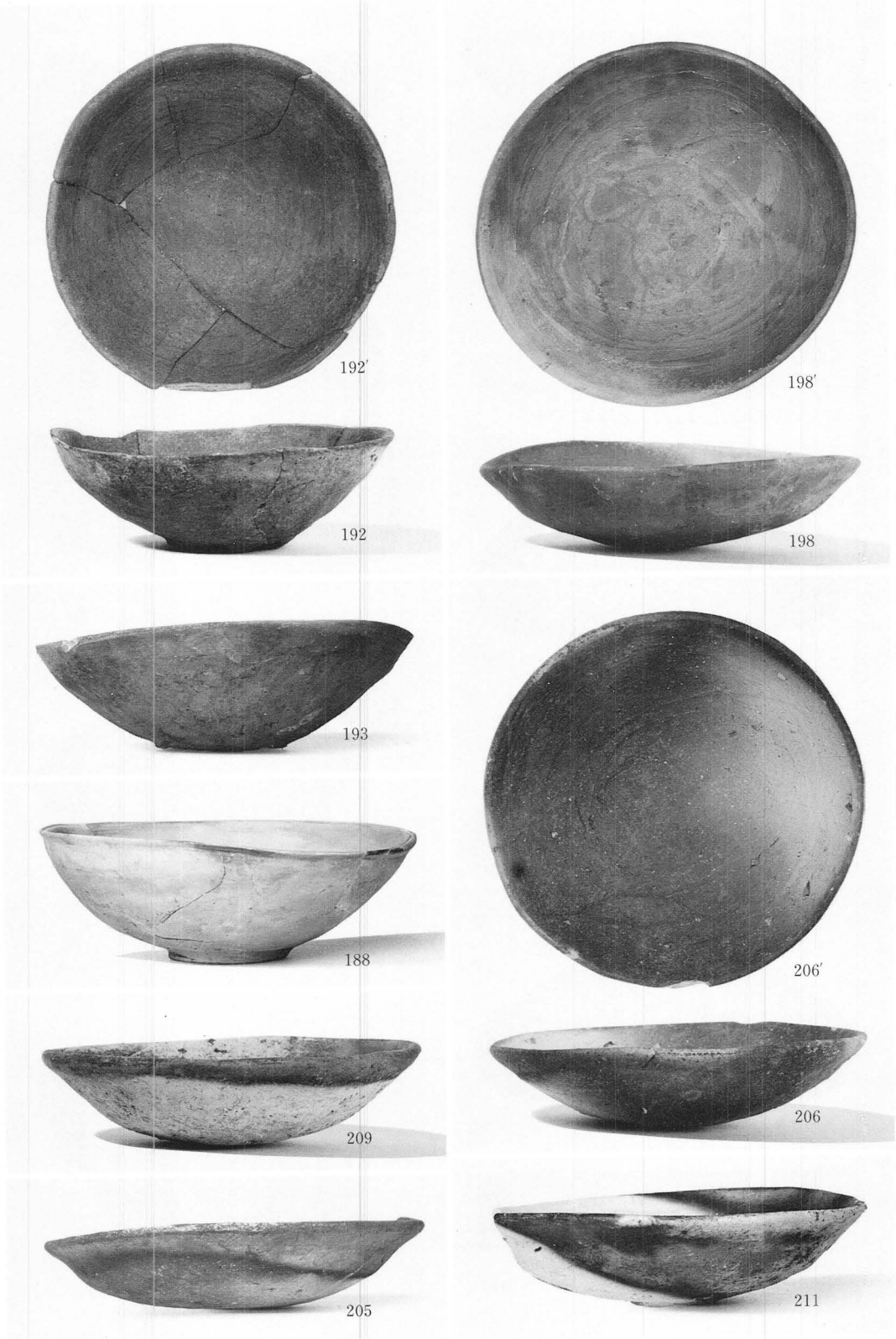
185

184

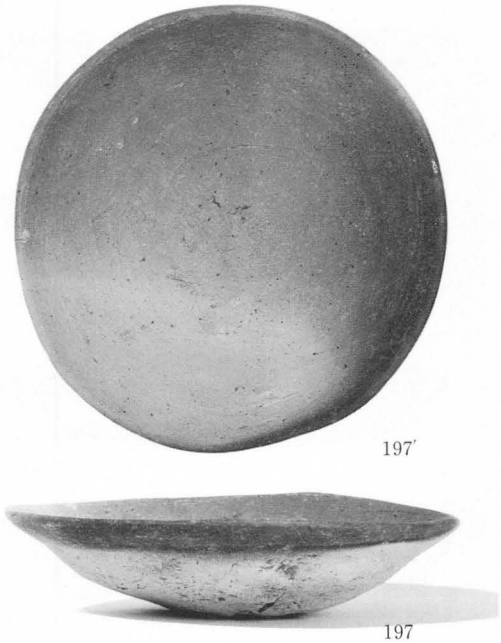
187

土師器大皿(115～117)、須恵器杯蓋(159～161)、軒丸瓦(184)、軒平瓦(185～187)

図版22　溝21出土瓦器

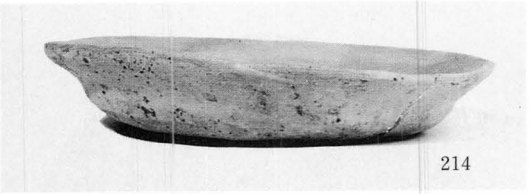


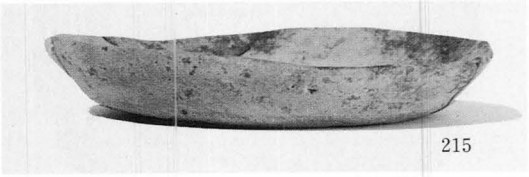
瓦器椀(188・192・193・198・205・206・209・211)

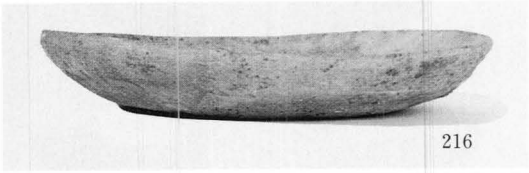


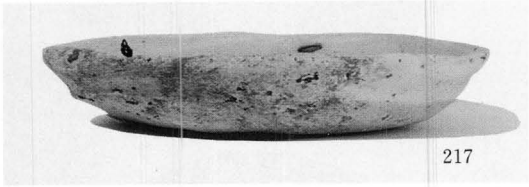
瓦器椀(195～197、200～202)

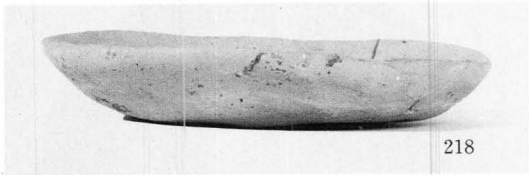
図版24　溝21出土土師器

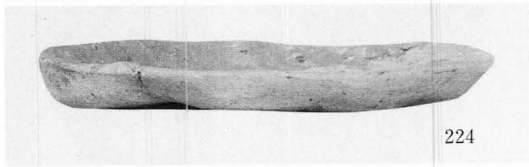

214

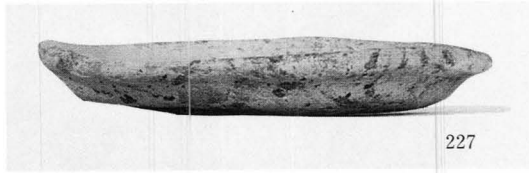

215

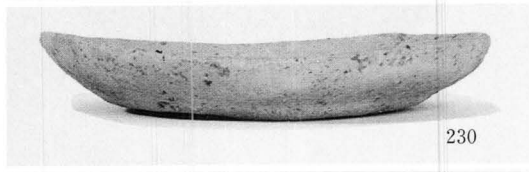

216

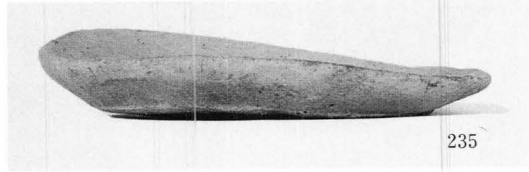

217

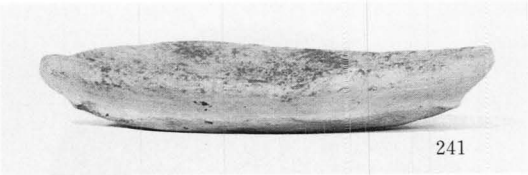

218

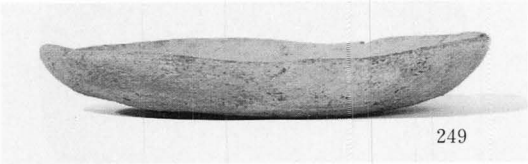

224

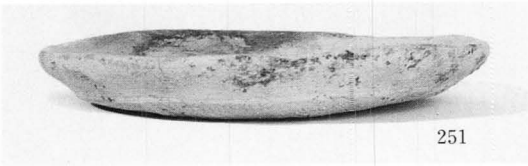

227

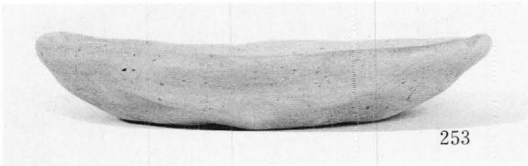

230

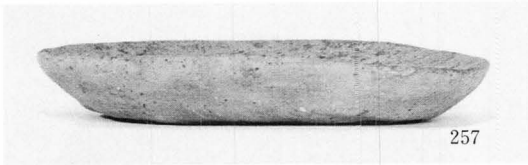

235

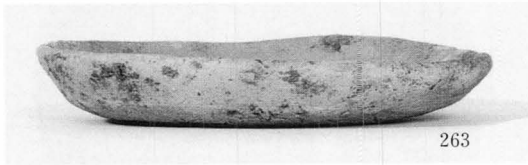

241


249


251

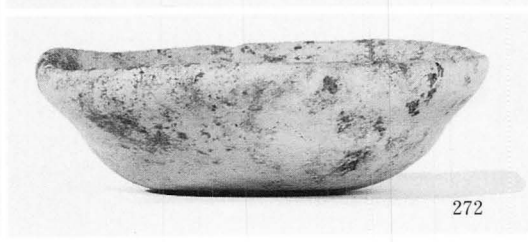

253


257

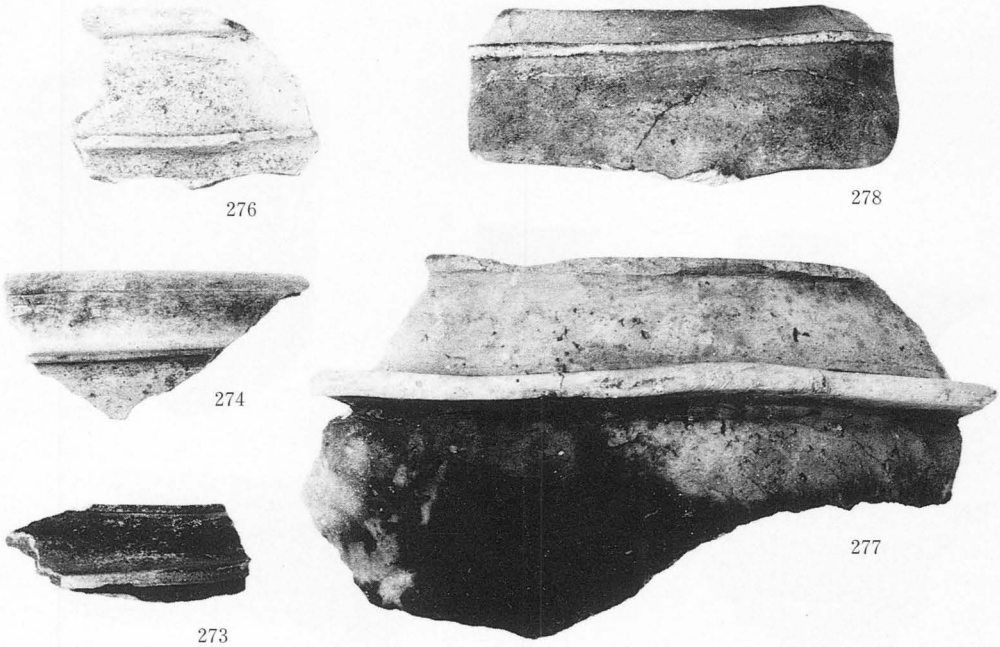

263

266

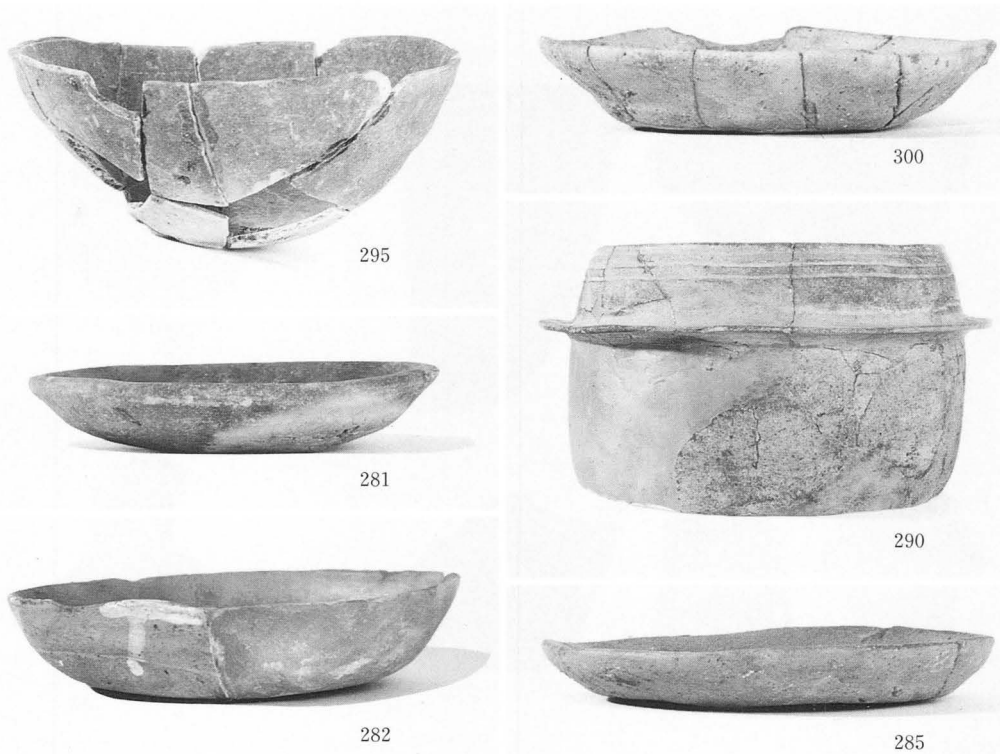
269


272

土師器大皿(214～217)、小皿(218・224・227・230・235・241・249・251・253・257・263・266・269・272)

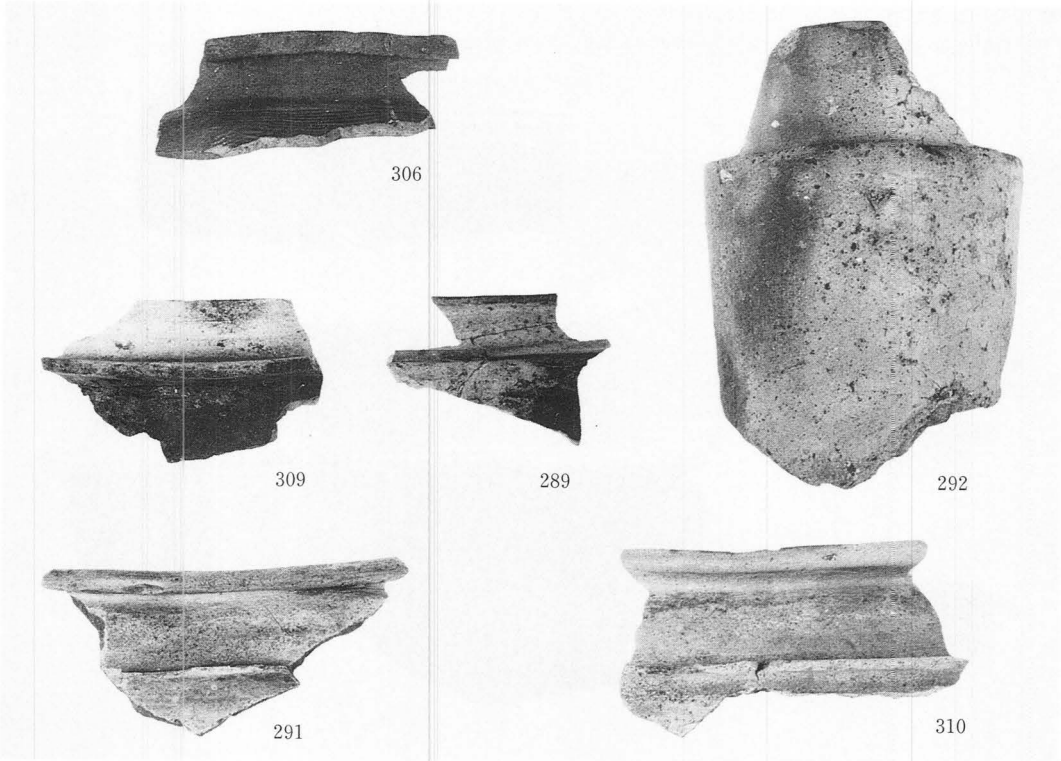


溝21出土土師器羽釜(273・274・276・277)、瓦器足釜(278)

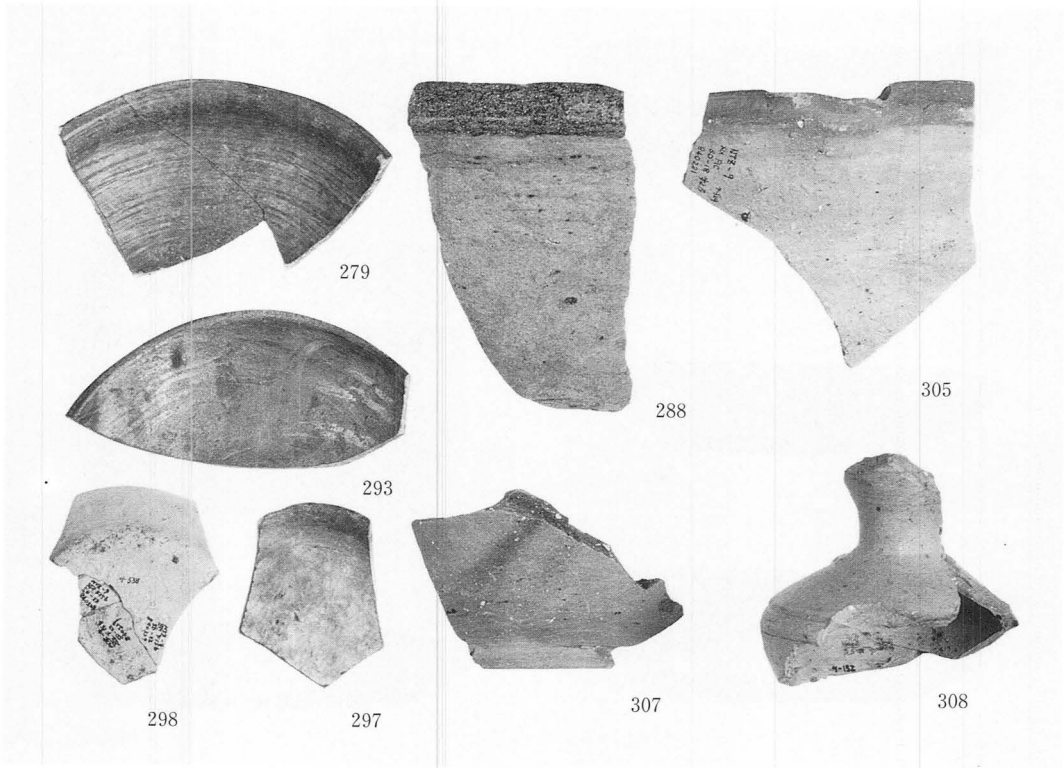


溝2・8・22・30出土土師器大皿(282)、小皿(285・300)、瓦器椀(281・295)、羽釜(290)

図版26　溝3他溝出土土師器・須恵器・東播系須恵器・瓦器・瓦



溝3・8・27・33・48出土土師器羽釜(289・291・309・310)、須恵器甕(306)、丸瓦(292)



溝18・19・22・42・48・55出土土師器大皿、須恵器壺・瑳・東播系須恵器捏鉢、瓦器椀・小皿

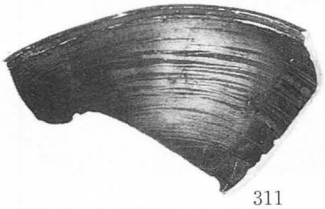
318′

313′

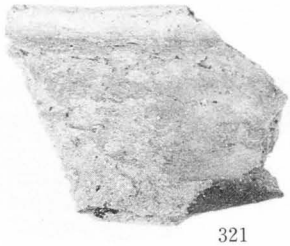
318

313

瓦器椀(313・318)

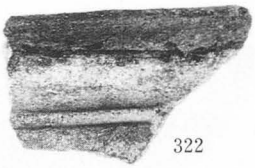

311

316


321

315

317


322

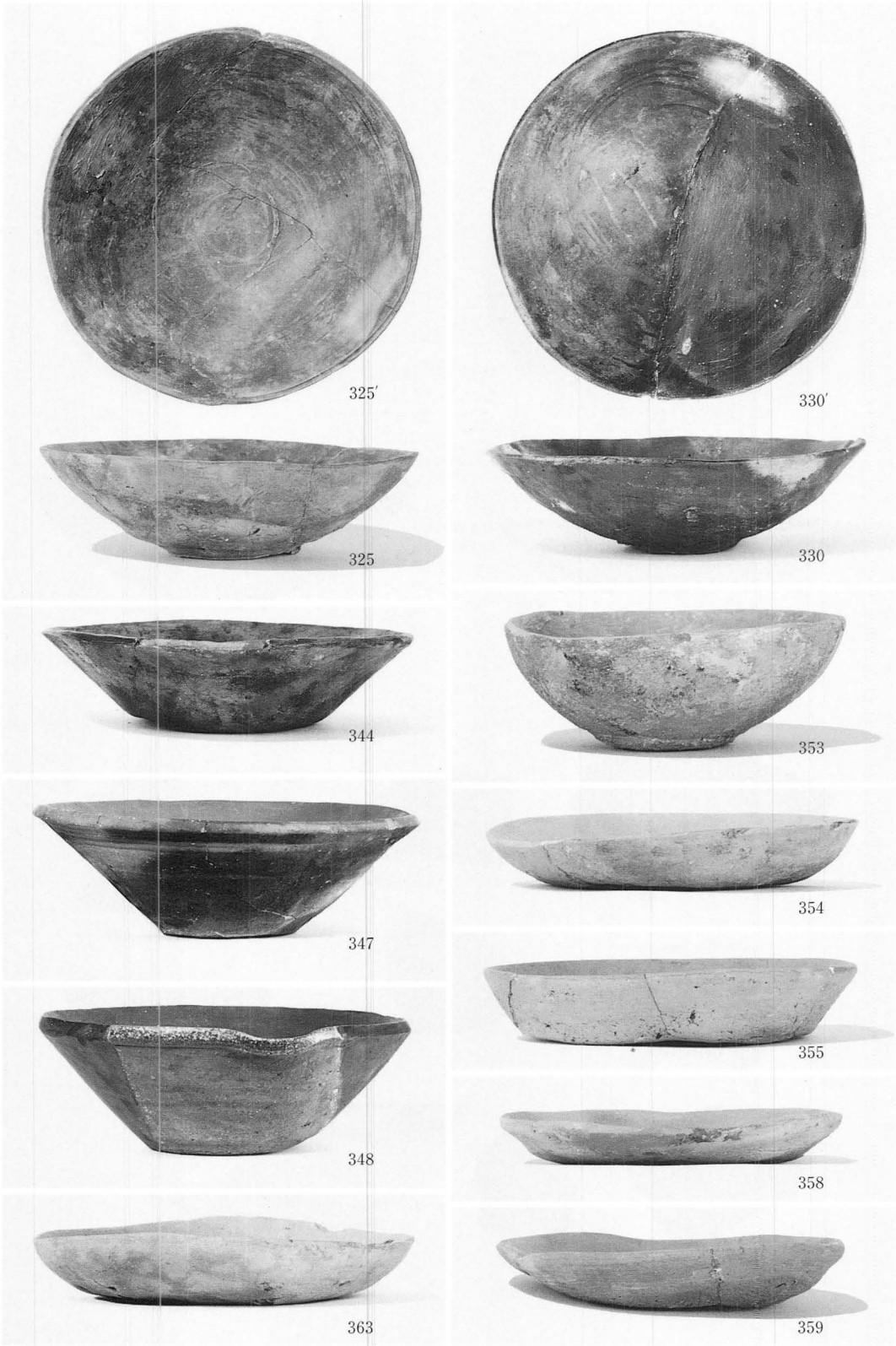
312

320

323

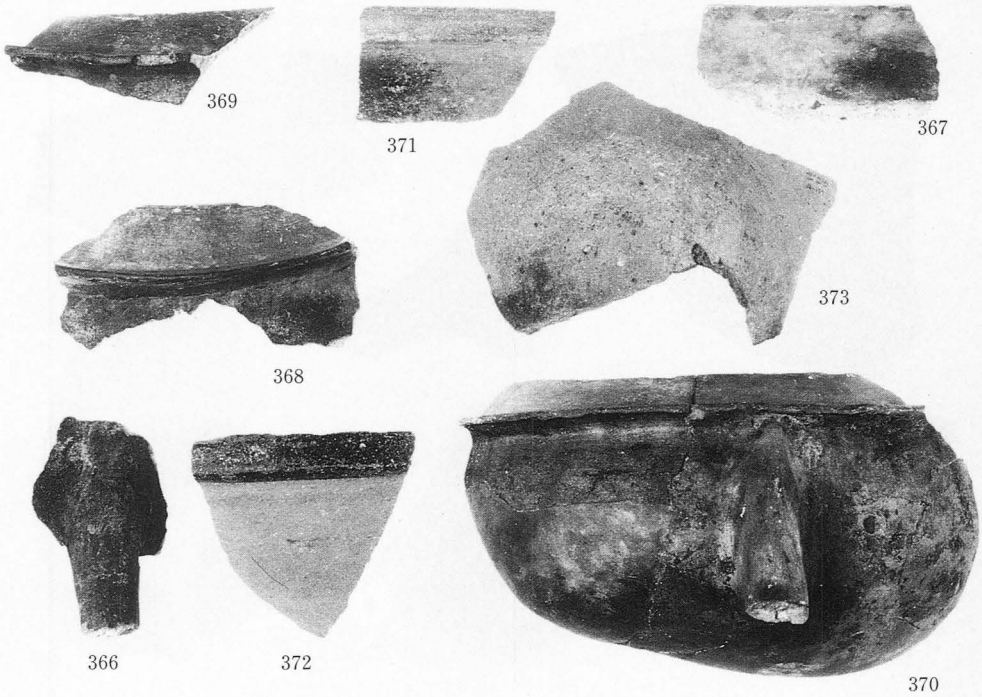
土師器羽釜(321～323)、瓦器椀(311・312・315～317)、足釜(320)

図版28　井戸1・井戸5出土土師器・瓦器・東播系須恵器

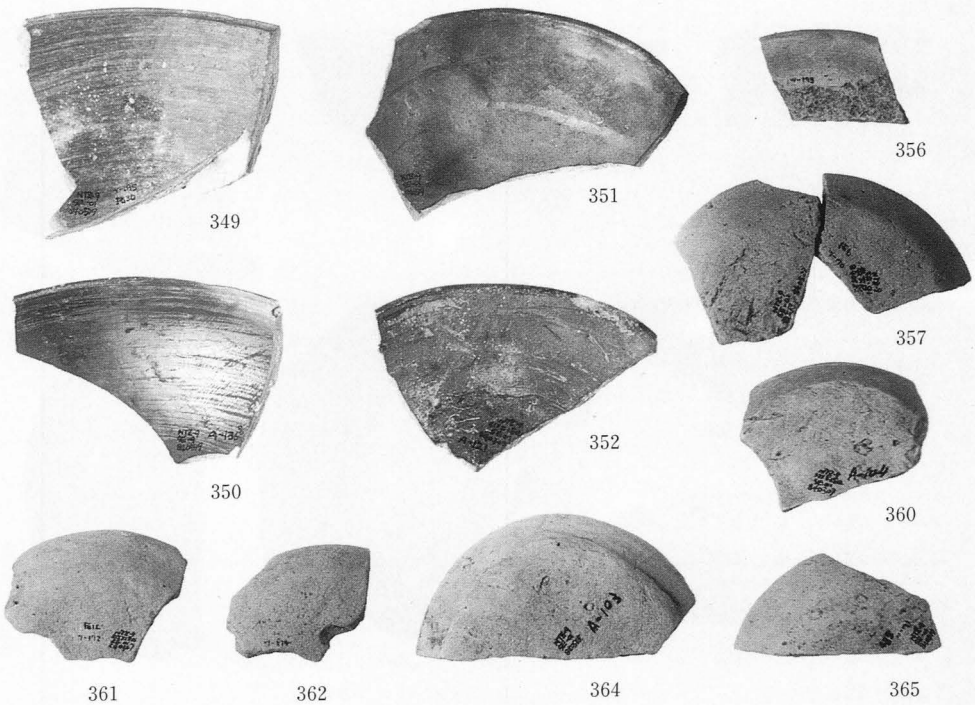


井戸1出土土師器大皿・小皿、瓦器小椀、井戸5出土瓦器椀・鉢、東播系須恵器捏鉢

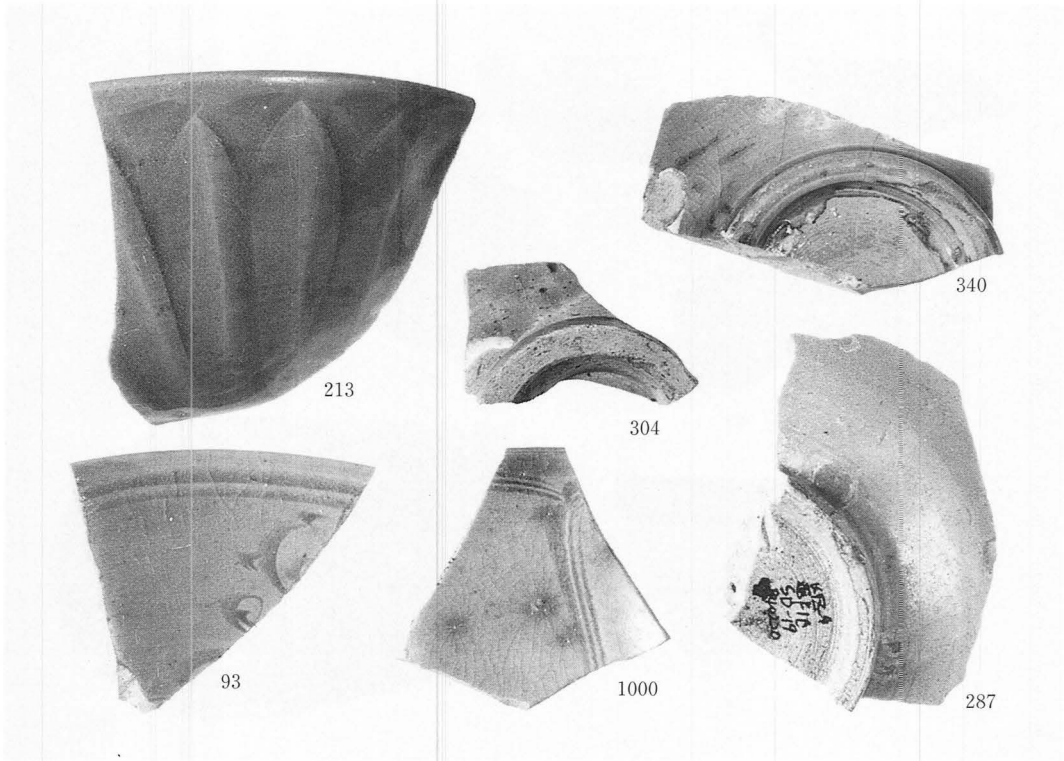
図版29　井戸1出土土師器・瓦器・東播系須恵器



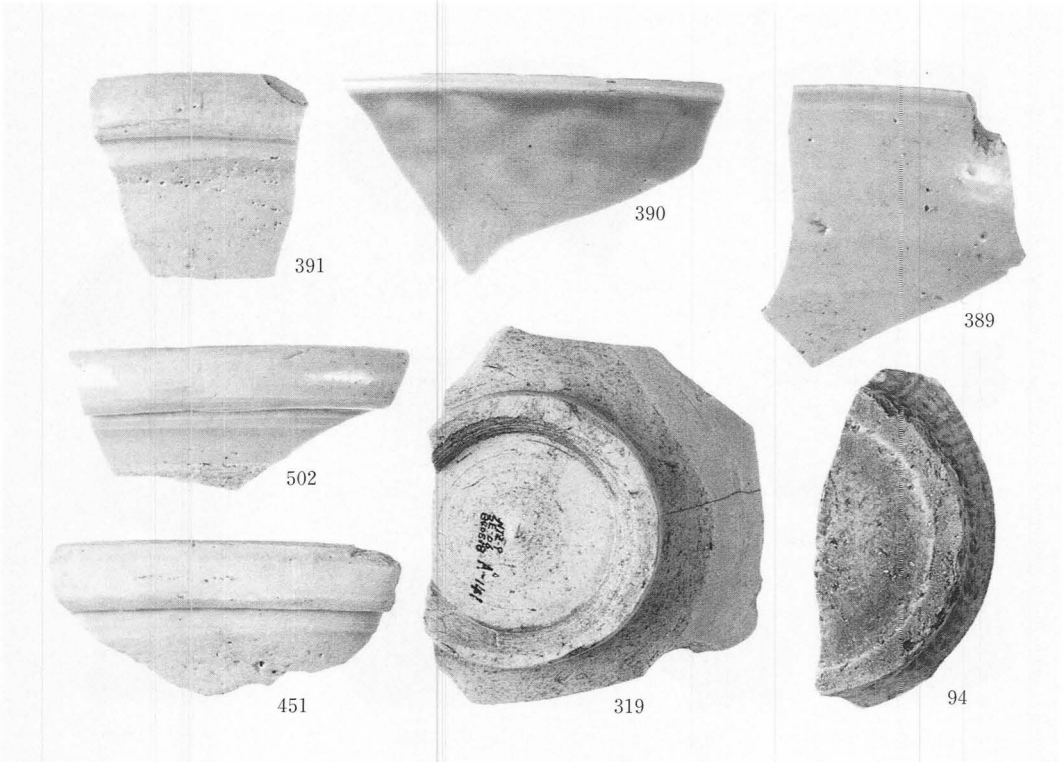
土師器羽釜(367)、瓦器足釜(366・368～370)、鉢(373)、東播系須恵器捏鉢(371・372)



土師器小皿(356・357・360～362・364・365)、瓦器椀(349～352)



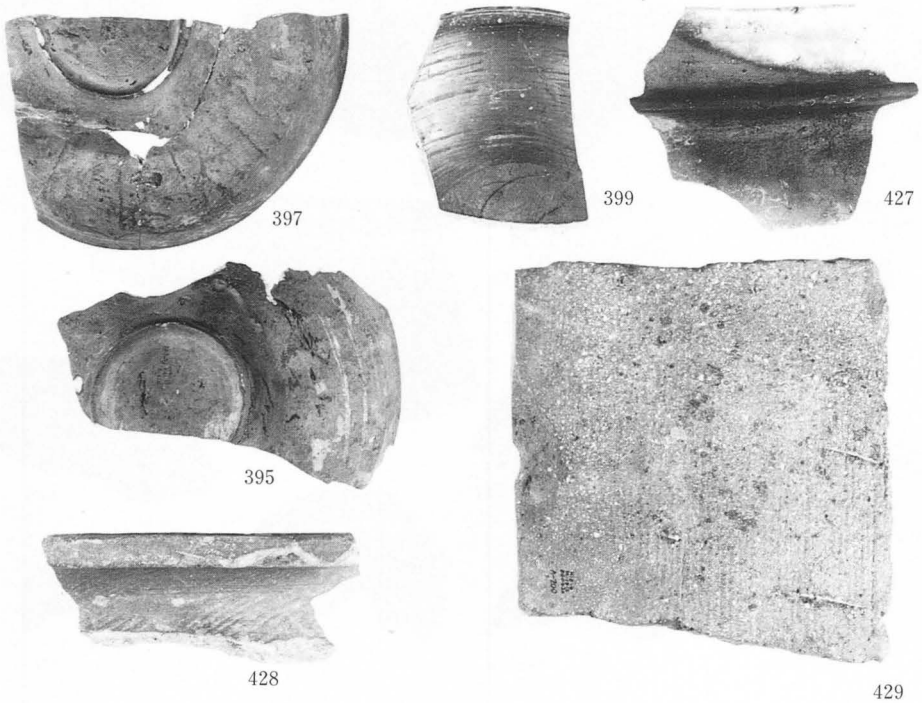
溝19・21・25、井戸５出土青磁碗(93・213・287・304・340・1000)



溝25、井戸６、ピット103・137、土壙１・15出土白磁碗(94・319・389～391・451・502)

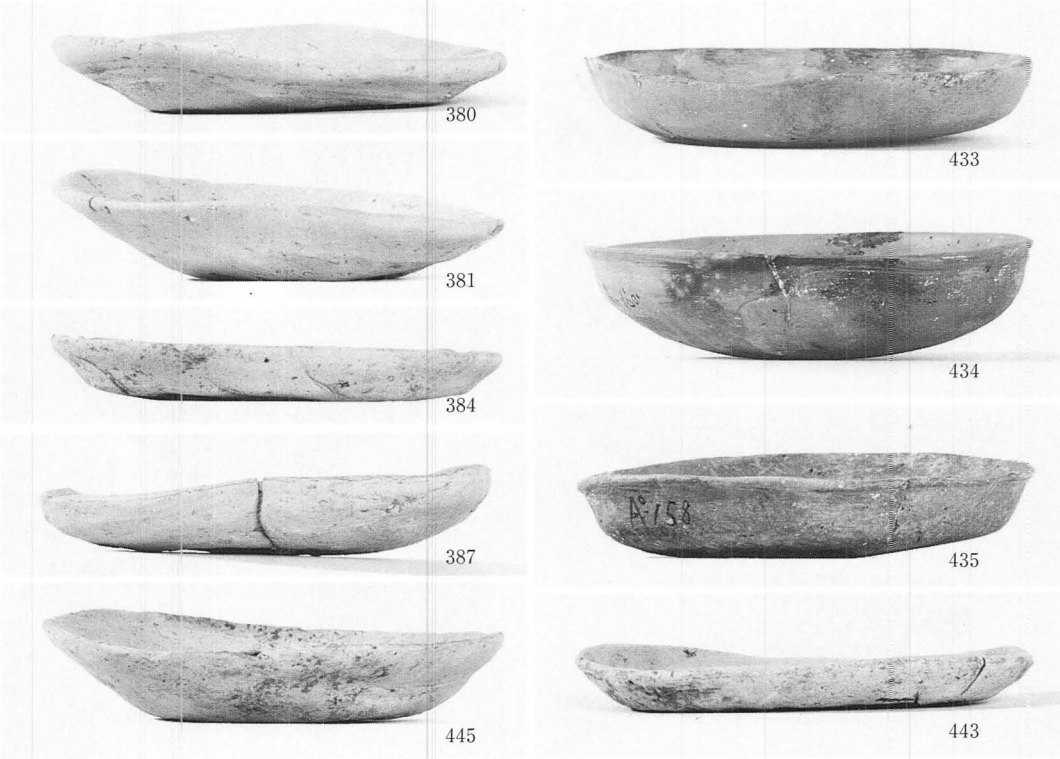
図版31　井戸4出土土師器・瓦器・東播系須恵器・瓦

土師器台付大皿(404)、大皿(405)、小皿(411)、瓦器椀(394・398・400)、小皿(403)

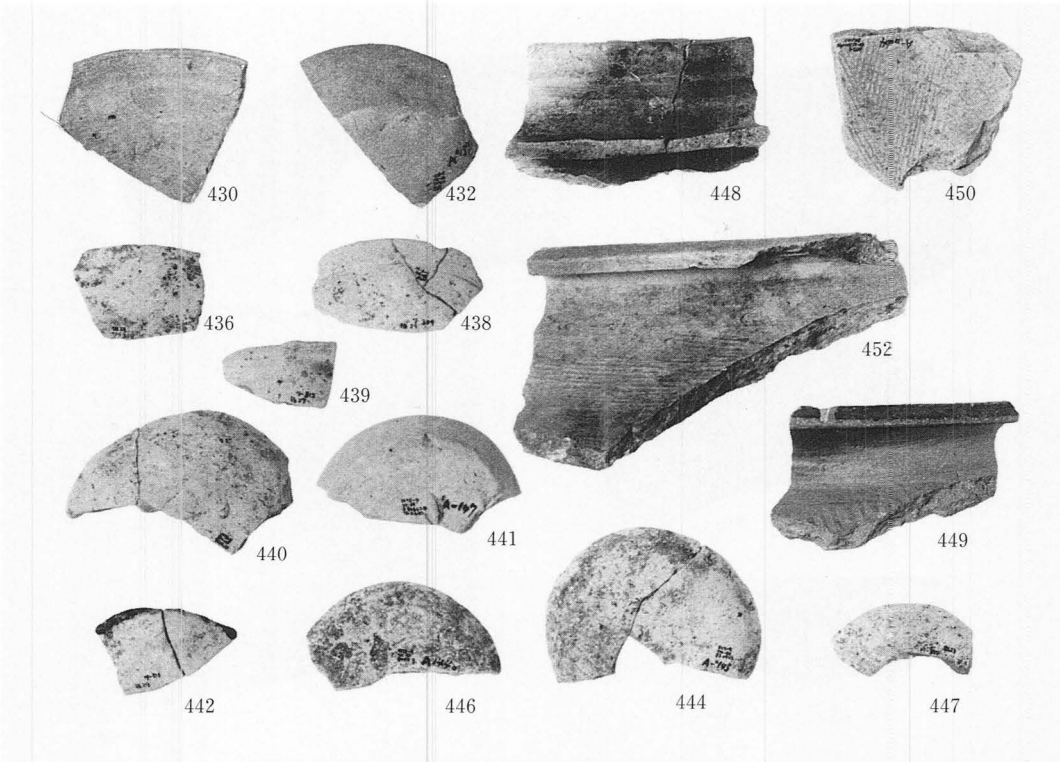


瓦器椀(395・397・399)、羽釜(427)、東播系須恵器甕(428)、平瓦(429)

図版32　ピット、土壙出土土師器・須恵器・東播系須恵器・瓦器



土壙18・21・24・29・30、焼土壙、ピット281出土土師器小皿、瓦器小皿

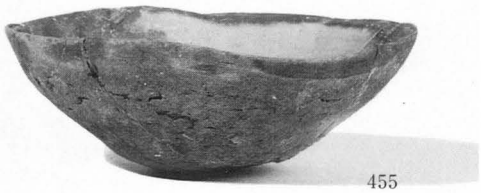


土壙17・18・21・24・26・29出土土師器大・小皿、須恵器甕、東播系須恵器甕、瓦器椀・羽釜・擂鉢

460′

460

455′


455

456′

456

459′

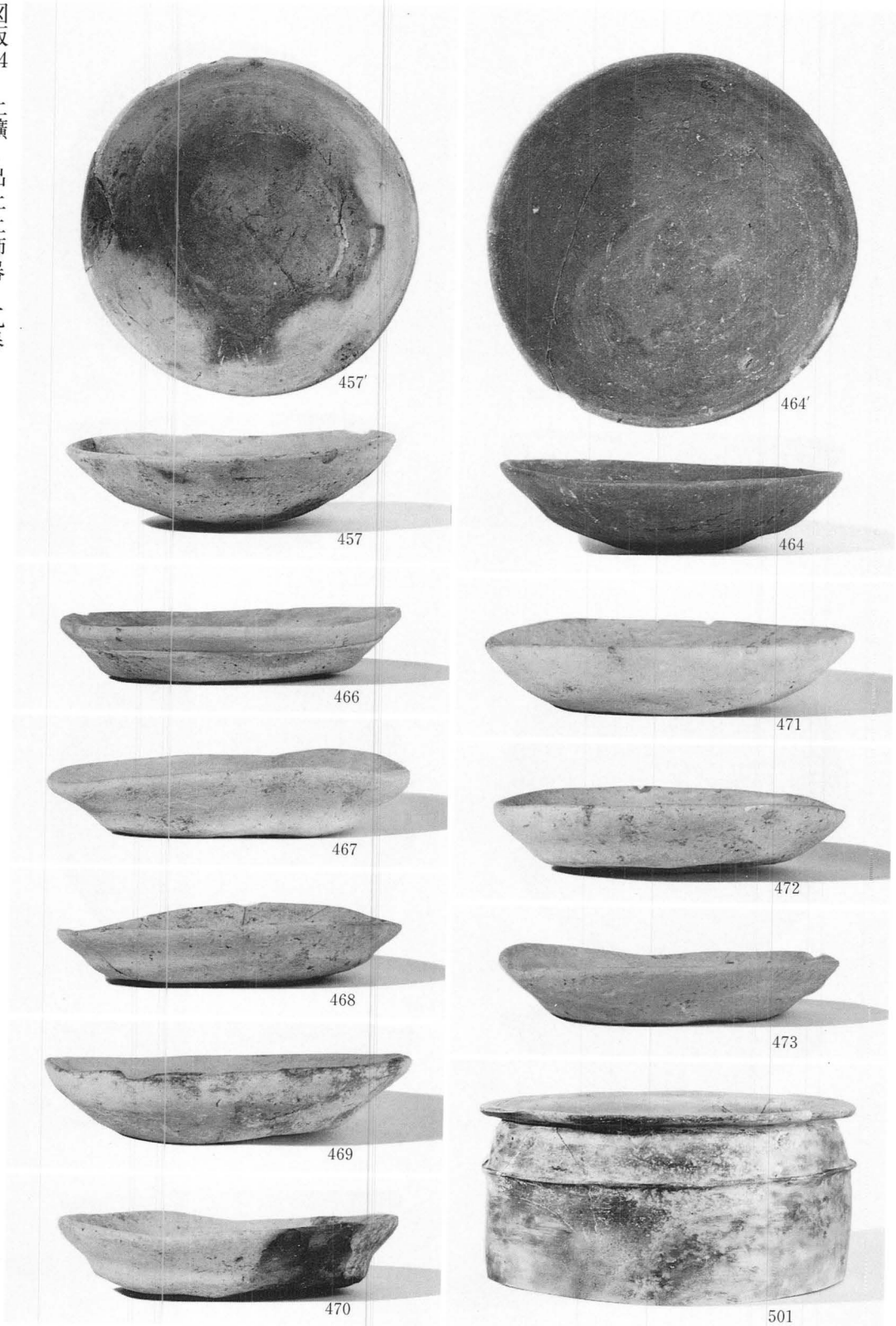
459

463

462

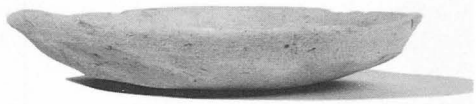
瓦器椀(455・456・459・460・462・463)

図版34　土壙1出土土師器・瓦器



土師器大皿(466～473)、羽釜(501)、瓦器椀(457・464)

477


478

479

481

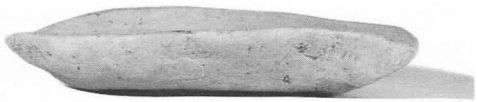
482

483

484

486

488


489

490

491

492

493

494

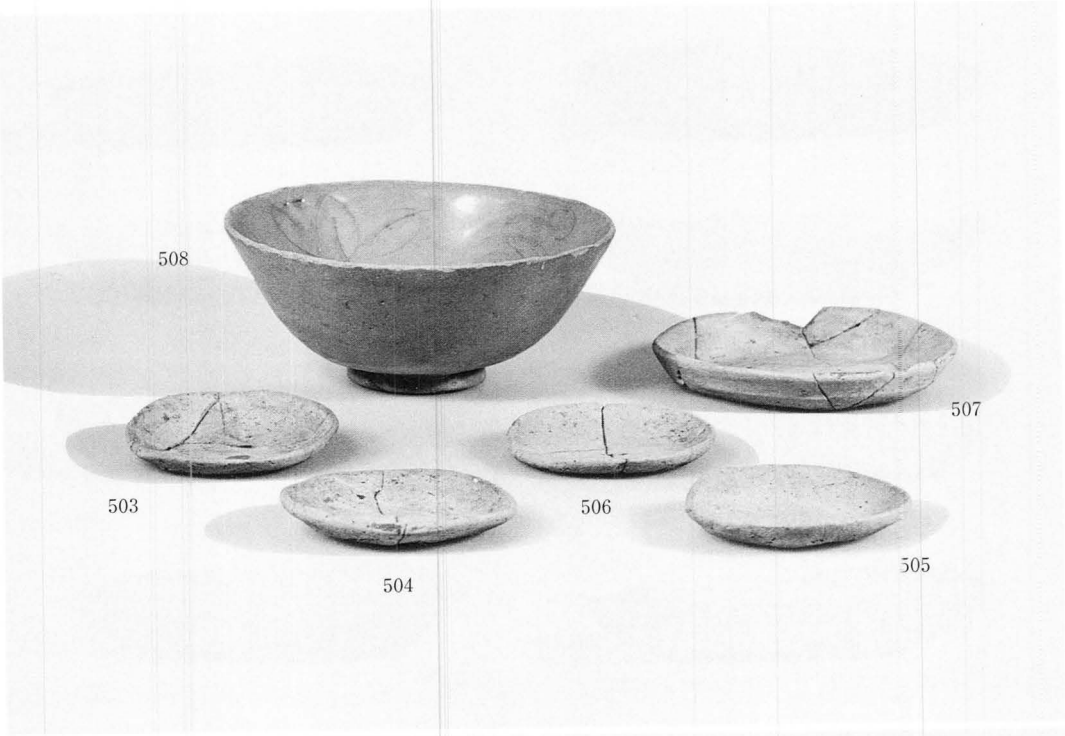
495

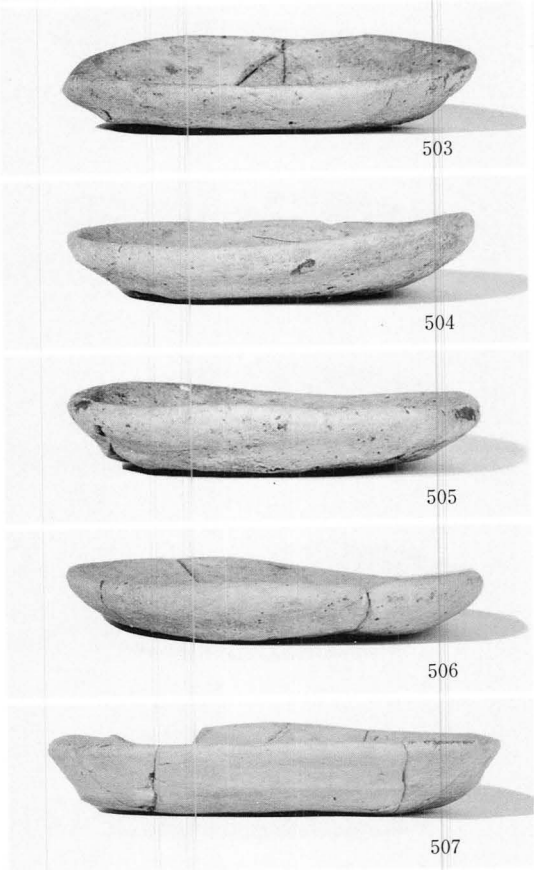
496

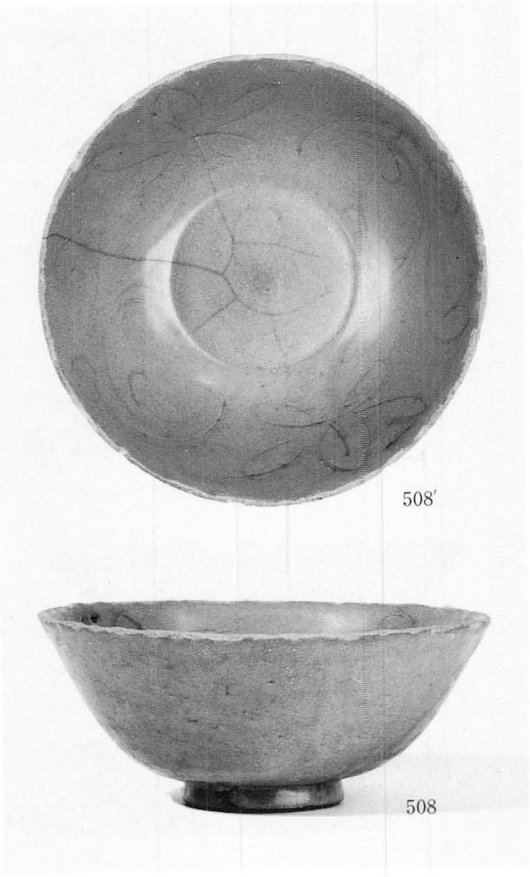
497

土師器小皿(477～479・481～484・486・488～497)

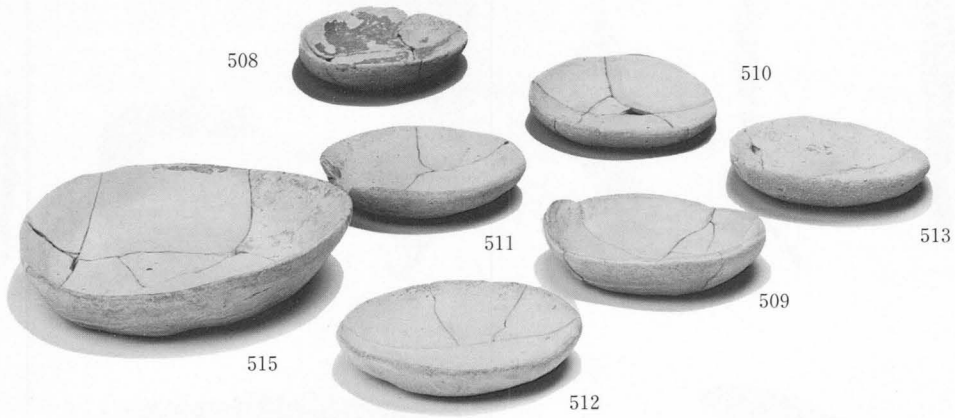
図版36　木棺墓1出土副葬品







土師器大皿(507)、小皿(503～506)、青磁碗(508)



509

512

510

513

511

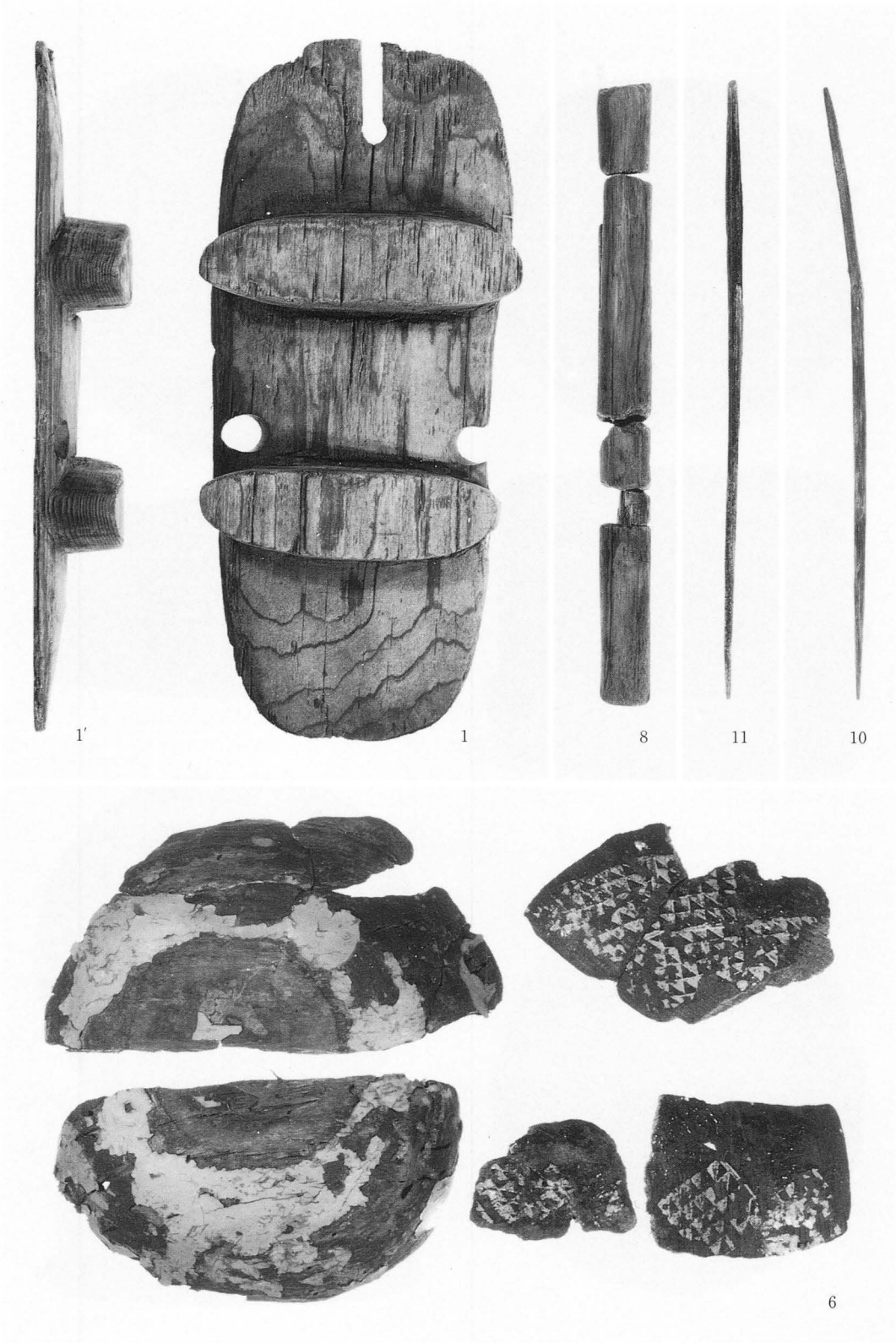
514

515

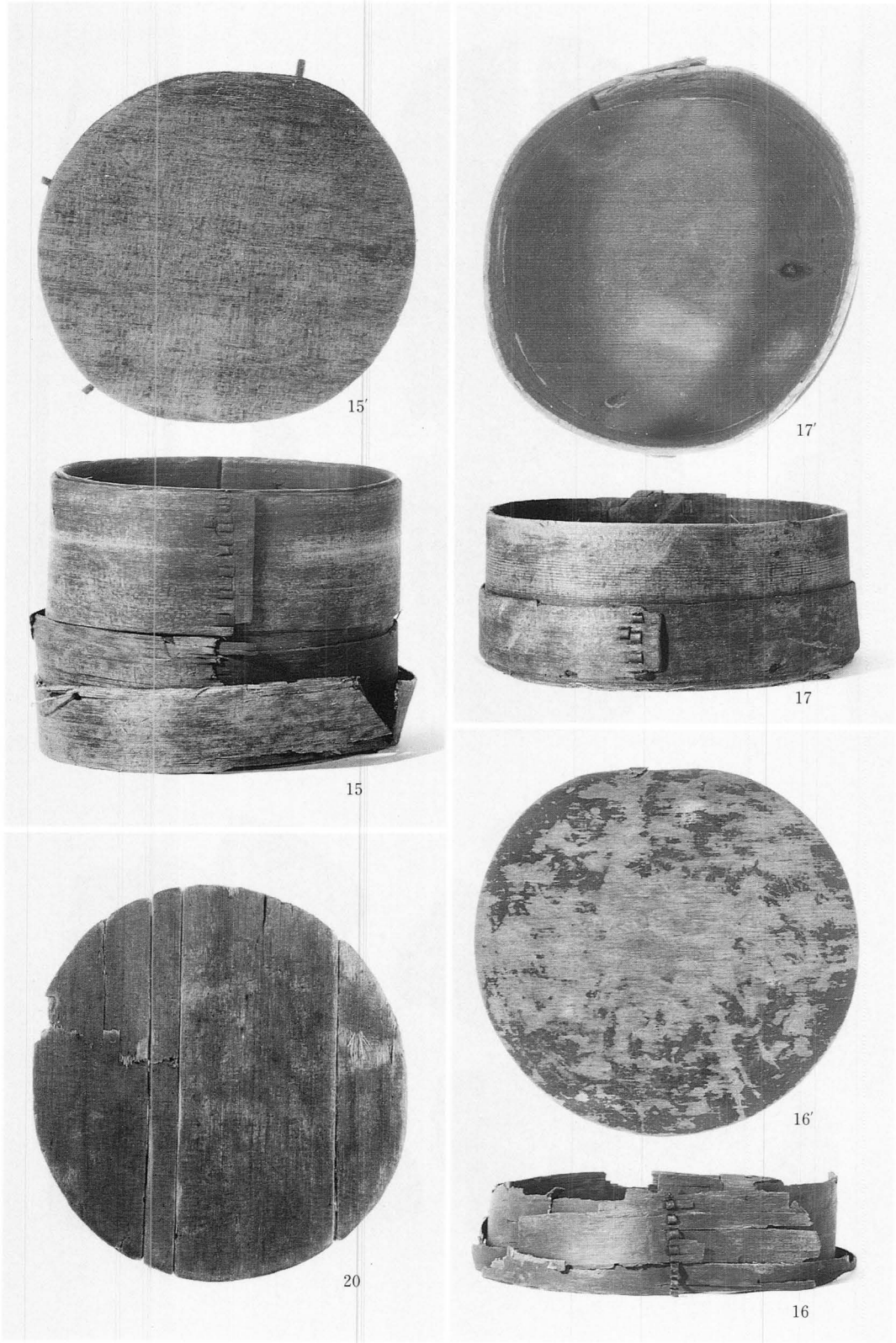
土師器大皿(515)、小皿(509～514)

図版38　鉄・土製品

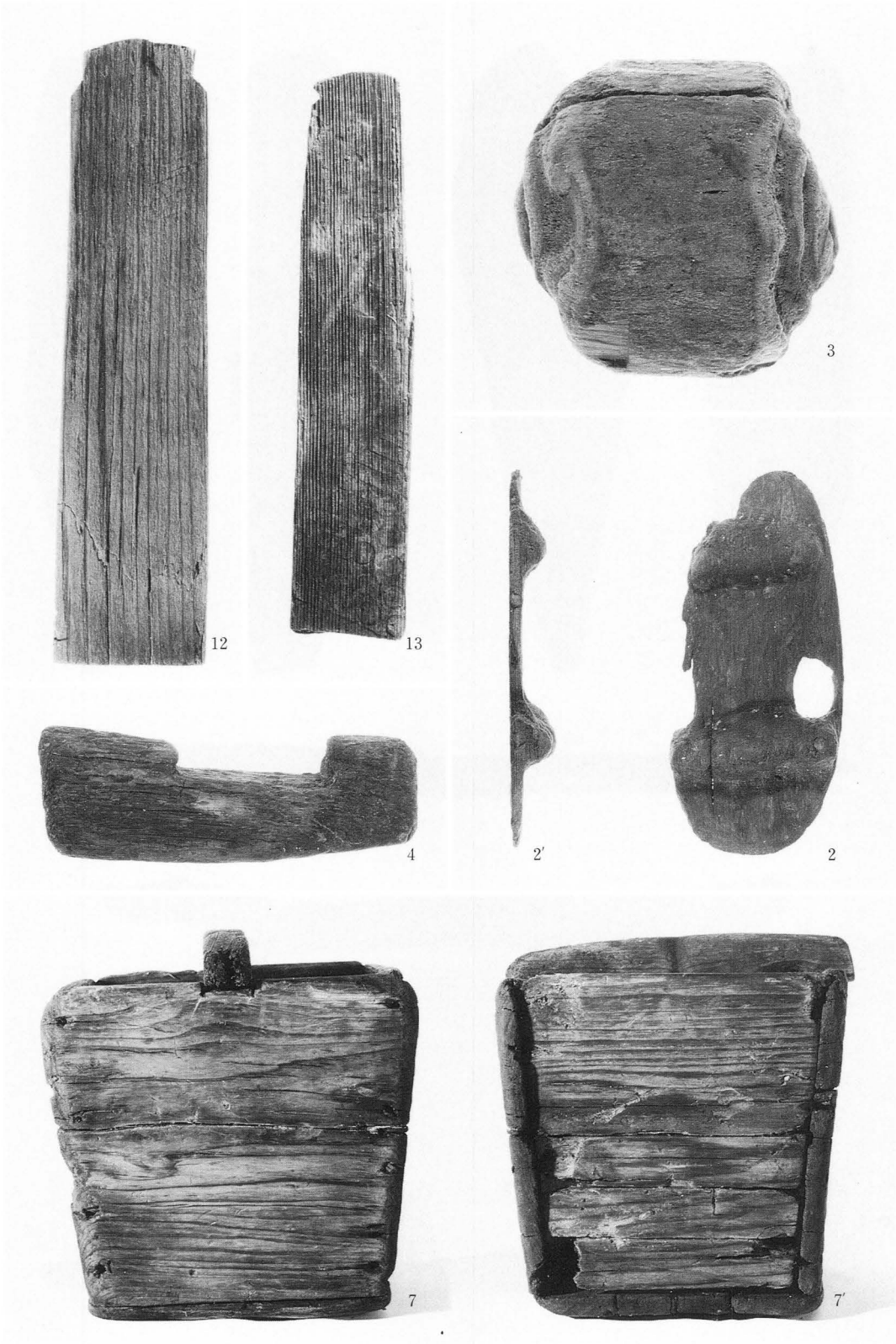
鉄釘(4～8)、鉄鎌(9～11)、土錘(1～3・9～16・18～22)



井戸1出土下駄(1)、井戸7出土漆器椀(6)、井戸4出土箸(10・11)、井戸6出土用途不明品(8)

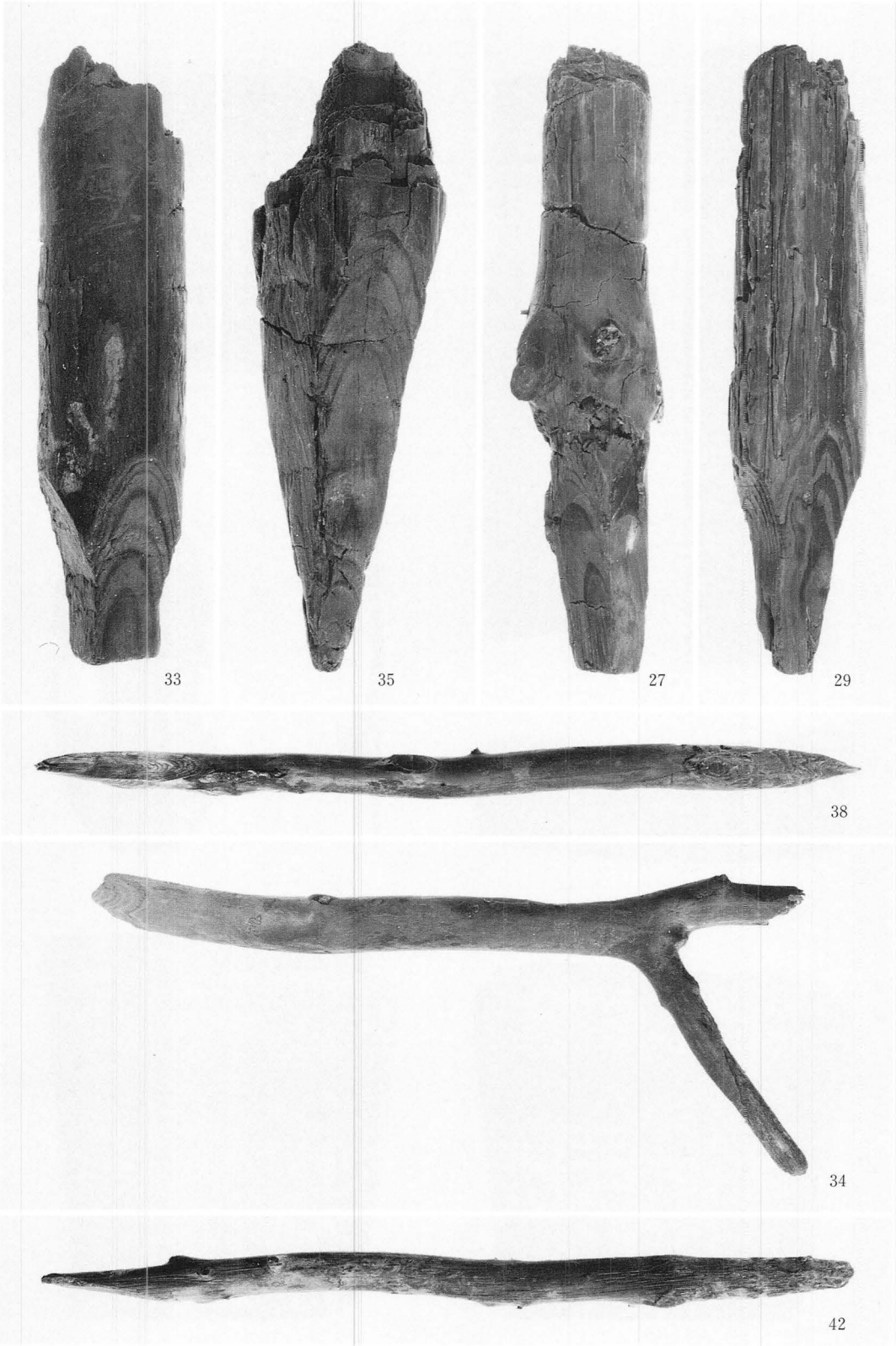


井戸1出土曲物(15～17)、井戸5出土曲物底板(20)

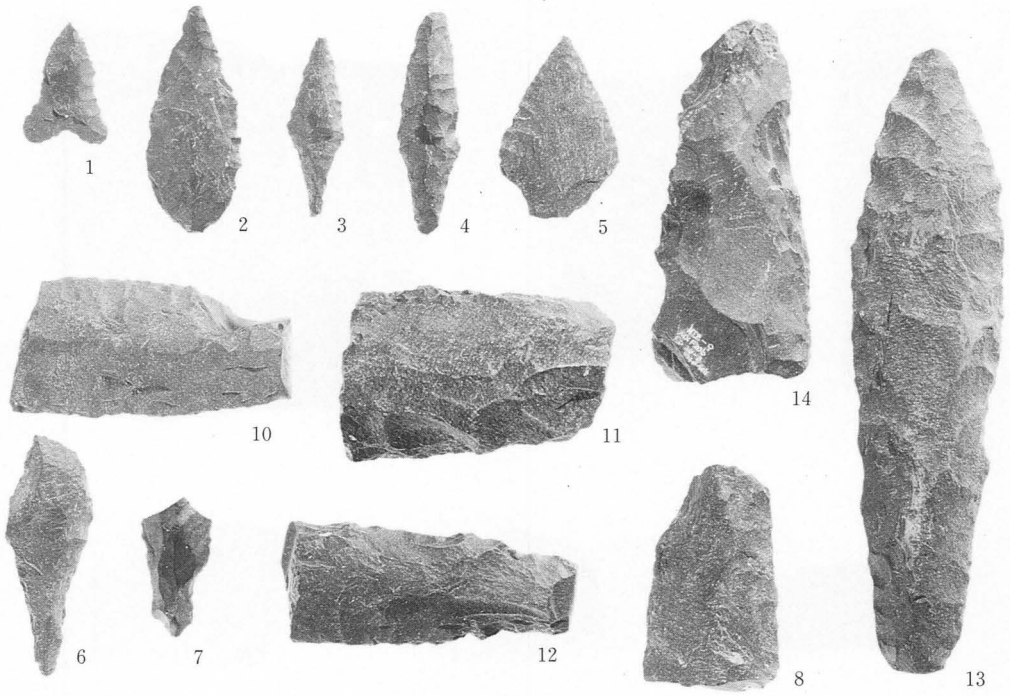


溝20、井戸５・６出土下駄（２）、釣瓶（７）、木簡（12・13）、用途不明品（３・４）

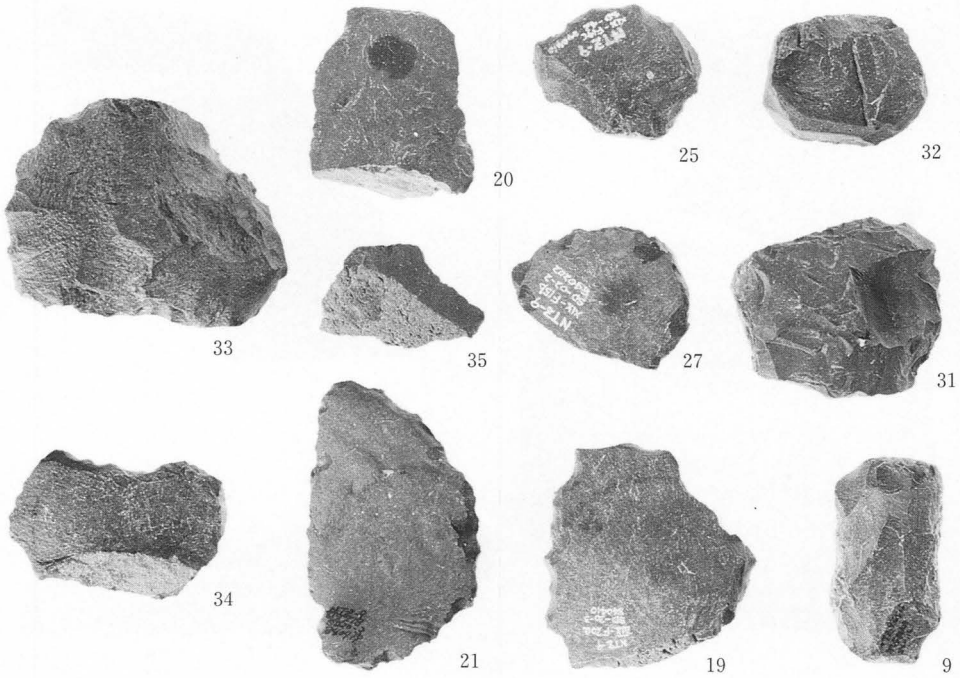
図版42　木製品



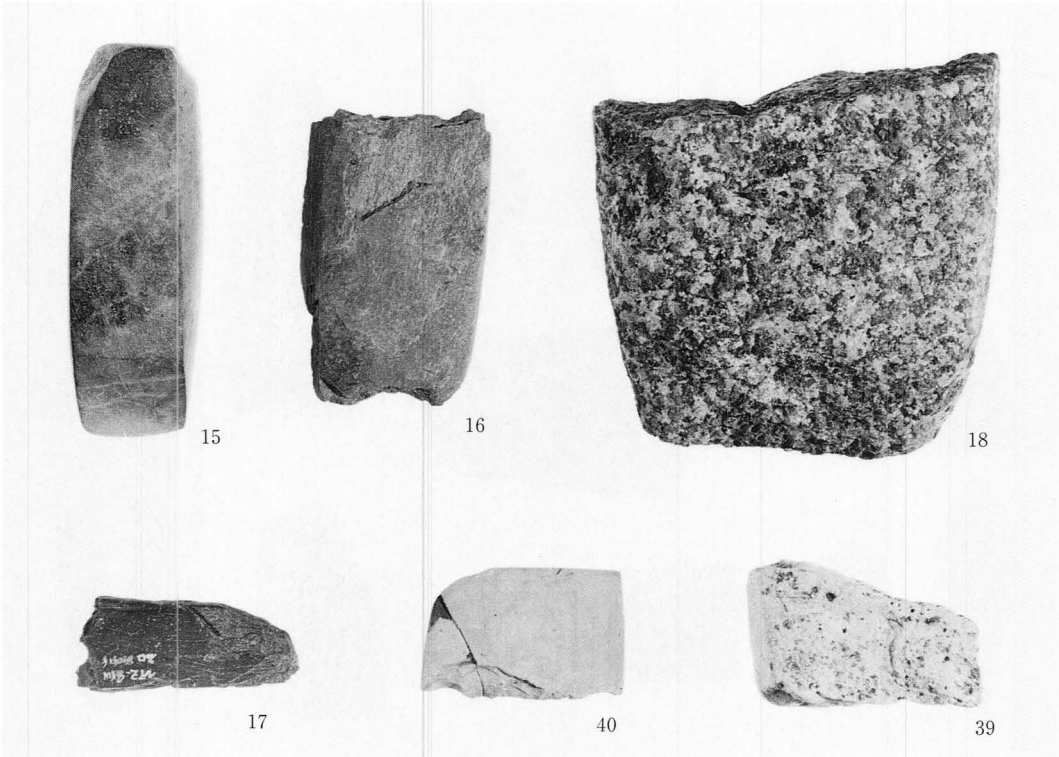
溝20・25出土杭(27・29・33～35・38・42)



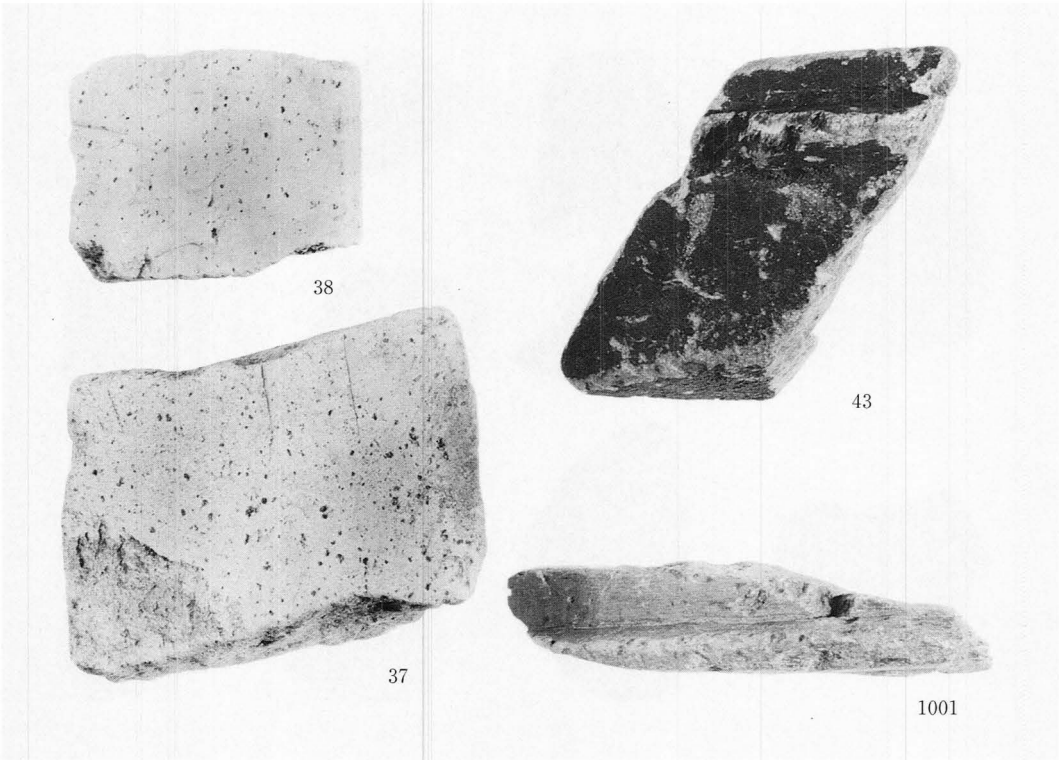
石鏃(1～5)、石錐(6・7)、打製石剣(8・10～14)



溝2・20・21・42・59、包含層出土打製石剣(9)、削器(19～21・25・27・31～35)



石斧(15・16・18)、石包丁(17)、砥石(39・40)



溝20・30出土砥石(37・38)、溝20包含層出土石鍋(43・1001)

西ノ辻遺跡第9次
発掘調査報告

1996年3月3日

発　行　財団法人 東大阪市文化財協会
　　東大阪市教育委員会
印　刷　株式会社 ドウミ印刷広研社